岩手県文化財調査報告書　第119集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成15年度）

平成17年３月

岩 手 県 教 育 委 員 会

序　　文

21世紀の今日の文化は、私たちの遠い祖先たちが築いてきた歴史を抜きに語ることはできません。地下に眠っている埋蔵文化財は、遥かな時の流れを経て、私たちに伝えられる貴重な歴史的財産であり、祖先たちのメッセージなのです。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき、保護・活用しながら、後世に伝えていかなければなりません。

埋蔵文化財にとって、現状のまま保存することが最善ではあるのですが、近年の大規模な開発事業等によって現状保存することは、難しい場合が多くなってきており、発掘調査を実施し、記録保存しているところです。このような現実の中で、埋蔵文化財保護と各種開発事業との円滑な調整を図るには、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示し、周知する必要があることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて、昭和52年度以来、遺跡の分布調査を実施していますが、現在確認されている遺跡数は１万２千近くにも上ります。これらの遺跡を広く周知するとともに、開発事業との調整の中で行った発掘調査の記録や、遺跡の範囲及び内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成15年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果を主にまとめたものです。本報告書の活用により、文化財の保護に役立てば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導御協力をいただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

平成17年３月

岩手県教育委員会
教育長　佐藤　勝

例　　言

1　本書は、岩手県教育委員会が平成15年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2　本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3　遺跡位置図は国土地理院の1／25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。

4　発掘調査については、概略を記した。

5　試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘トレンチは実線で示した。

6　本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の鎌田　勉文化財専門員、藤村　毅文化財調査員、菅　常久文化財調査員、相原　伸裕文化財調査員、日下　和寿専門学芸員、村上　拓文化財行政研究員が担当した。

7　本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

目　　次

序文
例言
Ⅰ　発掘調査
1　地域振興支援道路ネットワーク整備事業（清田台遺跡）…… 3
2　ふるさと農道緊急整備事業砂川地区（丹内Ⅰ遺跡）……13
3　ほ場整備事業八重畑地区（宿館遺跡）……17
4　ほ場整備事業八重畑地区（関口南館遺跡）……21
5　ほ場整備事業八重畑地区（上野々遺跡）……23
6　ほ場整備事業町井地区（下屋敷遺跡）……29
7　中山間総合整備事業日野沢地区（出ル町Ⅱ遺跡）……33
8　ほ場整備事業満倉地区（兵法田遺跡）……37
9　緊急地方道路整備事業（上ノ山遺跡）……41
10　国営いさわ南部農地整備事業（二の台遺跡）……42

Ⅱ　試掘調査
1　一般国道４号水沢東バイパス改築工事（杉の堂遺跡）……47
2－(1)　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（熊堂Ｂ遺跡）……48
2－(2)　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（熊堂Ｂ遺跡）……49
3　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（台太郎遺跡）……50
4　一般国道４号花巻東バイパス改築工事（高木中館遺跡）……51
5　一般国道４号花巻東バイパス改築工事（長根Ⅰ遺跡）……52
6　一関遊水地事業衣川左岸築堤工事（接待館遺跡）……53
7　一関遊水地事業衣川左岸築堤工事（押切遺跡）……54
8　一関遊水地事業衣川左岸築堤工事（六日市場遺跡）……55
9　農用地総合整備事業下閉伊北地域（寺野遺跡）……56
10　農用地総合整備事業下閉伊北地域（寺沢北遺跡）……57
11　農用地総合整備事業下閉伊北地域（二升石遺跡）……58
12　農用地総合整備事業下閉伊北地域（二升石大根遺跡）……59
13　農用地総合整備事業下閉伊北地域（尼額上野遺跡）……60
14　主要地方道盛岡和賀線花巻市笹間地区（金栗Ⅰ遺跡）……61
15　緊急地方道路整備事業（中島遺跡）……62
16　緊急地方道路整備事業（松山前遺跡）……63
17　緊急地方道路整備事業（沼袋遺跡）……64
18　ほ場整備事業西宮野目地区（先屋遺跡）……65
19　ほ場整備事業八重畑地区（大西遺跡）……66
20　ほ場整備事業八重畑地区（関口遺跡）……67
21　ほ場整備事業八重畑地区（荒野遺跡）……68
22　ほ状整備事業八重畑地区（中村遺跡）……69
23　中山間地域総合整備事業町井地区（畑中遺跡）……70

24　ほ場整備事業江釣子第一地区（新平・新平屋敷遺跡）……71
25　ほ場整備事業二子地区（中島遺跡）……73
26　ほ場整備事業更木新田地区（山口遺跡）……74
27　ほ場整備事業更木新田地区（市の川Ⅰ遺跡）……76
28　ほ場整備事業更木新田地区（小川屋敷遺跡）……77
29　ほ場整備事業更木新田地区（小川屋敷遺跡隣接地）……78
30　ほ場整備事業更木新田地区（駒板遺跡）……79
31　農用地総合整備事業（上和野遺跡）……80
32　ほ場整備事業白山地区（内屋敷遺跡）……81
33　ほ場整備事業白山地区（川前遺跡）……82
34　ほ場整備事業白山地区（道上遺跡）……83
35　ほ場整備事業増沢東部地区（金打遺跡）……85
36　ほ場整備事業増沢東部地区（新地野道下遺跡）……86
37　ほ場整備事業増沢東部地区（岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡）……87
38　広域農道整備事業東磐井地区（大登Ⅰ遺跡）……88
39　中山間地域総合整備事業日頃市西地区（舟野遺跡）……89
40　中山間地域総合整備事業日頃市西地区（平山遺跡）……90
41　中山間地域総合整備事業日頃市西地区（中宿遺跡）……91
42　ほ場整備事業土渕地区（下似田貝遺跡隣接地）……92
43　中山間地域総合整備事業湯屋地区（駒場沢遺跡）……93
44　ほ場整備事業大川目地区（中田遺跡）……94
45　農免農道整備事業観音林地区（上野場３遺跡）……95
46　一般農道整備事業太田２期地区（サイカツ平Ⅷ遺跡）……96
47　緊急地方道Ｂ（雪寒）整備事業（大道口遺跡）……97
48　試掘調査出土遺物図版……98
49　分布調査一覧……106
50　試掘調査一覧……109

Ⅲ　写真図版……119

Ⅰ　発掘調査

1　地域振興支援道路ネットワーク整備事業関連調査

清田台遺跡（ＮＦ91－1291）

所在地；東磐井郡千厩町清田字台

事業者；千厩地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年３月３日～３月７日（５日間）

平成15年４月３日～４月15日（９日間）

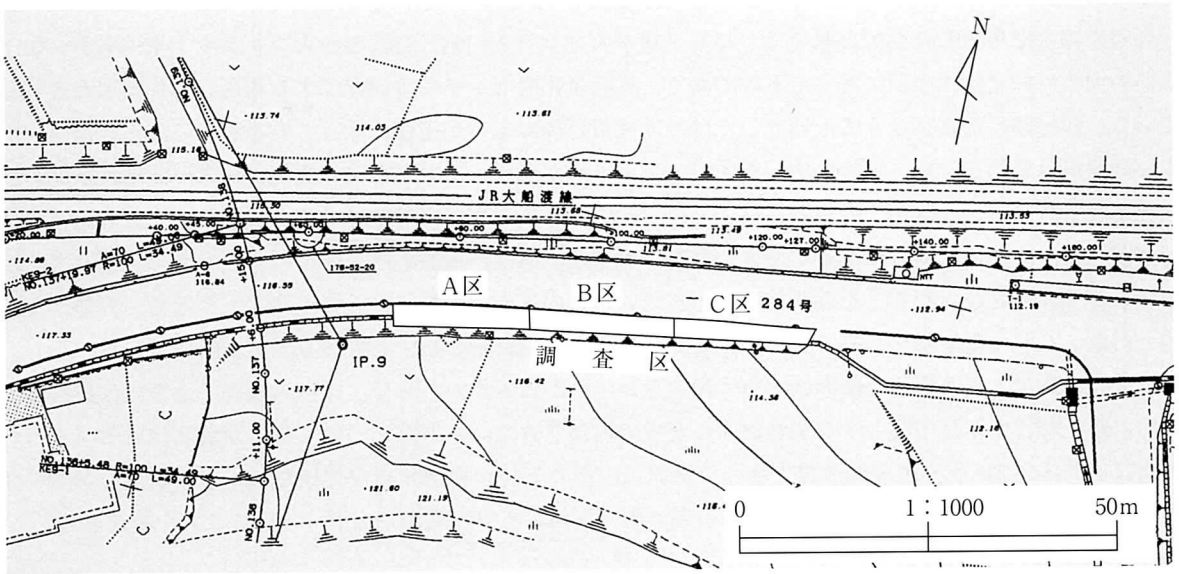
遺跡は千厩町のほぼ中央部、JR大船渡線千厩駅の北東約1.3㎞に位置し、千厩川支流の金田川左岸、緩やかに北に下る標高110～120ｍの尾根上に立地する。

第１図　清田台遺跡位置図

平成11年度～13年度に実施された財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査では、多量の遺物とともに竪穴住居跡をはじめとする多数の遺構が密集・重複した状況で確認され、本遺跡が縄文時代中期を中心とする大規模な集落であったことが判明している（(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003『清田台遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第412集）。

今回発掘調査を行ったのは、遺跡中央を東西に横断する国道284号の路肩に敷設された、用排水路の改修工事範囲（全長約55ｍ・幅約1.4ｍ）である。極めて狭長な調査区であることから、便宜上３分割し、西から順にＡ～Ｃ区として扱った。着手後、調査区の北側半分（国道側）は道路基礎によって既に破壊されていることが判明したため調査可能な幅はさらに60㎝前後にまで減じ、加えて、調査区両端に連続する現水路から雨水や生活排水が流入して検出面が度々水没するなど、悪条件下での調査となった。このため平面での遺構検出はほぼ不可能となり、遺構の存否確認は調査区南壁の断面観察に頼らざるを得ない状況となった。

検出された遺構の内訳は、竪穴住居跡12棟、土坑２基、炉跡２基、柱穴状小土坑33基である。第３・４・６図にはそれぞれＡ～Ｃ区の平面図及び対応する南面土層断面図を示した。なお、平面図は最終確認面である地山上面に痕跡の残存する遺構のみを図示したものとなっている。



第２図　清田台遺跡調査区位置図

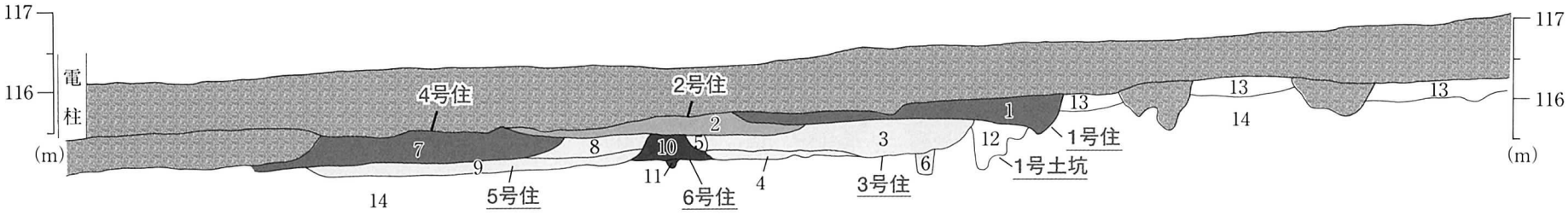
A区（第３図）では１～６号住居跡及び１号土坑が互いに重複した状態で検出された。住居跡はいずれもほぼ平坦な床面とやや外傾する壁面を有することが断面から把握されるが、全体の形状は不明である。このうち３号住居跡の西壁直下には、周溝の一部と思われる小溝状の掘り込み（pp２）が南北に延び、その東隣に９基の柱穴状小土坑がまとまって分布している。３号住居跡からは大木10式相当の土器が出土していることから、本住居跡及びこれを切る１・２号住居跡は縄文時代中期末葉以降のものと考えられる。

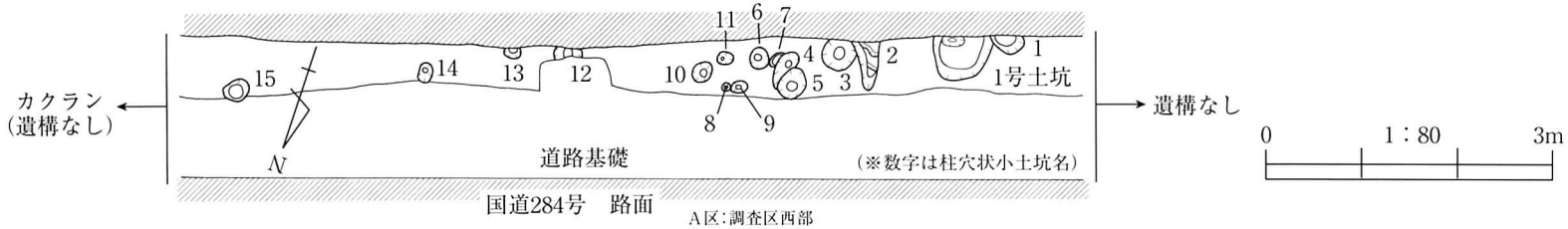
B区（第４図）は中央部に湧水豊富な沢跡があり、その西側で７～９号住居跡が確認された。８号住居跡は西壁のやや内側に南北方向に連続するわずかな段を持ち、付近に小土坑の集中が認められる。３号住居跡（A区）と同様、周溝・柱穴等、住居跡付属の痕跡と思われる。９号住居跡の床面は沢跡に向かって僅かに傾斜しているが、ほぼ中央付近で径30cm前後の楕円形の焼土が検出された。地山層が露出した面に生成したものであることから、人為的な掘り込みの底面における燃焼痕跡であることは明らかであり、９号住居跡に伴う炉跡と判断される（１号炉跡）。９号住居跡及び１号炉跡からは大木８ｂ式相当の土器が出土していることから、本住居跡の帰属時期は中期後葉以降と判断される。したがって、層位的に９号住居跡より上位の７・８号住居跡はこれよりさらに新期のものと考えられる。ところで、これらの住居跡が分布するB区西端～沢跡の範囲は土器片等の遺物を多く含む厚い整地層に被覆されている。より高位にあたるA区側が地山上面付近まで削平を受けていることをみれば、この堆積層が、沢跡側の低位部を埋め立て、より平坦な面を構築しようとする意図に基づいたものであることが理解されよう。整地層の形成過程において複数の生活面が存在した可能性は高く、底面が地山上面に到達しない遺構が重複して構築されていたとすれば、一部の遺構を認識できすに終わった可能性があることは否めない。また、検出された住居跡についても、床面直上層のみを辛うじて埋土として識別・分離したが、その上位を覆う整地層の一部が住居跡の埋め立てを意識した人為的埋土であった可能性は高いものと思われる。

C区（第６図）では10～12号住居跡・２号炉跡・２号土坑が検出された。10号住居跡は底面に小ピットを伴う周溝状の小溝を西壁下に持ち、東側の床面上には大木８ｂ式相当の土器破片集積箇所が認められる。埋土上部からは大木９式土器破片も出土した。よって本住居跡は縄文時代中期後葉に属するものと判断される。11号住居跡では西壁及び東壁直下に互いに向かい合った弧状の周溝が検出されており、平面形は楕円形を呈するものと推測される。床面中央には径20cm前後の礫を円～楕円形に配した石囲炉（２号炉跡）が設けられ、東壁側の床面には土坑状の掘り込みを持っている。最も東端部で検出された12号住居跡では、埋土から中期初頭～前葉の土器が出土した。炉跡・その他の付属施設は確認されなかった。

今回の調査で出土した遺物の総量は、縄文土器が大コンテナ13箱、石器類が大コンテナ１箱である。出土土器の大半は縄文時代中期に属するものであり、埋蔵文化財センターの調査による集落の主体時期と合致している。住居跡に帰属させうる土器としては中期後葉以降のものが主体となっているが、これらと混在、あるいは遺構外遺物として一定量の中期初頭～中葉土器片が出土していることは周辺における該期遺構群の所在を示唆している。各区出土の土器については、それぞれの遺構図に後続させて掲載した。ただし遺構の識別が困難だったため帰属遺構を特定できた資料はわずかであり、紙数も限られていたことから、掲載資料が全体のごく一部となったことをお断りしておきたい。このほか、土製品として土偶・土製円盤、石器が尖頭器・石鏃・石匙・掻削器・石斧・磨石、石製品としては玦状耳飾が出土しており、第９図に示した。

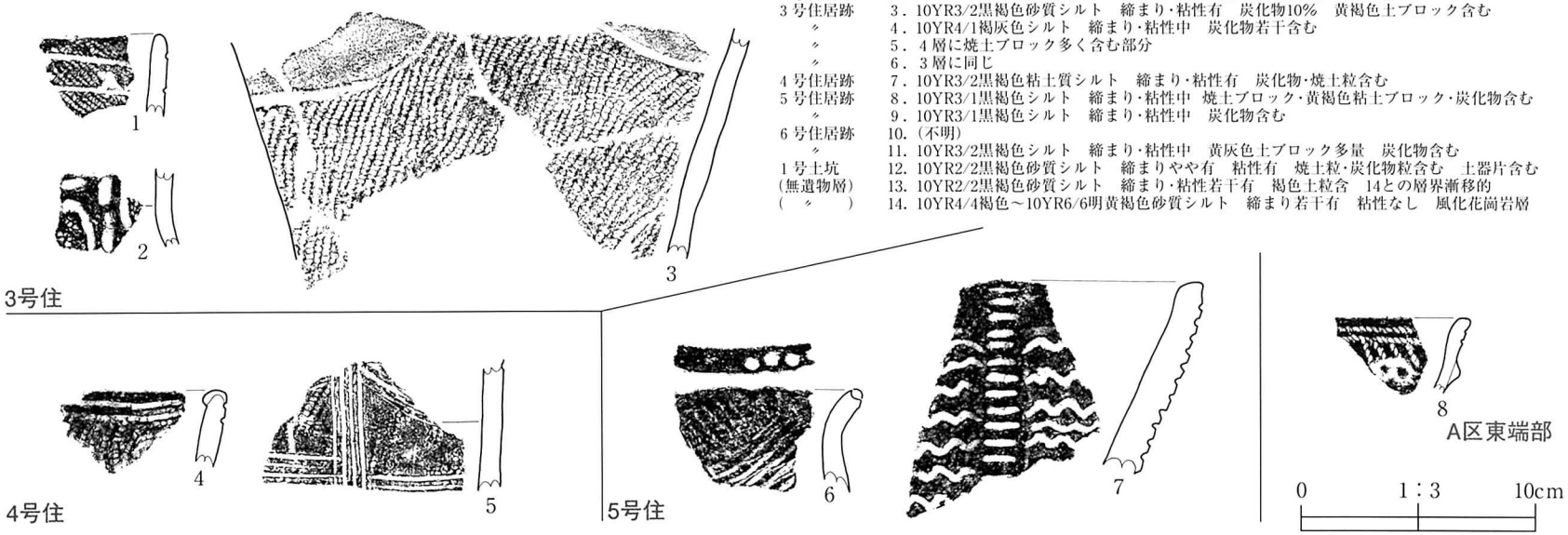
以上のように、精査可能な範囲は極めて限定されていたにもかかわらず、今回の調査では竪穴住居跡等の遺構と縄文時代中期を中心とする遺物が高い密度で検出された。本遺跡については、埋蔵文化財センターの調査により国道284号・JR大船渡線を挟んで南北に広がりを持つ遺構分布が把握されていたが、センター調査による「南側調査区」の北東部に隣接する今次調査区側にも分布範囲が広がっていることが確認された。



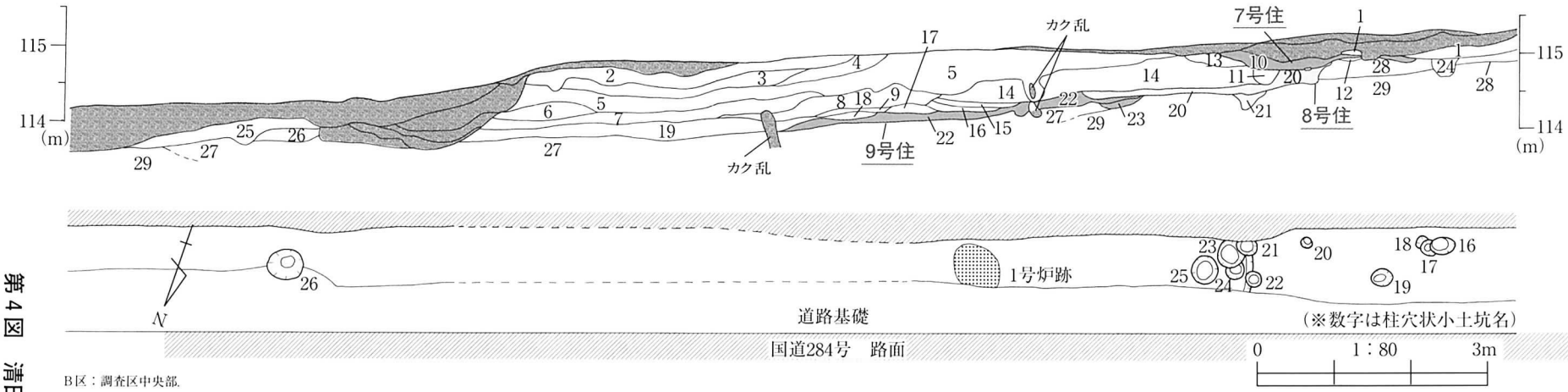


A区：調査区西部

対応遺構名	層名・注記
1号住居跡	1．10YR2/2黒褐色砂質シルト　締まり若干有　粘性やや有　炭化物粒含む　黒みがかる
2号住居跡	2．10YR3/2黒褐色粘土質シルト　締まり有　粘性有　炭化物・焼土粒含む
3号住居跡	3．10YR3/2黒褐色砂質シルト　締まり・粘性有　炭化物10%　黄褐色土ブロック含む
〃	4．10YR4/1褐灰色シルト　締まり・粘性中　炭化物若干含む
〃	5．4層に焼土ブロック多く含む部分
〃	6．3層に同じ
4号住居跡	7．10YR3/2黒褐色粘土質シルト　締まり・粘性有　炭化物・焼土粒含む
5号住居跡	8．10YR3/1黒褐色シルト　締まり・粘性中　焼土ブロック・黄褐色粘土ブロック・炭化物含む
〃	9．10YR3/1黒褐色シルト　締まり・粘性中　炭化物含む
6号住居跡	10．(不明)
〃	11．10YR3/2黒褐色シルト　締まり・粘性中　黄灰色土ブロック多量　炭化物含む
1号土坑	12．10YR2/2黒褐色砂質シルト　締まりやや有　粘性有　焼土粒・炭化物粒含む　土器片含む
(無遺物層)	13．10YR2/2黒褐色砂質シルト　締まり・粘性若干有　褐色土粒含　14との層界漸移的
(　〃　)	14．10YR4/4褐色～10YR6/6明黄褐色砂質シルト　締まり若干有　粘性なし　風化花崗岩層

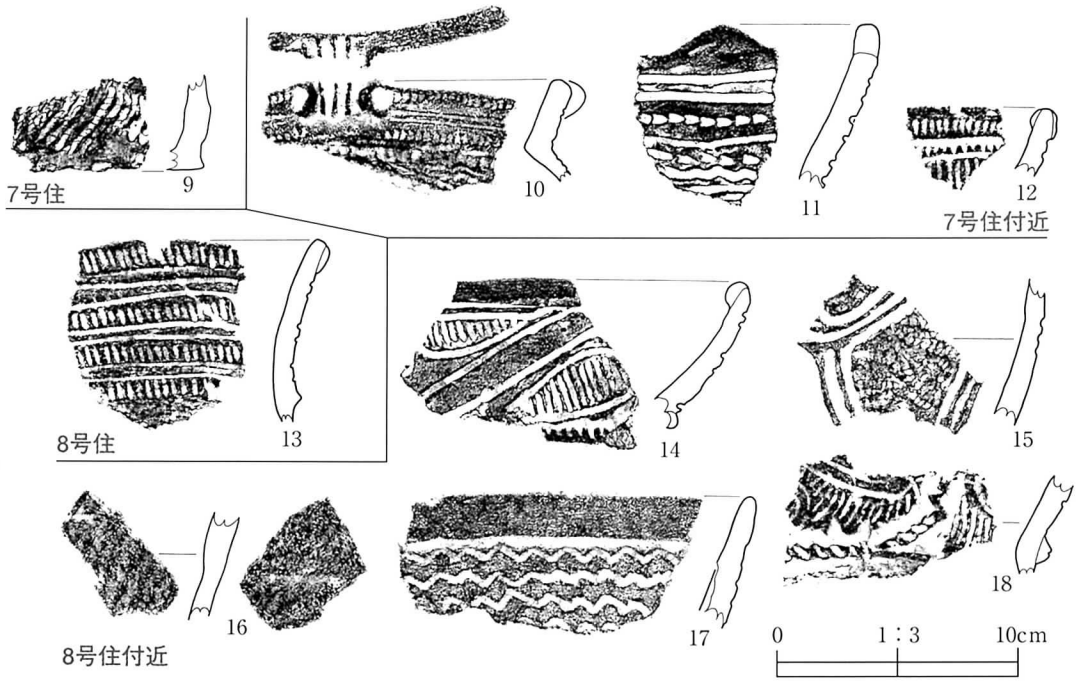


第3図　清田台遺跡A区　遺構・土器

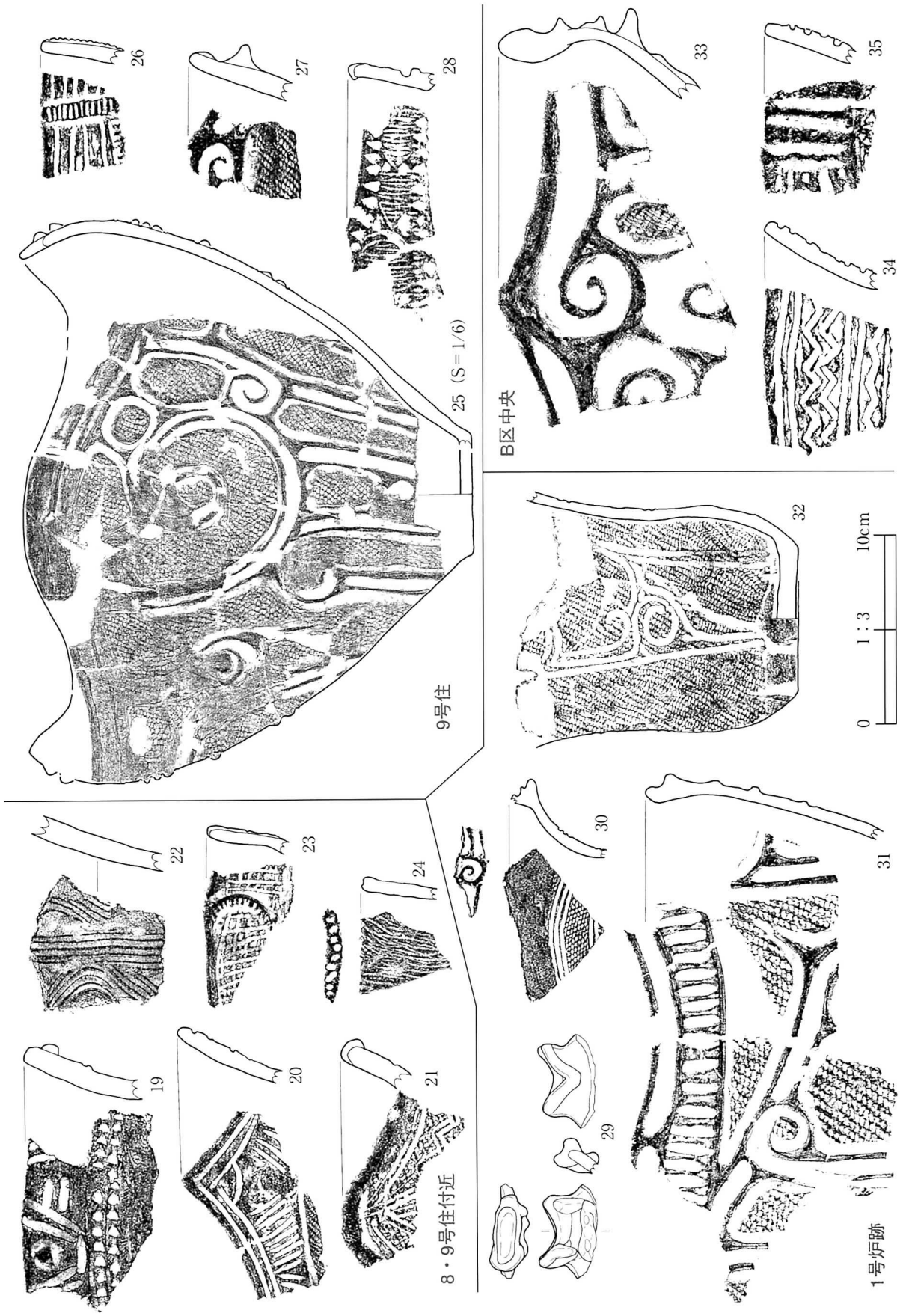


B区：調査区中央部.

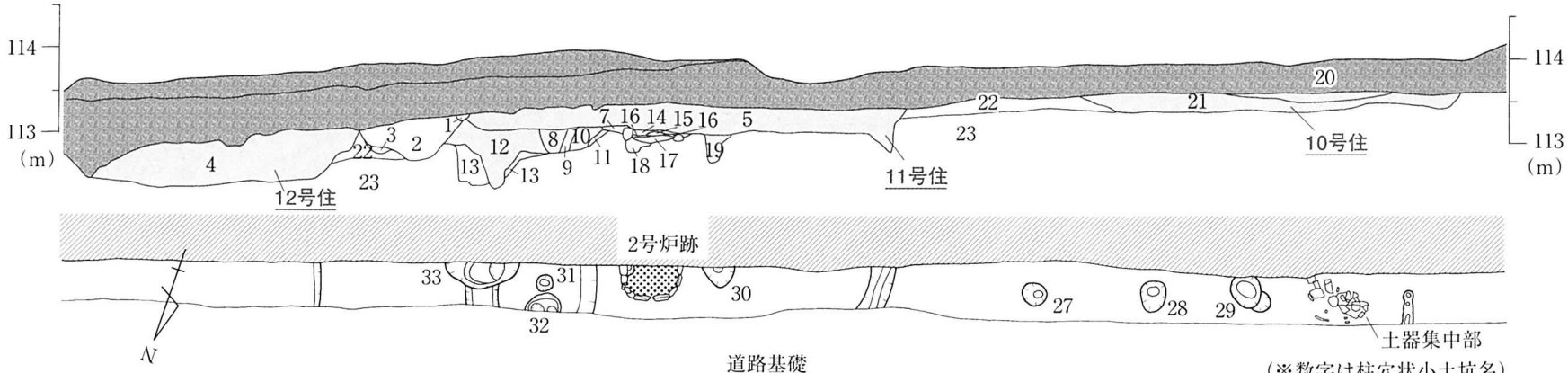
対応遺構名	層名・注記
	1．10YR3/1シルト　全体やや砂質　草根入る　造成前旧表土？
	2．10YR2/1シルト　炭化物目立つ　土器片等の遺物多
	3．10YR3/2砂質シルト　土器等の遺物多　5より黒味強い
	4．黄褐色粘土（地山）ブロック層
	5．10YR3/2砂質シルト　土器等の遺物多
	6．10YR3/2砂質シルト　地山黄褐色粘土ブロック大量　整地層
	7．10YR3/2砂質シルト　地山黄褐色砂ブロック大量　整地層
	8．10YR3/2砂質シルト
	9．10YR3/2粘土質シルト
7号住居跡	10．10YR3/2シルト　炭化物粒・焼骨片目立つ　白色花崗岩粒やや多 締まり有
〃	11．10YR3/2砂質シルト　地山ブロック（径20～30㎜）やや多　柱穴？
〃	12．焼土
	13．10YR4/3砂質シルト　14と同様の整地層の一部か
	14．10YR3/3粘土質シルトと地山ブロック層の互層 土器片・炭化物片・焼骨片目立つ　整地層
	15．10YR2/3粘土質シルト　炭化物大量　遺物多
	16．10YR3/2シルト　炭化物片やや多
	17．10YR3/2シルト　地山砂質シルトブロック大量
	18．地山黄褐色粘土ブロック層
	19．10YR3/2シルト　粘性強　炭化物片目立つ　土器片含む
8号住居跡	20．10YR2/1粘土質シルト　土器片・炭化物片やや多 下面に沿って地山粘土・砂のラミナ状の薄層　住居床面？
〃	21．10YR3/2砂質シルト　地山ブロックやや多　柱穴埋土
9号住居跡	22．10YR3/2シルト　炭化物少量　16よりやや黄味強い
〃	23．10YR3/2粘土質シルト　地山ブロックやや多　下面に炭化物集積 住居周溝？
	24．10YR2/2シルト　地山粒子・炭化物粒・土器細片極微　柱穴・周溝？
	25．26の被攪乱部
	26．10YR2/1粘土質シルト　上部に砂粒を含み住居埋土に似る 湧水多く軟弱
（無遺物層）	27．10YR2/1粘土質シルト　上部に炭化物極微 沢跡に向かって堆積する黒色土層
（　〃　）	28．10YR2/1シルト　上部に炭化物極微　自然堆積の黒色土層 下位地山層との層界は漸移的
（　〃　）	29．10YR4/4褐色砂質シルト　締まり・粘性やや有



第4図　清田台遺跡B区　遺構・土器（1）



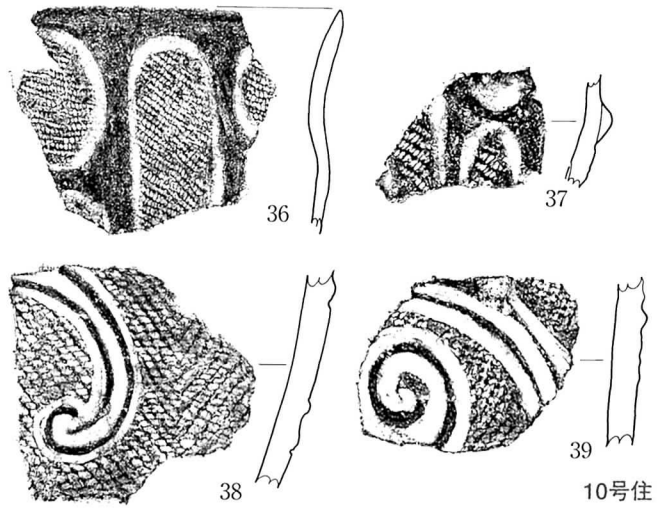
第５図　清田台遺跡Ｂ区　遺構・土器（２）

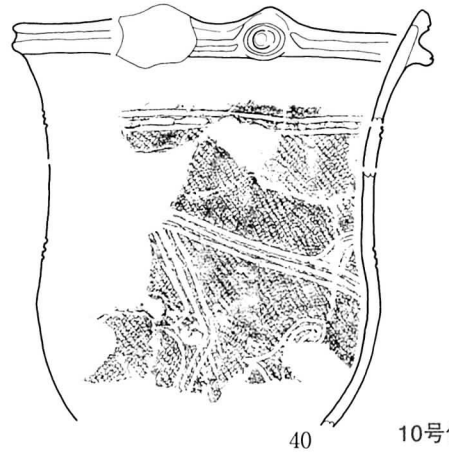


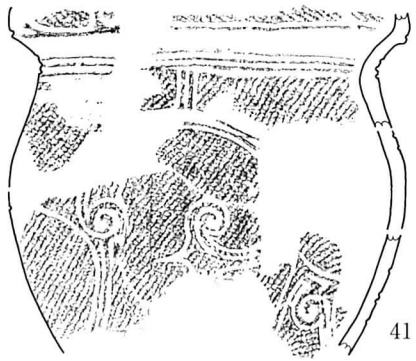
C区：調査区東部

対応遺構名	層名・注記
2号土坑	1．10YR2/1黒色シルト　締まり有　粘性なし
〃	2．10YR2/2黒褐色シルト　締まりやや有　粘性有
〃	3．10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　締まり有　粘性なし　2のブロック含む
12号住居跡	4．10YR3/2黒褐色シルト　締まり有　粘性やや有　炭化物粒微量　土器片含む
11号住居跡	5．10YR2/1黒色シルト　締まり・粘性有　炭化物粒（径5mm）若干含む
〃	6．10YR3/2黒褐色砂質シルト　暗褐色砂質シルトの小ブロック含む
〃	7．10YR2/2黒褐色シルト　締まりやや有
〃	8．10YR2/2黒褐色シルト　締まり有　粘性やや有　炭化物粒微量
〃	9．10YR2/2黒褐色シルト　締まり有　粘性なし　炭化物含まない
〃	10．10YR3/1黒褐色シルト　地山ブロック微量　締まり・粘性有　炭化物含む
〃	11．10YR4/1暗褐色シルト　地山褐色土ブロック含む　締まり有　粘性なし
〃	12．10YR2/3黒褐色砂質シルト　締まりやや疎
〃	13．10YR3/4暗褐色砂質シルト　黒褐色土ブロック含む　締まりやや有
〃	14．10YR3/3暗褐色シルト　締まり有　粘性なし
〃	15．10YR2/2暗褐色砂質シルト　褐色砂ブロック含む　締まりなし
〃	16．10YR2/3黒褐色砂質シルト　炭化物粒含む
〃	17．2.5YR4/8明褐色砂質シルト　焼土　締まり有
〃	18．10YR2/2黒褐色シルト　砂含む　締まりなし　炭化物粒若干含む
〃	19．10YR2/2黒褐色シルト　砂含む　締まりなし　炭化物粒20%
10号住居跡	20．10YR2/1黒色砂質シルト　地山ブロック少量含む　炭化物多量に含む
〃	21．10YR2/1黒色砂質シルト
	22．10YR3/3暗褐色砂質シルト　締まり有　粘性やや有
（無遺物層）	23．10YR4/4褐色砂質シルト　締まり・粘性やや有

0　1：80　3m

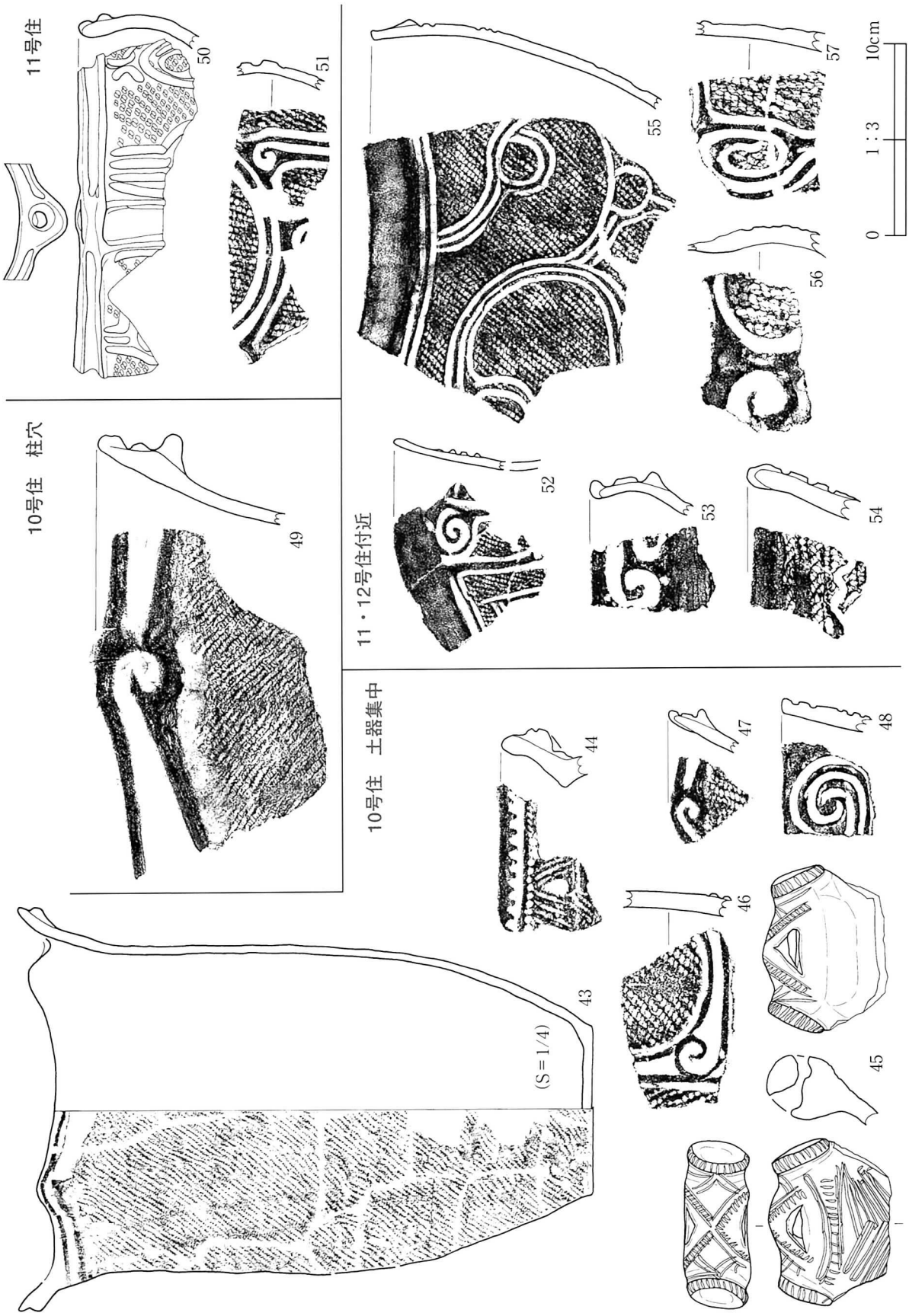




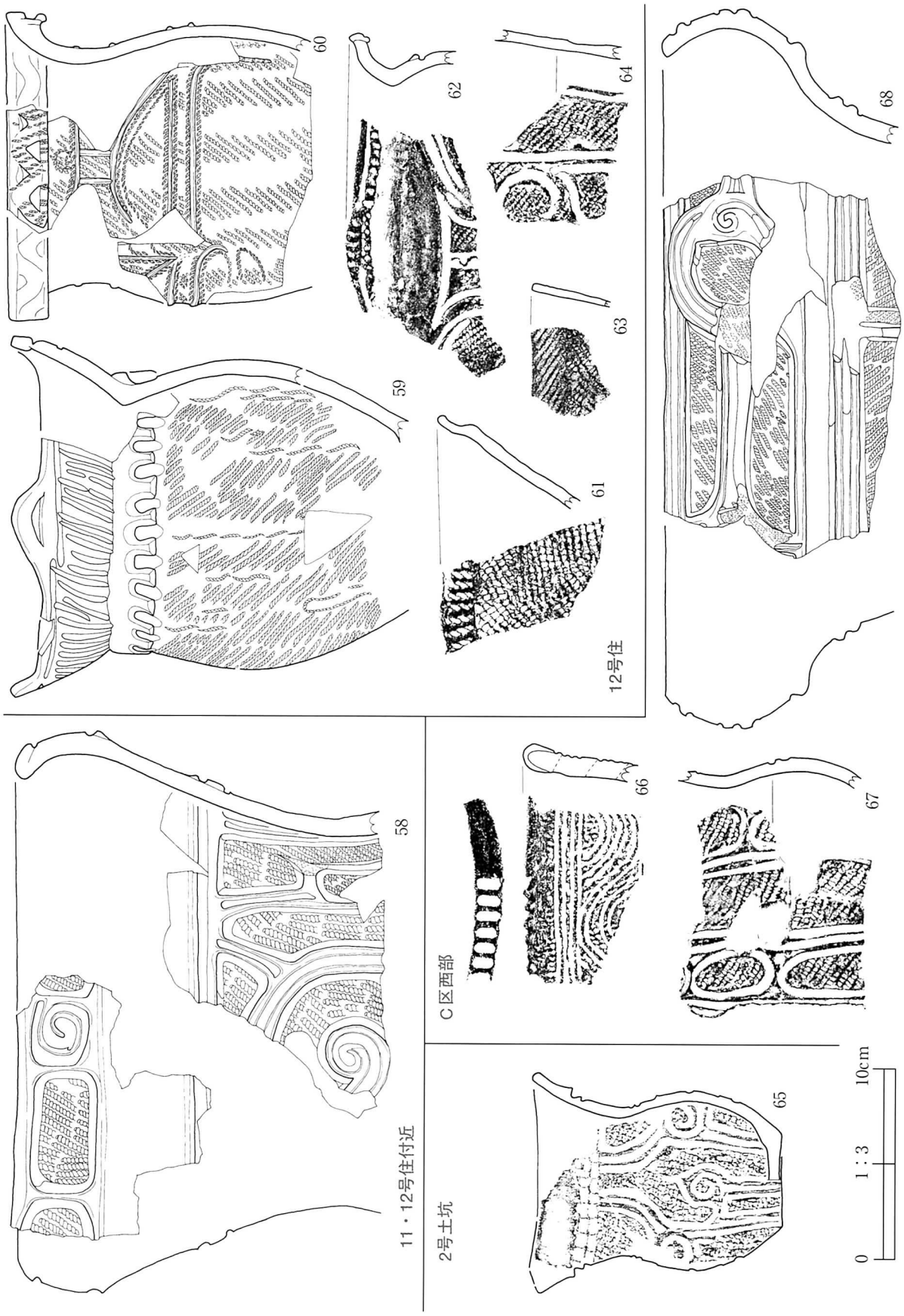


0　1：3　10cm

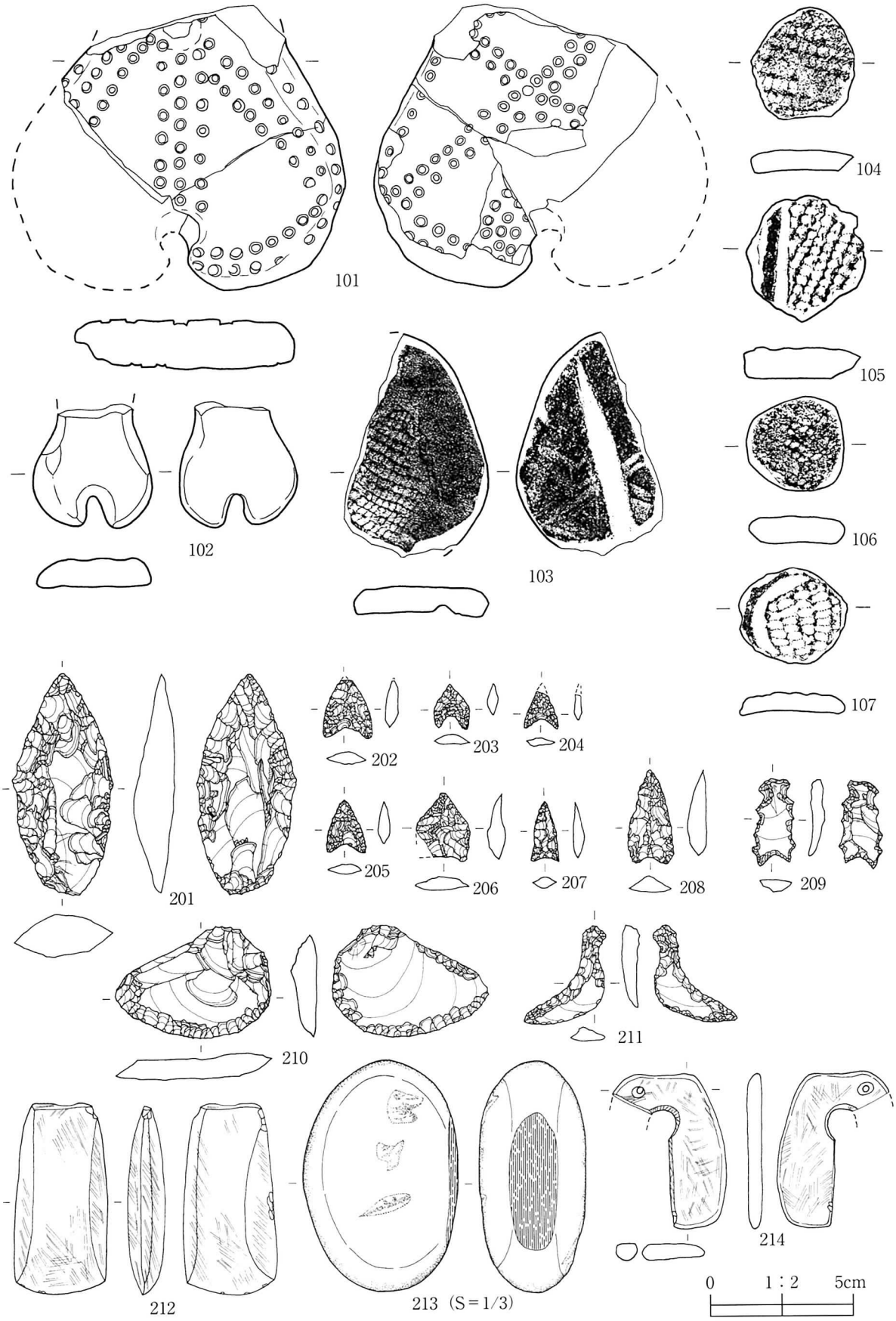
第6図　清田台遺跡C区　遺構・土器（1）



第７図　清田台遺跡Ｃ区　土器（２）



第8図　清田台遺跡C区　土器(3)



第９図　清田台遺跡　土製品・石器・石製品

清田台遺跡掲載遺物一覧

土　器

掲載番号	区	出土地点・遺構名	層位等	器　種
1	A	3号住居跡	埋土	口
2	A	3号住居跡	埋土	頸
3	A	3号住居跡	埋土	胴
4	A	4号住居跡	埋土	口
5	A	4号住居跡	埋土	胴
6	A	5号住居跡	埋土	口
7	A	5号住居跡	埋土	口
8	A	A区東端部	攪乱層	口
9	B	7号住居跡	埋土	底
10	B	7号住居跡付近	10層よりも下位	口
11	B	7号住居跡付近	10層よりも下位	口
12	B	7号住居跡付近	10層よりも下位	口
13	B	8号住居跡	埋土	口
14	B	8号住居跡付近	14・20層	口
15	B	8号住居跡付近	14・20層	胴
16	B	8号住居跡付近	14・20層	胴
17	B	8号住居跡付近	14層	口
18	B	8号住居跡付近	14層	頸
19	B	8・9号住居跡付近	5層よりも下位	口
20	B	8・9号住居跡付近	5層よりも下位	口
21	B	8・9号住居跡付近	5層よりも下位	口
22	B	8・9号住居跡付近	14層以下	胴
23	B	8・9号住居跡付近	14層以下	口
24	B	8・9号住居跡付近	14層以下	口
25	B	9号住居跡	埋土	口～底
26	B	9号住居跡	埋土	口
27	B	9号住居跡	埋土	口
28	B	9号住居跡	埋土	口
29	B	1号炉跡	焼成面直上	口
30	B	1号炉跡	焼成面直上	口
31	B	1号炉跡	焼成面直上	口
32	B	1号炉跡	焼成面直上	胴～底
33	B	B区中央部	2層	口
34	B	B区中央部	5～7層	口
35	B	B区中央部	5～7層	口
36	C	10号住居跡	埋土	口
37	C	10号住居跡	埋土	胴
38	C	10号住居跡	埋土下部	胴
39	C	10号住居跡	埋土	胴
40	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	口～胴
41	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	頸～胴
42	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	胴～底
43	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	口～底
44	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	口
45	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	口
46	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	胴
47	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	口
48	C	10号住居跡土器集中部	埋土下部	口
49	C	10号住居跡柱穴	埋土	口
50	C	11号住居跡	埋土	口
51	C	11号住居跡	埋土	胴
52	C	11・12号住居跡付近	2～6層	口
53	C	11・12号住居跡付近	2～6層	口
54	C	11・12号住居跡付近	2～6層	口
55	C	11・12号住居跡付近	2～6層	口～胴
56	C	11・12号住居跡付近	2～6層	胴
57	C	11・12号住居跡付近	2～6層	胴
58	C	11・12号住居跡付近	2～6層	口～胴
59	C	12号住居跡	埋土	口～胴
60	C	12号住居跡	埋土	口～胴
61	C	12号住居跡	埋土	口
62	C	12号住居跡	埋土	口～胴
63	C	12号住居跡	埋土	口
64	C	12号住居跡	埋土	胴
65	C	2号土坑	埋土	口～底
66	C	C区西部	層位不明	口
67	C	C区西部	層位不明	胴
68	C	C区西部	層位不明	口～頸

土製品

掲載番号	区	出土地点・遺構名	層位等	器　種
101	B	B区中央部	5～7層	土偶
102	B	B区中央部	5～7層	土偶
103	B	8号住居跡付近	14・20層	土製円盤
104	B	B区一括	層位不明	土製円盤
105	B	B区一括	層位不明	土製円盤
106	C	10号住居跡	埋土	土製円盤
107	B	B区一括	層位不明	土製円盤

石器・石製品

掲載番号	区	出土地点・遺構名	層位等	器　種
201	B	7号住居跡付近	10層よりも下位	尖頭器
202	B	B区中央部	5～7層	石鏃（無茎凹基）
203	B	8号住居跡	埋土	石鏃（無茎凹基）
204		調査区一括		石鏃（無茎凹基）
205	B	8号住居跡	埋土	石鏃（無茎凹基）
206	B	7号住居跡付近	10層よりも下位	石鏃（無茎凹基）
207	B	B区中央部	5層以下	石鏃（無茎凹基）
208	B	9号住居跡	埋土	石鏃（無茎凹基）
209	C	11・12号住居跡付近	2～6層	異形石器
210	B	B区中央部	2層	削掻器
211	B	8号住居跡	埋土	石匙
212	B	1号炉跡付近		磨製石斧(石製品？)
213	C	10号住居跡柱穴	埋土	磨敲器
214	B	8・9号住居跡付近	5層より下位	玦状耳飾

2　ふるさと農道緊急整備事業砂川地区

丹内Ⅰ遺跡（ＪＦ66－1368）

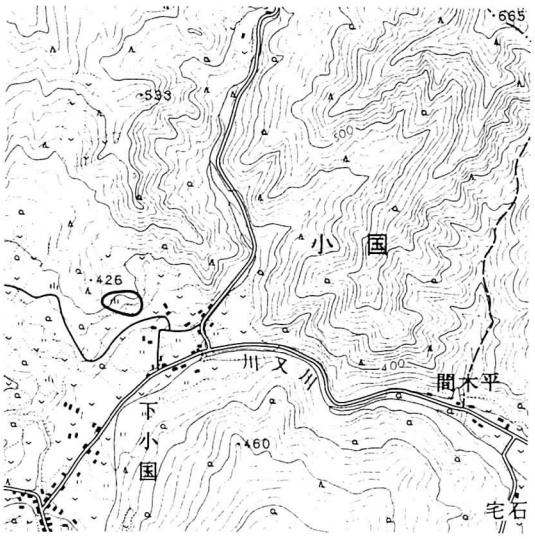
所在地；九戸郡山形村小国地内

事業者；久慈地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年10月20日(月）～24日(金)

遺跡は山形村南部の小国第４地割に所在し、山形村役場から南東へ約８kmの位置に所在する。現況は主として畑地となっている。

岩手県立博物館により平成３年～６年まで４ケ年に亘って発掘調査が実施されている。調査の結果、弥生時代の住居跡２棟、土坑６基、縄文時代の陥し穴１基、時期不明の土坑４基、弥生土器、縄文土器、石器、近世陶磁器が発掘さされた。



第10図　丹内Ⅰ遺跡位置図

農道拡幅のため、平成14年11月26日に試掘調査（第４次調査）を実施した結果、県立博物館実施の調査区と重複することが判明し、発掘調査が必要であることが判明した。

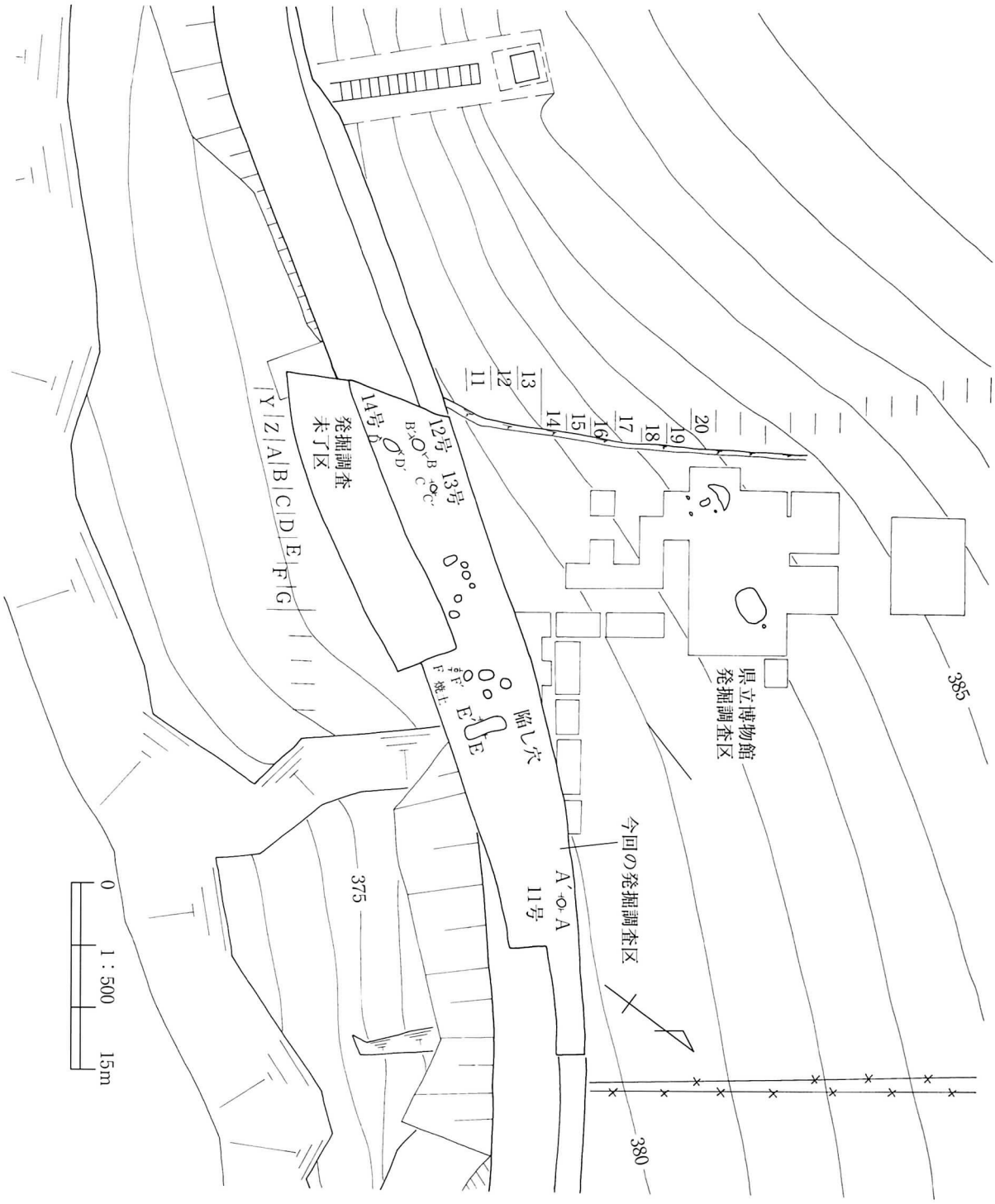
今回は県立博物館調査時のグリッドは用いず、事業区域内322㎡の発掘調査（第５次調査）を実施した。基本層序は県立博物館調査時と同様であった。

その結果、県立博物館が発掘を行った陥し穴１基、土坑６基（５号～10号土坑）を確認できた。しかし１号～４号土坑は確認できなかった。県立博物館の調査区外から新たに土坑４基、焼土が発見された。いずれも遺物の出土がなく、時代決定に決め手を欠いている。陥し穴１基は、県立博物館の調査では、約半分のみ発掘調査されていたので、残り部分を発掘した。なお、遺構番号は県立博物館調査時のものから連番とした。

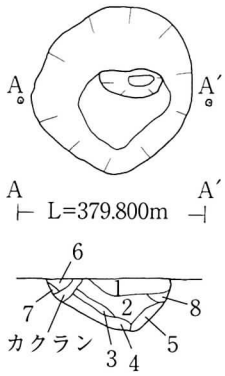
土坑は１ｍ程の規模を中心としたもので、以前の発掘調査時に発見された土坑とほぼ同じレベルに位置し、現況の等高線に沿う配置となっている。11号土坑のみが、離れているが、12～14号土坑はまとまっている。土坑の大きさに規則性はなく、底面が平らになるものはなく、傾斜があり、壁の立ち上がりも、一定の傾向がみられなかった。焼土は第Ⅲ層上面で確認されたものである。直径は25～30cmで、深さは４cmであった。付近から近世陶磁器が出土したので、近世に属する可能性が高い。陥し穴は遺構の東端が既設水道管の埋設によって調査ができなかった。埋土の深さは２ｍを越えていた。

遺物は第２層もしくは第３層から弥生時代後期の土器、10号土坑の再堆積埋土から近世陶磁器が２点出土した。弥生土器は附加条、撚糸文が施文されるもので内面はいずれもナデ調整されている。２の土器は、外面に黒色物質が付着していた。今回の調査では弥生土器71.79ｇ、陶磁器6.27ｇ、鉄製品1.96ｇが出土した。

諸般の事情から、発掘調査未了区は次年度に行うこととなった。(平成16年度本発掘調査予定)

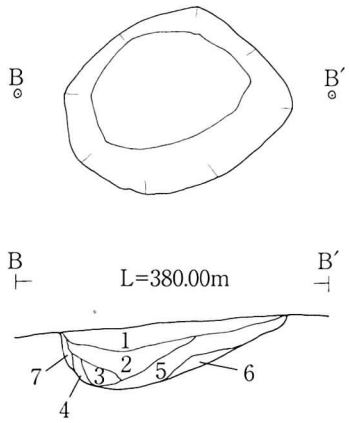


第11図　丹内Ⅰ遺跡調査区位置図



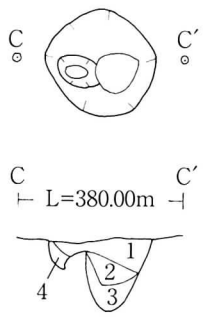
11号土坑

1：7.5YR2/1黒色土、しまりなし、粘性なし。
2：7.5YR2/2黒褐色土、しまりなし、粘性なし。7.5YR4/4褐色の地山ブロック（2～3cm大）を僅かに含む。
3：7.5YR2/3極暗褐色土、しまりあり、粘性あり。
4：7.5YR3/2黒褐色土、しまりあり、粘性あり、地山崩落土。
5：7.5YR3/2黒褐色土、しまりあり、粘性あり、4層よりやや黒みかかっている、地山崩落土。
6：7.5YR2/3極暗褐色土、しまりあり、粘性ややあり。
7：7.5YR4/4褐色土、地山崩壊ブロック。
8：7.5YR2/2黒褐色土、しまりなし、粘性ややあり。



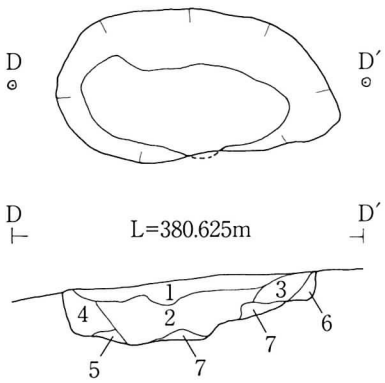
12号土坑

1：7.5YR2/1黒色土、しまりややあり、粘性なし、木根多く入る。
2：7.5YR2/2黒褐色土、しまりなし、粘性なし、7.5YR4/3褐色の地山崩落土（5mm大）を含む、木根多い。
3：7.5YR2/3極暗褐色土、しまりなし、粘性なし 2層よりも地山崩落土を多く含む。
4：7.5YR2/2黒褐色土、しまりなし、粘性なし。
5：10YR2/2黒褐色土、しまりあり、粘性なし、1層の土が混じる。
6：10YR2/2黒褐色土、しまりあり、粘性あり。



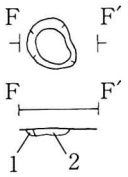
13号土坑

1：7.5YR2/1黒色土、しまりなし、粘性なし。7.5YR4/4褐色の地山ブロック（5cm大）を僅かに含む。
2：7.5YR3/2黒褐色土、しまりあり、粘性なし、地山崩壊ブロックを含む。
3：7.5YR3/4暗褐色土、しまりあり、粘性なし。
4 7.5YR3/2黒褐色土、しまりなし、粘性なし。



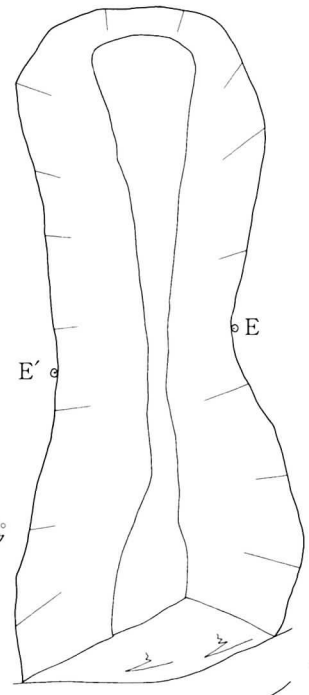
14号土坑

1：7.5YR2/1黒色土、しまりややあり、粘性なし、木根多い。
2：7.5YR2/2黒褐色土、しまりややあり、粘性ややあり。7.5YR4/3褐色の地山ブロック（3～5cm大）を多く含む。
3：7.5YR2/3極暗褐色土、地山崩壊土を多く含む、しまりややあり、粘性なし。
4：7.5YR2/3極暗褐色土、しまりなし。粘性ややあり、地山崩壊土を含む。
5：7.5YR2/2黒褐色土、しまりややあり、粘性なし、地山崩落ブロック（8cm大）を僅かに含む。
6：7.5YR3/2黒褐色土、しまりあり、粘性なし、地山崩落土を多く含む。
7：7.5YR4/3褐色土、しまりあり、地山ブロック。



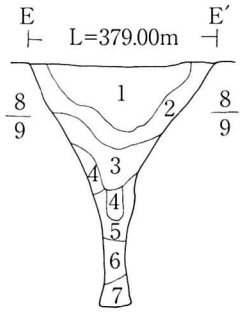
1：炭化物
2：焼土　10YR5/4にぶい褐色、シルト、焼土とⅡ、Ⅲ層が混じる。

1号焼土



水道管

陥し穴

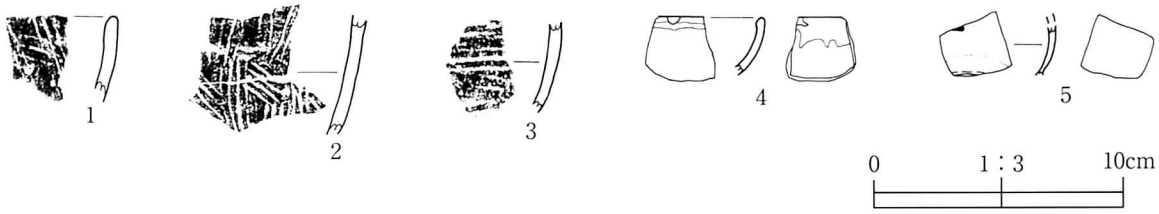


1：10YR1.7/1黒色シルト、しまり、粘性弱。基本層位、第8層が比較的多く混じる。
2：10YR2/2黒褐色シルト、しまり粘性弱。基本層位第、8層に類似している。
3：10YR3/3暗褐色、砂質シルト、しまり、粘性弱、埋土2層に類似するが、基本層位第9層が混じる。
4：10YR4/4褐色、砂質シルト、しまり、粘性弱、埋土2層に類似するが、黄色味がやや強い。
5：10YR5/6黄褐色、砂質シルト、しまり、粘性弱、基本層位第9層に類似、崩落土。
6：10YR3/1黒褐色シルト、しまり、粘性弱、黄色ブロックが若干混じる。
7：10YR4/3にぶい黄褐色シルト、基本層位第8層に類似する、基本層位第9層も混じる。

基本層位第8層：10YR3/3暗褐色シルトしまり、粘性弱、黒褐色土が比較的多く混じる。
〃　9層：10YR5/6黄褐色粘土質シルト、しまり、粘性強、ローム層。

0　1：80　2m

第12図　丹内Ⅰ遺跡遺構図



第13図　丹内Ⅰ遺跡出土遺物

3　経営体育成基盤整備事業八重畑地区

宿館遺跡（ＭＦ17－0111）

所在地；稗貫郡石鳥谷町八重畑地内

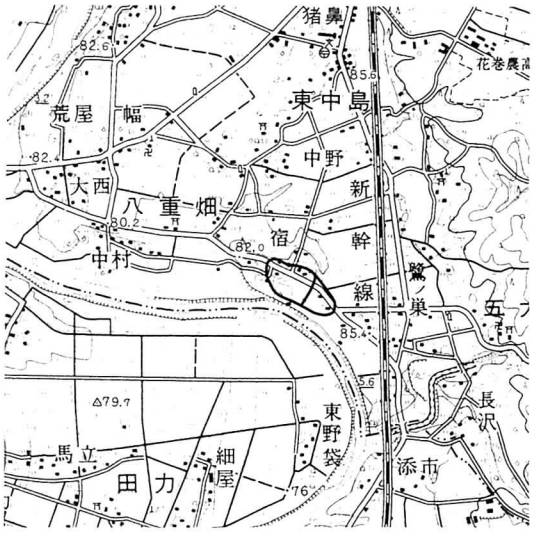
事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年４月17日～25日（７日間）

遺跡は、ＪＲ東日本東北本線花巻空港駅の東南東約4.5kmに位置し、北上川左岸の低位段丘縁辺部に立地している。現況は畑地、水田、宅地等になっている。

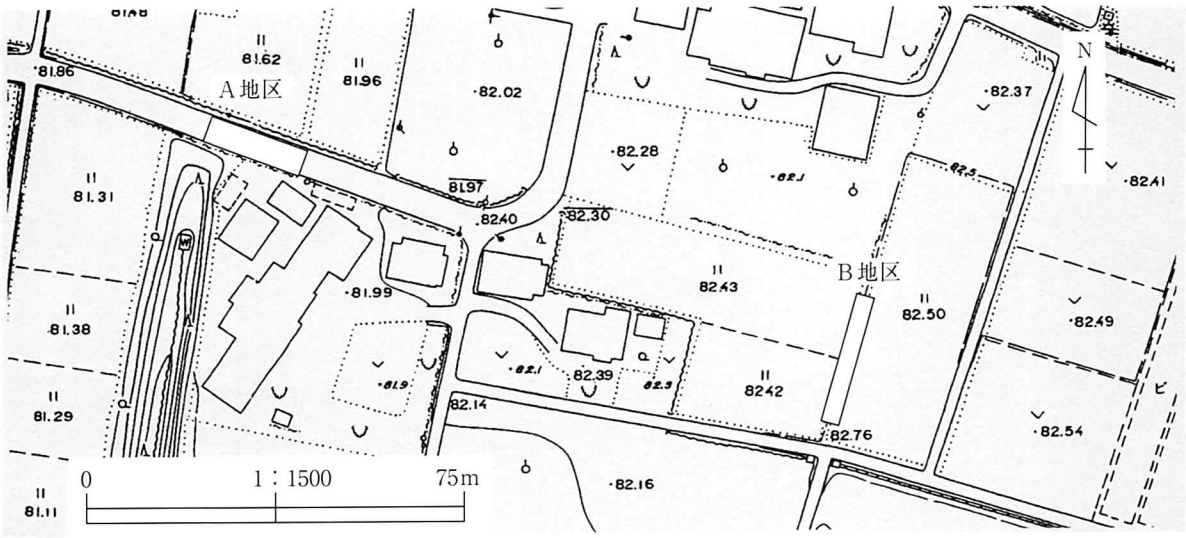
今回、パイプラインを設置する箇所について埋蔵文化財の発掘調査を実施した。

発掘調査区は２箇所あり、西側をＡ地区、東側をＢ地区とした。Ａ地区の調査区南側は、既に水道管が埋設されており、掘り下げは行わなかった。

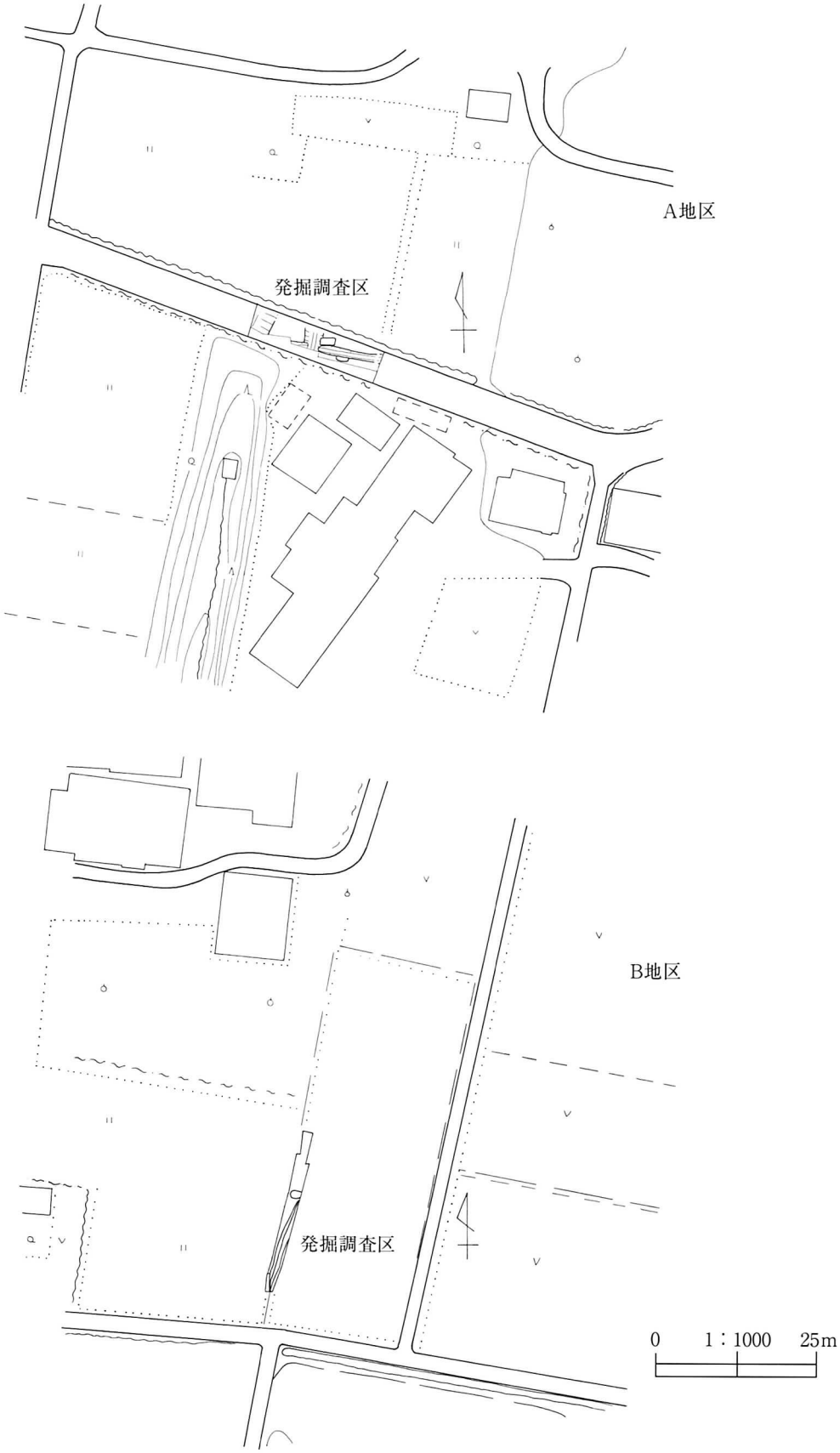


第14図　宿館遺跡位置図

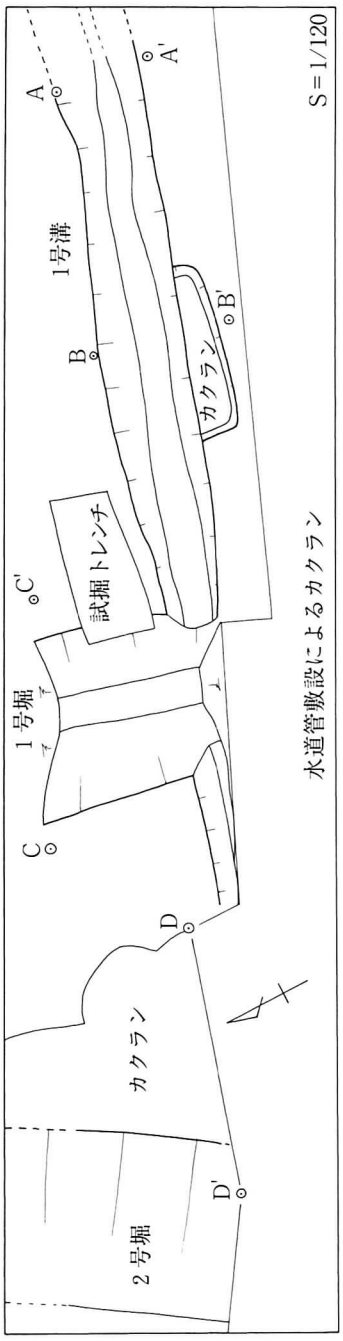
Ａ地区では堀２条、溝１条が３層上面で検出された。１号堀は南北方向で、幅2.8m、長さ３m以上、深さ1.3mである。上部は削平を受け、堆積土は人為的に埋められている。１号堀は１号溝を切っている。２号堀は堀の肩の一部を検出しただけである。南北方向を向いており、長さ３m以上、幅３m以上、深さ約１mで調査区南側の空堀跡と方向が一致していた。上部と東側には撹乱が入っている。堀埋土は、未腐食木、還元されていない砂礫土層であった。堀埋土を覆った層には、ごく最近のものと思われる炭、陶磁器破片、瓦片、ガラス片が含まれていた。西側は湧水と壁土の崩落の可能性があり、作業安全確保の理由から調査は行わなかった。１号溝は一部に撹乱が入るが、長さ14m以上、幅1.3m、深さ0.7m程で、東西方向である。一部は１号堀に切られており、１号堀より古い。土師器細片が埋土上部に含まれていた。Ｂ地区では、溝１条、土坑１基が発見された。溝は長さ15m以上、幅１mで、深さ0.4mである。ほぼ南北を向いている。断面形は台形状であるが一部では、段が付いている。土坑は長軸1.6m以上、短軸1.2m、深さ1.3mである。

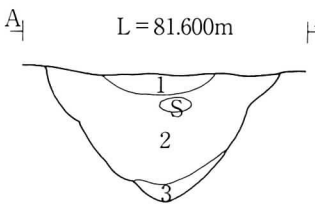


第15図　宿館遺跡調査区位置図



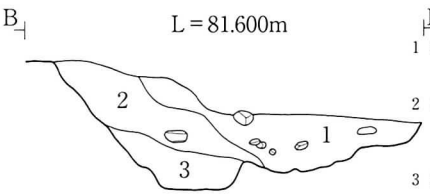
第16図　宿館遺跡発掘調査区位置図





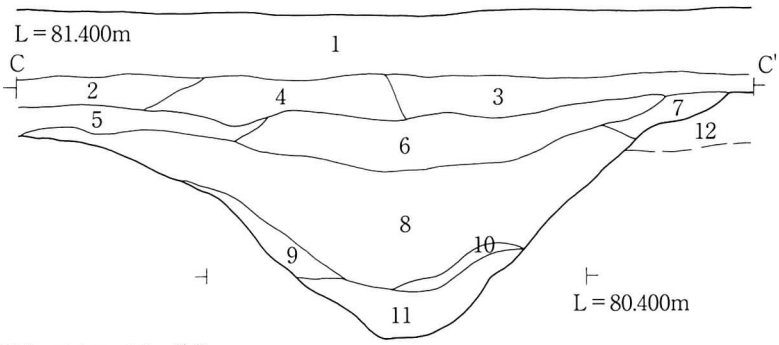
1：10YR2/2黒褐色シルト、茶黄褐色ブロックが2層より多く混じる。しまり中、粘性弱。
2：10YR3/1黒褐色シルト、黄褐色ブロック・粒子を比較的多く含む。しまり中、粘性弱。
3：10YR2/1黒色シルト、茶褐色ブロックを多く含む。しまり中、粘性中。

1号溝断面図



1：10YR4/2灰黄褐色シルト、しまり中、粘性中。円礫を多量に含む。溝を切っている。
2：10YR3/1黒褐色シルト、しまり中、粘性中。黄褐色ブロックを含む。3層より明るい。
3：10YR3/1黒褐色シルト、黄褐色ブロック・粒子を比較的多く含む。しまり中、粘性弱。

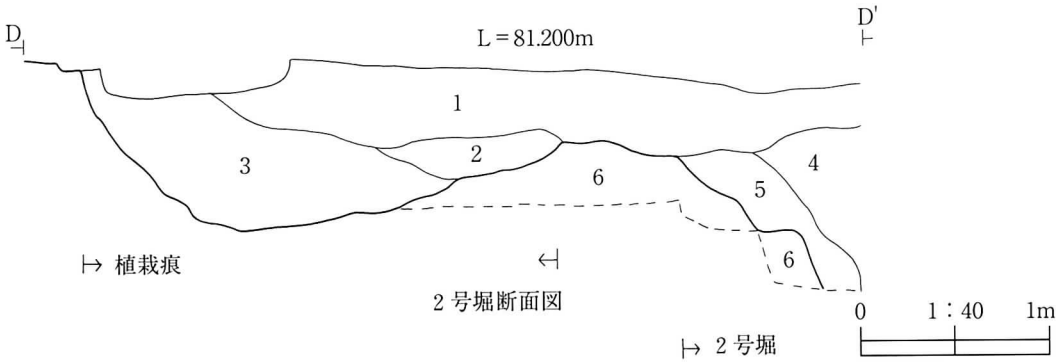
1号溝断面図



1号堀断面図

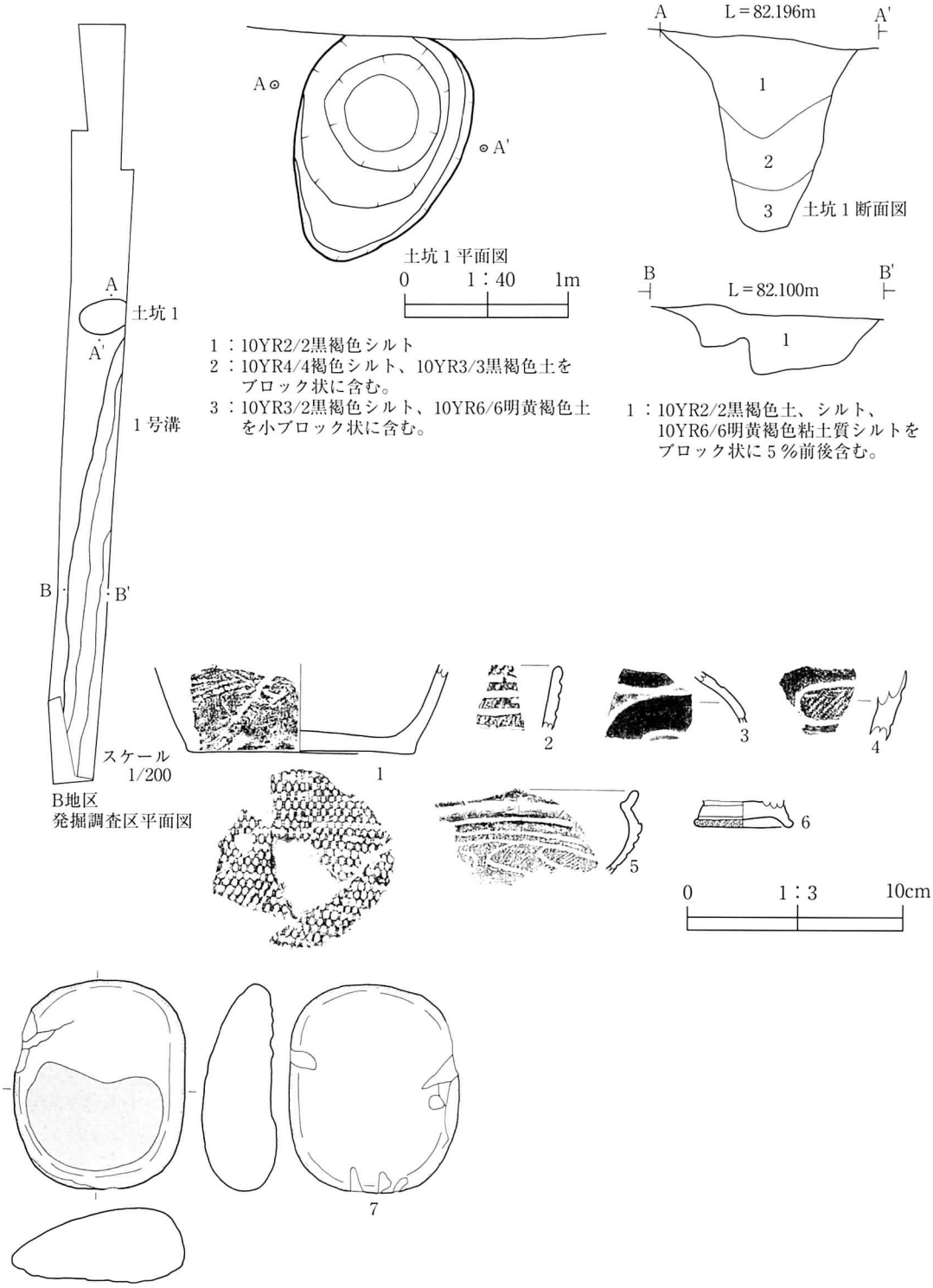
1：道路敷、アスファルト、砂利。
2：カクラン、5Y4/1灰色粘土、しまり、粘性強、酸化鉄小ブロックを多く含む。
3：カクラン、10YR4/1褐灰色シルト、しまり中、粘性強。
4：カクラン、10YR4/1褐灰色粘土、しまり弱、粘性強、10YR6/4にぶい黄橙色の粒子を多く含む。
5：カクラン、10YR3/1黒褐色シルト、しまり、粘性中。黄色小ブロックを含む。
6：10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト、しまり弱、粘性弱、灰黄褐色ブロックを比較的多く含む。
7：10YR3/1黒褐色と10YR5/3にぶい黄褐色の混土、シルト、しまり中、粘性中。
8：10YR3/1黒褐色シルト、しまり、粘性弱、灰黄褐色ブロックを多く含む。
9：11層と同じ、11層より若干黒味を帯びている。
10：5Y7/3浅黄色粘土、しまり、粘性強。地山由来の土。
11：10YR4/2灰黄褐色粘性シルト、しまり、粘性強、灰黄褐色極小ブロックを多く含む。
12：2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト、しまり弱、粘性中、地山の一部、地山はこの層下で粘土となる。

1：カクラン、10YR4/1褐灰色、粘性シルト、しまり中、粘性中、上部に炭化物（現代の陶磁器含む）層あり、厚さ5～10cmほど、礫も含む。
2：3層とほぼ同じだが、若干灰色味が強い。植栽痕堆積土と考えられる。
3：10YR3/2黒褐色シルト、しまり中、粘性中、地山ブロック（黄色、褐色）を多量に含む。植栽痕と考えられれる。
4：10YG2/1緑黒色砂質シルト、礫が比較的多い、生木も多く含まれる、下部は湧水。
5：10YR4/2灰黄褐色シルト、しまり、粘性中、地山黄色小ブロックが少量混じる。6層との層理面に酸化鉄の集積あり。
6：2.5Y7/4浅黄色粘土、粘性、しまり強、地山、酸化鉄混じる。



2号堀断面図

第17図　宿館遺跡・A地区発掘調査区



第18図　宿館遺跡・B地区発掘調査区、出土遺物

番号	出土位置	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備考
1	試掘トレンチ12	縄文土器底部片	縄文（LR）、荒いミガキ	ナデ、底面を除き黒色物質付着	底面は網代痕、後期
2	〃	縄文土器口縁部片	縄文（原体不明）→平行沈線文、黒色物質付着	ミガキ	後期、深鉢
3	〃	縄文土器体部破片	丁寧なミガキ、沈線文	ナデ、ミガキ	後期、壷か注口
4	〃	縄文土器体部破片	縄文（LR）→区画文、ミガキ	ミガキ	後期、深鉢
5	A区南側表採	縄文土器口縁部破片	縄文（LR）→雲形文、ミガキ、突起、口唇部に刻目	ミガキ、突起に沿う沈線文	晩期、鉢
6	A地区1号溝堆積土	縄文土器脚部	縄文（LR）→平行沈線文、ナデ	ナデ	晩期、台付鉢
7	B地区1号溝堆積土	摺り石	片面に摺り面がある、重量400g		

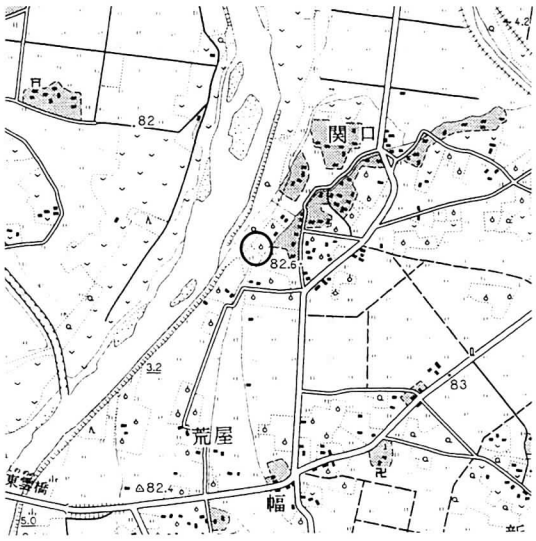
4　経営体育成基盤整備事業　八重畑地区

関口南館遺跡（ＭＥ06－1359）

所在地；稗貫郡石鳥谷町関口地内

事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

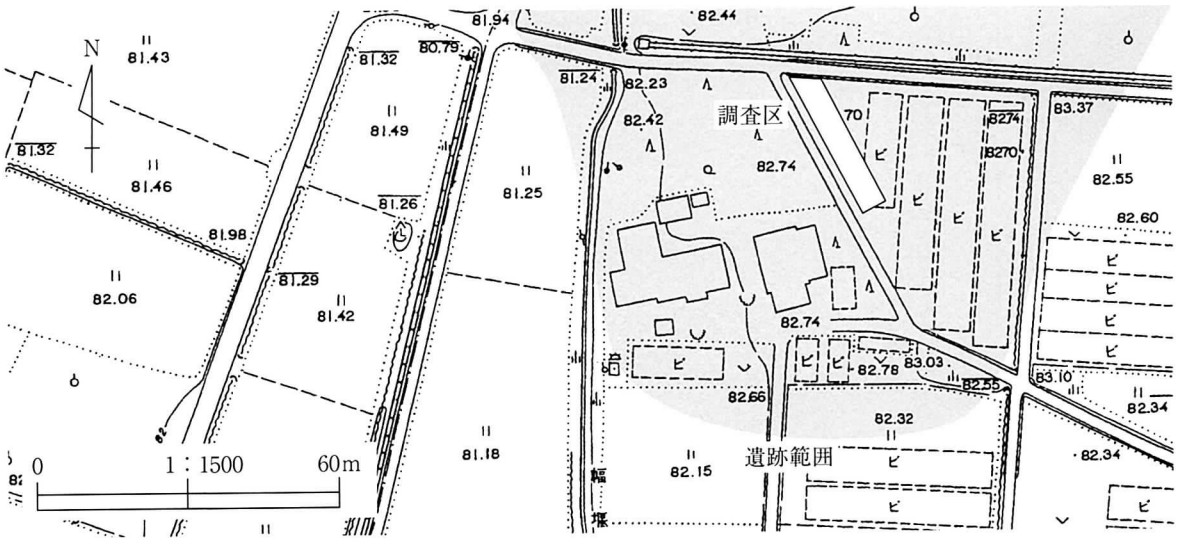
調査期日；平成15年11月13日



第19図　関口南館遺跡位置図

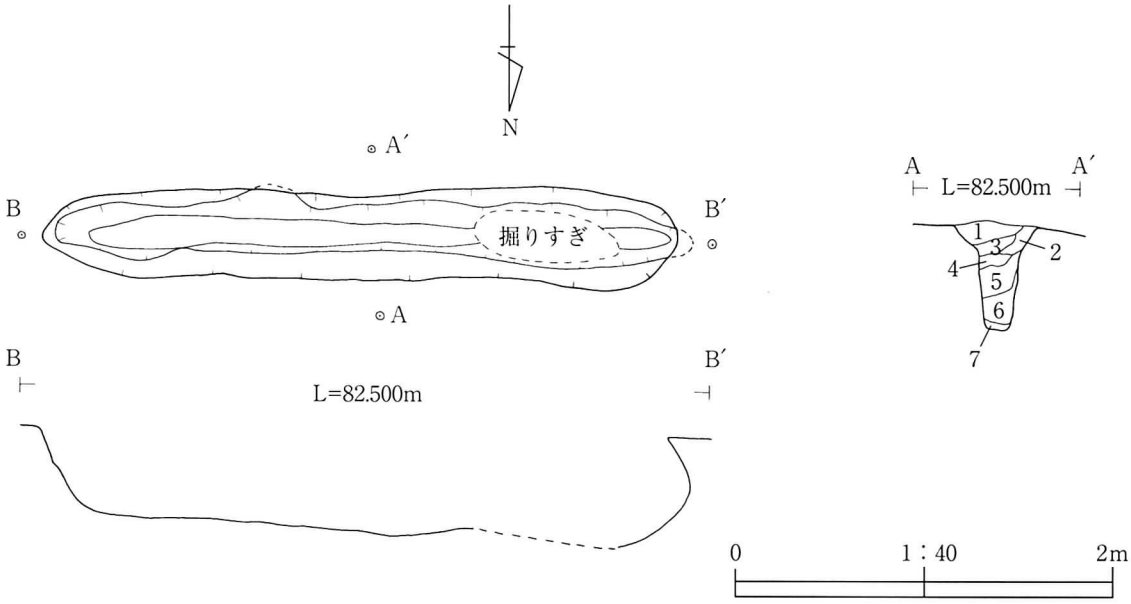
遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線花巻空港駅より東約2.3kmに位置し、北上川右岸の低位段丘上に立地する。現況は水田、畑地となっており、標高約82ｍ前後を測る。本遺跡は中世城館として周知されている。現在の石鳥谷周辺は、室町時代には稗貫氏に支配されていた。稗貫氏は十八ケ城に居城し、稗貫郡主を名乗っている。この頃、稗貫郡は稗貫五十三郷と称され、各地に一族や家臣を配して支城を築かせていた。石鳥谷町には、新堀氏、八重畑氏、関口氏、小森林氏、瀬川氏などが移住している。本遺跡は、この関口氏の居城と考えられている。昨年度の試掘調査では遺構及び遺物は発見されなかったが、11月の試掘調査では、Ｔ10北東端から12ｍの地点で陥し穴状遺構を基本層序の第Ⅱ層直下で確認した。他に陥し穴状遺構がないか周囲にトレンチを広げたが確認できなかった。他の陥し穴状遺構はおそらく事業対象区外にあると推測した。今回は、11月の調査で確認された陥し穴状遺構が調査対象である。

精査の結果、陥し穴状遺構の平面形は、東西に帯状になっており、長軸336cm、短軸45cm、深さは56cmの規模を持ち、底面は狭く15cm前後であった。断面形は縦長のＴの字形で、遺構の西端は、上場よりも15cmえぐられる形で外側に広がっていた。埋土は、主に黒色土であり、所々に黄褐色、褐色土、暗褐色土がブロック状に混じっていた。埋土上層ではしまりがあったが、下層はしまりがあまりなかった。さらに下層では河原の礫が多く現れたため、洪水が原因の埋土ではないかと思い、掘り進めたが、下層の縦横に砂礫層が広がった（掘りすぎ）。このことから、この陥し穴はこの砂礫層の上面まで掘り込み造られたことが分かった。



第20図　関口南館遺跡調査区位置図

今回の調査では、中世城館に関係する遺構および遺物を確認することはできなかった。陥し穴状遺構の埋土からは遺物は確認できなかったが、形状から縄文時代のものと考えられる。今回の調査では、陥し穴状遺構は一基のみの確認であったが、調査区外に数基存在する可能性も考えられる。縄文時代この付近は狩場であったと考えられる。周辺に集落があった可能性もある。



1	10YR 3/1	黒色土	しまりあり	粘性なし
2	10YR 3/3	褐色土	しまりややあり	粘性なし
3	10YR 2/2	黒褐色土 1	しまりややあり	粘性なし
3	10YR 3/3	黒褐色土	しまりややあり	粘性ややあり
5	10YR 3/4	暗褐色土	しまりあり	粘性なし
6	10YR 2/1	黒色土	しまりややあり	粘性ややあり
7	10YR 5/6	黄褐色土	しまりなし	粘性なし

第21図　関口南館遺跡遺構図

5　ほ場整備事業 八重畑地区関連調査

上野々遺跡（ＬＥ97－2160）

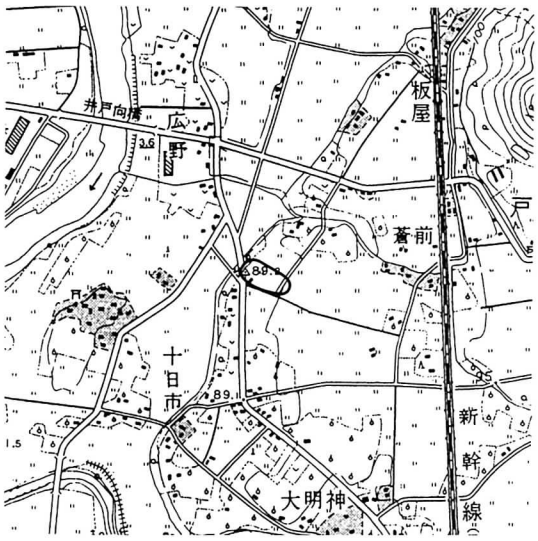
所在地；稗貫郡石鳥谷町字新掘地内

事業者；花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日；平成15年３月10日～13日

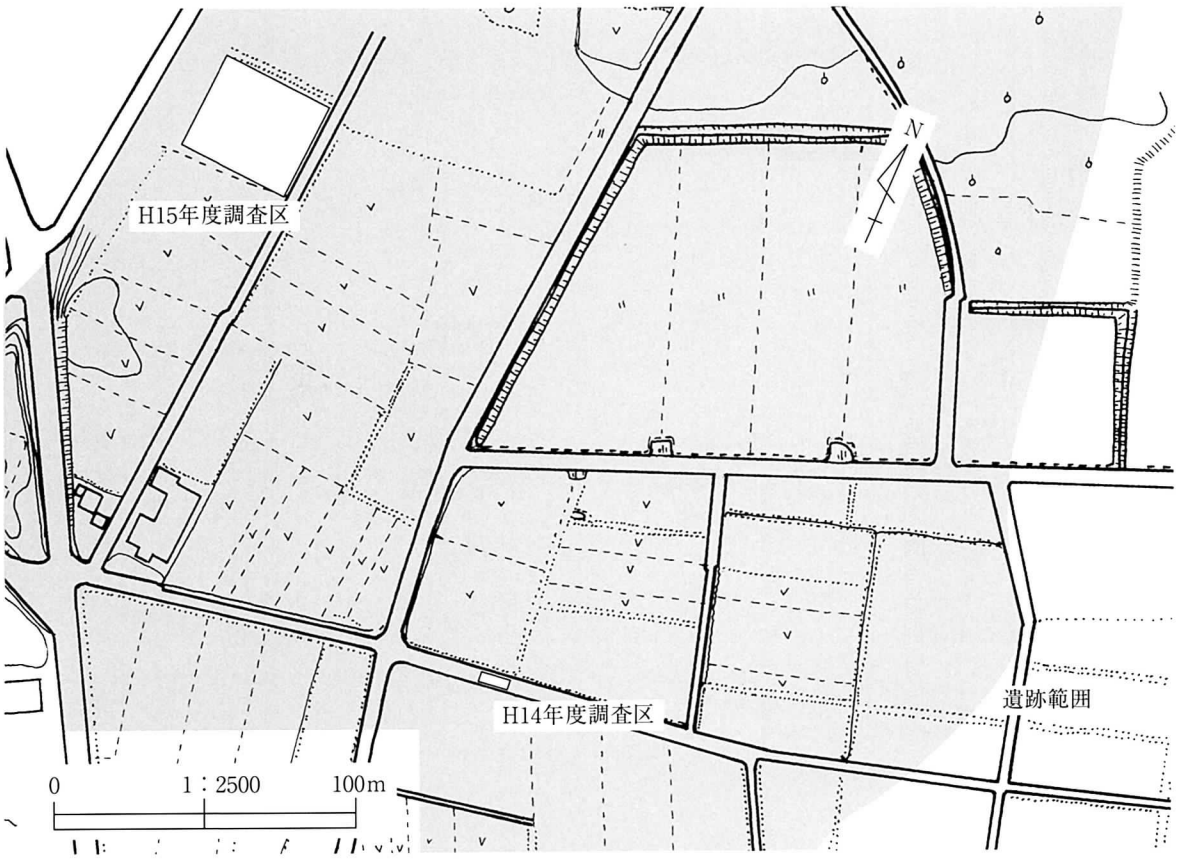
遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北本線石鳥谷駅の南東方向約3.5km、西流する稗貫川によって形成された低位段丘上に立地している。遺跡の標高は、88.5～90mほどで、現況は、水田・畑地・道路・宅地となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、平成13年度に実施した試掘調査で検出された平安時代の竪穴住居跡１棟、陥し穴状遺構（平成14年７月調査）の発掘調査結果も併せて報告することとする。１号住居跡は一辺が4.5～５mの規模で、付属施設として東壁にカマド１基、カマド北側と南壁中央部付近に貯蔵穴と思われる土坑が２基確認された。柱穴は、主柱穴となるべき位置には検出できなかった。柱穴状であるpp１・２の性格は不明である。



第22図　上野々遺跡位置図

カマドは天井部が押しつぶされた状況で検出され、袖部は不明瞭であった。煙道は掘り込み式で、煙出部は煙道からいったん下がった後に、さらに東側にくり貫かれていたが、この理由については判断できなかった。なお、この竪穴住居は、床面及び貼床の状況から、建て替え拡張されたものであることが判明した。カ



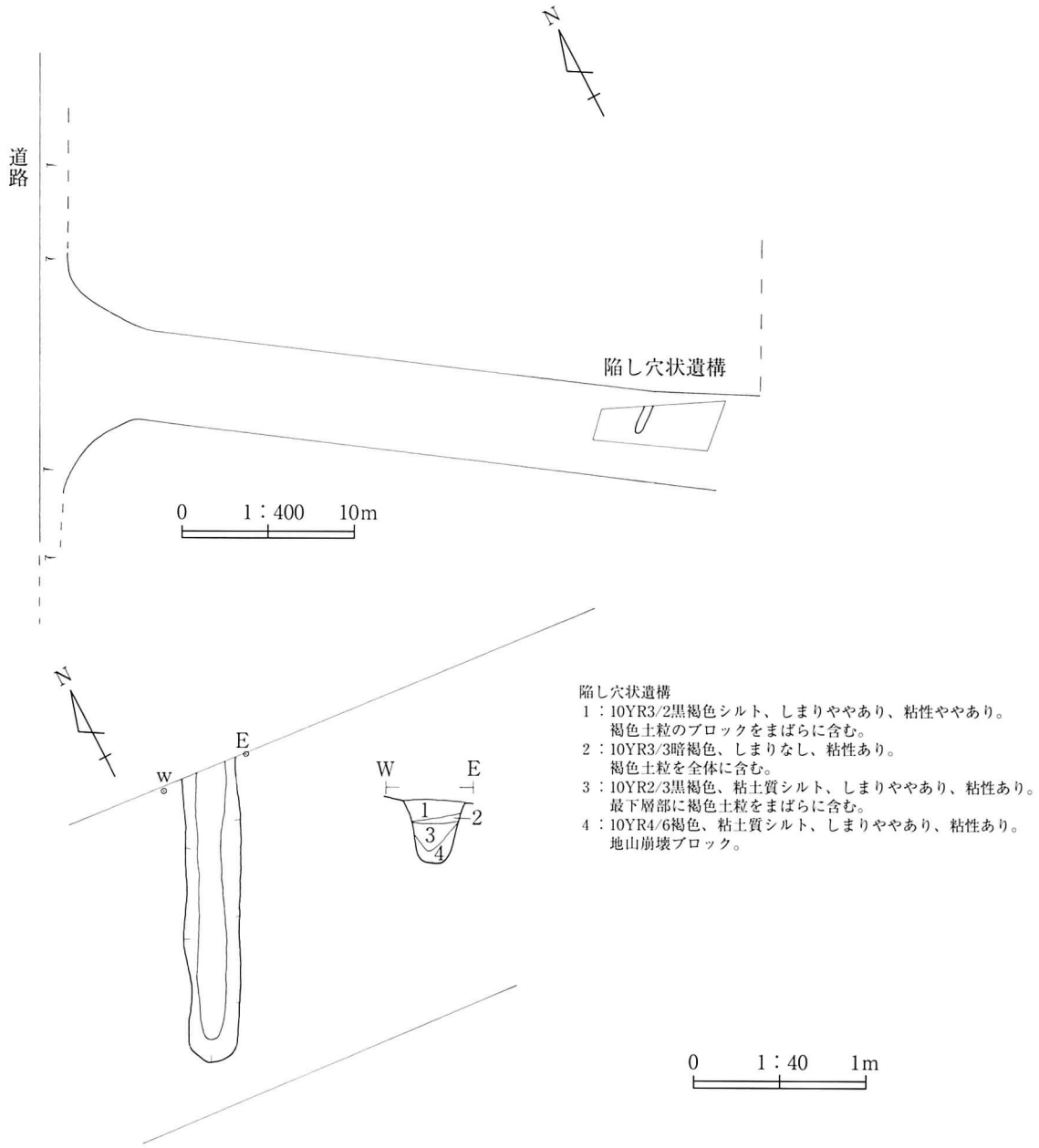
第23図　上野々遺跡調査区位置図・遺構図

マドの位置は、建て替え前と建て替え後もそのままに、住居を北と西側に拡張された様相であった。古い住居には、貼床された範囲から考えて、ピット１が伴うものと思われた。

住居跡より新しい土坑３基については、２号土坑がその形状から墓であった可能性があり、３号土坑は、焼土を伴うものであった。

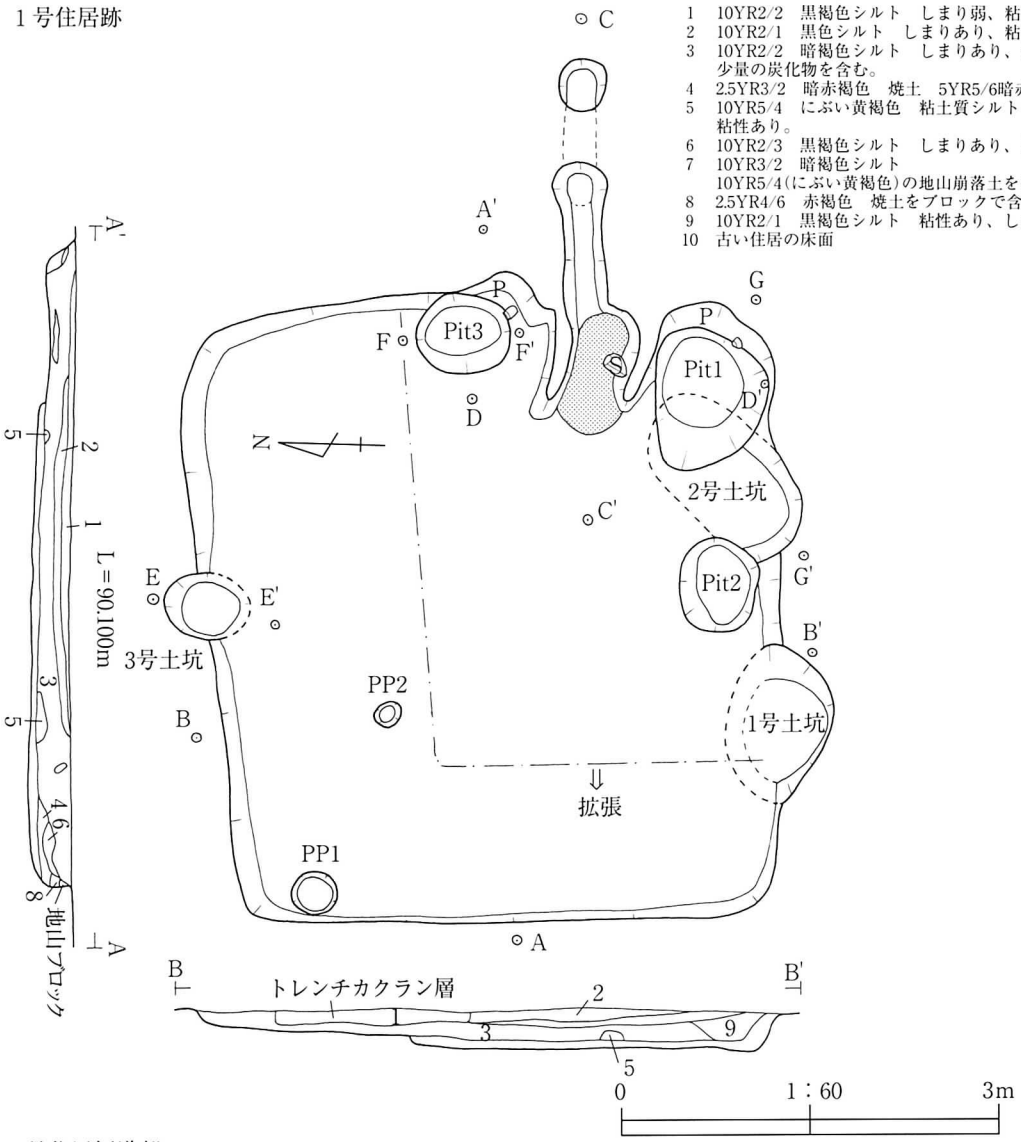
遺物については、小コンテナ約１箱分出土し、カマド周辺から土師器の甕の口縁部片が出土した。時期については、平安時代のものと判断した。

農道設置予定箇所で検出された陥し穴状遺構については、平成14年７月に発掘調査を実施し本稿で併せて報告するものである。この陥し穴状遺構は、溝状のプランを示し、長さ２m以上、幅50cm、深さ50cmであった。周囲には他の遺構及び遺物は確認できなかった。



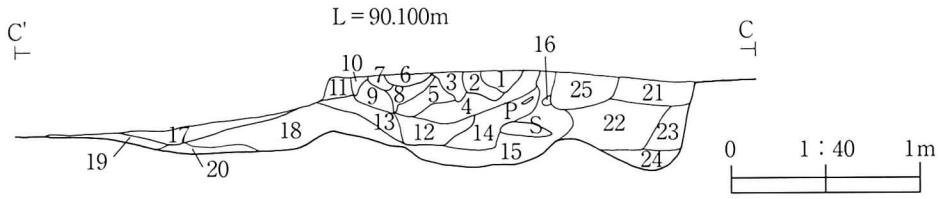
第24図　上野々遺跡遺構図１

1号住居跡



1 10YR2/2 黒褐色シルト しまり弱、粘性あり。
2 10YR2/1 黒色シルト しまりあり、粘性ある。
3 10YR2/2 暗褐色シルト しまりあり、粘性あり。
少量の炭化物を含む。
4 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土 5YR5/6暗赤褐色焼土粒を含む。
5 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト しまりあり、
粘性あり。
6 10YR2/3 黒褐色シルト しまりあり、粘性あり。
7 10YR3/2 暗褐色シルト
10YR5/4(にぶい黄褐色)の地山崩落土を含む。
8 2.5YR4/6 赤褐色 焼土をブロックで含む。
9 10YR2/1 黒褐色シルト 粘性あり、しまりあり。土坑の埋土
10 古い住居の床面

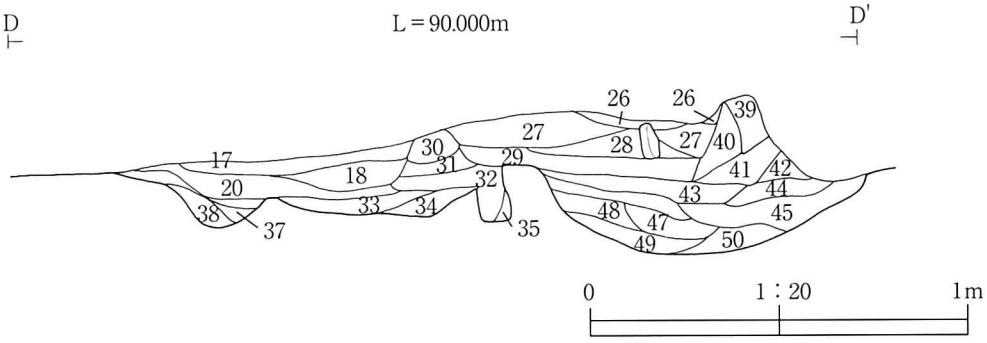
1号住居煙道部



1号住居煙道部断面
1 10YR5/3 にぶい黄褐色。灰混土。しまり・粘性中。
径1cmの橙色粒子を含む。
2 5YR4/1 褐灰。シルト。しまり・粘性中。1層より黒みがかっている。
3 5YR4/1 褐灰。シルト。しまり・粘性中。2層と類似。
4 2.5YR4/4 にぶい赤褐色 主体は焼土。黒色シルトが若干混じる。
黄色シルトが混じる。黄褐色粘土ブロックが若干混じる。
しまり、粘性中。
5 10YR2/3 黒褐。シルト。しまり弱・粘性中。3より黒見架かっている。
6 10YR5/3 黒褐。シルト。しまり弱・粘性中。
7 10YR5/3 黒褐。シルト。しまり・粘性強。
8 10YR3/2 黒褐。シルト。しまり・粘性中。赤色、黄色土との混合土。
9 2.5YR4/6 赤褐。焼土。粘性・しまり強。
10 10YR2/3 黒褐。シルト。粘性・しまり強。焼土粒若干混じる。
11 10YR4/3 にぶい黄褐。粘土。粘性・しまり強。
焼土ブロックが若干混じる。
12 7.5YR5/3 にぶい褐。シルト。粘性・しまり弱。
黄色粘土が主体。
13 2.5YR4/6 赤褐。焼土。しまり中・粘性弱。9より黒みがかっている。
14 5YR2/3 黒褐。しまり・粘性弱。シルト。焼土が主体。
4より黒みがかっている。
15 10YR3/2 黒褐。しまり・粘性弱。シルト。焼土、黄色粒若干含む。
16 10YR5/4 にぶい黄褐。シルト。しまり・粘性弱。主体は黄色ブロック。
17 7.5YR4/3 褐。シルト。焼土ブロックを比較的多く含む。
しまり中・粘性弱。炭化物が多い。
18 10YR4/6 赤色。焼土、しまり中・粘性弱。褐色土を含む。
19 10YR4/2 灰黄褐、シルト。しまり中・粘性弱。
20 2.5YR4/3 にぶい赤褐、シルト。焼土と黒褐色土の混じり。
しまり中・粘性中。
21 10YR3/2 黒褐。シルト。しまり中・粘性弱。
地山黄色ブロック・粒子を含む。
22 10YR2/3 黒褐。シルト。粘性、しまり中。地山黄色ブロックを含む。
23 10YR2/2 黒褐。シルト。しまり・粘性弱。
地山黄色ブロック・粒子を含む。
24 10YR4/1 褐灰。シルト。しまり中・粘性弱。
地山黄色ブロック・粒子を含む。
25 10YR5/6 明黄褐。粘土。しまり・粘性強。

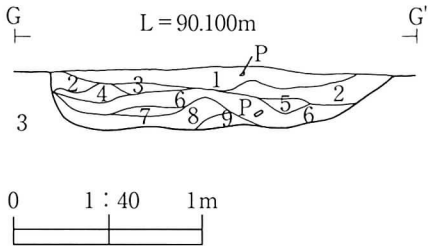
第25図 上野々遺跡遺構図2

1号住居跡　カマド

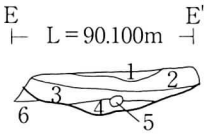


1号住居跡　カマド断面
26　7.5YR3/2　黒褐。シルト。しまりあり、粘性なし。
　2～3cm大の焼土ブロックをわずかに含む。
27　5YR3/6　暗赤褐色。しまりややあり。粘性なし。
　焼土ブロックを多く含む。
28　10YR4/4　褐色。しまりややあり。粘性なし。
　黄褐色粘土ブロックを含む。カマドのソデの崩落土か。
29　5YR4/4　にぶい赤褐色。しまりなし。粘性なし。
　1cm大の焼土粒を多く含む。炭化物をわずかに含む。
30　10YR5/4　にぶい黄褐。粘土。粘性・しまり強。
　カマド袖の一部。
31　5YR5/4　にぶい赤褐。焼土と1の混土。しまり・粘性中。
32　5YR4/3　にぶい赤褐。焼土褐色土の混土。しまり・粘性中。
33　10YR5/8　赤。焼土。しまり中・粘性弱。
34　10YR4/2　灰黄褐。シルト。しまり弱・粘性弱。4と地山の混土。
35　10YR5/3　にぶい黄褐。シルト。粘性弱・しまり中。
36　2.5YR4/4　にぶい赤褐。シルト。焼土が多く混じる。
37　10YR6/4　にぶい黄橙。シルト。粘性弱・しまり弱。
38　10YR5/2　灰黄褐。シルト。焼土、
　10YR6/3にぶい黄橙砂質シルトの地山が混じる。
39　10YR5/4　にぶい黄褐。粘土。粘性・しまり強。
　カマド袖の一部
40　5YR4/3　にぶい赤褐。焼土褐色土の混土。しまり・粘性中。
41　10YR5/3　にぶい黄褐。シルト。粘性中・しまり弱。
　焼土、炭化物が混じる。
42　10YR3/1　黒褐。シルト。粘性弱・しまり中。
43　10YR5/2　灰黄褐。シルト。粘性弱・しまり中。
　炭化物、焼土、黄色粒子含む。
44　10YR6/4　にぶい黄橙。粘土。しまり中・粘性弱。
　黄色ブロックが主体の土。
45　10YR4/3　にぶい黄褐。シルト。シルト。しまり中・粘性弱。
　焼土を比較的多く含む。炭化物を若干含む。
46　7.5YR4/3　褐。シルト。粘性・しまり弱。焼土粒を多く含む。
47　10YR3/4　暗褐。シルト。粘性・しまり弱。焼土を若干含む。
48　10YR4/2　灰黄褐。シルト。粘性・しまり中。炭化物を多く含む。
49　10YR3/1　黒褐。シルト。粘性・しまり弱。黄色ブロックを若干含む。
50　10YR4/2　灰黄褐。シルト。粘性弱・しまり中。

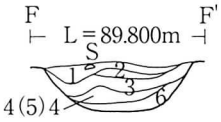
2号土坑



3号土坑



Pit3

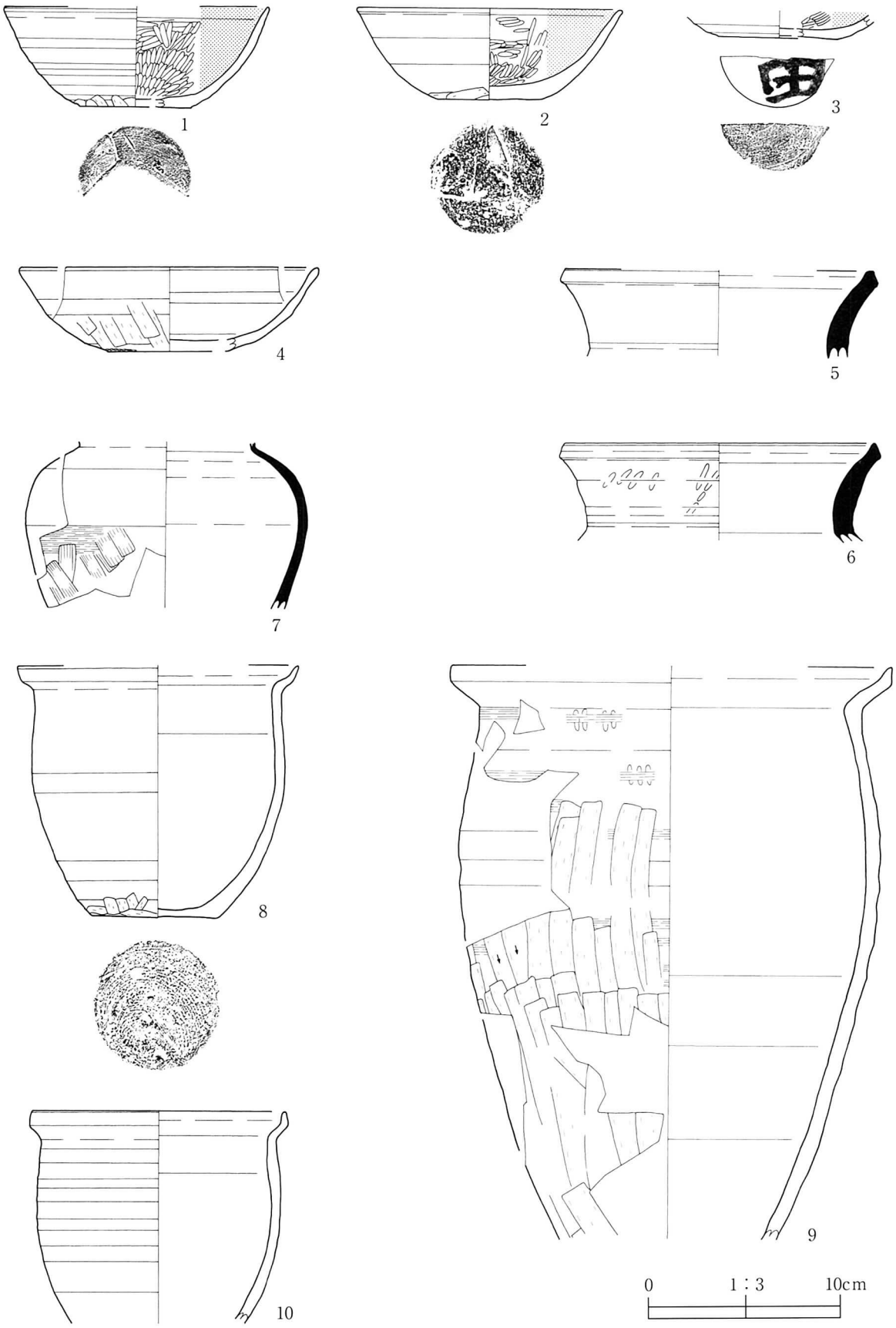


3号土坑
1　10YR4/8　赤褐色。しまりあり。粘性ややあり。現地性焼土。焼成やや良好。
　部分的に焼土粒、炭化物含む。
2　10YR2/2　粘土質シルト。しまりあり。粘性ややあり。焼土粒をわずかに含む。
3　10YR3/2　黒褐色。粘土質シルト。しまりあり。粘性あり。黄褐色土粒を含む。
4　10YR3/3　暗褐色。粘土質シルト。しまりあり。粘性強。黄褐色土粒、焼土粒を含む。

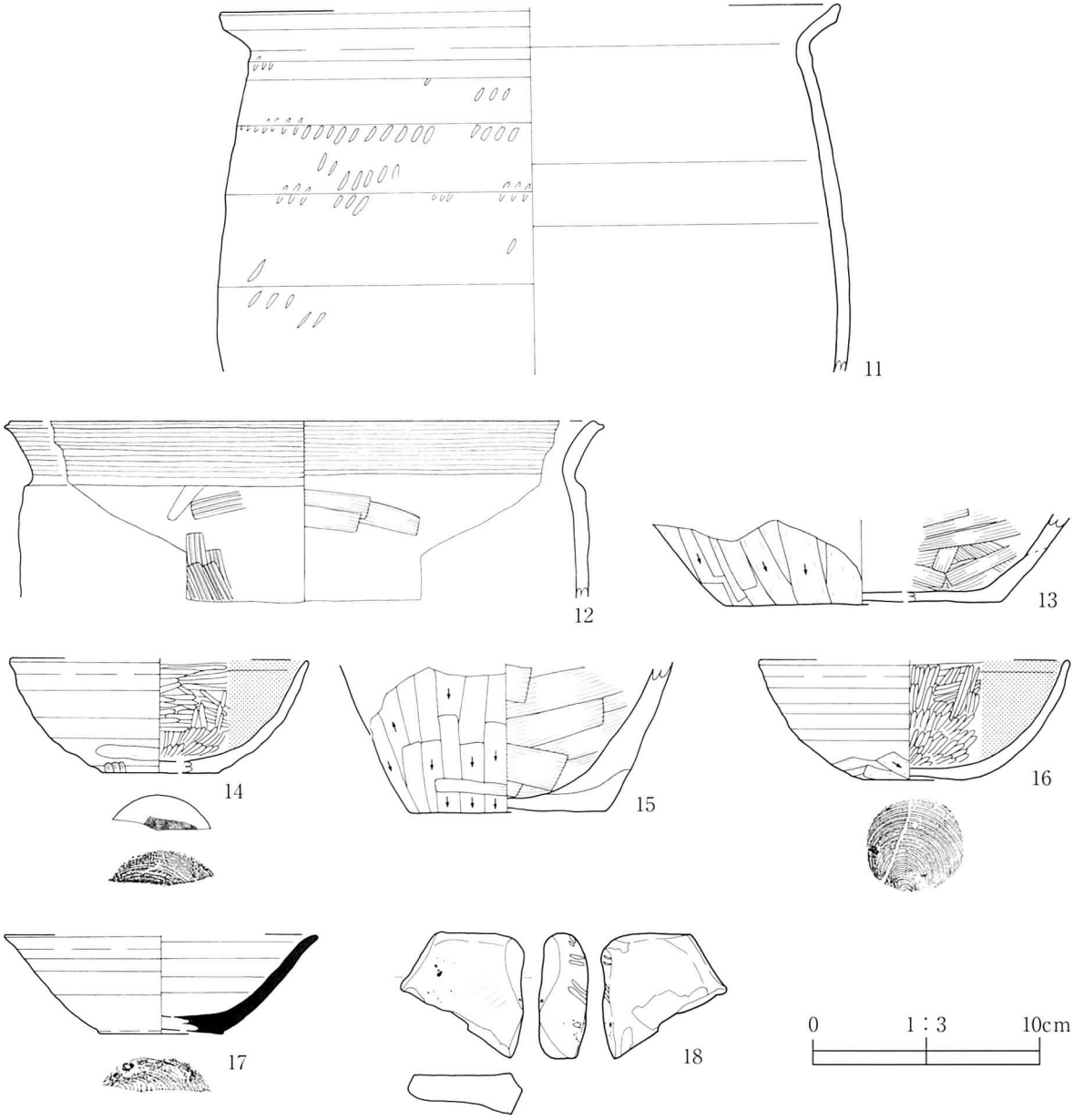
2号土坑　土層注記
1　10YR2/2　黒褐色シルト。しまりなし。炭化物、焼土を粒状に少量含む。
2　7.5YR3/1　黒褐色シルト。ややしまりなし。粘性あり。褐色土粒を5％含む。
　ブロック状に1％含む。炭化物・焼土を粒状に少量含む。
3　7.5YR4/4　褐色粘土質シルト。粘性あり、しまりあり。
4　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト。ややしまりなし。
　明黄褐色粘質土を小ブロック～粒状に10％含む。
5　10YR4/1　褐色粘土質シルト。粘性あり、しまりあり。
　明黄褐色粘質土を中ブロック状に20％含む。
6　7.5YR5/6　明褐色粘土質シルト。粘性あり、しまりあり。
　30mm前後の焼土ブロック、黄褐色粘土中ブロックを10％含む。
7　10YR2/3　黒褐色シルト。粘性ややあり、しまりあり。
　明褐色～明黄褐色ブロックを含む。
8　7.5YR4/1　褐色粘土質シルト。10～5mm大の炭化物を少量含む。
　明黄褐色粘土中ブロックを10％含む。焼土小ブロックを10％含む。
9　10YR5/4　にぶい黄褐色粘土質シルト。褐灰色粘土質土の小ブロックを少量含む。
　しまりあり、粘性あり。

1号住　Pit 3 土層注記
1　10YR3/3　暗褐色粘土質シルト。しまりややあり。粘性あり。
　焼土粒、黄褐色土粒を全体に含む。
2　7.5YR4/6　褐色粘土質シルト。しまりあり。粘性あり。
　暗赤褐色焼土粒を全体に含む。
3　10YR2/1　黒色土。しまりなし。粘性あり。
　焼土粒をまばらに含む。
4　7.5YR4/4　褐色粘土質シルト。しまりあり。粘性あり。
　焼土粒を層上部に含む。
5　10YR5/4　にぶい赤褐色。砂質シルト。しまりあり。
　粘性ややあり。地山崩落土。
6　10YR4/4　褐色砂質シルト。しまりあり。粘性ややあり。
　焼土粒をまばらに含む。

第26図　上野々遺跡遺構図3



第27図　上野々遺跡出土遺物１



第28図　上野々遺跡出土遺物２

上野々遺跡出土遺物観察表

図版番号	出土地区層位	種別	調整	備考	図版番号	出土地区層位	種別	調整	備考
1	1号住居跡カマド内	土師器坏	外面　ヘラケズリ 内面　ヘラミガキ	底部回転糸切痕	10	1号住居跡カマド焼土	土師器壺	外面　ロクロナデ 内面　ロクロナデ	
2	1号住居跡カマド焼土	土師器坏	外面　ヘラケズリ 内面　ヘラミガキ	底部回転糸切痕、再調整	11	1号住居跡2号土坑埋土	土師器壺	外面　タタキ 内面　ロクロナデ	
3	1号住居跡埋土	土師器坏	外面　不明 内面　不明	底部回転糸切痕 墨書「田」	12	1号住居跡埋土	土師器壺	外面　ヘラケズリ 内面　ヘラケズリ	
4	1号住居跡煙道内	土師器坏	外面　ヘラケズリ 内面　不明	底部回転糸切痕	13	1号住居跡煙道内	土師器甕	外面　ヘラケズリ 内面　ヘラケズリ	内面内黒
5	1号住居跡カマド	須恵器甕	不明	口縁部	14	1号住居跡2号土坑埋土	土師器坏	外面　ヘラケズリ 内面　ヘラミガキ	底部回転糸切痕、墨書一部か
6	1号住居跡Pit 3付近面	須恵器甕	外面　ヘラナデ 内面　不明	胴部	15	1号住居跡2号土坑埋土	土師器甕	外面　ヘラケズリ 内面　ヘラナデ	
7	1号住居跡Pit 2	須恵器甕	外面　ハケメ 内面　不明	口縁部	16	1号住居跡Pit 1	土師器坏	外面　ヘラケズリ 内面　ヘラミガキ	底部回転糸切痕
8	1号住居跡2号土坑	土師器壺	外面　ヘラケズリ 内面　ロクロナデ	底部回転糸切痕	17	1号住居跡Pit 1	須恵器坏	外面　ロクロナデ 内面　ロクロナデ	底部回転糸切痕
9	1号住居跡カマド焼土	土師器壺	外面　ヘラケズリ 内面　ロクロナデ		18	1号住居跡ベルト内	砥石		

6　ほ場整備事業町井地区関連調査

下屋敷遺跡（ＭＥ06－2345）

所在地；和賀郡東和町町井地内

事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成16年３月８日～10日、３月12日、

３月15日～17日　　計７日

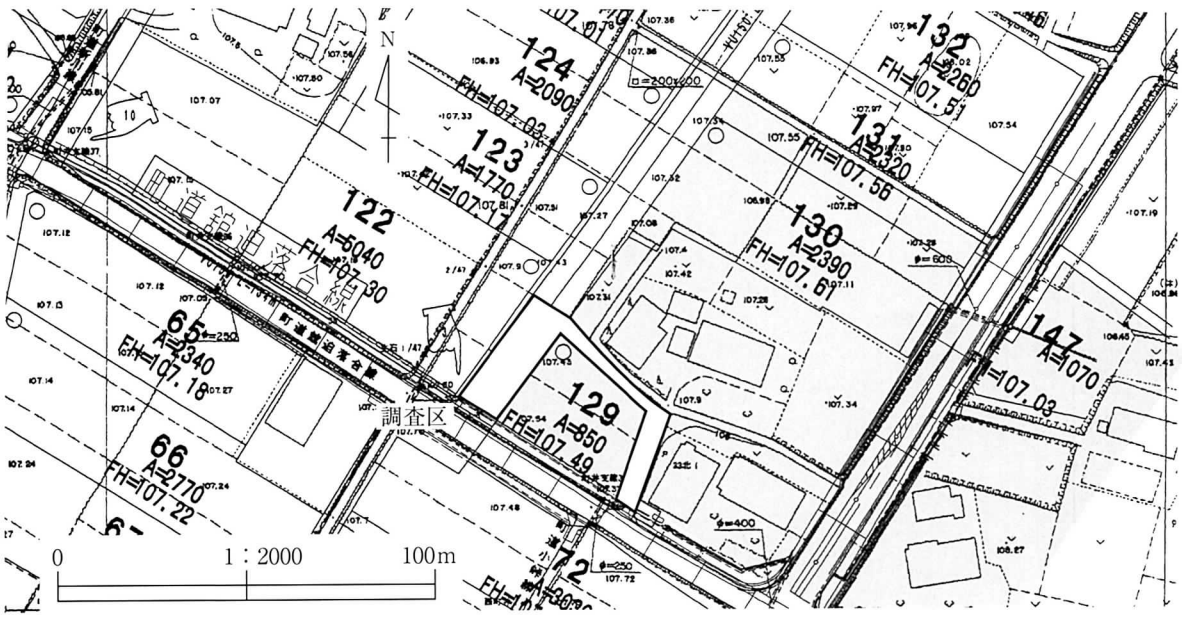
第29図　下屋敷遺跡位置図

遺跡は、東和町役場から南東へ約1.8km離れた河岸段丘の縁辺部に立地しており、遺跡の北側約10ｍを猿ケ石川が西流している。遺跡の標高は、106ｍ前後を測り、現況は宅地、水田及び畑地となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、平成15年11月に実施した試掘調査により、遺構及び遺物が確認された農道拡幅及び農道新設箇所、排水路新設箇所を対象とし、排水路新設箇所については発掘調査を、農道部分については確認調査を行ったものである。

調査の結果、竪穴住居跡状遺構１基、土坑類３基、溝跡９条、焼土遺構３基、柱穴状ピット32基が確認された。調査区東側の住居状遺構は、一辺が約2.5ｍほどの隅丸方形のプランを呈しており、検出面から床面までの深さは約40cmほどであった。この住居状遺構の東側の壁面から床面にかけて、30cm大の礫が確認され、それらのなかには、火を受けたようなものもあったが、焼土、炭化物等はその周囲では確認できなかったため、カマドはおそらく現宅道下にあると推測した。この竪穴住居状遺構からは、遺物は出土しなかった。

溝跡は、調査区内で９条検出された。いずれの溝跡においても、深さはほとんど約10cmほどであり、調査区の西側から東側にかけて、互いに並行するように検出された。また、調査区西側から東側にかけて連続していると思われる溝跡もあった。遺物については、１号溝跡の検出面に近い埋土上面から、土師器片１点が



第30図　下屋敷遺跡調査区位置図

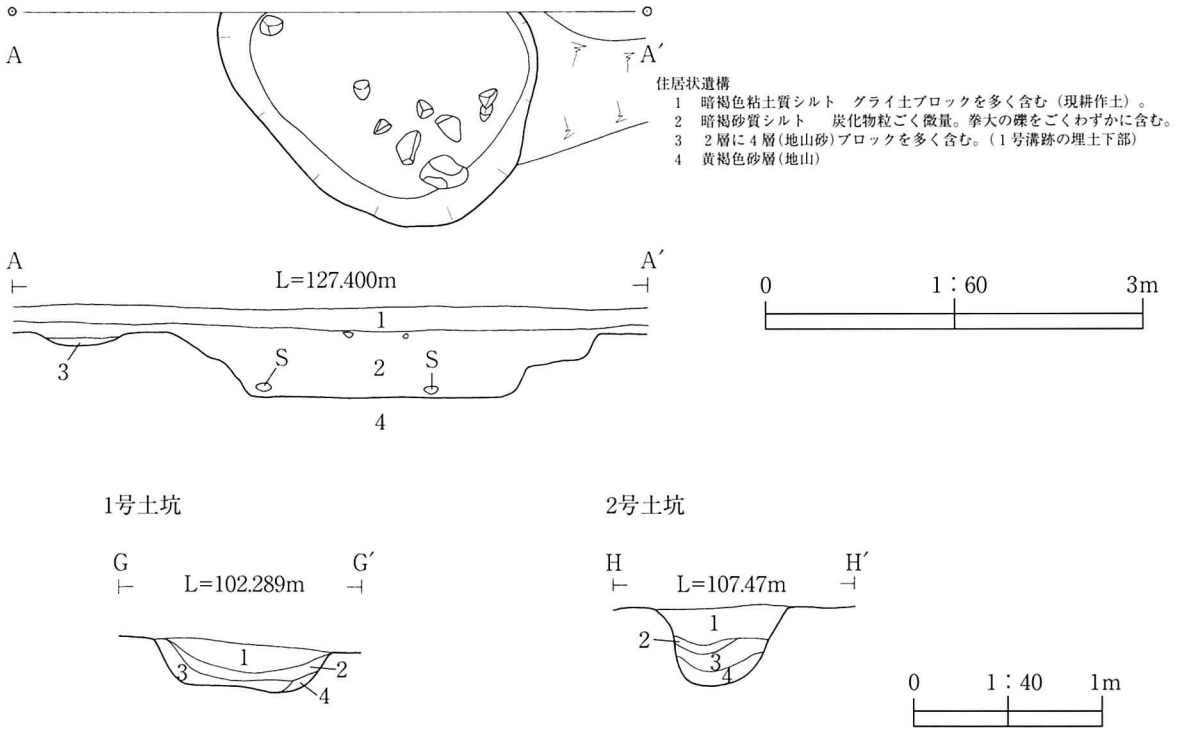
出土したほかは、他の溝跡からは遺物は確認できなかった。

調査区西側において、焼土を伴う円形土坑が4基検出された。確認調査対象箇所であったが、遺構の性格を確認するために1基のみ遺構精査を行ったところ、遺構に直接結びつくような遺物は今回確認できなかったが、焼土範囲及び遺構底面の検出状況、埋土中の焼土ブロックの堆積状況等から、鍛冶関連遺構の可能性が非常に高いと判断した。

発掘調査に先立ち、平成15年11月に試掘調査を実施した際、今回の発掘調査区に近接した田面において、古代の竪穴住居跡が4棟確認され、摩滅はしているものの土師器片が1点出土している。検出された竪穴住居跡は、いずれも黄褐色砂層面で検出されている。これらの遺構が検出された田面の層序は、水田耕作土である表土直下に、黄褐色砂層面があらわれていることから、水田造成による地形改変をすでに受けていると思われ、遺構の残存状況は良好ではないと推測した。

今回の調査区は、水田床土直下に地山である黄褐色砂層が露出しているところが多く、遺構の深さも調査区西側ほど浅かったことから、過去の水田造成等により大きな地形改変を受けたことを伺わせた。

試掘調査及び発掘調査で検出された遺構が、この地形改変を大きく受けた田面に集中していることは、本遺跡は、猿ケ石川によって形成された自然堤防上に営まれた集落であり、現在の水田は、この自然堤防の高まり部分を削平して造成されたものと推測した。

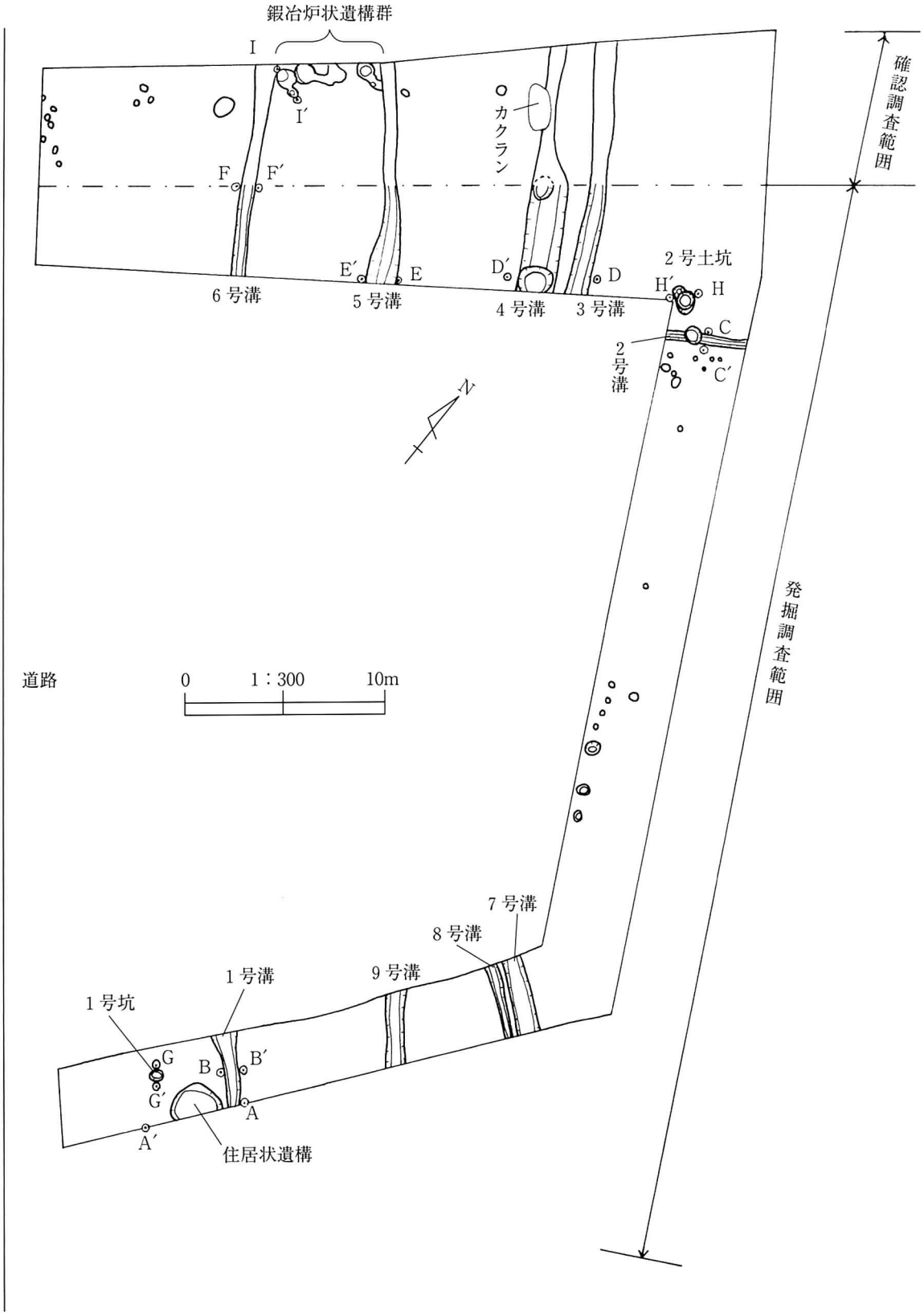


1号土坑
1　暗褐色土　しまりあり。粘性なし。炭化物を多く含む。
2　暗褐色土　しまりあり。粘性なし。炭化物を多く含む。
3　暗褐色～黒褐色土　しまりなし。粘性なし。炭化物粒を多く含む。
4　暗褐色土　黄褐色砂の地山ブロックを含む。しまりなし。粘性なし。

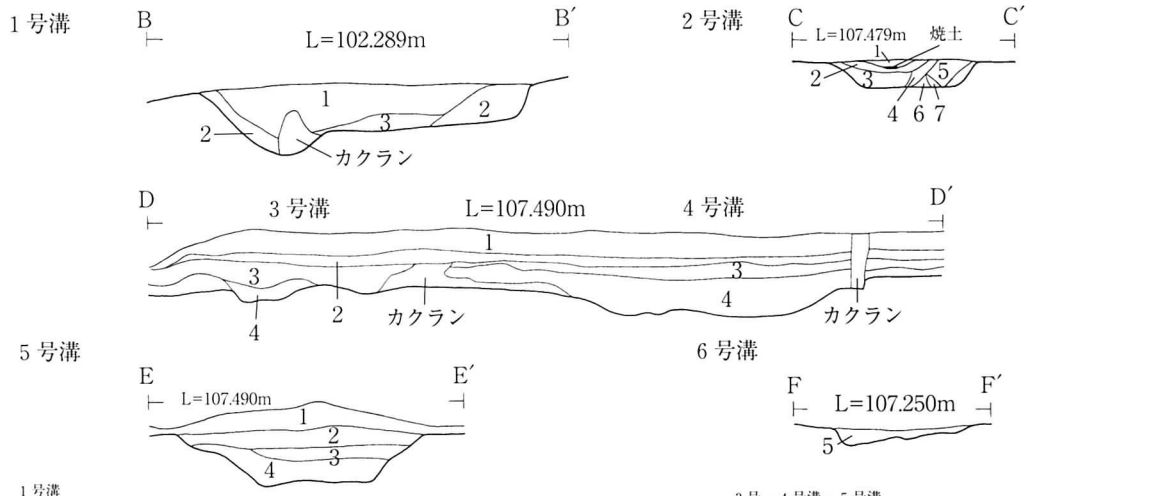
2号土坑
1　黒色土　しまりなし。粘性あり。
2　黒褐色土　しまりややあり。粘性なし。黄褐色地山崩落土を30%含む。
3　黒褐色土　しまりあり。粘性なし。地山崩落土ブロックを10%含む。
4　褐色土　しまりあり。粘性なし。地山崩落土を50%含む。

第31図　下屋敷遺跡遺構図1

〈 遺構配置図 〉



第32図　下屋敷遺跡遺構図 2



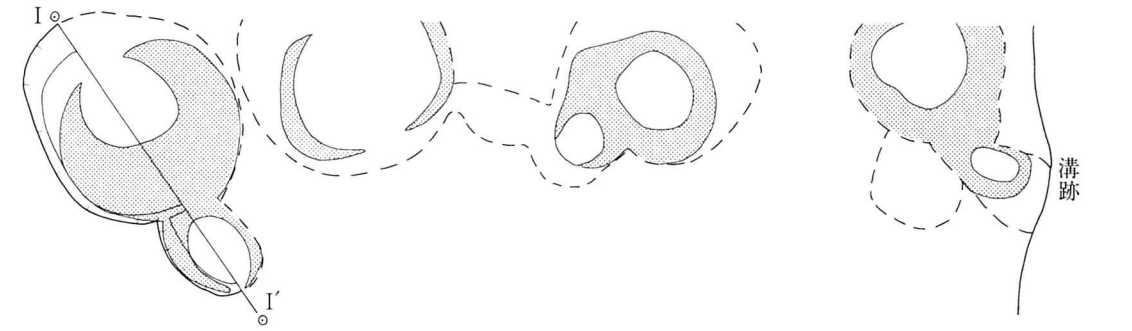
1号溝
1　暗褐色土　粘性なし。しまりあり。炭化物が混じる。
2　黄褐色砂質土　暗褐色土ブロックが混じる。土器を含む。
3　黄褐色砂質土　しまりややあり。粘性なし。

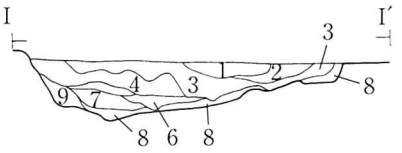
2号溝
1　黒褐色土　しまりなし。粘性なし。炭化物粒を多く含む。
2　黒色土　しまりあり。粘性なし。
3　暗褐色砂質土　しまりなし。粘性なし。
4　暗褐色土　しまりややあり。粘性なし。地山ブロックを含む。
5　黒褐色土　しまりややあり。粘性なし。炭化物粒を多く含む。（2号溝の埋土）

3号・4号溝・5号溝
1　暗褐色粘土質シルト　（現耕作土）
2　暗褐色砂質シルト　黄褐色砂を含む。
3　暗褐色土
4　黄褐色砂層（地山）

6号溝
5　10YR 3/2　黒褐色シルト　黄褐色地山ブロックを含む。

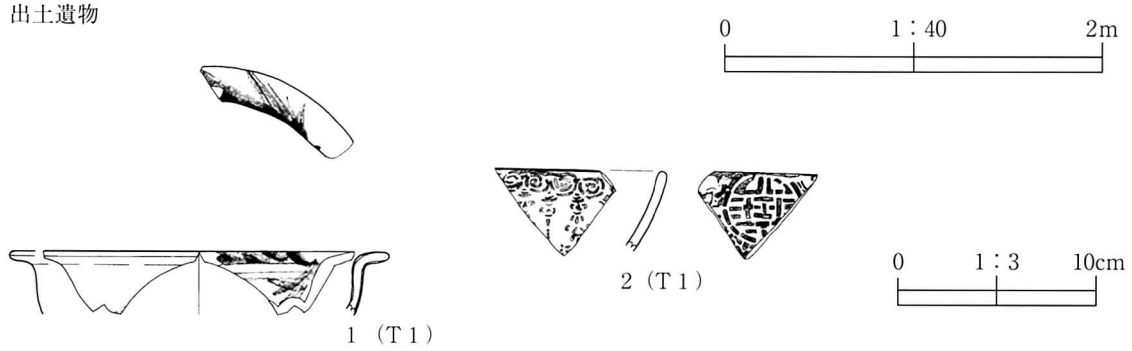
鍛冶炉状遺構





鍛冶炉状遺構断面注記
1　10YR 3/2　黒褐色シルト　炉壁状の大形焼土塊を多量に含む（検出面では環状～C字状）。
2　10YR 3/2　黒褐色シルト　焼土塊を微量に含む（1層よりは少ない）。
3　10YR 3/2　黒褐色シルト　地山黄褐色ブロックを多量に含み、全体的に黄色味がかかっている。
4　10YR 3/2　黒褐色シルト　地山黄褐色砂ブロックを微量に含む。
5　10YR 3/2　黒褐色シルト　焼土塊を含む層。1層に酷似している。
6　木炭層　径2～3㎜の粒状の木炭がしかれたような出土状況
7　10YR 3/2　黒褐色シルトと地山砂ブロックの混ブロック層。焼土塊多量に含み、1層・5層に似るが、焼土ブロックの径小さい。下面に沿って炭片集中（6層よりは少量）。
8　7層に似た層ではあるが、焼土塊は少なく、地山砂ブロックが多い。7との境界に炭片集中。
9　10YR 3/2　黒褐色シルト　地山砂ブロックを微量に含む。

出土遺物



第33図　下屋敷遺跡遺構図3・出土遺物

7　中山間地域総合整備事業日野沢地区関連調査

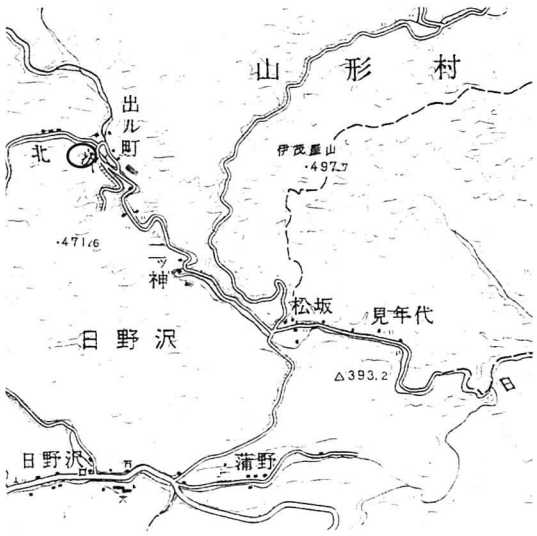
出ル町Ⅱ遺跡（ＪＦ25－2121）

所在地；九戸郡山形村日野沢13地割地内

事業者；久慈地方振興局農政部農村整備室

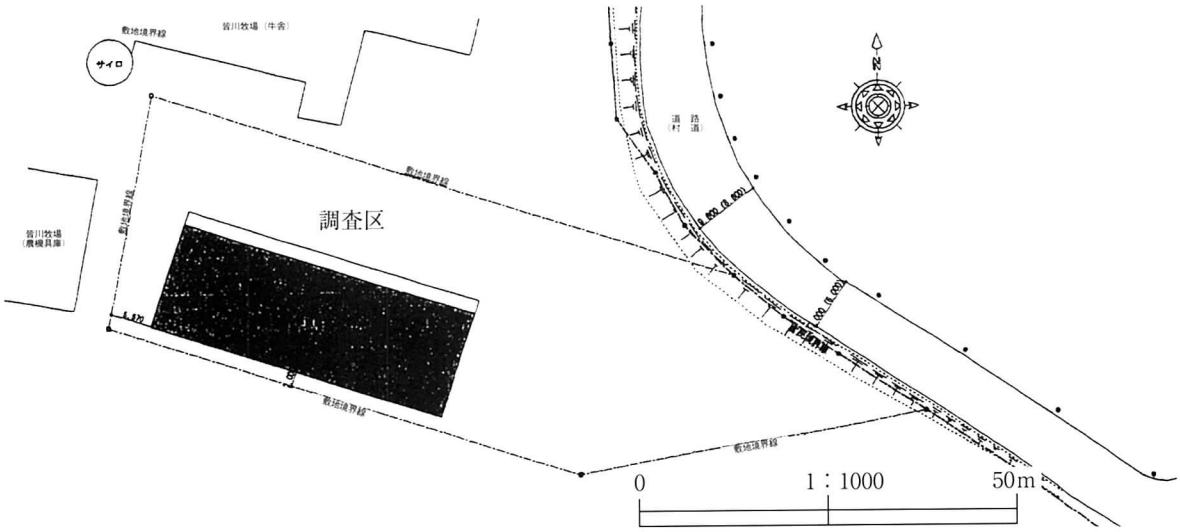
調査期日；平成15年６月30日（試掘調査）

平成15年９月16日～18日（発掘調査）

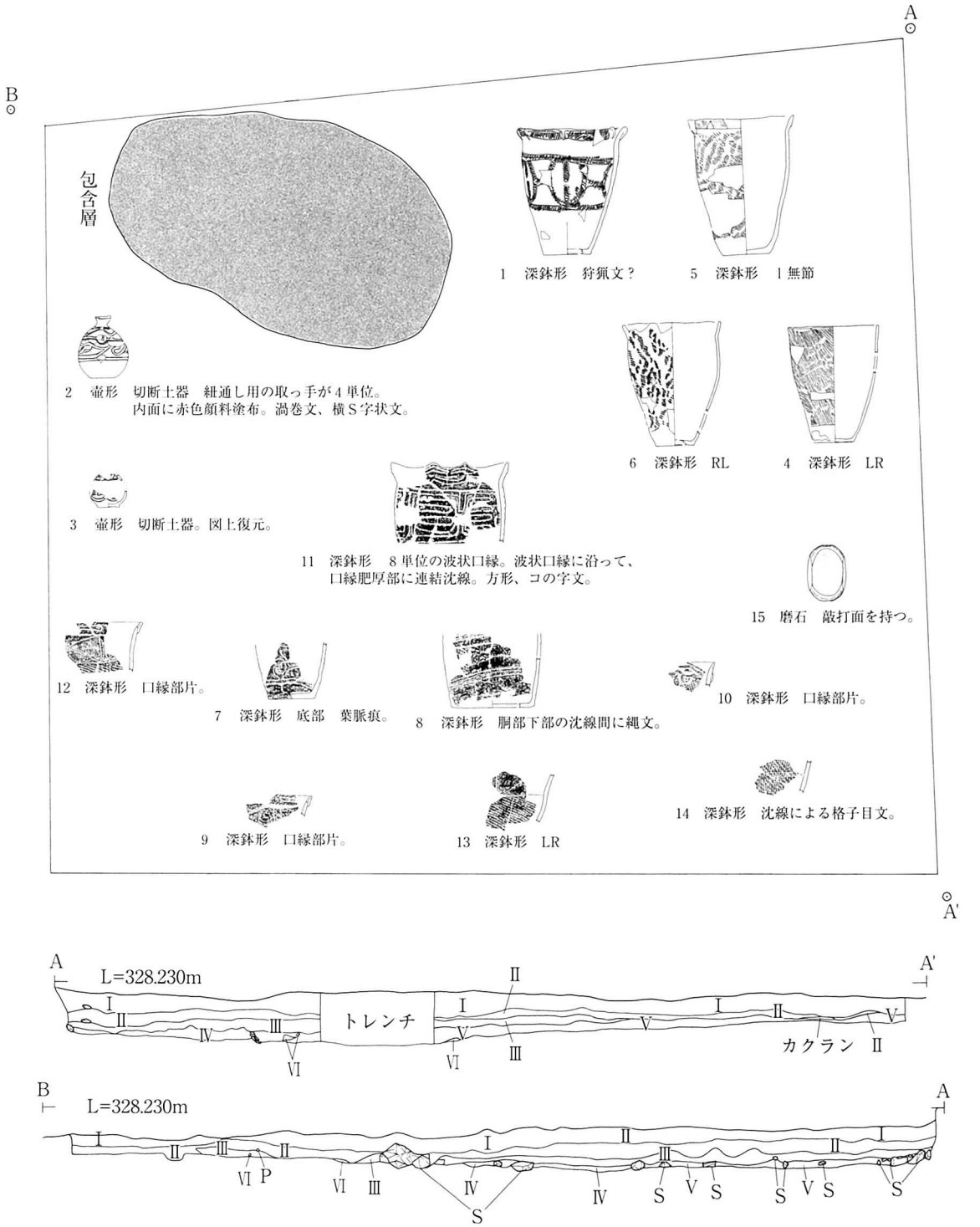


第34図　出ル町Ⅱ遺跡位置図

遺跡は、山形村役場役場から北北西方向約６kmに位置する。日野沢川支流の一つである北沢川右岸のなだらかな斜面に立地しており、標高は327ｍを前後を測る。周知の「出ル町遺跡」の近接地として試掘調査した結果、埋蔵文化財が確認されたため、新規遺跡「出ル町Ⅱ遺跡」として調査した。試掘調査時に確認された遺物包含層は、第Ⅲ層暗褐色～黒褐色砂層上面で検出された。包含層の規模は、3.7ｍ×3.5ｍの広さで厚さは、約30cmであった。包含層からは、小コンテナで２箱分の土器が出土し、包含層精査後、包含層下あるいは周囲に遺構が所在しているかどうか精査したが、確認できなかった。今回の調査区周辺の地形を観察すると、調査区南側にある山裾の法面部分において、斜面が崩落したと思われる大きな凹みがあり、その崩れたと思われる凹みの下方に、土砂の盛り上がった箇所があった。今回の調査区において、この山裾の法面に近い南側部分には、崖錐性の礫（径40cm～60cm大）が多く認められた一方、調査区北側には全くなかったこと、第Ⅲ層の下面に、十和田ａ降下火山灰と思われる火山灰が、ブロック状に含まれている箇所があり、地層の新旧関係が一部逆転している箇所があることが判明したこと、第Ⅳ層は、黄褐色砂礫層であったことから、旧河道部分であると推測できることなどから、今回の調査区は、旧河道部分に何らかの理由で山体崩落した箇所と推測した。切断土器等の今回出土した遺物は、崩れ落ちる前に構築された遺構に伴うものであると思われるが、遺構等は崩落した際に崩れ去り、今回の調査区は、遺物を含んだ土が再堆積した部分であると判断した。切断土器が２個体出土しており、切断土器は埋葬等の儀礼に関係しているとのことから、おそらく土坑墓等の遺構が所在していたものと推測した。集落は、調査区外の尾根部分に所在している可能性が高い。



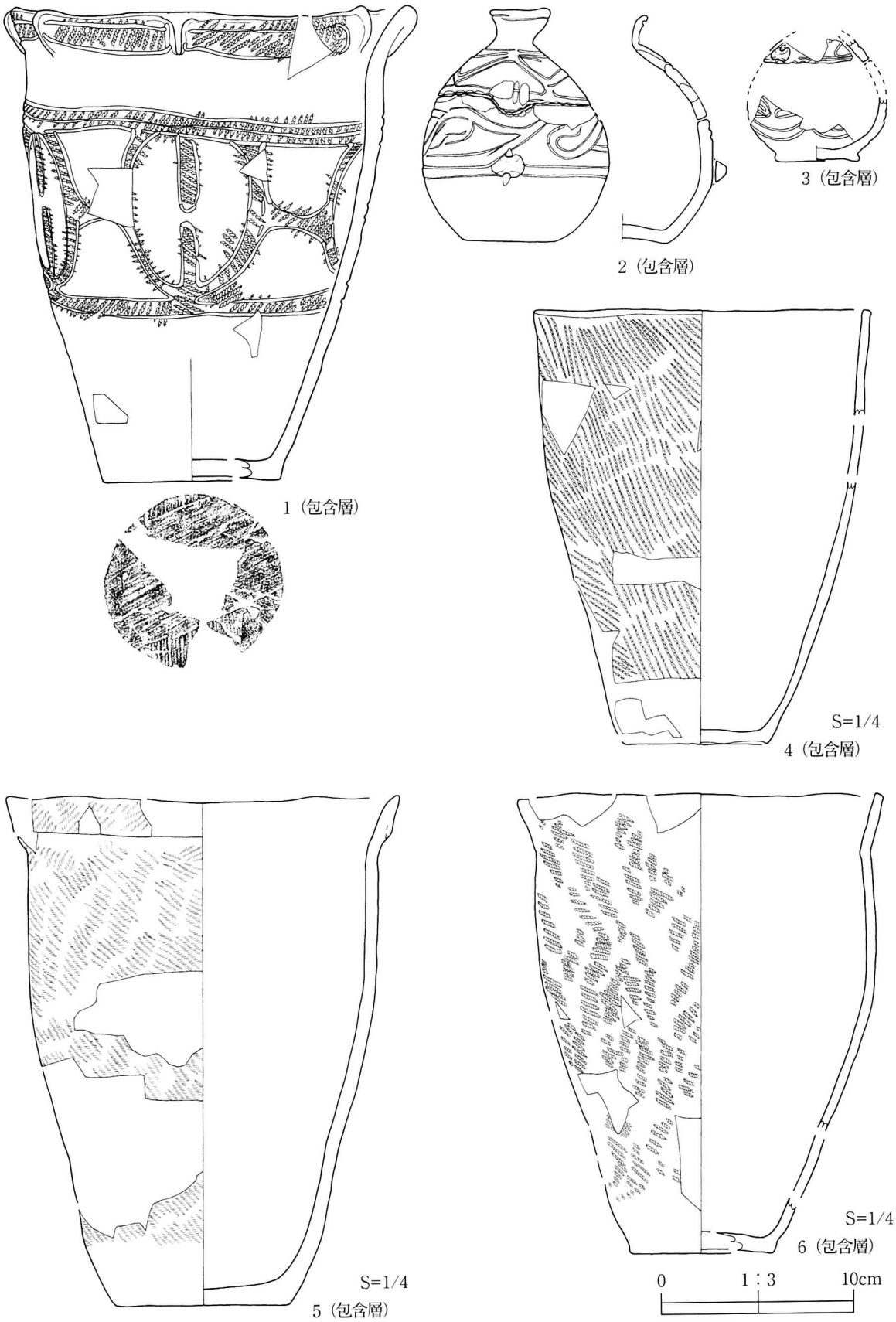
第35図　出ル町Ⅱ遺跡調査区位置図



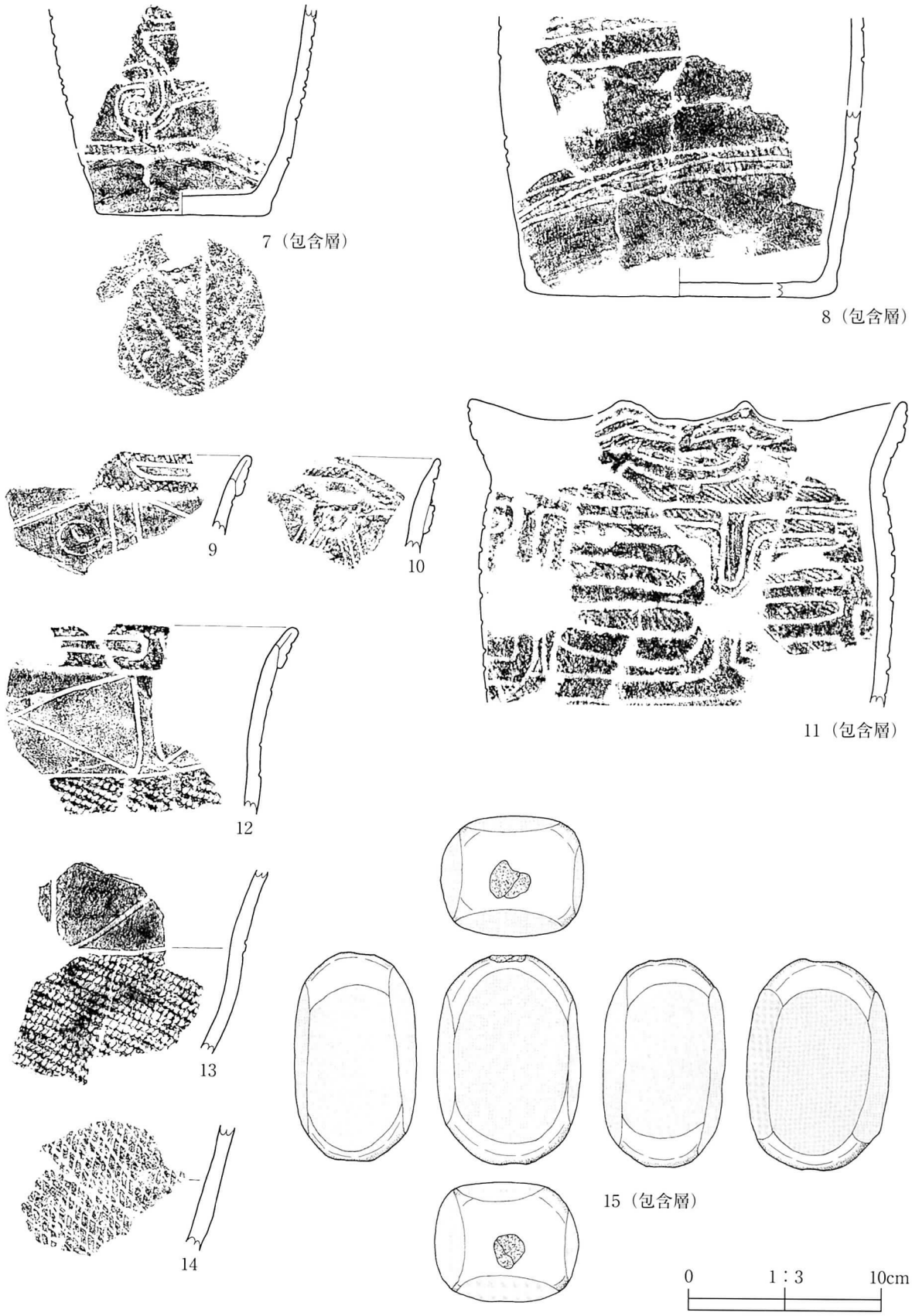
基本層序
第Ⅰ層　10YR3/1　黒褐色土（耕作土）1cm～5cm大の礫を約5％含む。黄褐色ブロックを含む。
第Ⅱ層　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり、粘性なし。5mm～20cm大の礫を10％含む。
第Ⅲ層　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり、粘性なし。Ⅱ層とほぼ同じであるが、礫なし。
第Ⅳ層　7.5YR5/6　明黄褐色砂質土　しまりなし、粘性なし。
第Ⅴ層　10YR3/3　暗褐色土　しまりなし、粘性なし。
第Ⅵ層　10YR6/2　灰黄褐色土　しまりなし、粘性なし。十和田a降下火山灰か。

0　1：100　5m

第36図　出ル町Ⅱ遺跡遺構図



第37図　出ル町Ⅱ遺跡出土遺物１



第38図　出ル町Ⅱ遺跡出土遺物２

8　経営体育成基盤整備事業満倉地区

兵法田遺跡（ＮＥ15－0311）

所在地；水沢市佐倉河字西田中地内

事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成15年５月19日～23日（５日間）

遺跡は、JR東日本水沢駅から5.5㎞の標高69～70ｍの胆沢扇状地に立地する。

今回の事業予定地において平成14年10月に実施した試掘調査では、ピットなどの遺構が確認されていた。ほ場整備事業実施にあたり、水路用地の発掘調査、砂利敷道路用地部分の確認調査を行った。確認調査区の遺構検出は東西に延びるカクランより南側では、２もしくは３層上面、カクランより北側では４層上面で行った。発掘調査区の遺構確認は、４層上面で行った。

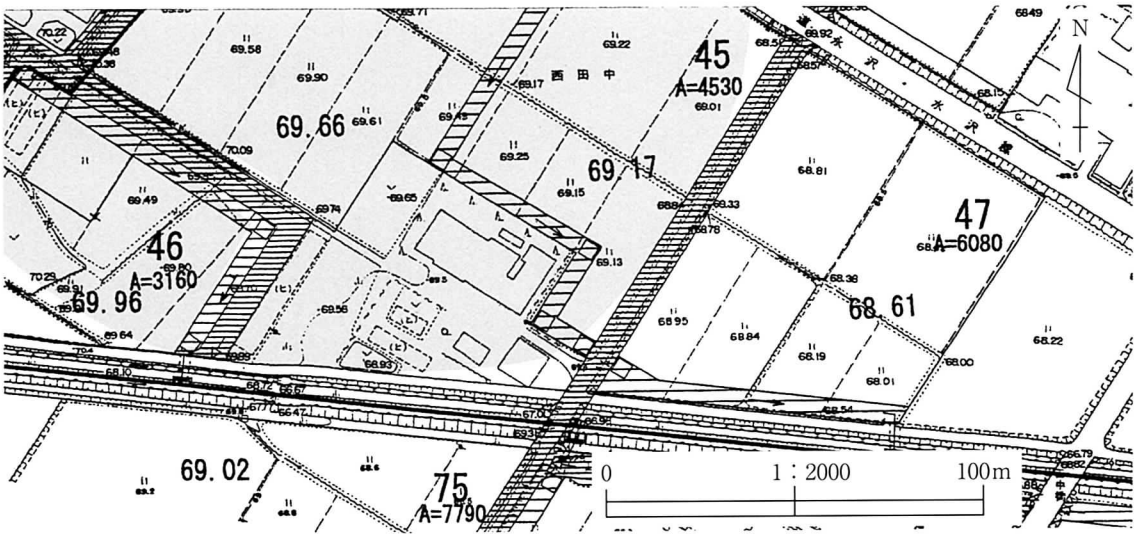
第39図　兵法田遺跡位置図

その結果、水路用地内ではピットが多数発見され、建物跡の一部であることが判明した。ピットは直径20㎝から40㎝のものが主体であった。切り合いも確認されており、長期間の利用が考えられる。遺物は出土しなかった。南端では、カクランがあり、その埋土中から縄文土器片、石臼破片が発見された。

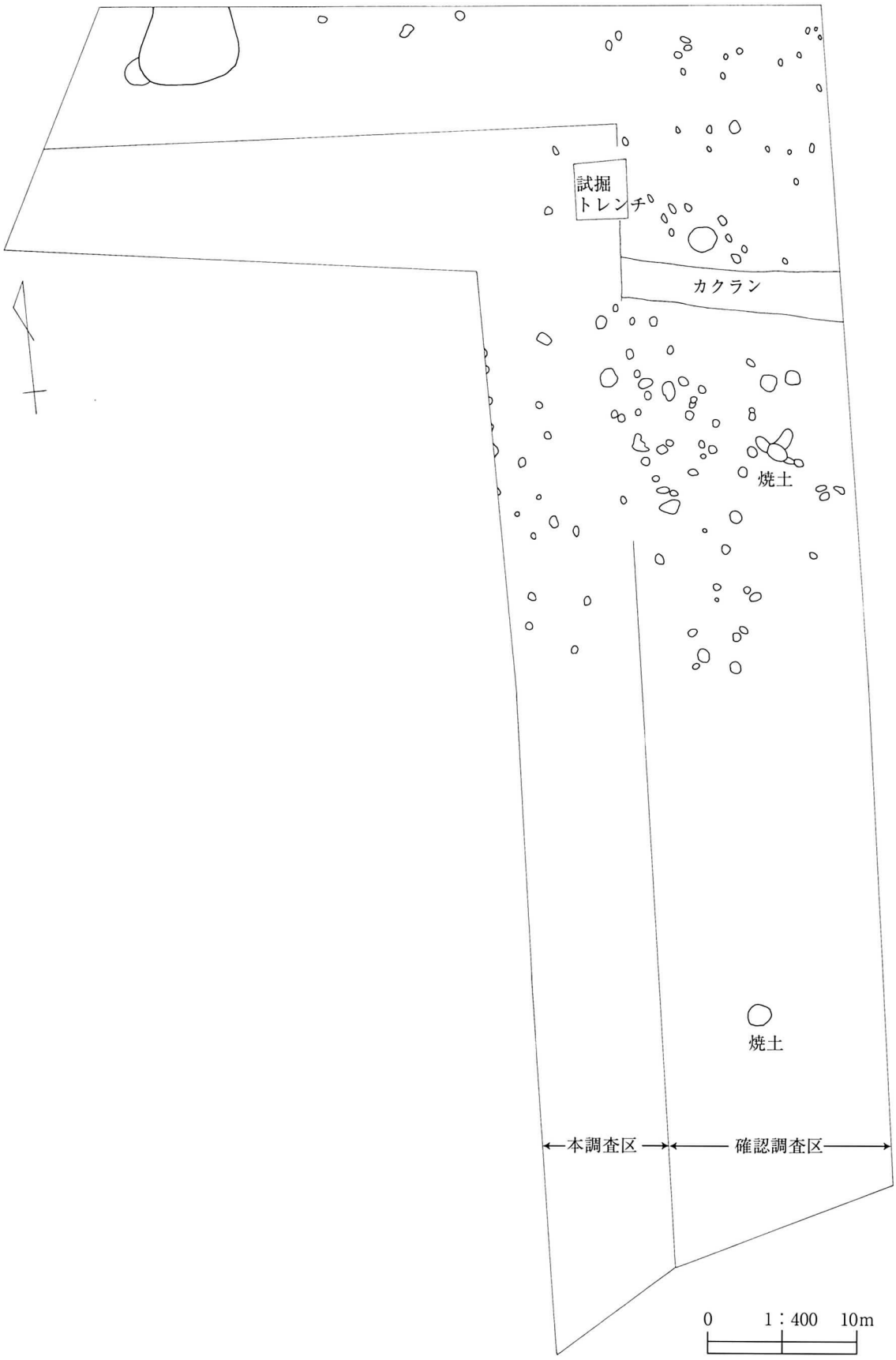
砂利敷道路用地では、焼土を伴う土坑が２基発見され、鍛冶に伴う可能性がある。また、調査区北側には竪穴住居跡と考えられる遺構が１基発見された。遺構から遺物は出土しなかったが、竪穴住居跡の近くで、19世紀の産地不明の陶器（鉢）が出土した。

今回、発見された遺構の時期は、近世もしくは平安時代のものと考えられた。

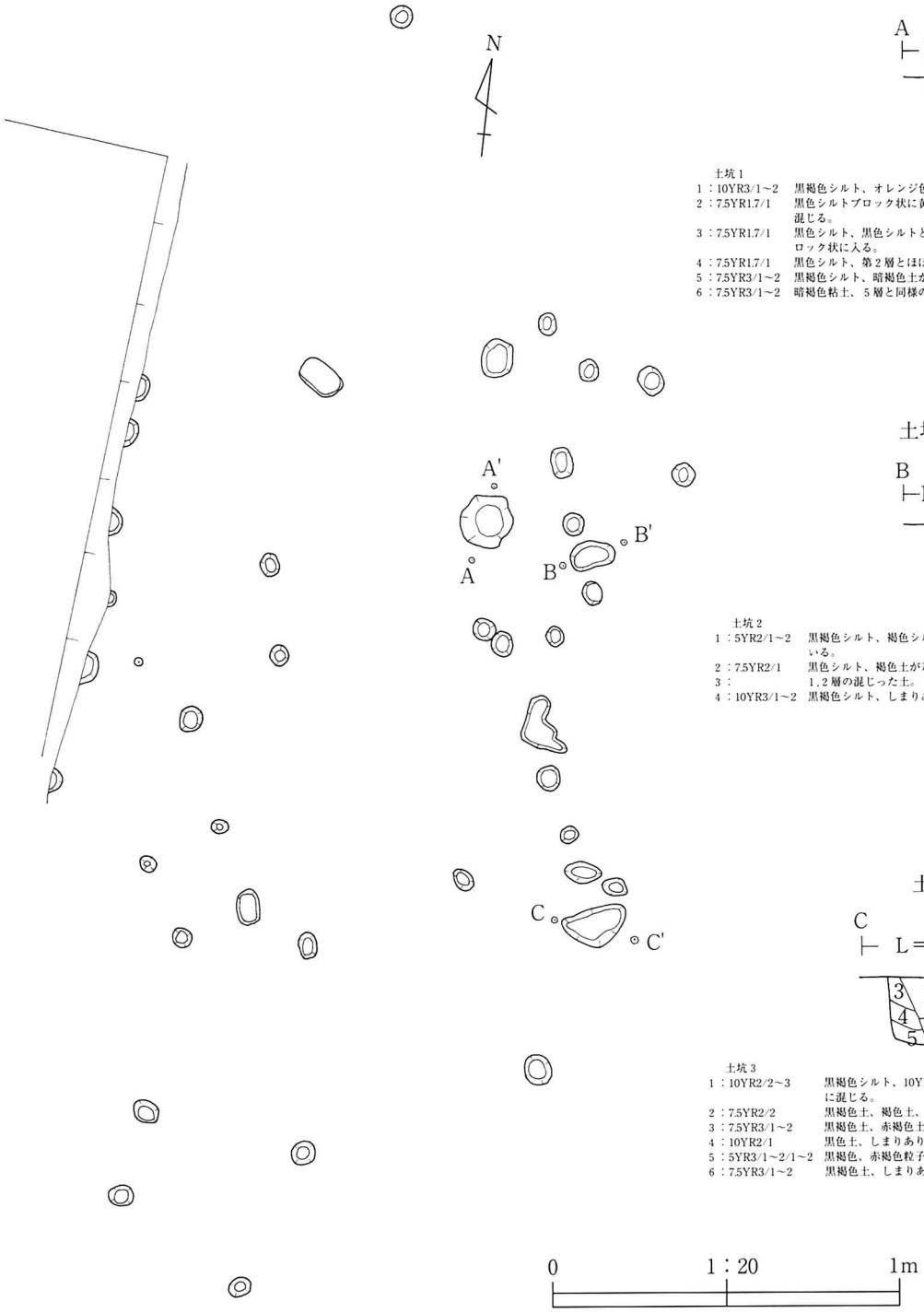
調査区に隣接する畑地において今回、土師器、須恵器が表採された。付近に同時期の遺構群があるものと推定される。



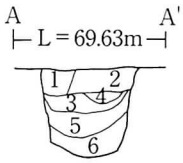
第40図　兵法田遺跡調査区位置図



第41図　兵法田遺跡発掘区

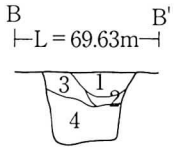


土坑 1



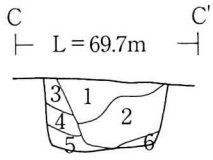
土坑 1
1：10YR3/1～2　黒褐色シルト、オレンジ色の粒子がブロック状に入る。
2：7.5YR1.7/1　黒色シルトブロック状に黄褐色、オレンジ色、黒色が混じる。
3：7.5YR1.7/1　黒色シルト、黒色シルトと褐色土の混土、褐色土がブロック状に入る。
4：7.5YR1.7/1　黒色シルト、第2層とほぼ同じ。
5：7.5YR3/1～2　黒褐色シルト、暗褐色土が混じる、しまりあり。
6：7.5YR3/1～2　暗褐色粘土、5層と同様の暗褐色土が混じる。

土坑 2



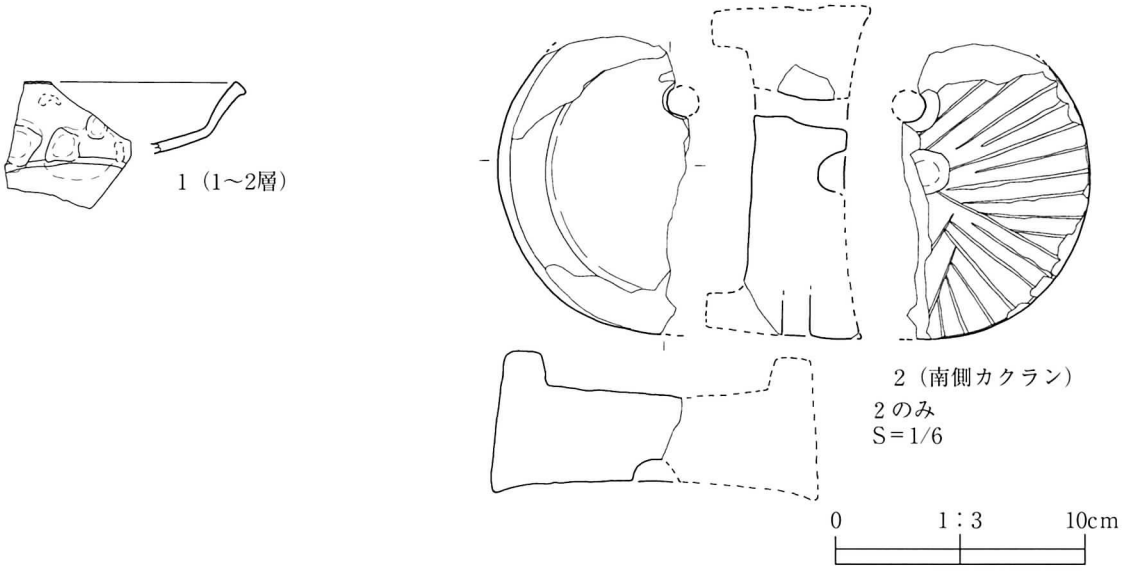
土坑 2
1：5YR2/1～2　黒褐色シルト、褐色シルトがブロック状に混じっている。
2：7.5YR2/1　黒色シルト、褐色土が若干混じる。
3：　1,2層の混じった土。
4：10YR3/1～2　黒褐色シルト、しまりあり。

土坑 3



土坑 3
1：10YR2/2～3　黒褐色シルト、10YR4/4～6褐色土がブロック状に混じる。
2：7.5YR2/2　黒褐色土、褐色土、赤褐色土ブロックが混じる。
3：7.5YR3/1～2　黒褐色土、赤褐色土が一部混じる。しまりあり。
4：10YR2/1　黒色土、しまりあり。
5：5YR3/1～2/1～2　黒褐色、赤褐色粒子が少し混じる。
6：7.5YR3/1～2　黒褐色土、しまりあり。

第42図　兵法田遺跡遺構図



第43図　兵法田遺跡出土遺物

9　緊急地方道路整備事業

上ノ山遺跡（ＭＥ06－2297）隣接地

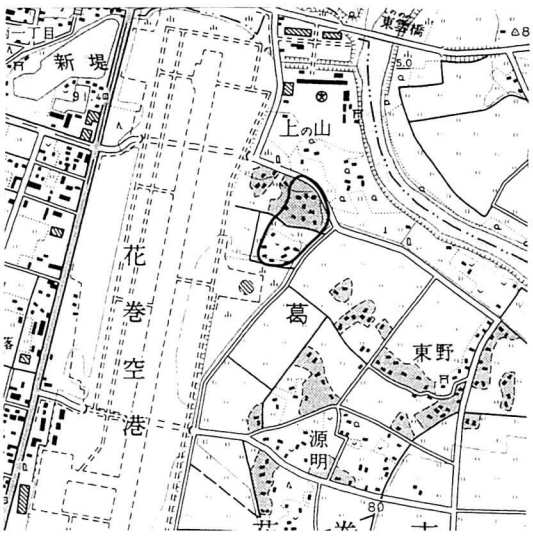
所在地；花巻市葛字上ノ山地内

事業者；花巻地方振興局土木部

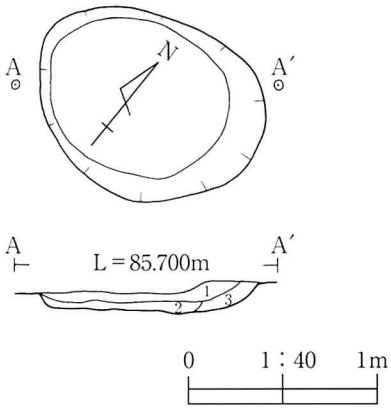
調査期日；平成15年５月28日(水)

遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北新幹線新花巻駅より北東約4.35㎞の北上川右岸にある河岸段丘上に立地し、標高は約86ｍ前後を測る。現況は、主に宅地及び水田となっている。今回の調査は、花巻空港建設事業に伴う道路整備事業によるものである。事業予定地の一部は、平成11年９月24日に試掘調査が実施されている。その時点で調査未了であった区域は、上ノ山遺跡隣接箇所であったが、平成14年12月20日に試掘調査を実施した。精査の結果、土坑1基が検出されたため、今回の調査は、記録保存のため発掘調査を実施した。

第Ⅲ層下面で検出された土坑（１号土坑）の平面プランはやや楕円形を示し、規模は120㎝×95㎝であり、深さは約８㎝程であった。土坑の中心こそやや深さはあるものの、土坑底部は全体的に平坦であった。土坑埋土の第１層には、５～９㎜程度の炭化物粒が認められたが、遺物は発見できなかった。第２層には、第１層の炭化物粒より大きい10～20㎜程度の炭化物が含まれていたが、遺物は確認できなかった。第３層には、炭化物は全く含まれていなかった。試掘調査の際にも、遺物は発見できなかったが、今回の発掘調査においても、遺物は全く発見できなかったため、この１号土坑が構築された時期及び性格については不明である。

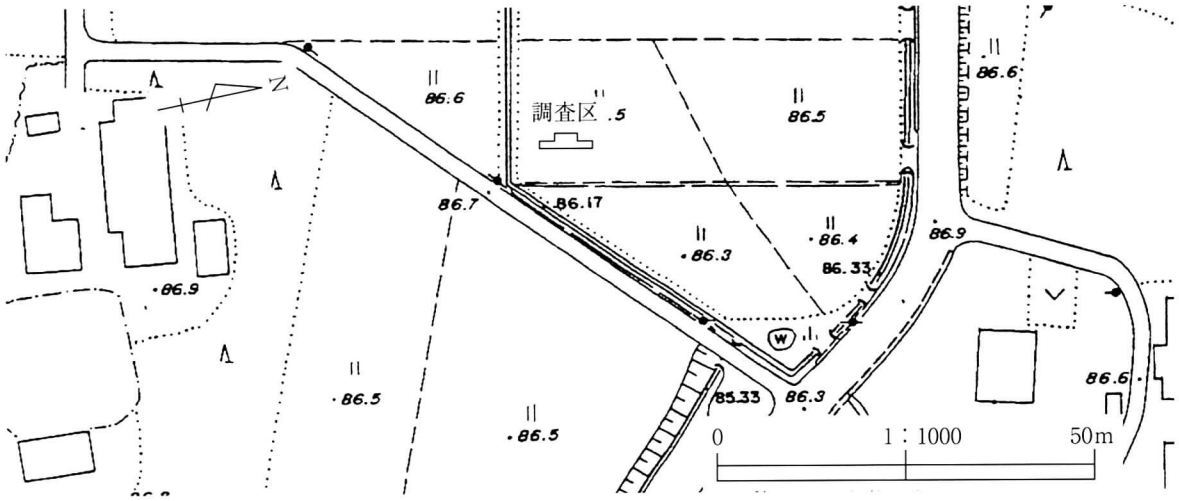


第44図　上ノ山遺跡位置図



1	10YR2/1	黒粘土	しまりあり	粘性あり	炭化物粒を含む
2	10YR5/1	褐灰　粘土	しまりややあり	粘性あり	炭化物粒を含む 酸化鉄含む
3	7.5YR5/1	褐灰　粘土	しまりあり	粘性あり	酸化鉄含む

第45図　上ノ山遺跡遺構図



第46図　上ノ山遺跡調査区位置図

10　国営いさわ南部農地整備事業

二の台遺跡（ＮＥ44－0230）

所在地；胆沢郡胆沢町小山字二の台地内

事業者；農林水産省東北農政局

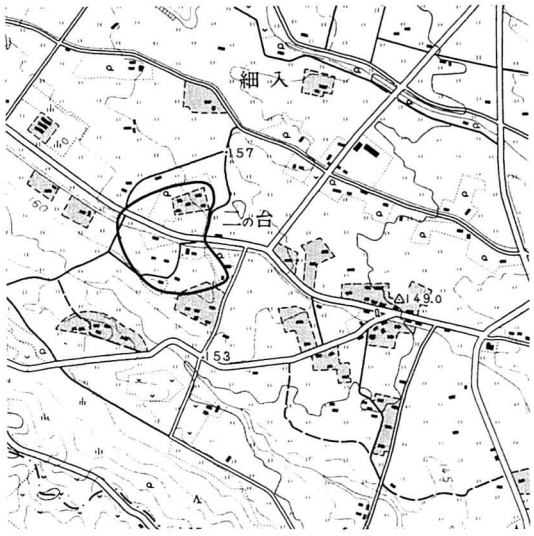
いさわ南部農地整備事務所

調査期日；平成15年７月22日(火)　～29日(火)

平成15年10月１日(火)　～２日(水)

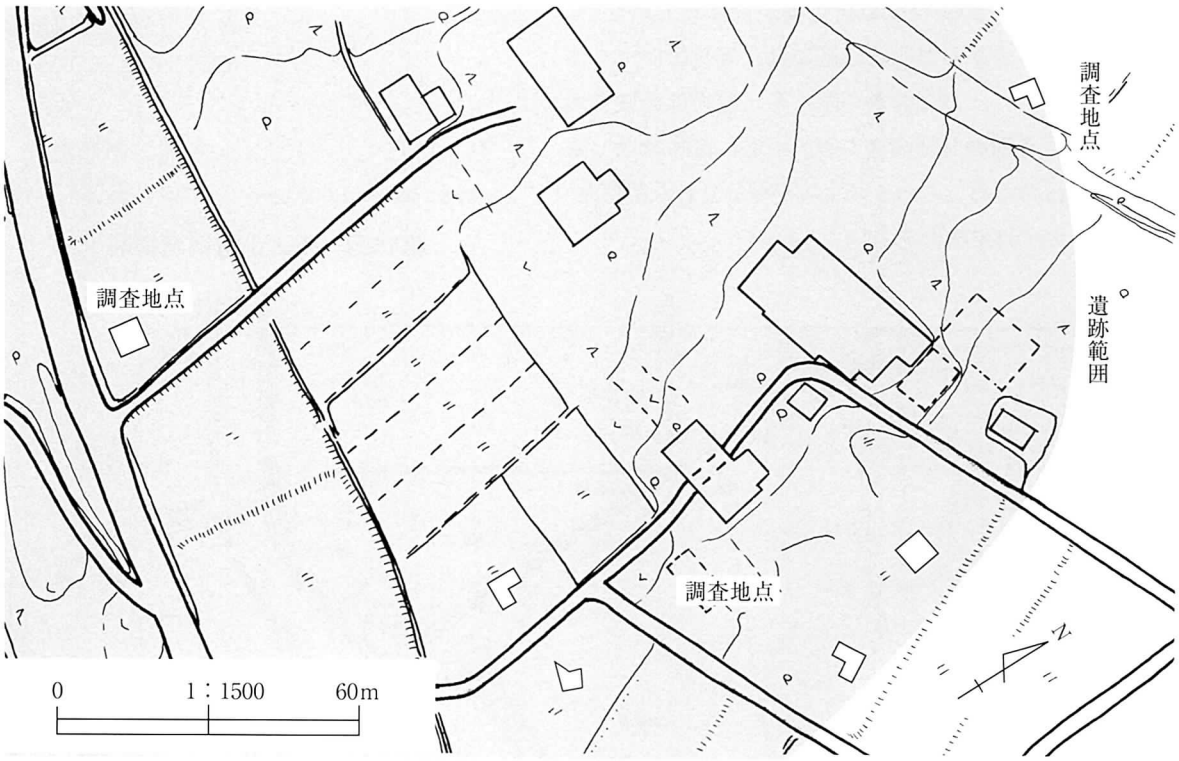
（延べ８日間）

遺跡はJR東北本線前沢駅の北西約８㎞に位置し、胆沢扇状地中位段丘面にあたる上野原段丘面に立地する。遺跡の標高は約157m～163mを測り、白鳥川との比高は10mほどである。遺跡の現況は主に水田と畑地そして宅地となっている。



第47図　二の台遺跡位置図

今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。発掘調査に先立ち㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、平成14年10月15日～10月30日まで試掘調査を行った結果、陥し穴とみられる遺構が８基確認されていた。ほ場整備事業実施にあたり排水路と切り土で削平されることになった、T12（土坑１基）、T23（土坑１基）、T25（土坑２基）、T29（土坑１基）と、設計変更が生じ盛土予定であった田面が切土されることになったＴ５の計６基について調査を行った。T25における２基のうち１基の陥し穴状遺構は埋土の３層、４層黒褐色粘土質シルト中において明黄褐色粘土の撹乱が顕著であり、確認面は凹凸が多かった。長軸2.64m、



第48図　二の台遺跡調査区位置図

短軸0.48mで深さは0.2mであったが、不規則な細長い形状から風倒木痕であると判断した。従って今回発掘調査を行った陥し穴状遺構は５基である。Ｔ１及びＴ２については盛土もしくは影響のない削平のため調査は行わないこととした。調査の結果、調査区の基本層序は、第Ⅰ層が水田耕作土で鈍い黄褐色粘土質シルトからなり、およそ３％の明黄褐色粒を含み層厚は約20cmであった。第Ⅱ層は明黄褐色粘土と黒褐色粘土質シルトの混合土で層厚は約20cmであった。第Ⅲ層は旧表土と思われる黒褐色粘土質シルトで、層厚は削平されたところもあり０cm～15cmだった。第Ⅳ層は漸移層の暗褐色粘土質シルトで層厚は第Ⅲ層同様削平されたところもあり約０～20cmだった。第Ⅴ層は地山で明黄褐色粘土であった。

第１号陥し穴状遺構（T12）

平面形は溝状を呈しており、長軸2.45m、短軸0.75m、深さは1.12mの規模を持ち、底面は狭く幅は0.1m前後であった。断面形は縦長のTの字形で、遺構の両端は、上場よりも0.3mえぐられる形でフラスコ状に外側に広がっていた。第１層は黒褐色土で一部に地山の明黄褐色土をブロック状に含んでいた。第10層～第12層は、ほとんど地山の明黄褐色粘土と区別できない土質であったが、堅さにしまりがなく部分的に粒状化が見られたので掘り深めたところ黒褐色土の第13層が出てきた。わずかに地山が水に溶けて混じり合った黒褐色土である。層厚は0.08mであった。かつて陥し穴として利用していた頃に表土からこぼれ落ちたものと考えられる。第10層～第12層の明黄褐色土は陥し穴として利用されなくなった後に両方の壁面が崩落して長い時間をかけて自然堆積したものと思われる。遺構の埋土からは遺物は確認されなかったが、形状から溝状陥し穴であり、この周辺には複数の陥し穴状遺構が所在するものと考えられる。

第２号陥し穴状遺構（T12）

平面形は概ね楕円形で長軸0.92m、短軸0.48m、深さは0.18mであった。底面は２段になっており、時代は不明であるが、小判型の陥し穴が先につくられ、その後自然堆積した跡に、円形の土坑がつくられた可能性が高い。深さが0.18mと浅かったのは前回のほ場整備で削平されたものと思われる。

第３号陥し穴状遺構（T23）

平面形がやや細長めの楕円形で長軸1.95m、短軸0.94m、深さは0.5mの小判型の陥し穴状遺構である。形状的には、上層部分が削平された小判型陥し穴の様相を呈しており、上層部分を想定すると大型の陥し穴であると思われる。

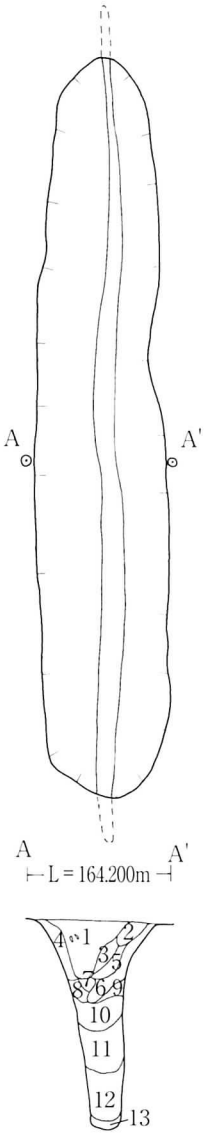
第４号陥し穴状遺構（T25）は長軸0.58m、短軸0.33mで深さは0.26mだった。これもやはり、上層部分が削平されたと思われる。この遺構の北方0.4mのところに新たに遺構が検出されたが、底が３つに分かれており、一部撹乱が見られたことから木の根痕と思われる。

第５号陥し穴状遺構（T29）

長軸1.4m、短軸0.88mで深さは0.26mだった。平面形は左右ほぼ対称で丸みがかった台形状だった。上層部分は削平されたものと考えられる。

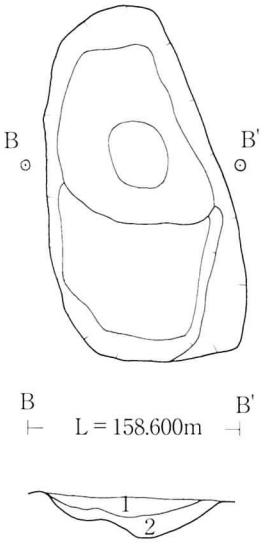
第１号陥し穴状遺構以外の遺構は、深さが0.18m～0.5mの範囲であり浅めであったが、平面形がほぼ左右対称のしっかりした形をしていたことから、上層部分が削平された陥し穴状遺構であると考えられる。これらのことから、周辺の調査区一帯は猟場であったと考えられる。少し離れたところには集落があった可能性もある。もっと広い範囲で詳しい状況がわかれば、今回検出された遺構の性格が具体的に想定できると思われる。

第１号陥し穴状遺構



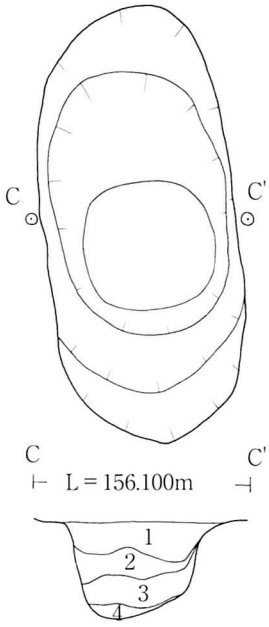
第１号陥し穴状遺構
第１層　10YR3/1黒褐色シルト　しまりややあり
第２層　10YR3/2黒褐色シルト　しまりあり
第３層　10YR3/2黒褐色シルト　しまりあり
第４層　10YR4/3にぶい黄褐色　しまりあり
第５層　10YR4/2灰黄褐色　地山を粒状で含む　しまりあり
第６層　10YR3/3暗褐色　しまりややあり
第７層　10YR3/2黒褐色　地山を粒状に含む　しまりややあり
第８層　10YR3/2黒褐色　地山を粒状に含む　しまりややあり
第９層　10YR3/2黒褐色　地山を粒状に含む　しまりややあり
第10層　10YR6/8明黄褐色　地山崩落土　しまりなし
第11層　10YR6/8明黄褐色　地山崩落土　しまりなし
第12層　10YR6/8明黄褐色　地山崩落土　しまりなし
第13層　10YR3/2黒褐色　地山をわずかに含む　しまりなし

第２号陥し穴状遺構



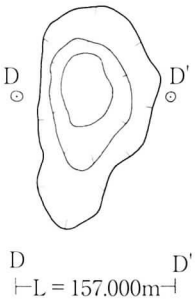
第２号陥し穴状遺構
第１層　10YR2/2黒褐色シルト
第２層　10YR2/1黒褐色

第３号陥し穴状遺構



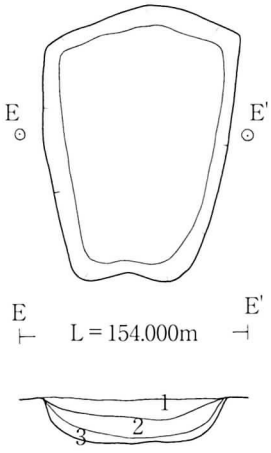
第３号陥し穴状遺構
第１層　10YR3/3黒褐色シルト
第２層　10YR2/2黒褐色シルト
第３層　10YR2/1黒色シルト
第４層　10YR2/2黒褐色シルト

第４号陥し穴状遺構



第４号陥し穴状遺構
第１層　10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　しまりあり
第２層　10YR2/2黒褐色シルト　粘性あり　しまりあり
第３層　10YR3/1黒褐色シルト　粘性あり　しまりあり

第５号陥し穴状遺構



第５号陥し穴状遺構
第１層　10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　しまりあり
第２層　10YR3/1黒褐色シルト　粘性あり　しまりあり
第３層　10YR4/3にぶい黄褐色　黒褐色シルトを粒状に含む
粘性あり　しまりあり

0　1：40　2m

第49図　二の台遺跡遺構図

Ⅱ　試掘調査

1　一般国道４号水沢東バイパス改築工事

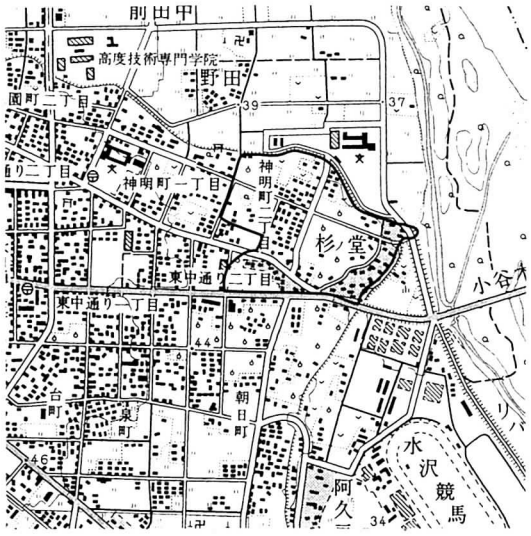
杉の堂遺跡（ＬＥ27－0100）

所在地；水沢市東中通り地内

事業者；国土交通省東北地方整備局

　　岩手河川国道事務所

調査期日；平成15年８月25日



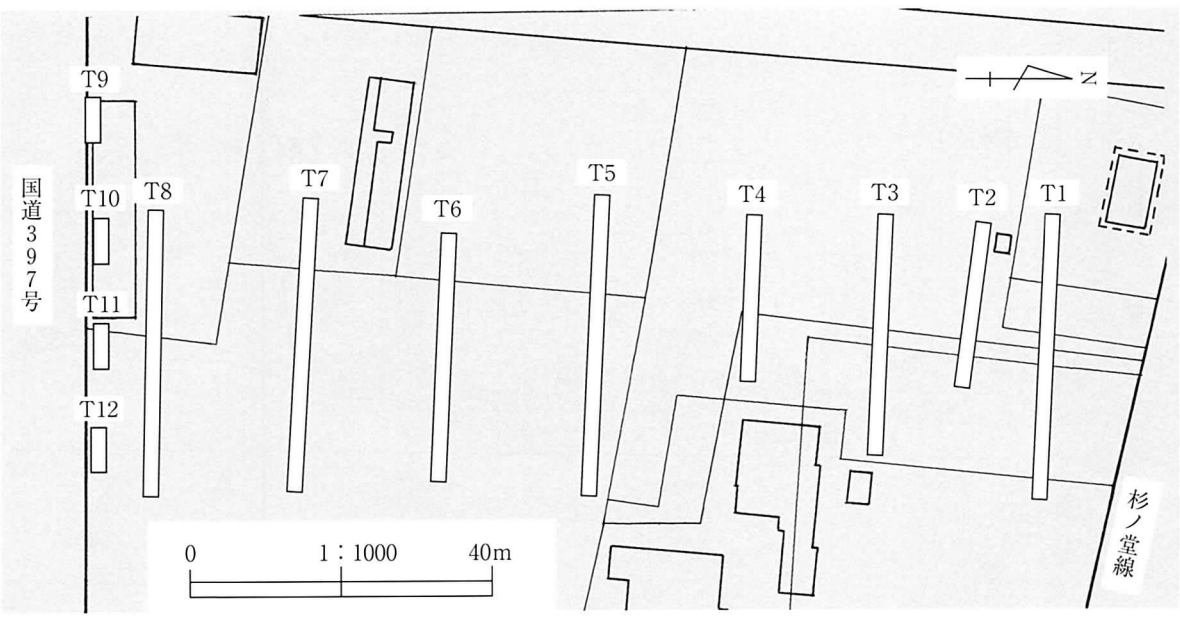
第50図　杉の堂遺跡位置図

遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北本線水沢駅より南東約1.5kmに位置し、胆沢扇状地の扇端部にあたる水沢高位段丘に立地する。遺跡の標高は約43m前後を測り、現況は主に、畑地、宅地となっている。本遺跡は、今年度及び平成14年度、㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより、発掘調査が実施され竪穴式住居、方形周溝発掘調査が実施され竪穴式住居、方形周溝等、が検出されている。今回の調査区は埋蔵文化財センターの発掘調査区よりさらに約１km南西側になる。今回の調査は、国道４号線東水沢バイパス改築工事に伴うもので、幅170cmのトレンチを12本設定した（Ｔ１～T12）。

遺構については、Ｔ２において、径60×70cmと40×60cmの土坑２基、20×30cmの柱穴状ピット１基が検出された。Ｔ６付近では、直径110cmの土坑１基が検出された。この土坑は、トレンチ西端部、宅地造成による盛土下の地山面から検出された。土坑の埋土には５mm大の炭化物粒が含まれていたが遺物は確認できなかった。Ｔ６においてこの土坑以外に遺構・遺物は確認できなかった。

遺物については、Ｔ２において、柱穴状ピット埋土上面から須恵器片が、Ｔ３において、トレンチ東端部付近の第Ⅱ層下層から縄文土器が出土した。出土した土器に結びつく遺構は今回確認できなかった。

埋蔵文化財センターの調査と今回の試掘調査から判断すると住居跡等が検出されなかったことから遺跡中心部から離れた場所ではないかと思われる。（平成16年度本発掘調査予定）



第51図　杉の堂遺跡調査区位置図

2－(1)　一般国道46号線盛岡西バイパス改築工事

熊堂Ｂ遺跡（ＬＥ16－2118）

所在地；盛岡市本宮地内

事業者；国土交通省東北地方整備局

　　岩手河川国道事務所

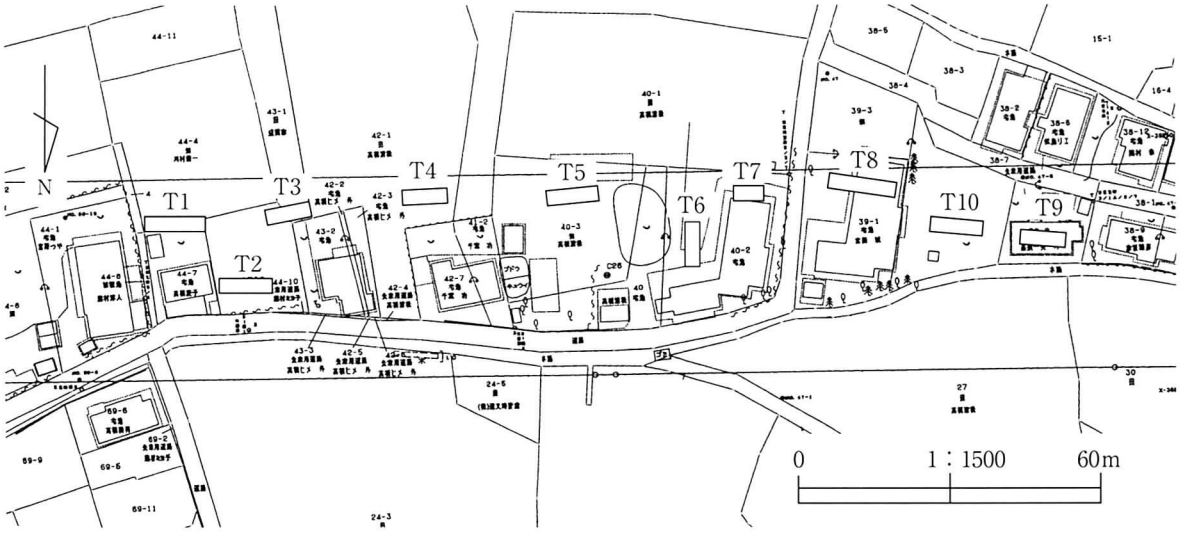
調査期日；平成15年11月12日

第52図　熊堂Ｂ遺跡位置図

遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北新幹線盛岡駅より南西約２㎞に位置する。北上川右岸の河岸段丘上に立地し、標高は124ｍ前後を測る。本遺跡は今年度、㈶岩手県埋蔵文化財センターが調査を行っている。奈良・平安時代の住居跡、土坑、柱穴、溝跡などが多数検出され、土師器、須恵器、陶磁器類、石器、鉄製品なども多く出土している。調査対象区は遺跡のほぼ中央にあたり、現況は住宅地である。今回の調査は、国道46号西バイパス建設にかかわり、住居移転等により試掘調査可能となったことによりおこなったものである。調査区範囲にトレンチ10本を設定した（Ｔ１～Ｔ10）。

調査の結果、住居跡４棟、柱穴１基、柱穴列（６基）、焼土状遺構１基を確認し、土師器数点が出土した。Ｔ１東端から５ｍ、深さ30㎝第Ⅲ層上面で径450㎝の隅丸方形住居跡１棟を確認した。Ｔ２西端から４ｍ、深さ35㎝の地点において30㎝大の柱穴を確認した。この周囲には第Ⅰ層が無いことから、おそらく住居跡は削平されてしまったと考えた。Ｔ３東端から７ｍ、深さ40㎝の地点で住居跡を確認した。トレンチを広げなかったため土坑の可能性ある。Ｔ５では、東端から10ｍで焼土、Ｔ６では時期不明であるが径35㎝大の柱穴列６基を深さ40㎝で確認した。Ｔ７北端、深さ20㎝の地点で、住居跡２棟を確認した。

今年度、㈶岩手県埋蔵文化財センターの調査において、埋土下層から焼土が確認されていることから、Ｔ４で深堀をした。その結果、旧河道が確認された。調査対象区は周囲の発掘調査などから平安時代の集落の一部である可能性が高い。（平成16年度本発掘調査予定）



第53図　熊堂Ｂ遺跡調査区位置図

2－(2)　一般国道46号線盛岡西バイパス改築工事

熊堂Ｂ遺跡（ＬＥ16－2118）

所在地；盛岡市本宮字熊堂地内

事業者；国土交通省東北地方整備局

　　岩手河川国道事務所

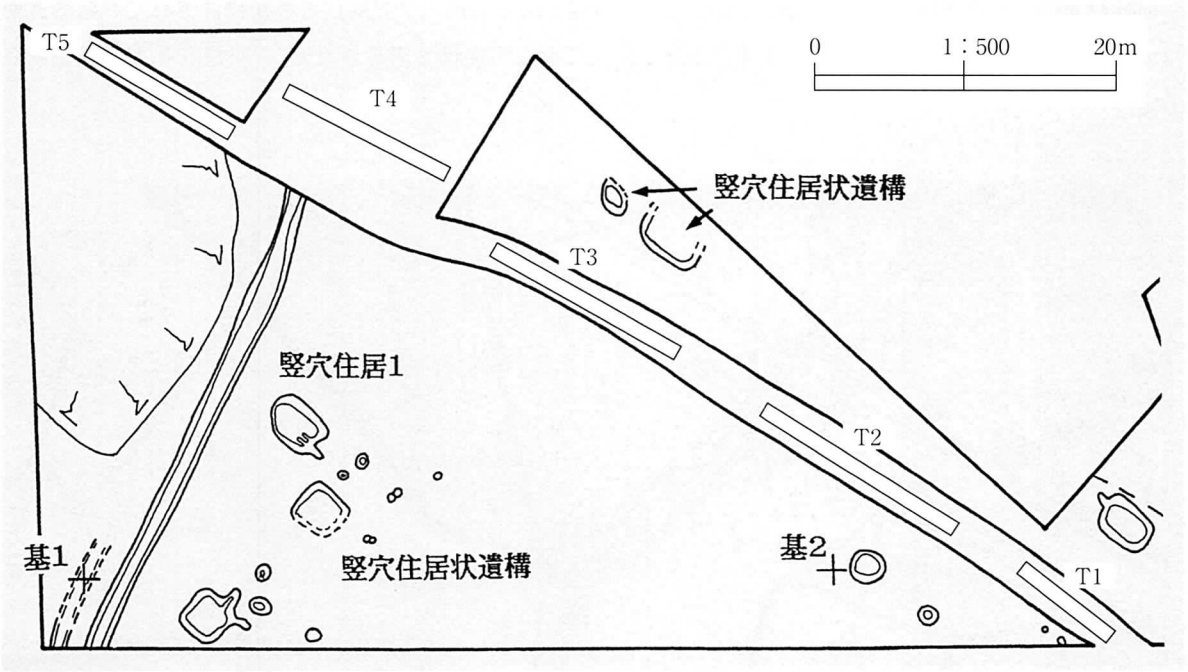
調査期日；平成15年９月３日

遺跡はJR東北本線盛岡駅のほぼ南約２kmの雫石川右岸の河岸段丘上に立地している。現況は造成中の土地、宅地等となっている。周囲は財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、盛岡市教育委員会によって十数次の発掘調査が実施されている地区である。

第54図　熊堂Ｂ遺跡位置図

今回、バイパス建設に伴う発掘調査で、宅地移転等の理由で調査未了となってた箇所の試掘調査を実施した。そのため、埋蔵文化財センター発掘調査区に挟まれた生活道路敷・宅地跡の不定形な試掘対象区となった。試掘トレンチは５本設定した。

Ｔ１～Ｔ３では遺構、遺物は発見されなかった。Ｔ４ではトレンチ西端で黒褐色土が埋土となる幅1.1m、深さ0.2m以上の溝が発見された。埋土上部からは土師器片が１点出土した。Ｔ５東端では、Ｔ４と同様の溝が発見され、それより西側では黒褐色土の落ち込みが検出され、内黒土師器坏、須恵器甕破片等、比較的多くの遺物が出土した。深さは0.3m以上あった。なお、Ｔ４の溝は埋蔵文化財センター発掘調査で見つかっていた溝２の延長である可能性が高い。（平成15年度本発掘調査）



第55図　熊堂Ｂ遺跡調査区位置図

3　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事

台太郎遺跡（ＬＥ16－2269）

所在地；盛岡市向中野地内

事業者；国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日；平成15年６月18日

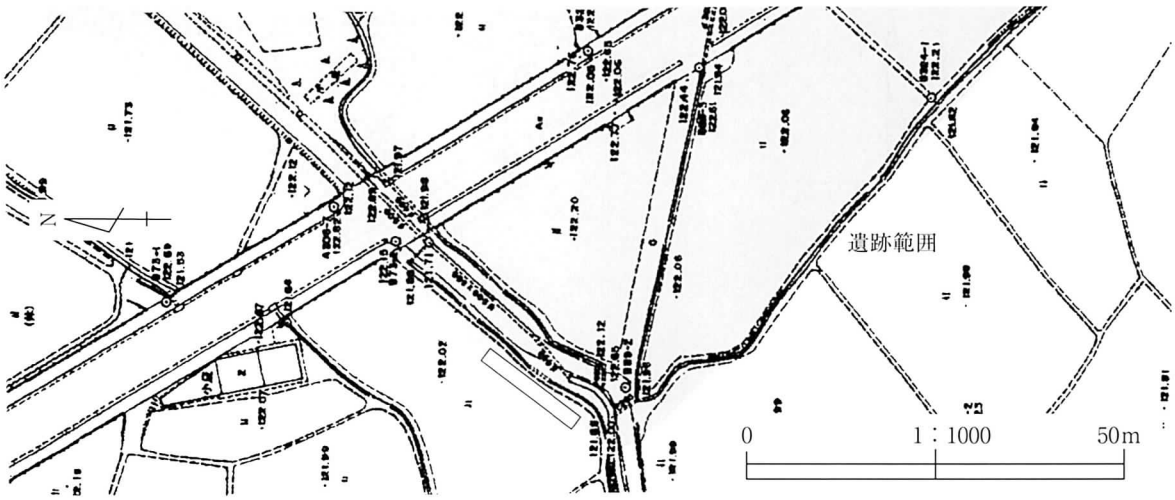
第56図　台太郎遺跡位置図

遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北新幹線盛岡駅より南西約２kmに位置する。北上川右岸の河岸段丘上に立地し、標高は120m前後を測る。本遺跡は平成９年度より㈶岩手県埋蔵文化財センターと盛岡市教育委員会が調査を行っている。平成９年から平成15年の㈶岩手県埋蔵文化財センターの発掘調査結果をまとめると縄文時代の竪穴住居跡２棟、古代の竪穴住居跡220棟、中世の竪穴住居跡４棟、掘立柱建物27棟、竪穴状遺構31棟、土坑753基　堀跡５条、溝跡207条、焼土42基、円形周溝８基、　井戸跡14基、畝間状遺構２箇所、柱穴状土坑多数等と数多くの遺構確認されている。

調査対象区は遺跡の西端部にあたる。現況は、付近で行われている工事等の残土置き場となっている。今回の調査は、遺跡範囲拡大にともなって国道46号西バイパス建設用地に要調査区域が生じたことによりおこなったものである。調査区範囲にトレンチ１本を設定した。

トレンチ西端から約５ｍ地点、表土から0.75mの深さから溝１が確認された。溝の埋土は黒褐色土で埋土上部で土師器が出土した。幅0.6m以上、長さ６ｍ以上、深さ0.3m以上で調査区北東側に延びていた。また、同じく西端から約６ｍ地点で、表土から0.85mの深さで溝２が確認された。幅0.4m以上、長さ８ｍ以上で調査区北東方面に延びていた。

地形が連続している㈶岩手県埋蔵文化財センターの調査区で奈良・平安時代の溝が確認されていることから、今回の試掘で確認された溝１・２はこの溝と同一である可能性も考えられる。（平成16年度本発掘調査予定）



第57図　台太郎遺跡調査区位置図

4　一般国道４号道路改築事業関連調査

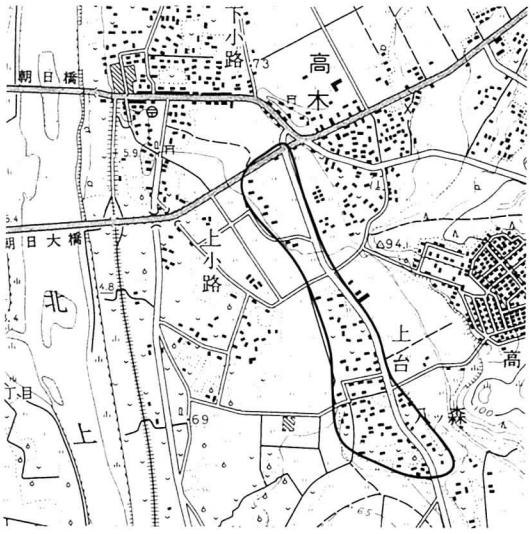
高木中館遺跡（ＭＥ36－0218）

所在地；花巻市高木第22地割地内他

事業者；国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日；平成15年７月４日～７日

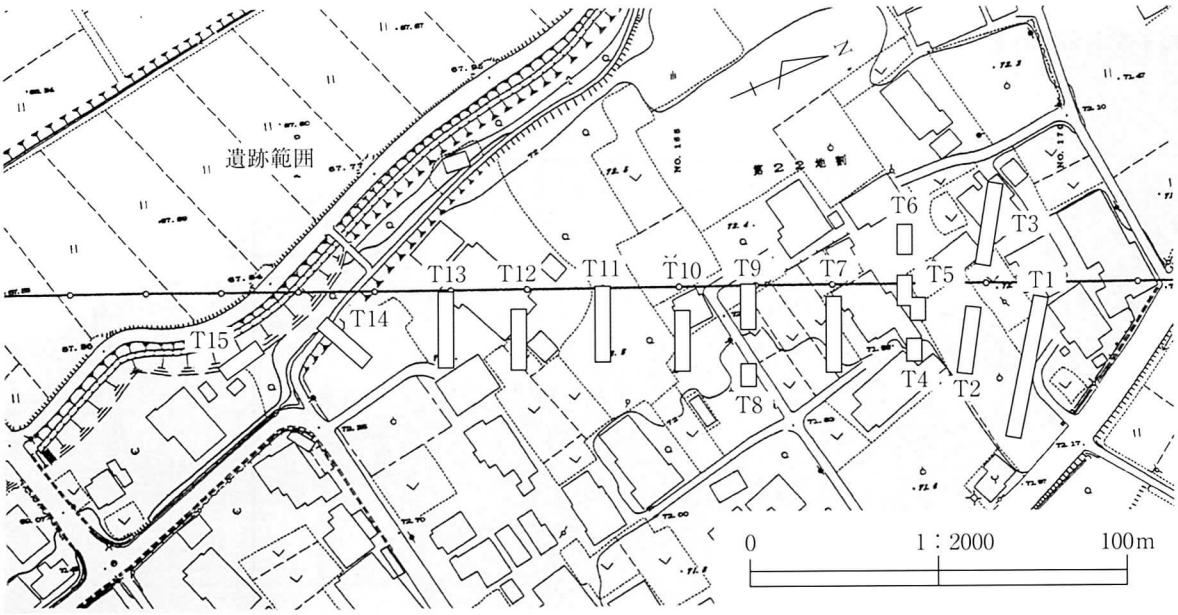
遺跡は、花巻市役所より南東方向約３kmにあり、北上川左岸の河岸段丘縁辺部付近に立地している。遺跡の現況は、宅地、畑地、水田となっている。今回の調査は、一般国国道4号花巻東バイパス工事改築工事に伴うもので、住宅基礎、耕作中の畑地等雑物を避けながら、調査対象区域に15本のトレンチを設定した（Ｔ１～T15）。



第58図　高木中館遺跡位置図

精査の結果、柱穴がＴ１で３基、Ｔ２で２基、Ｔ３・Ｔ４でそれぞれ１基ずつ、Ｔ８・Ｔ９でそれぞれ１基ずつ検出され、これらの柱穴状ピットは径20～40cm大で、現表土から約70cm～90cm下の暗褐色土層で検出された。T12では、径30cmの規模を持つ柱穴５基が検出され、なかには埋土に縄文時代晩期の土器片が含まれているものもあった。T13では、現表土から40cm下で、径20cm～40cm大の柱穴が10基検出されている。今回の試掘調査において、柱穴は計24基検出された。柱穴以外の遺構として、T13において径90cm大の規模をもつ土坑１基、T11においては、現表土下約70cmで、幅30cmの溝１条が、Ｔ３においては180cm×40cmの規模で、長楕円形のプランを呈する陥し穴状遺構1基が、検出された。調査区内の畑地からは、土師器片１点が表採され、今回の試掘調査では、古代の遺構等は確認できなかったが、調査範囲内に所在している可能性が高いと思われた。

本遺跡名が「高木中館」であり、近接して高木古館等が所在していることから、城館に関連する堀跡等の遺構の有無を確認する目的で、T14及びT15を設定したが、城館跡に結びつくような遺構及び遺物は今回の調査で、確認できなかった。（平成15・16年度本発掘調査予定）



第59図　高木中館遺跡調査区位置図

5　一般国道４号道路改築事業関連調査

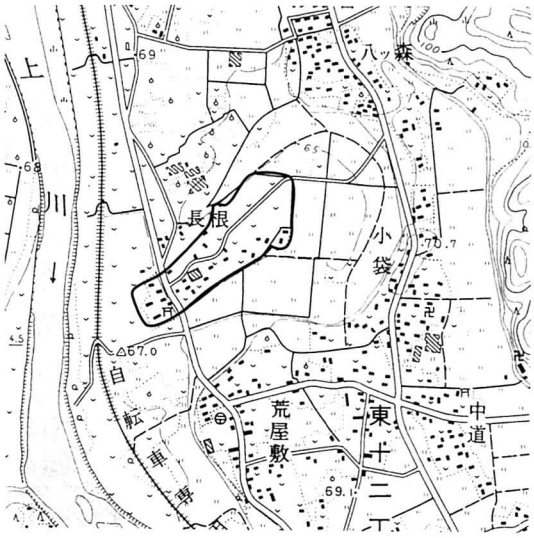
長根Ⅰ遺跡（ＭＥ36－1213）

所在地；花巻市東十二丁目地内

事業者；国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日；平成15年７月14日

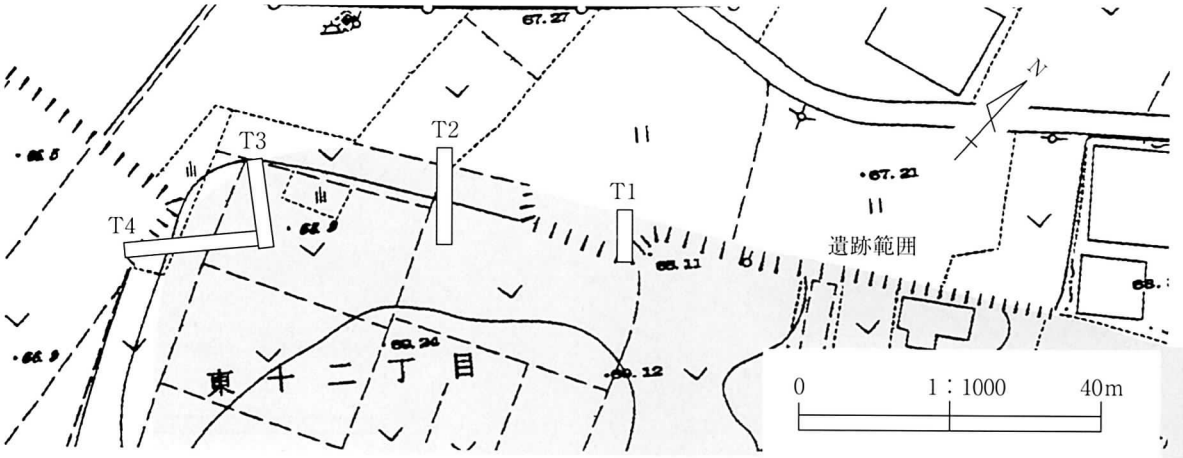
遺跡は、花巻市役所より南南東約３kmに位置し、南流する北上川東岸の氾濫原上にある微高地に立地しており、現況は主に畑地及び宅地となっている。今回の調査は、一般国道４号花巻東バイパス工事改築工事に伴うものである。本遺跡に北接して長根Ⅱ遺跡が、さらに北側には長根Ⅲ遺跡が所在している。



第60図　長根Ⅰ遺跡位置図

微高地縁辺部斜面から旧田面にかけてＴ１を設定した。縁辺部斜面下の旧田面部分では、水田造成のためか、盛土が施されていた。盛土下は、旧河道と思われる円礫を大量に含む暗褐色砂礫層が確認された。Ｔ１に並行するように、微高地縁辺部から旧田面部分にかけてＴ２を設定した。北上川の氾濫によるものと思われる洪水堆積層が厚く認められた。Ｔ３及びＴ４は、それぞれ緩やかな北・東斜面に設定した。Ｔ３において、第Ⅱ層上面で、柱穴状ピットが４基検出された。柱穴状ピットは径30～40cmの規模であり、ほぼ円形を示していた。その埋土は暗褐色であった。Ｔ４においても、第Ⅱ層上面で、柱穴状ピット15基が検出された。これらの柱穴状ピットの規模は径20～30cm大で、その形状は、ほぼ円形であった。確認のために、15基のうちの１基を半裁した。埋土は暗褐色で、その深さは30cmであったが、遺物は確認できなかった。この第Ⅱ層上面が検出面である。Ｔ４の中央部付近から東端部にかけて遺構は、確認できなかった。このトレンチ東端部は、一段低い田面であったが、表土下約130cmで旧河道と思われる円礫を大量に含む砂礫層が確認できた。

今回の試掘調査では、遺物は確認できなかったが、調査対象区外の現畑地から、土師器片、近世陶磁器片が表採されたが、遺構に結びつくような遺物が確認できなかったため遺構の構築時期は不明である。（平成15年度本発掘調査）



第61図　長根Ⅰ遺跡調査区位置図

6　一関遊水地事業衣川左岸築堤工事

接待館遺跡（ＮＥ65－2343）

所在地；胆沢郡衣川村大字下衣川字七日市場地内

事業者；国土交通省東北地方整備局

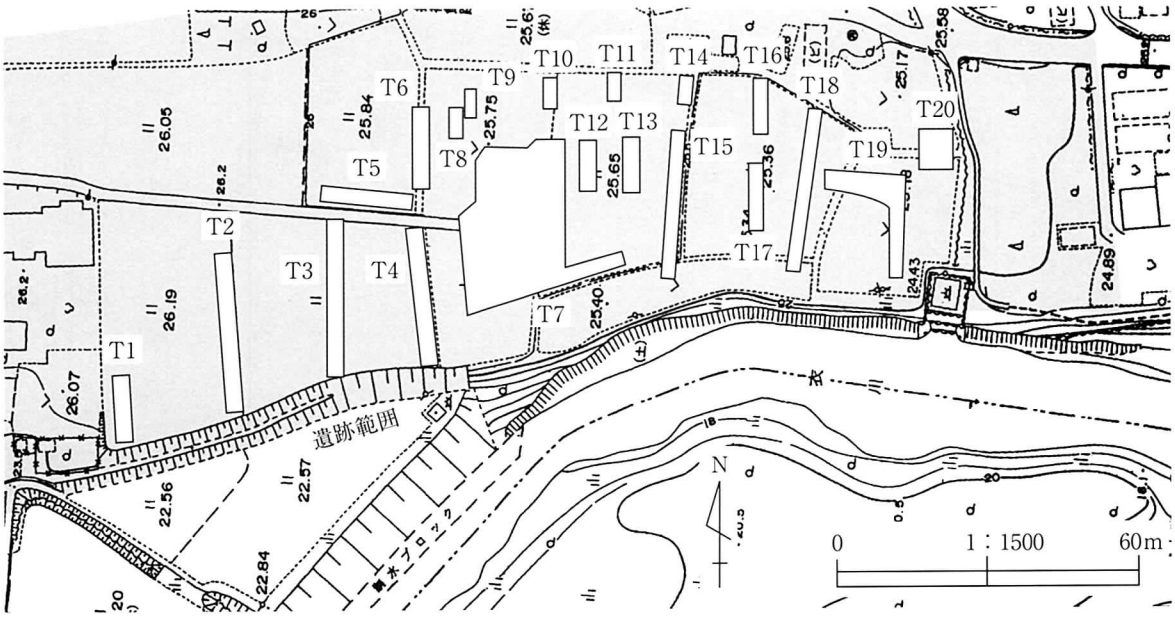
　　岩手河川国道事務所

調査期日；平成15年11月27日(木) ～12月３日(水)

本遺跡は、衣川村役場の南東約4.4㎞に位置し、衣川現河水面との比高約10ｍの沖積地端部に立地する。今回の調査は、一関遊水地事業衣川左岸築堤工事に係るものであり、築堤予定箇所に20本の試掘トレンチを設定した(Ｔ１～20)。

第62図　接待館遺跡位置図

遺跡西側に設定したＴ１～６では、明確な遺構は検出されなかったが、一部のトレンチから土師器片が出土した。Ｔ２ではⅡ層中から灰白色火山灰層を確認した。遺跡中央部に設定したＴ７では、柱穴状の土坑が数多く検出されたことから溝状のトレンチを拡大し面的な調査を行った。その結果、土坑２基・柱穴状土坑159基・溝跡２条等を検出した。柱穴状土坑は径20～50㎝とややばらつきがあったが、少なくとも掘立柱建物跡４棟を構成するものと考えられ、埋土中にはかわらけ片や陶磁器片が含まれるものがあった。かわらけや陶磁器の年代から、12世紀後半から中世前期の遺構と推測される。掘立柱建物跡とは別に柱列４条が検出されており、幅４ｍの大きな溝跡と共に中世城館跡に伴う遺構と推測される。掘立柱建物跡の北側からは、角釘が入れられたかわらけを埋土に含む土坑が検出された。地鎮等の祭祀儀礼に関係する遺構と推測される。T10・11では、東西方向の溝跡１条、T16・18では同じく東西方向の並行する溝跡２条を検出した。溝跡はそれぞれ関連する遺構と考えられるが遺構の時期は不明である。T15南側でも幅４ｍ前後の溝跡を検出しており、規模・方向からみてＴ７で検出された溝跡と連続する遺構と考えられる。遺跡東側に設定したT20では南東－北西方向の埋没した沢跡を検出したが、中世城館跡に伴う堀跡の可能性も考えられる。(平成16年度本発掘調査予定)



第63図　接待館遺跡調査区位置図

7　一関遊水地事業関連調査

押切遺跡（ＮＥ65－2359）

所在地；胆沢郡衣川村大字下衣川地内

事業者；国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日；平成15年12月２日

遺跡は、衣川村役場の南東約4.8kmに位置している。遺跡の現況は、主に水田、畑地となっており、衣川の氾濫原である。標高は約21～22ｍ前後を測る。本遺跡の対岸に位置する中尊寺跡遺跡は、平泉町教育委員会により発掘調査が実施されている。平成14年度第65次調査では、縄文時代の陥し穴群と近世の護岸・橋脚工事跡が検出されており、対岸から本遺跡まで連続している可能性が高いとされている。

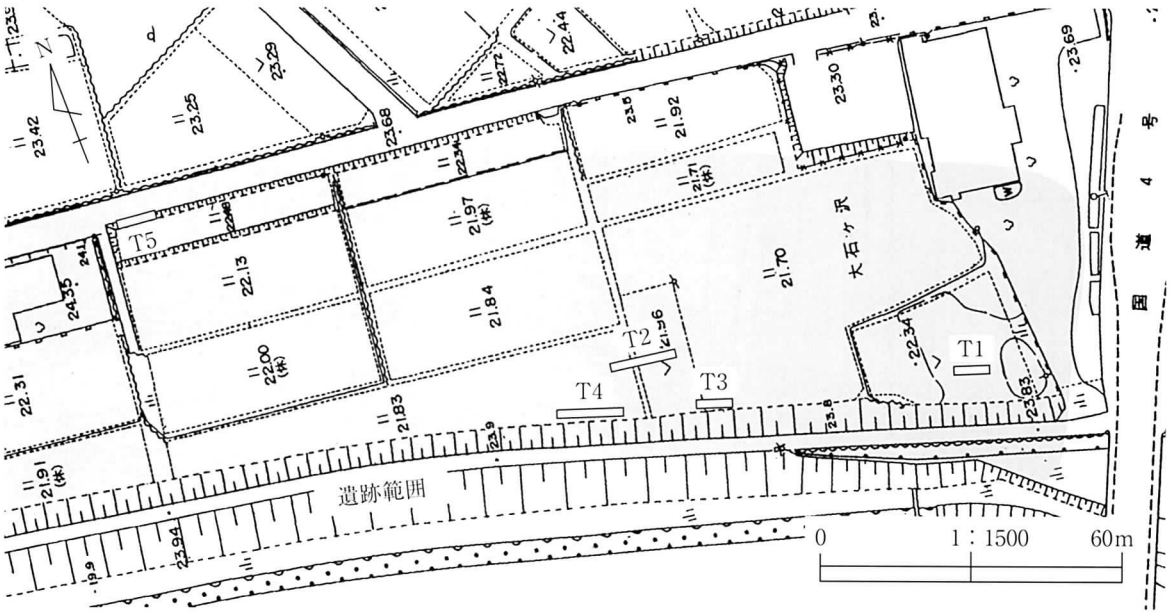
第64図　押切遺跡位置図

今回の試掘調査は、一関遊水地事業による衣川左岸築堤工事に伴うもので、築堤設置予定箇所が対象である。工事予定区域に６本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ６）。

遺跡内において、比較的標高の高い畑地にＴ１を設定した。精査の結果、第Ⅰ層である黄褐色砂層（洪水堆積層）の下面で、大量の炭化物、焼土が検出され、掘り下げたところ、羽口及び鉄滓が出土したことから、鍛冶関連遺構であると判断した。

平成14年度の平泉町教委による発掘調査から、検出された橋脚が連続するであろう対岸部分から北方向に伸びていると思われる道路状遺構の所在を確認するためにＴ２、護岸状遺構の有無を確認するためにＴ３及びＴ４を設定し、また遺構の広がりを確認するために、遺跡の北側部分の水田にＴ５及びＴ６を設定したが、いずれのトレンチにおいても、水田耕作土、水田床土、灰色砂層、暗褐色粘土質シルトとなっており、洪水による堆積作用は見られたものの、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、護岸状遺構は、現在の堤体下位に所在するものと思われた。（平成16年度本発掘調査予定）



第65図　押切遺跡調査区位置図

8　一関遊水地事業関連調査

六日市場遺跡（ＮＥ65－2346）

所在地；胆沢郡衣川村大字下衣川地内

事業者；国土交通省岩手河川国道事務所

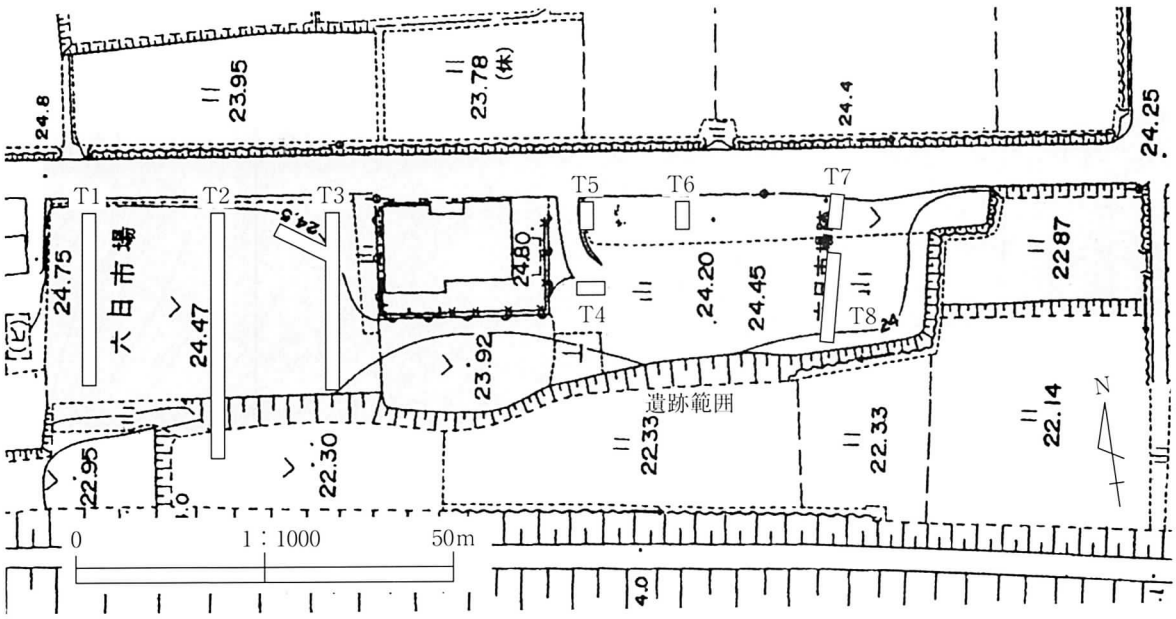
調査期日；平成15年12月１日

遺跡は、衣川村役場の南東約4.5kmに位置し、衣川によって形成された河岸段丘低位面の縁に立地している。本遺跡は、過去２回にわたり分布調査が実施されている。昭和62年度に衣川村教育委員会が、平成13年度に岩手県立博物館がそれぞれ実施しているが、遺物は確認されておらず、詳細は不明であった。今回の調査は、一関遊水地事業に伴う衣川左岸築堤工事に係るものであり、築堤設置予定箇所に８本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ８）。宅地の西側にある畑地にＴ１～Ｔ３を設定した。

第66図　六日市場遺跡位置図

精査の結果、Ｔ２及びＴ３において、上幅約220cm、深さ約200cmの堀が検出され、その方向及び上幅の規模から、連続しているものと思われた。検出された堀の一部を掘り下げたところ、断面形は薬研掘状であった。Ｔ２で検出された堀埋土上面には、かわらけ片数点が含まれており、Ｔ３では、径40cm大の柱穴が堀に近接して１基検出され、堀に伴う何らかの施設に関係した遺構ではないかと思われた。また、Ｔ２では、70cm×65cmのほぼ円形の土坑が１基検出された。Ｔ１においては、柱穴状ピットが６基検出された。宅地を挟んで東側にある畑地及び水田にＴ４～Ｔ８を設定した。この場所は、かつて低かった水田に盛土を施し田面の標高を上げた場所である。遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、今回の試掘調査で検出された堀は、調査未了区に連続して所在している可能性が高く、その形態等から城館跡等に伴うものと推測された。今回の試掘調査堀が検出されたことから、市場跡とされた本遺跡の性格及び遺跡範囲等について、見直しが必要であると思われた。（平成17年度本発掘調査予定）



第67図　六日市場遺跡調査区位置図

9　農用地総合整備事業 下閉伊地域関連調査

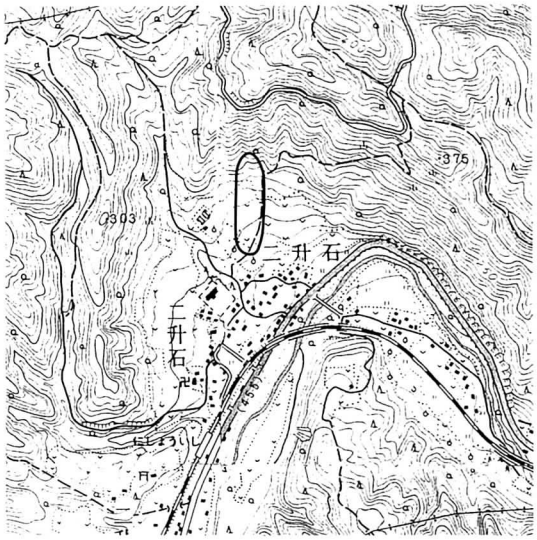
寺野遺跡（ＫＦ59－2224）

所在地；下閉伊郡岩泉町二升石字寺野地内

事業者；緑資源公団東北支社下閉伊北事業所

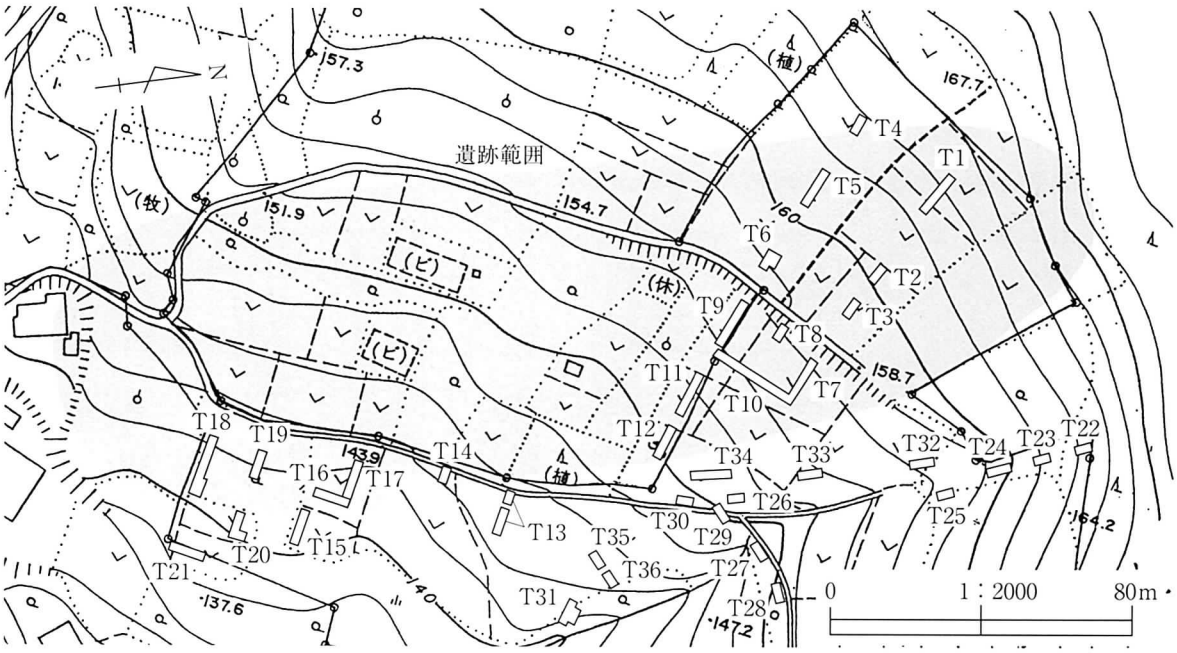
調査期日；平成15年４月23日～24日

平成16年３月８日～９日



第68図　寺野遺跡位置図

遺跡は、JR東日本鉄道旅客鉄道株式会社岩泉二升石駅の北北東約1.3㎞に位置し、小本川付近まで延びる尾根に隣接した南面する斜面に立地しており、現況は主に畑地となっている。今回の調査は、農用地整備事業に伴うもので、事業対象区域にトレンチを37本設定した（Ｔ１～T36)。今回の調査区において、比較的標高の高い畑地に、Ｔ１～Ｔ６を設定した。Ｔ１において、竪穴住居跡２棟が検出されたが、遺物は確認できなかった。Ｔ６では、表土直下に土器をわずかに含む黒色土層があり、その下層から、約３×３ｍの規模をもつ竪穴住居跡が１棟検出され、その埋土には縄文土器が含まれていた。標高140～143ｍの畑地に、T15～T17を設定した。T15においては、40×40㎝の焼土を伴う住居跡が確認され、土器も出土している。T17では、明確なプランは確認できなかったものの、住居跡に伴うと推測した焼土及び縄文土器の遺物包含層が確認されている。T18においては、埋土に縄文時代の土器を含む径310㎝の円形プランを呈する竪穴住居跡１棟が、T32においては、埋土に多量の炭化物と縄文時代の土器を含む住居跡１棟が確認された。以上のことから、今回の調査で、遺物を伴わない住居跡が確認された検出面と縄文土器を伴う住居跡が確認された検出面があり、少なくとも検出面は２面あると思われる。また、住居跡が複数検出されたことから、本遺跡は、縄文時代及び他の時代に集落が営まれた場所であったことが判明した。



第69図　寺野遺跡調査区位置図

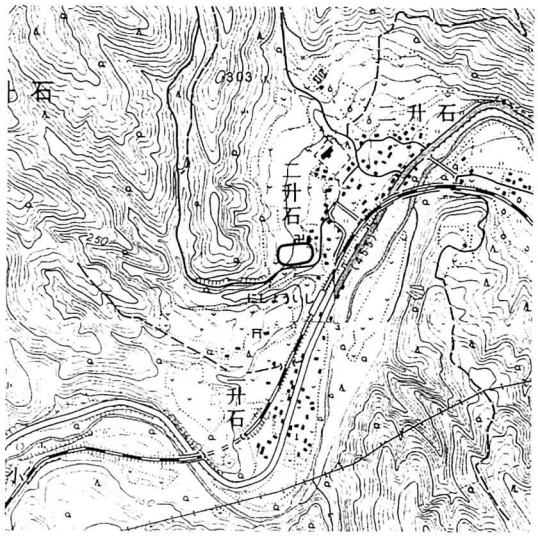
10　農用地総合整備事業 下閉伊地域関連調査

寺沢北遺跡（ＫＦ59－2281）

所在地；下閉伊郡岩泉町二升石字大根地内

事業者；緑資源公団東北支社下閉伊北事業所

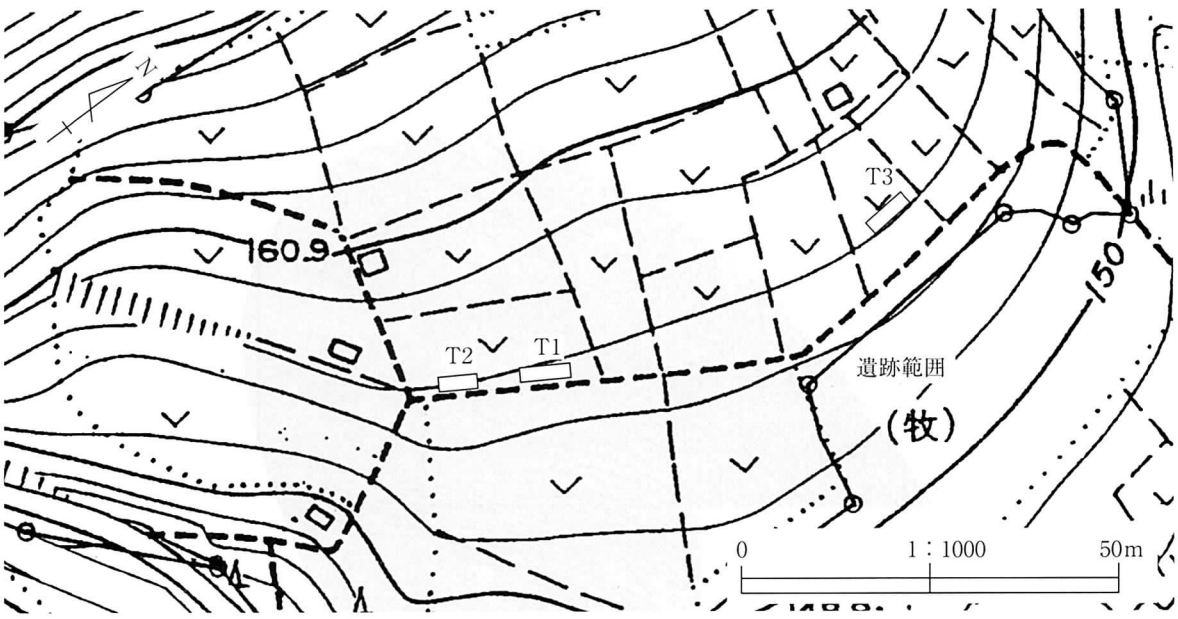
調査期日；平成15年12月15日～17日



第70図　寺沢北遺跡位置図

遺跡は、JR東日本鉄道旅客鉄道株式会社岩泉二升石駅の北北西約1.0kmに位置し、東に向かって山地から延びている尾根上に位置している。遺跡の標高は約130～160mであり、現況は主に畑地となっている。今回の調査は、農用地総合整備事業に伴うもので、農道設置予定箇所及び排水路設置予定箇所を対象とし、現在工作中の畑地、植木等を避けながら、遺跡範囲内及び隣接地に３本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ３）。緩やかに張り出した尾根上にＴ１及びＴ２を設定した。Ｔ１においては、遺構及び遺物は確認できなかったが、Ｔ２において、表土から約60cm下で、竪穴住居跡１棟が検出され、その炉跡と推定される箇所に径約50cm大の範囲で焼土が確認された。検出された竪穴住居跡周辺からは、遺物は確認できなかった。隣接地ではあるが、Ｔ１及びＴ２を設定した箇所に連続する尾根上にＴ３を設定した。Ｔ３において、表土から60cm下で一辺が230cm以上の規模を持つ竪穴住居跡が１棟検出されたほか、径45cm大の円形土坑１基が検出された。Ｔ３においても、遺構に伴う遺物は確認できなかったが、近接する畑地において、縄文時代の土器が多数表採されたことと、今回検出された遺構の埋土の状況及びプラン等から、今回検出された遺構も縄文時代のものであると推測した。

Ｔ１～Ｔ３を設定した畑地から、標高約132mの現道までつながるように新設農道が計画され、それに伴う排水路設置も予定されているが、斜面があまりに急峻であったために遺構は所在していないと判断し、重機の掘削による調査は実施しなかった。



第71図　寺沢北遺跡調査区位置図

11　農用地総合整備事業 下閉伊地域関連調査

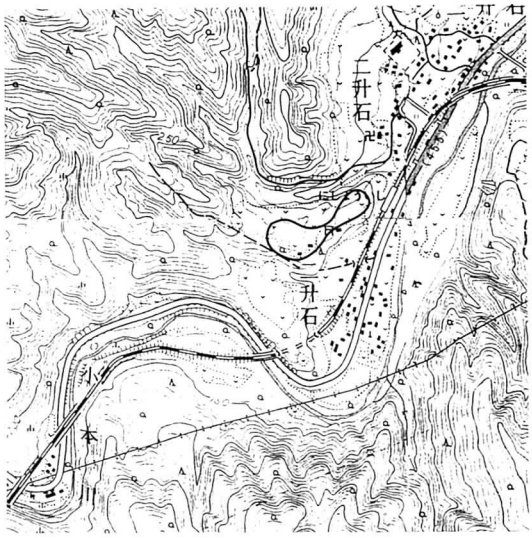
二升石遺跡（ＫＦ59－2224）

所在地；下閉伊郡岩泉町二升石字寺野地内

事業者；緑資源公団東北支社下閉伊北事業所

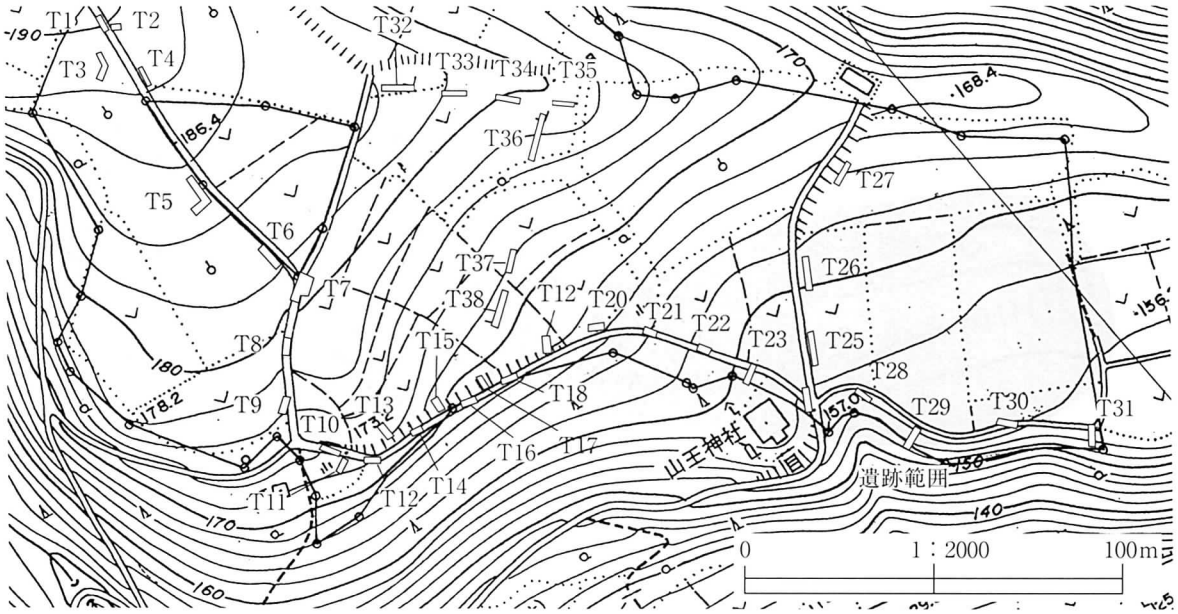
調査期日；平成15年11月６日～７日

遺跡は、岩泉町役場の西方向約５kmに位置し、東流する小本川に向かって延びる尾根の先端部に立地している。遺跡の標高は、約186～156mを測り、遺跡内において約30mほどの比高がある。遺跡の現況は、おもに畑地、果樹園、草地となっている。今回の調査は、農用地総合整備事業に伴うもので、切土予定の畑地、新設及び拡幅予定の農道設置箇所を対象とし、調査対象区に38本の試掘トレンチを設定した（Ｔ１～T38）。



第72図　二升石遺跡位置図

Ｔ１～Ｔ６は、遺跡内において標高の高い尾根沿いに計画されている農道新設箇所に設定した。これらのトレンチにおける層序は、表土、褐色土の地山が露出しており、畑地造成あるいは草地造成時に旧地形が改変されたと推測した。標高180m付近に設定したT7においては、陥し穴状遺構1基が検出された。この陥し穴状遺構は、長軸約１m、短軸0.5mの長楕円形プランを示し、その埋土は黒褐色土であった。この遺構は、表土下約75cm下で検出された。T7における層序は、表土、暗褐色土、褐色土（地山）の順であり、検出面は第Ⅱ層の暗褐色土層であった。山王神社付近から尾根に向かって計画されている農道設置箇所にT24～T27を設定した。T25及びT26から、竪穴住居跡が少なくとも2棟以上検出された。T25では、竪穴住居跡が重複して検出され、径60cmの範囲で焼土も検出されている。住居跡が検出された箇所は、勾配が比較的緩やかな南向きの斜面であり、T26においても重複して竪穴住居跡が検出されていることから、本遺跡における集落が営まれた中心部であると推測した。現在草地となっている標高178m付近に設定したT36では、時期不明であるが径80cmの円形土坑１基が検出された。



第73図　二升石遺跡調査区位置図

12　農用地総合整備事業下閉伊地区

二升石大根遺跡（ＫＦ59－2262）

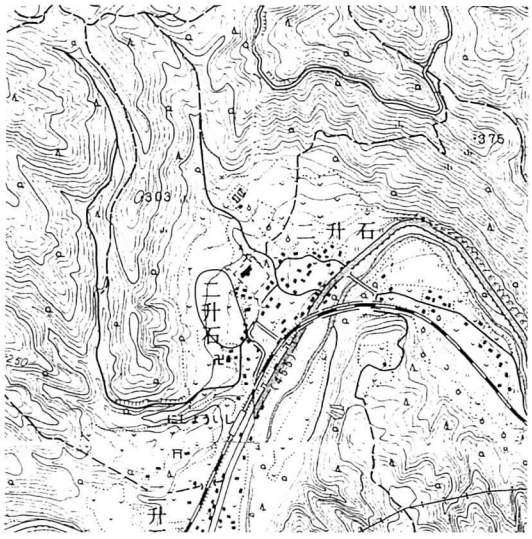
所在地；下閉伊郡岩泉町尼額字長畑地内

事業者；緑資源公団東北支社下閉伊建設事業所

調査期日；平成15年11月６日～７日（２日間）

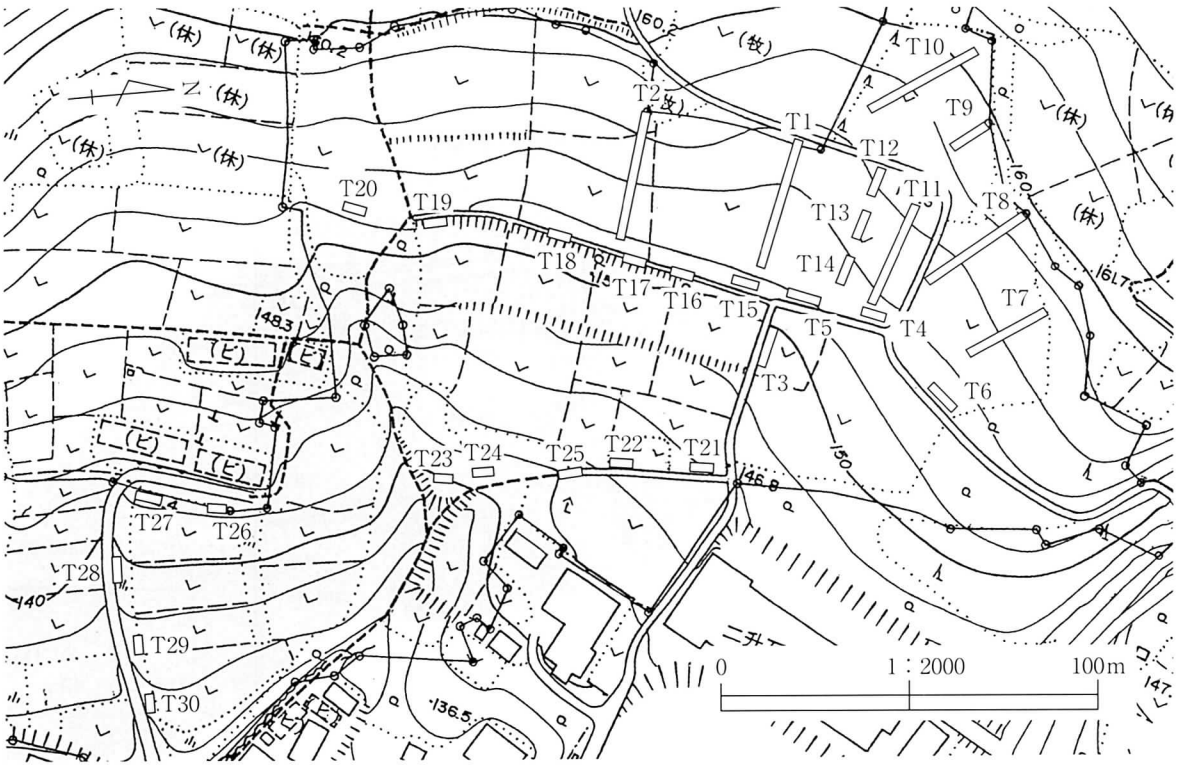
遺跡は岩泉町役場から西へ約3.5kmに位置し、二升石小学校周辺の丘陵地に立地している。

今回の試掘調査対象区の現況は主として畑地で、標高は150m前後である。事業予定範囲のうち、切り土予定地、道路、水路予定地を中心に試掘トレンチを計30箇所設定した。



第74図　二升石大根遺跡位置図

調査の結果、次の箇所で遺構、遺物が発見された。Ｔ４、Ｔ５、Ｔ11では、火山灰に類似した灰白色粉状土を埋土とする畝間状遺構が発見された。Ｔ12においても同様の埋土の遺構が発見され、方形を呈していた。Ｔ16では直径0.3m程の柱穴状ピットが２基発見され。擦石、剥片石器が出土した。Ｔ17では竪穴住居跡と推定される遺構１基があり、木目状撚糸文土器片が出土した。Ｔ18においても縄文土器が出土した。Ｔ21、Ｔ22、Ｔ25では縄文土器を含む遺物包含層が発見された。Ｔ28、Ｔ29、Ｔ30においても畝間状遺構が４条あり、等高線に直行する方向で発見された。埋土はＴ４よりも若干黒味かかっていた。



第75図　二升石大根遺跡調査区位置図

13　農用地総合整備事業下閉伊北地域

尼額上野遺跡（ＫＧ50－2071）

所在地；下閉伊郡岩泉町尼額地内

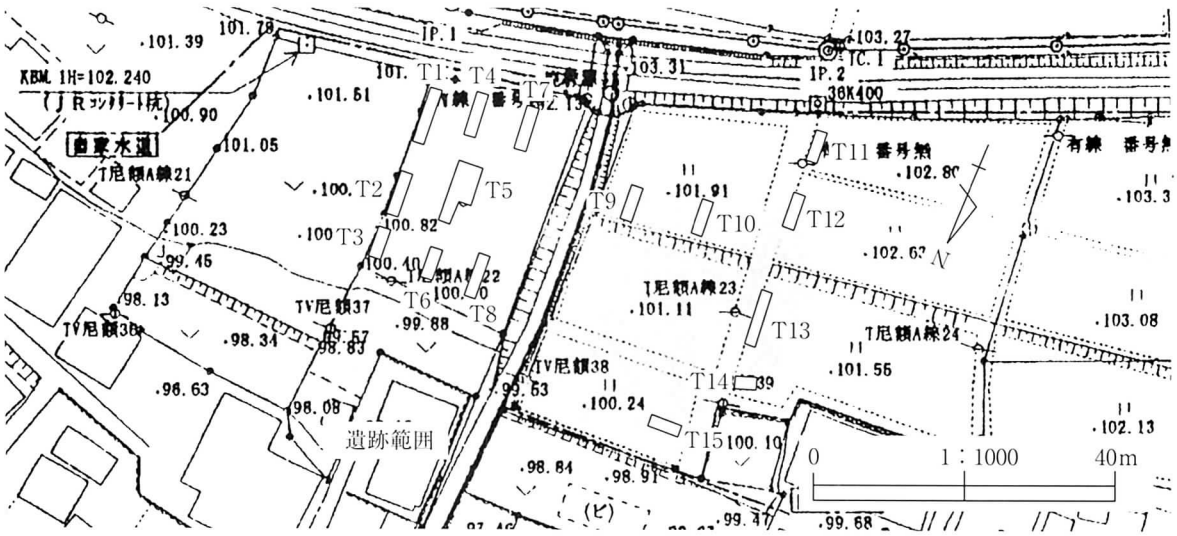
事業者；緑資源公団東北支社下閉伊北建設事業所

調査期日；平成15年11月10日

遺跡は、岩泉町役場より南西約2.4kmに位置する。小本川に形成された河岸段丘上に位置し、標高は約100ｍ前後を測る。調査区の現況は、畑地及び水田である。今回の調査は、ほ場整備によるもので、田面掘削箇所、水路敷設箇所、道路予定箇所に15本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ15）。

第76図　尼額上野遺跡位置図

調査対象区は小本川に向かってJR岩泉線を挟んで緩やかに傾斜している。調査区は東側が畑地、西側が水田となっている。水田部分は一度ほ場整備されている。そのため遺構及び遺物の存在する可能性が高い畑地側から調査した。調査の結果、Ｔ２で土坑１基、Ｔ５で遺物包含層を確認した。Ｔ２で確認された土坑は表土直下30cm、直径約70cm、埋土は薄い暗褐色で褐鉄鉱（タカシコゾウ）が混入していた。Ｔ２周囲の基本層序は第Ⅰ層の耕作土直下第Ⅳ層である。同じような層序はＴ２、Ｔ３、Ｔ６、Ｔ８でも確認できた。Ｔ５では、基本層序第Ⅲ層から縄文土器が数点出土した。この土層はＴ１、Ｔ４、Ｔ７と今回の調査区上部で確認できた。おそらく、洪水などで遺物などとともに、線路を挟んだ南側から流されて包含層となったと考えた。また、トレンチを広げ周囲を確認した際、他の場所の第Ⅲ層に比べ幾分黄褐色粘土質シルトが幾分色あせていた点、第Ⅲ層が第Ⅴ層と同じ高さにあった点、沢跡らしい黒土があった点などから、沢に土器を含んだ第Ⅲ層が流れ込んで包含層が形成されたと考えられる。Ｔ２と同じように埋土に褐鉄鉱が混入していた。調査区西側では、水田掘削箇所にＴ９、T10、道路予定箇所にT11、T12、T13を設定し調査したが遺構及び遺物は確認されなかった。水路敷設箇所のＴ14では約100cmで第Ⅳ層が確認された。遺構及び遺物は確認できなかった。同じくＴ15では地表下約200cmで第Ⅱ層を確認したが安全面を考慮して掘り下げを終了した。水田部分はほ場整備のため改変されていることが分かった。



第77図　尼額上野遺跡調査区位置図

14　主要地方道盛岡和賀線花巻市笹間地区

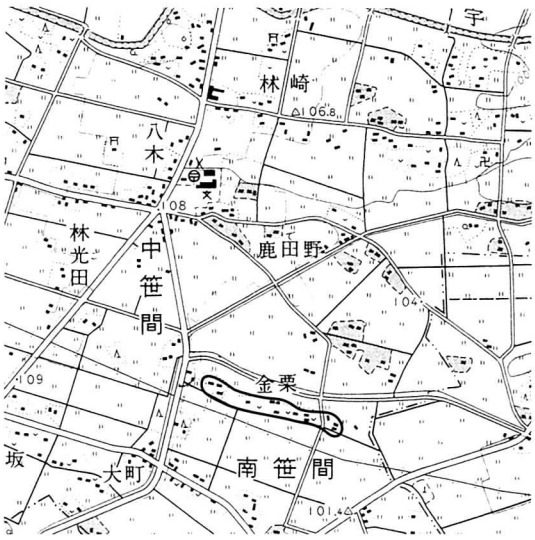
金栗Ⅰ遺跡（ＭＥ44－1350）

所在地；花巻市南笹間地内

事業者；花巻地方振興局土木部

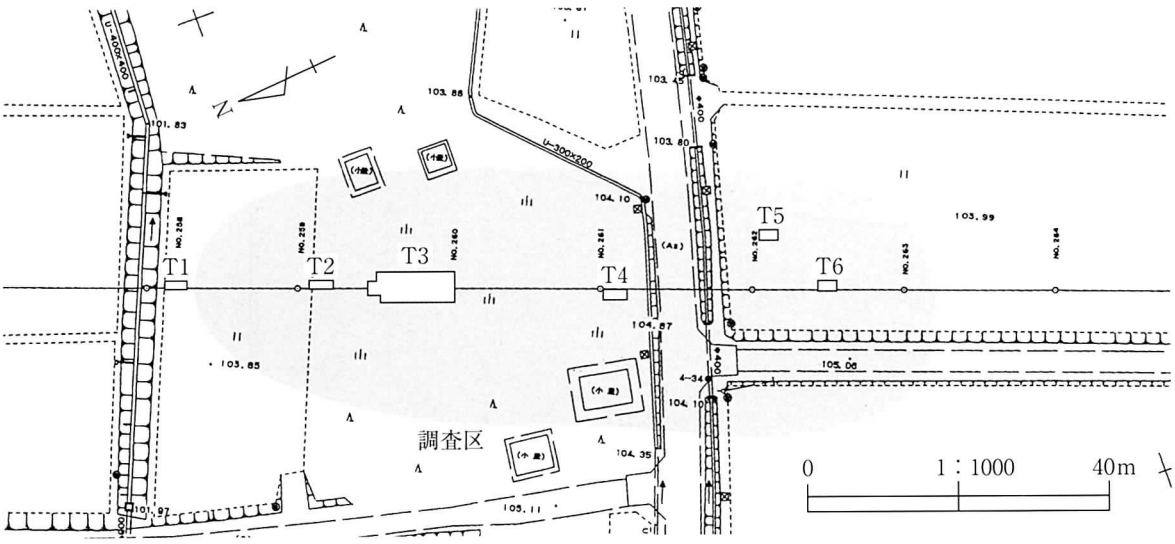
調査期日；平成15年12月17日

遺跡は、JR東北本線花巻駅の南西約7.5kmに位置し、豊沢川右岸の河岸段丘段上に立地し、標高は104ｍ前後を測る。現況は、主に水田、畑地となっている。古代の遺跡として周知されており、分布調査では、土師器、須恵器が出土している。今回の調査は、道路改築工事に伴うもので、道路新設部分が対象である。調査対象区は現在水田として利用されている場所と宅地として利用されていた場所に分けられる。調査対象区に６本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ６）。



第78図　金栗Ⅰ遺跡位置図

調査の結果、Ｔ２で大量の炭、Ｔ３で土坑１基、柱穴６基、Ｔ４で土坑１基を確認した。いずれも、時期を判断する遺物を伴わなかったため時期は不明である。Ｔ２は、水田と宅地跡を結ぶ斜面に設定した。Ｔ１では、耕作土直下地山であったが、Ｔ２では表土直下から炭化物層が確認された。掘りこみ面に焼土を確認できたことから炭窯跡の可能性が考えられる。Ｔ３は、宅地跡ほぼ中央に設定した。この場所は、周囲の地形から見て微高地を呈しており、遺構・遺物の所在する可能性が高いと考えた。深さ30cmの地山面で20×20cm大の柱穴を確認した。さらにトレンチを広げたところ、同じような大きさの柱穴を新たに５基確認した。また、同時に大きさ90×90cmの土坑も確認した。埋土は黒色土であった。周囲に黒色土が見られないことから、時期は不明だが宅地造成時に削平を受けていると推測される。Ｔ４は、Ｔ３での遺構の広がりを確認するために設定した。深さ30cmの地山面において、40×40cm大の土坑を確認した。平面プランはＴ３の土坑に比べ明確ではなかった。道路を挟んで設定したＴ５、６の水田部分は、一度ほ場整備が行われ、宅地跡に比べ約50cm下がっている箇所であった。調査の結果、いずれのトレンチも耕作土直下地山であった。このことから、水田部分は旧地形が大きく改変されていると判断した。（平成16年度本発掘調査予定）



第79図　金栗Ⅰ遺跡調査区位置図

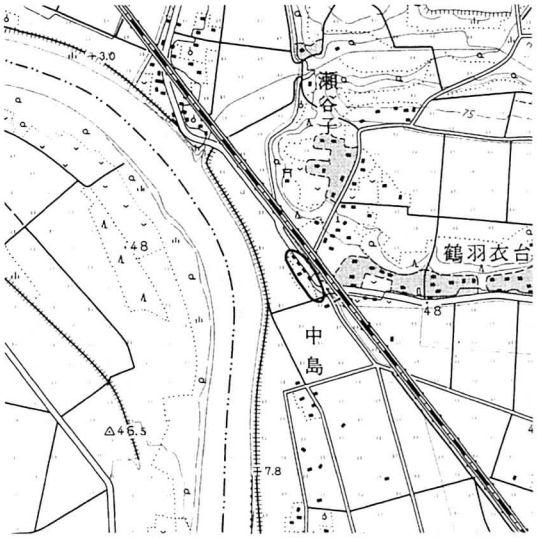
15　県道一関北上線改築事業

中島遺跡（ＭＥ86－8847）

所在地；江刺市稲瀬字中島地内

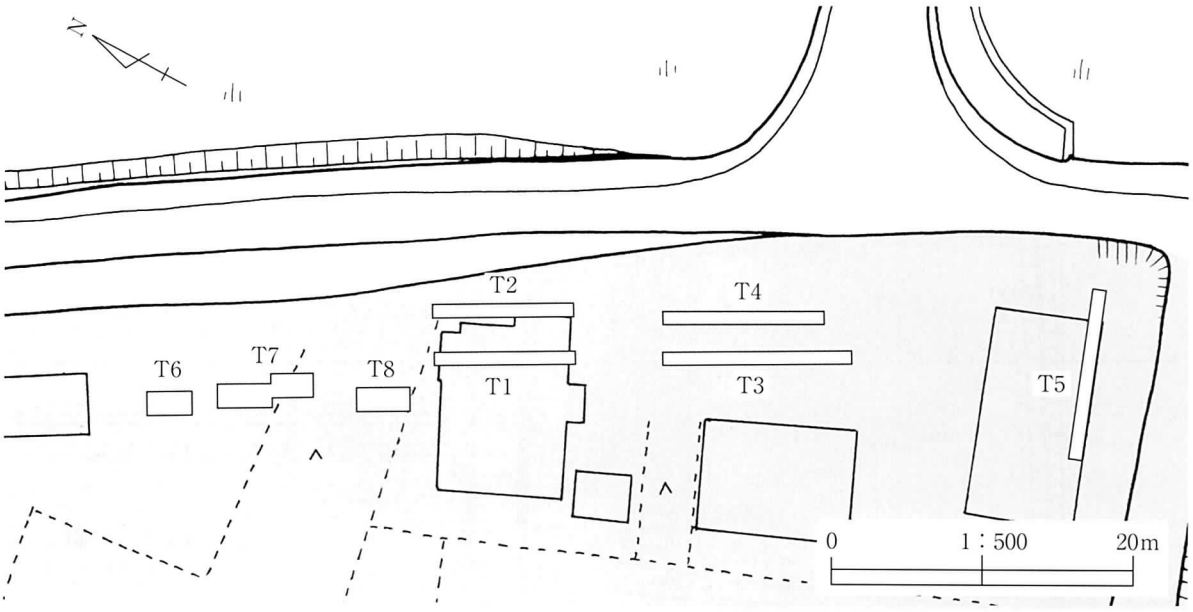
事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成15年７月15日（火）・10月14日（火）



第80図　中島遺跡位置図

中島遺跡はJR東日本旅客鉄道㈱金ケ崎駅の南西約3.1km、胆沢城跡政庁跡北４kmに位置し、北上川左岸の沖積地微高地上に立地する。遺跡の標高は48ｍ前後を測り、現況は宅地と畑地になっている。今回の調査は、県道一関北上線の改築事業に伴う道路拡幅工事によるもので、対象箇所に試掘トレンチを８本設定した（Ｔ１～Ｔ８）。Ｔ１では土坑１基、柱穴１基、溝跡１条を検出した。土坑は径110cmの円形を呈し、柱穴は径40cm程であった。溝跡は南北方向のもので幅60cm前後であった。Ｔ２では、２層中から剥片石器が出土したが、Ｔ１の溝跡の続きは検出されなかった。Ｔ４では土坑１基と溝跡１条を検出した。土坑は楕円形を呈し、長軸150cm、短軸100cm程であった。埋土から土坑墓の可能性が考えられる。溝跡は南北方向で幅３ｍ以上であった。宅地跡に設定したＴ５では、盛土整地層の下層は、削平を受けた３層ないし４層上面となっていた。明確な遺構は検出されなかったが、４層中から縄文土器が出土した。４層下層に縄文時代の包含層が存在している可能性が考えられたので、深堀を行ったが最終的に砂礫層となり、包含層は確認されなかった。Ｔ７からは径50cm～120cmの土坑が４基検出され、井戸跡と思われる遺構から径30cm～50cm級の礫が多数確認された。検出された遺構については、遺構周辺や遺構埋土から遺物が出土しなかったことから、時期は不明である。瀬谷子窯等が隣接することから、平安時代の遺構の可能性が推測される。また、縄文時代の土器・石器等が出土していることから、４層～５層中に縄文時代の包含層が存在する可能性が考えられる。（平成16年度本発掘調査予定）



第81図　中島遺跡調査区位置図

16　緊急地方道路整備事業

松山前遺跡（ＮＦ68－2270）

所在地；陸前高田市小友地内

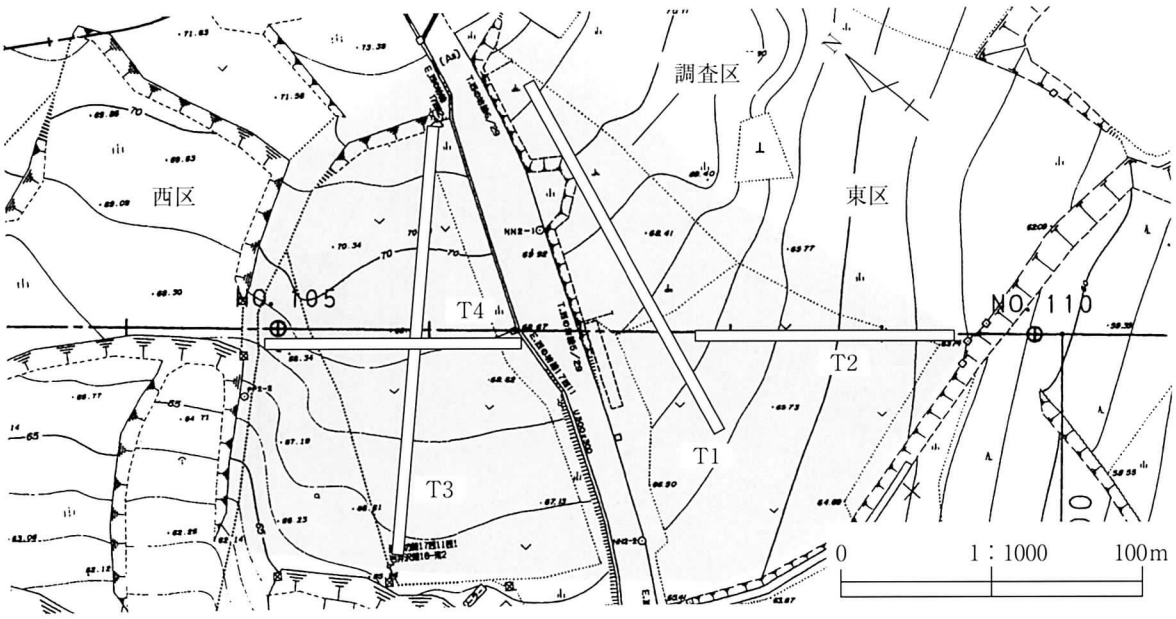
事業者；大船渡地方振興局土木部

調査期日；平成15年７月30日

本遺跡はJR大船渡線小友駅の北西約２km、両替漁港の東北東約800ｍに位置し、遺跡北方の箱根山から連続する山麓地の尾根上緩斜面に立地する。調査区はこれまで主に畑地として利用されてきており、全域で耕作による攪乱を受けている。尾根頂部を南北に縦断する市道により調査区は東区・西区に分けられる。今回の調査では、両区それぞれに縦横に走るトレンチを設定し、遺構・遺物の遺存状況及び分布状況の確認を行った。

第82図　松山前遺跡位置図

東区は南側に下る緩やかな斜面で、Ｔ１・２の２本を設定した。調査の結果、別図の通り住居状遺構２棟・土坑５基・円形周溝２基・柱穴状ピット数基の分布が確認された。このうちＴ１中央付近の土坑は覆土に多量の焼土及び炭化物を含み、土師器甕の大型破片を出土した。覆土の主体土は黒褐色ｼﾙﾄ（第Ⅱ層相当）で、住居状・他の土坑・柱穴状ピットも同様の覆土を持つことから、これらも同様の時期に帰属する可能性が高い。ただし円形周溝としたものは覆土が第Ⅰ層類似の暗褐色ｼﾙﾄであることから遺構とはならない可能性がある。以上のように東区では標高64～68ｍ付近に密な遺構分布が認められた。西区にはＴ３・Ｔ４を設定した。Ｔ３は西区中央を縦断する方向に設定したものであるが、表土直下に角礫混じりの黄褐色粘土層（第Ⅳ層・地山）が露出し著しい湧水が見られた。これは、地形図上の等高線の変化から看取されるように、トレンチが丁度沢跡を縦断するように位置するためであると判断される。Ｔ４と直交するＴ３では沢跡と重複する中央付近が最も低く、両端に向かって徐々に高くなり東区と同様の黄褐色粘土層が地山となっている。今回設定したＴ３・Ｔ４のいずれからも遺構等は検出されなかったが、東区で遺構分布が確認された地形面は西区の一部へと連続しており、未調査区域に遺構等が分布する可能性は高いと考えられる。（平成16年度本発掘調査予定）



第83図　松山前遺跡調査区位置図

17　緊急地方道路整備事業　沼袋地内

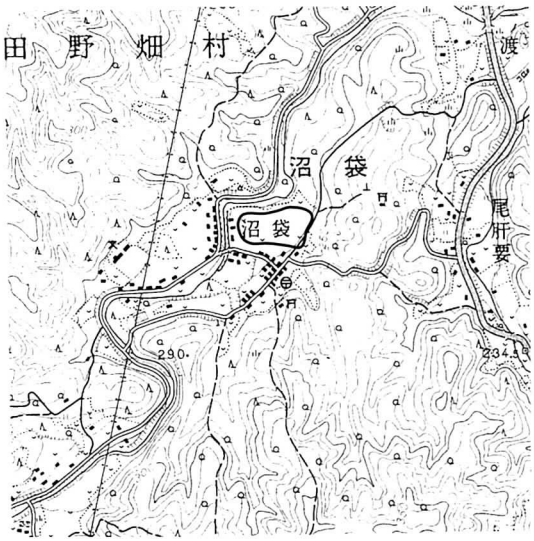
沼袋遺跡（ＫＧ21－0127）

所在地；下閉伊郡田野畑村沼袋地内

事業者；宮古地方振興局岩泉土木事務所

調査期日；平成15年11月５日

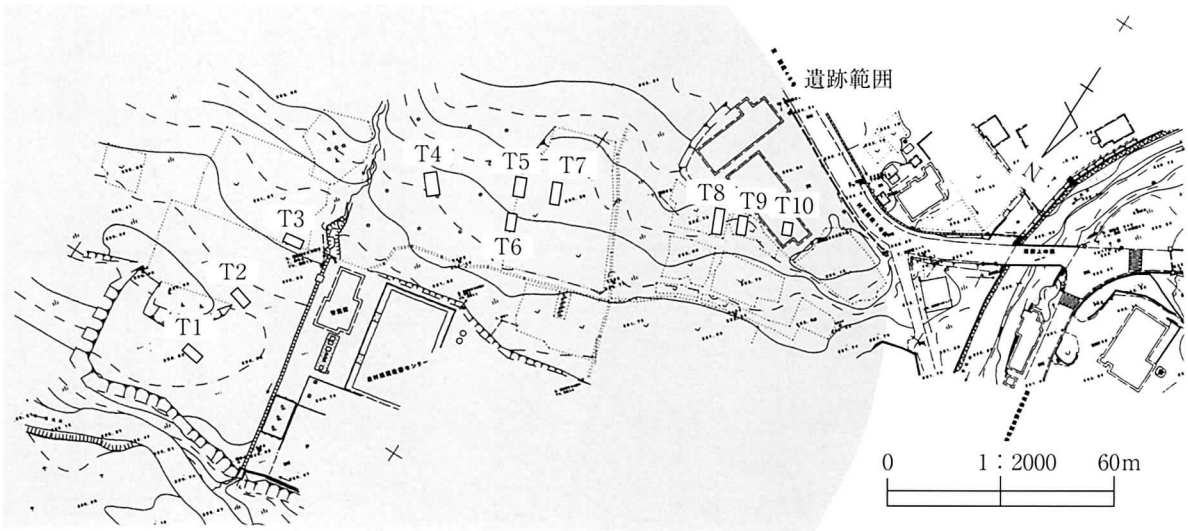
遺跡は、田野畑村役場より北西約５㎞に位置し、普代川に形成された沖積地に立地している。標高は約230ｍ前後を測り、現況は主に畑地となっている。今回の調査は、バイパス工事及び道路拡幅に伴うもので、調査対象地域に10本のトレンチを設定した（Ｔ１～T10）。



第84図　沼袋遺跡位置図

調査の結果、柱穴１基、土坑２基が確認され、縄文土器十数点が出土した。Ｔ６で確認された柱穴の大きさは40×40㎝あった。確認された場所はＴ６南東端から250㎝、検出面は深さ20㎝の暗褐色砂質シルトである。Ｔ７はNo.12の杭から８ｍ西に設定した、その道路センター杭付近で90×90㎝の土抗１基を確認した。この周囲は耕作土である黒褐色をはがすと赤褐色土が堆積している。検出面はこの赤褐色土で、検出面までの深さ30㎝あった。もう一基の土坑は現在畑となっているＴ９道路のセンター杭付近で確認された。大きさは100×100㎝あった。検出面は基本層序第Ⅲ層にあたる暗褐色土である。この上層の黒褐色土（表土直下30㎝）中からは縄文時代の土器が十数点出土している。

今回の調査で、遺構及び遺物はＴ６からＴ９の間でしか確認されていない。しかし、Ｔ４からT10の間は、歩くと土器が表採できることから、遺構がまだある可能性がある。また、現地の地形の判断や等高線から、沢を挟んだＴ１からＴ３側にも、広がる可能性がある。試掘で何も確認されなかったが、トレンチを伸ばして再度確認する必要があると思われる。また、Ｔ10の周囲でも地形などから遺構及び遺物が発見される可能性が高い。（平成16年度本発掘調査予定）



第85図　沼袋遺跡調査区位置図

18　経営体育成基盤整備事業

先屋遺跡（ＭＥ16－1065）

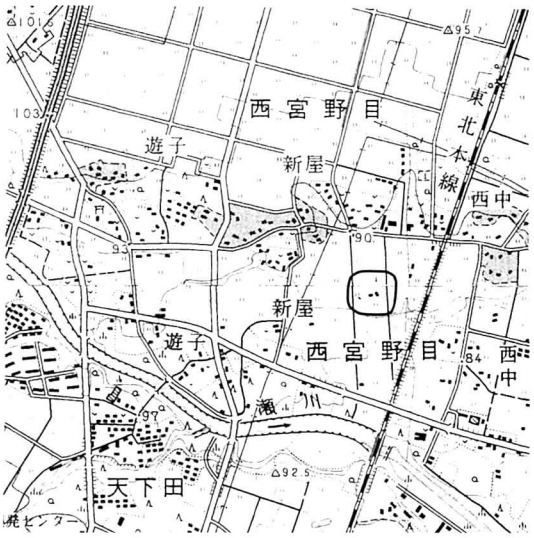
所在地；花巻市西宮野目第８地割地内

事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年12月12日

遺跡はJR東日本東北本線花巻駅から北へ約３kmに位置し、瀬川左岸の段丘上に立地し、標高は83～84m程である。現況は主として水田、宅地、墓地である。

この遺跡はこれまで数次の調査が実施され、次第にその内容が明らかになりつつある。つまり、現在ある屋敷を取り囲むようにコの字形に堀跡があり、それが西側では二重となる。一部では土塁も確認されている。また12～15世紀代の陶磁器、大型建物跡等が発掘されている。

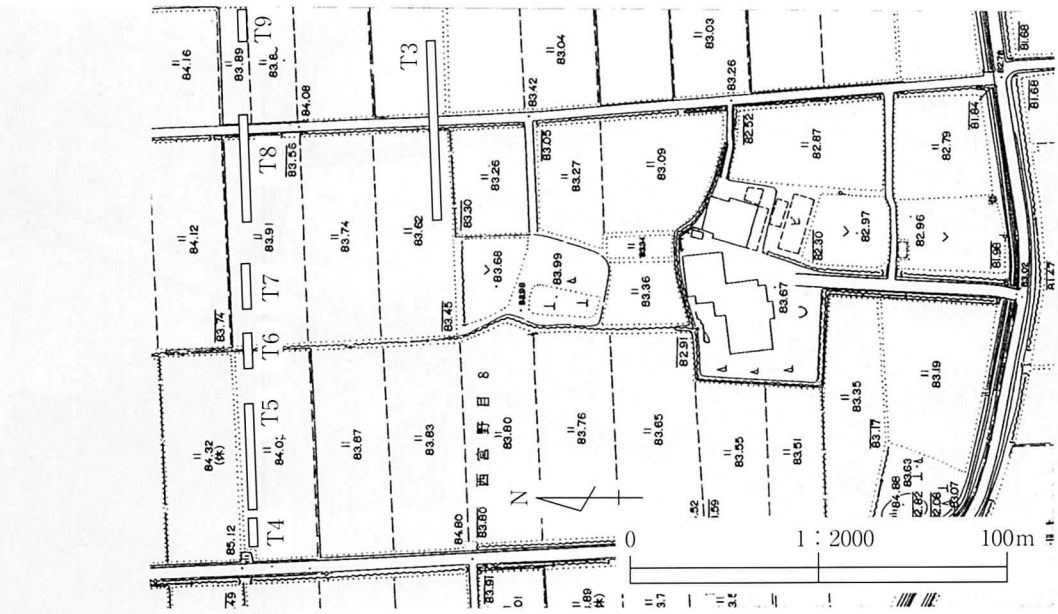


第86図　先屋遺跡位置図

今回、周知の埋蔵文化財包蔵地内で暗渠設置工事が行われることになり、設置個所での遺構、遺物の有無を確認するため、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査の結果、Ｔ３で堀跡が１条、発見された。堀跡は農道の屈曲する角から13～17mの箇所で北西－南東方向で発見され、埋土は褐色シルトで未腐食の木片等を含んでいた。堀の西側は旧用水路等の撹乱、周囲の水田の水の流入により、範囲を確定できなかった。また、堀跡東側に幅２～３mの黄灰粘土が堀跡に沿うように分布しているのが発見され、花巻市教育委員会の発掘調査で発見されていた土塁底部の土と同一のものと判断した。したがって新農道の屈曲する角から21mの箇所まで遺構が存在することになる。

Ｔ10では土師器片が出土したが、以前のほ場整備時に移動された土の中から出土したもので、流れ込みと考えられる。（工法協議予定）



第87図　先屋遺跡調査区位置図

19　ほ場整備事業八重畑地区関連調査

大西遺跡（ＭＥ06－2345）

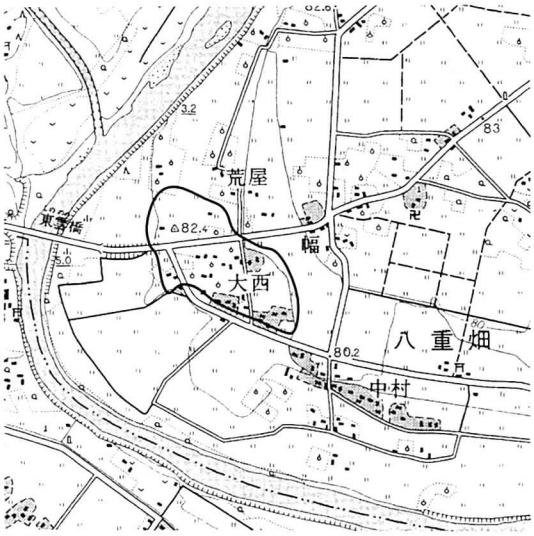
所在地；稗貫郡石鳥谷町八重畑地内

事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年11月13日～14日、平成15年11月27日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線花巻空港駅の東約2.2kmに位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地している。遺跡の現況は、宅地、畑地、水田となっており、標高は81m前後を測る。

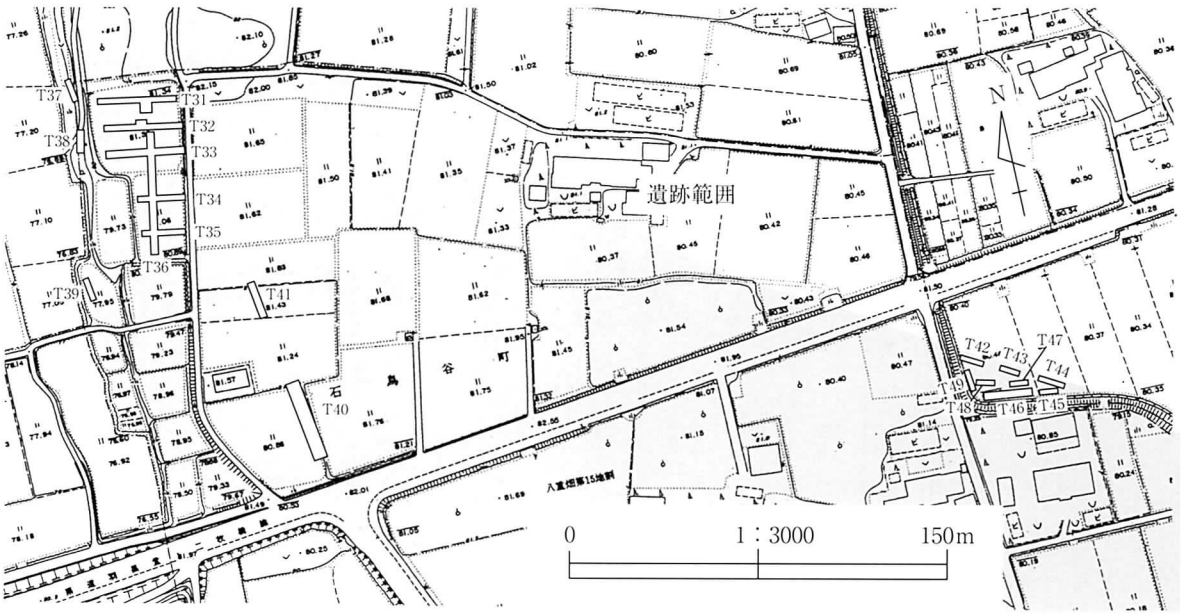
今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、昨年度調査未了となっていた箇所及びパイプライン埋設箇所・水路設置箇所が対象である。調査対象箇所に、19本のトレンチを設定した。（T31～T49；H14年度調査時のものに連続させてある。）



第88図　大西遺跡位置図

段丘縁の畑地に、T31～T36を設定した。T31～T32にかけて、幅約160cmの溝状遺構が検出されたが、時期及び性格は不明である。T32では、焼土及び炭化物を伴う土坑が１基検出され、その埋土上面には土師器片１点が含まれていた。この土師器片と同時期のものと思われる土師器片数点が、同トレンチ西側で出土しているが、いずれもかつての水田床土下で出土している。

この段丘縁の畑地は、もともと傾斜地で、畑地として利用されていたが、昭和30年代後半に開田されて水田として利用された後、再び畑地として利用されている場所であり、水田造成時に旧地形は改変を受けたと推測されたが、試掘結果から、T36を設定したあたりが周囲と比較して標高の高い部分で、南側には緩やかに傾斜し、西側の段丘縁に向かってはややきつい傾斜していた地形であったと思われた。住居跡等については、今回の試掘調査では確認できなかったが、畑地造成等により、残存状況はあまり良好ではないと思われるものの、地形等から所在している可能性が高いと推測した。（平成16年度本発掘調査予定）



第89図　大西遺跡調査区位置図

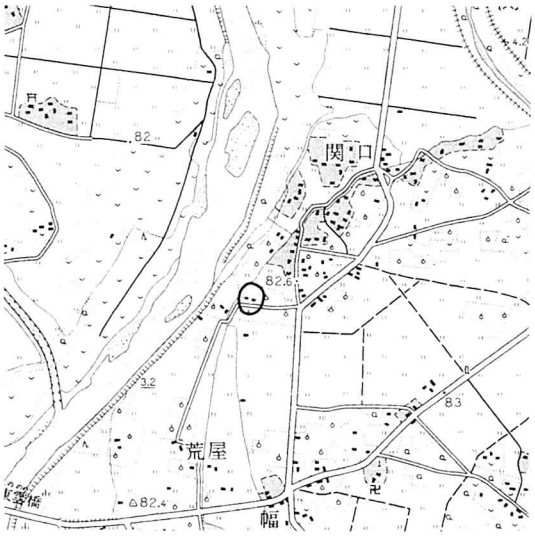
20　経営体育成基盤整備事業　八重畑地区

関口遺跡（ＭＥ06－1368）

所在地；稗貫郡石鳥谷町関口地内

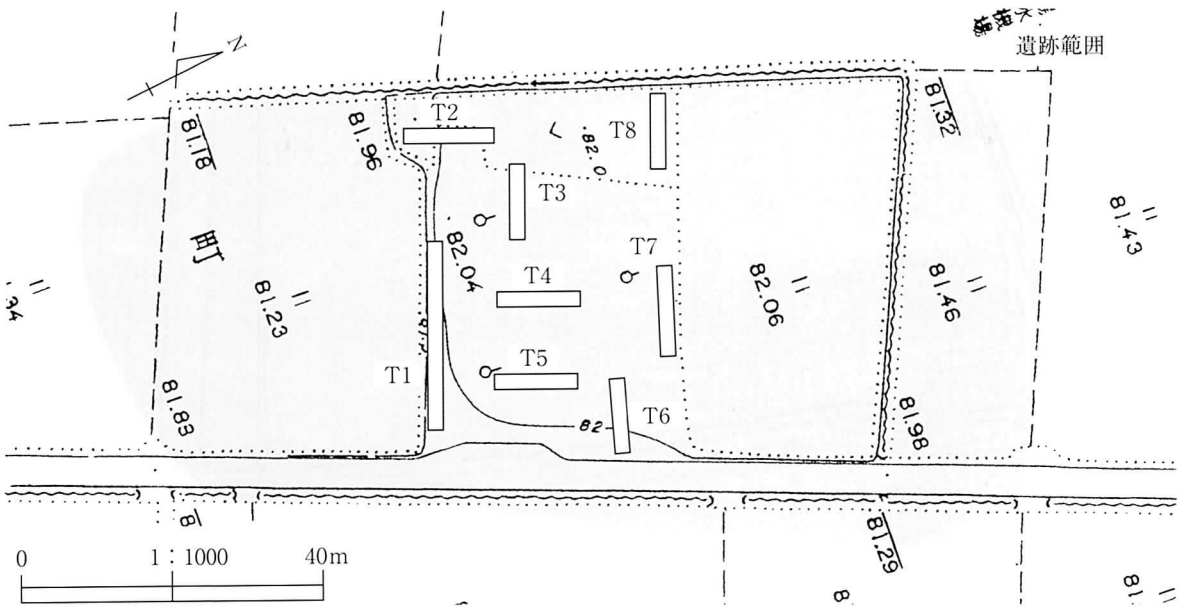
事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年11月26日



第90図　関口遺跡位置図

遺跡は石鳥谷町役場の南東約2.8kmに位置し、北上川右岸の低位段丘上に立地する。遺跡の標高は81m～82m前後を測り、現況は主に水田と果樹園になっている。今回の調査は、ほ場整備に伴うものであり平成14年の試掘調査により調査未了区となっていた果樹園部分が調査区である。調査対象箇所に９本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ９）。調査区は、果樹園に開殖する際、水はけをよくするために旧耕作土上に40～55cmの盛土をしたところであり、どのトレンチも盛土の下層に旧地形が保たれていた。層序はどのトレンチも基本層序と同様であった。Ｔ１からはトレンチ中央部分近くから長軸100cm、短軸45cmの陥し穴状遺構が検出され、Ｔ５からは径40cm大と径60cm大の土坑が２基検出された。検出面は第Ⅲ層の黄褐色土の地山上からであり、埋土はにぶい黄褐色土であった。Ｔ６からは径30cm大の柱穴状遺構が確認された。埋土はやはりにぶい黄褐色土であった。Ｔ９からは径60cm大のほぼ円形状の土坑が検出された。さらに範囲を広げて調査したところ、１ｍくらいの間隔でほぼ等間隔で径40cm～60cmの土坑が２基検出された。埋土はにぶい黄褐色土だった。遺構は調査区全域に及ぶものと考え、これまでに設定したトレンチの精査を再度行ったが遺物を確認することはできなかった。調査区は現在果樹園として利用されており、前回のほ場整備での削平を受けていない箇所であった。遺構の検出は調査区の南東方向に集中したが、旧地形が比較的保たれていることから調査区全体に埋蔵文化財が所在するものと推測される。



第91図　関口遺跡調査区位置図

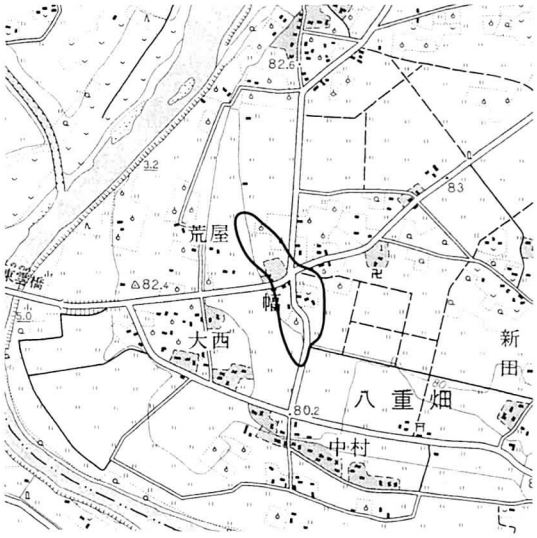
21　経営体育成基盤整備事業　八重畑地区

荒野遺跡（ＭＥ06－2358）

所在地；稗貫郡石鳥谷町八重畑地内

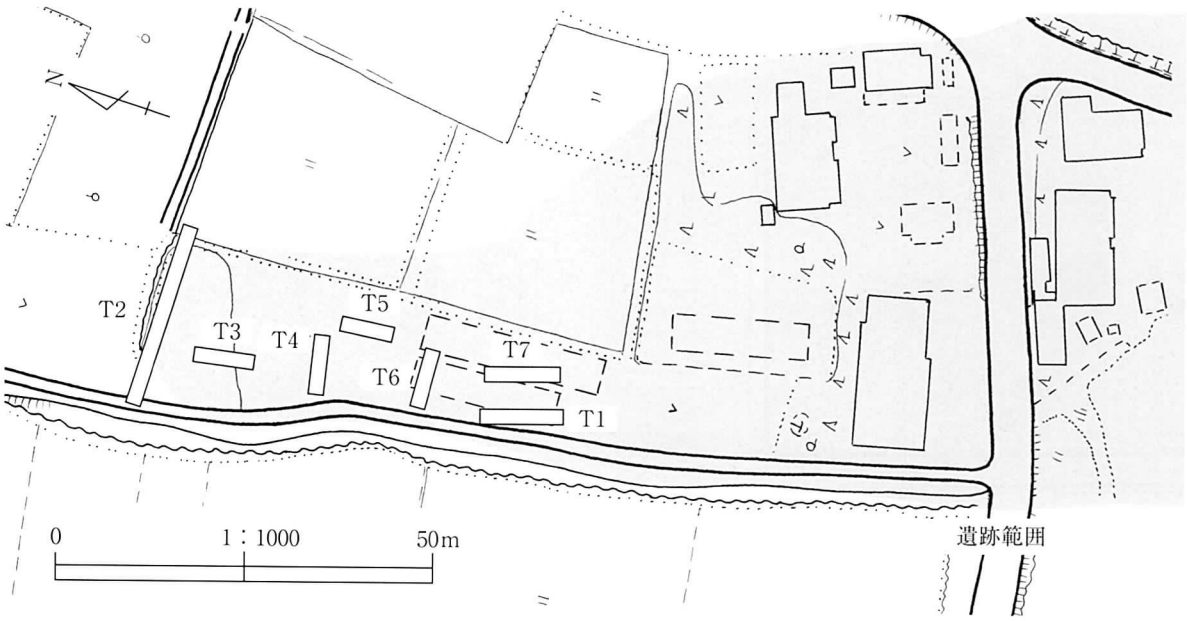
事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年11月26日



第92図　荒野遺跡位置図

遺跡はJR東日本鉄道㈱東北本線花巻空港駅の東方約2.5㎞に位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地する。遺跡の標高は81ｍ前後を測り、現況は主に宅地、水田、畑地となっている。今回の調査は、ほ場整備に伴うものであり、平成14年の試掘調査により調査未了区となっていた畑地部分が対象である。調査対象区に７本の試掘トレンチを設定した。該当箇所は、表土直下地山になっており、前回のほ場整備において削平され、その上に山砂を含む盛土をしたところである。どのトレンチも基本層序と同様の層序をしていた。Ｔ１からは径20㎝大の柱穴状土坑２基、径30㎝大の柱穴状土坑を１基、径40㎝大の土坑を２基、径50㎝大の土坑を３基、径60㎝大の土坑を２基検出した。検出面は、盛土直下の地山であり、埋土の色は地山の黄褐色よりやや黒いにぶい黄褐色であった。Ｔ２はパイプを埋設する箇所であることから全面試掘を行った。トレンチの西側部分は５㎝前後の礫が第Ⅱ層上面に確認されたことから、深く削平を受けていると思われた。東側に進むにつれて、礫はなくなりトレンチ東端において陥し穴状遺構を検出した。規模は長軸が180㎝で短軸が60㎝で、表土から検出面である地山までの深さは30㎝であった。Ｔ６からは、径60㎝と径50㎝級の土坑２基検出し、Ｔ７からは50㎝級が２基と60㎝級が２基検出された。いずれの検出面も表土直下の30㎝であり、埋土は暗褐色土のシルト質で微量の炭化物を含んでいた。遺構の検出がほぼ全域にわたることから調査区全域を要本調査範囲とした。



第93図　荒野遺跡調査区位置図

22　ほ場整備事業八重畑地区関連調査

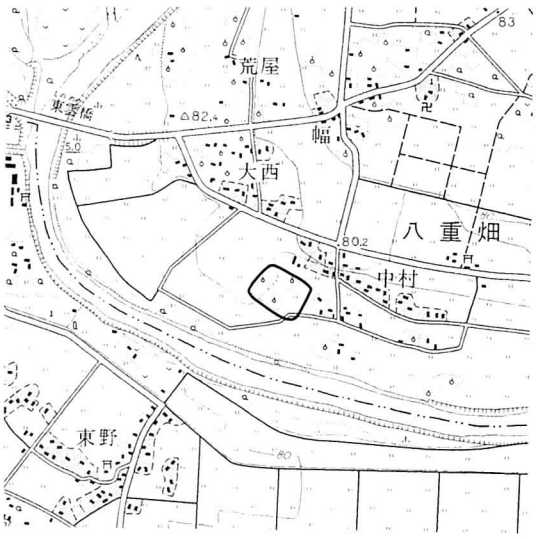
中村遺跡（ＭＥ06－2387）

所在地；稗貫郡石鳥谷町八重畑地内

事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

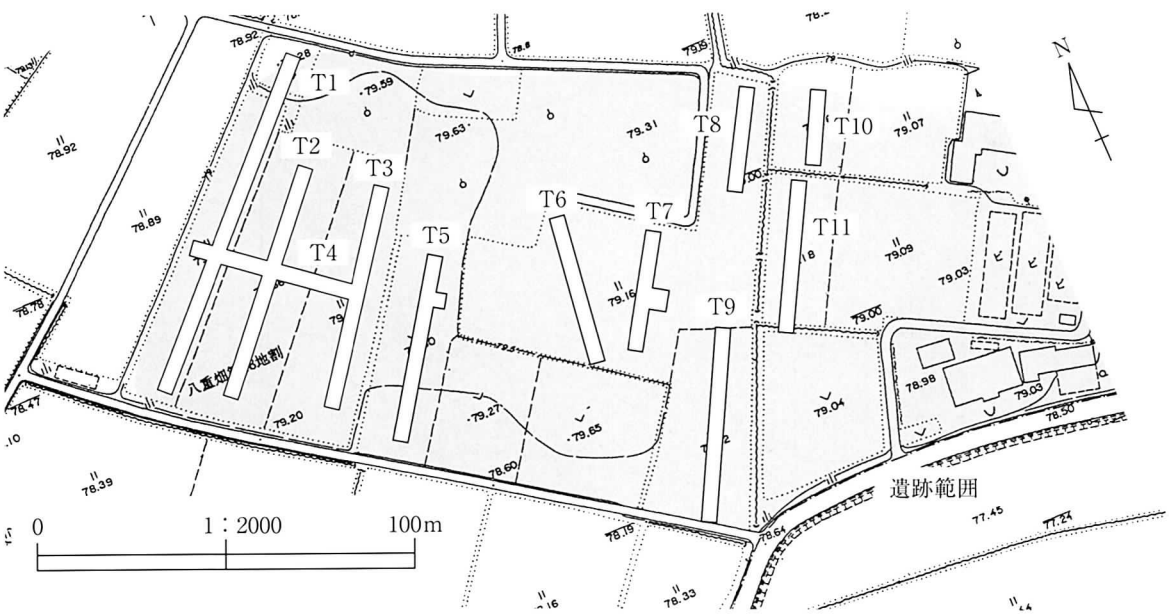
調査期日；平成15年11月26日～27日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線花巻空港駅の東約2.7㎞に位置し、遺跡の南側を西流する北上川により形成された河岸段丘の低位面縁辺部に立地している。今回の調査は、ほ場整備事事業に伴うものであり、昨年度調査未了となっていた箇所が対象である。切土予定の田面、砂利敷農道設置予定箇所を調査区とし、13本のトレンチを設定した（Ｔ１～T13）。遺跡範囲内の西端部にある水田に、Ｔ１～Ｔ４を設定した。いずれのトレンチにおいても表土（耕作土）、暗灰色粘土層（水田床土）、褐色粘土質シルト（検出面）、黄褐色粘土質シルトであった。



第94図　中村遺跡位置図

遺構及び遺物が確認できなかったため、トレンチ内において、十数か所程可能な限り、重機で深堀を行ったところ、第Ⅳ層は３ｍ以上は堆積していることがわかった。遺跡内中央部に近い水田部分にＴ６～T11を設定した。Ｔ１～Ｔ４を設定した田面より、標高が約0.8ｍほど低い田面である。第Ⅲ層の上面では、遺構及び遺物は確認できなかったが、約10㎝ほど掘り下げたところ、Ｔ７において径30㎝大の柱穴が２基、Ｔ８において径20㎝大の柱穴が４基確認された。T10においては、径15㎝の柱穴が確認され、その埋土には縄文時代の土器片が含まれていた。遺跡の南端縁辺部にかけてT9を設定したところ、農道設置予定箇所において、表土直下で大量の炭化物粒及び焼土が確認され、その上面から縄文土器が出土した。残念ながら過去の水田造成により地形改変を受けているため、明確なプランを確認することはできなかったが、竪穴住居跡であると推測した。検出された遺構及び遺物は、褐色粘土質シルト層の上面から約10㎝ほど掘り下げたところで検出されている。



第95図　中村遺跡調査区位置図

23　中山間地域総合整備事業 町井地区関連調査

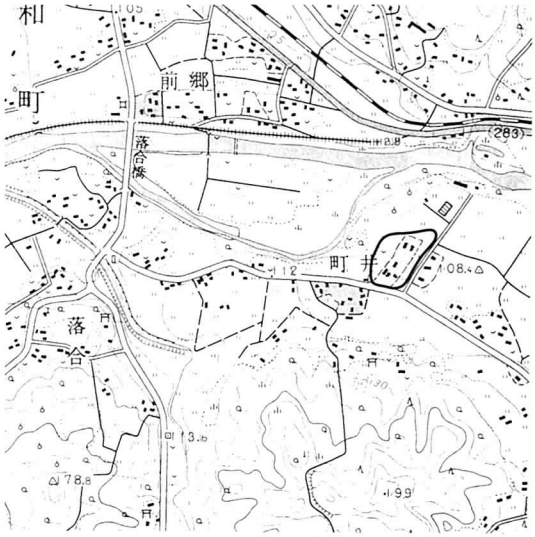
畑中遺跡（ＭＥ38－0373）

所在地；和賀郡東和町町井２区地内

事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年10月30日～31日、平成15年11月28日

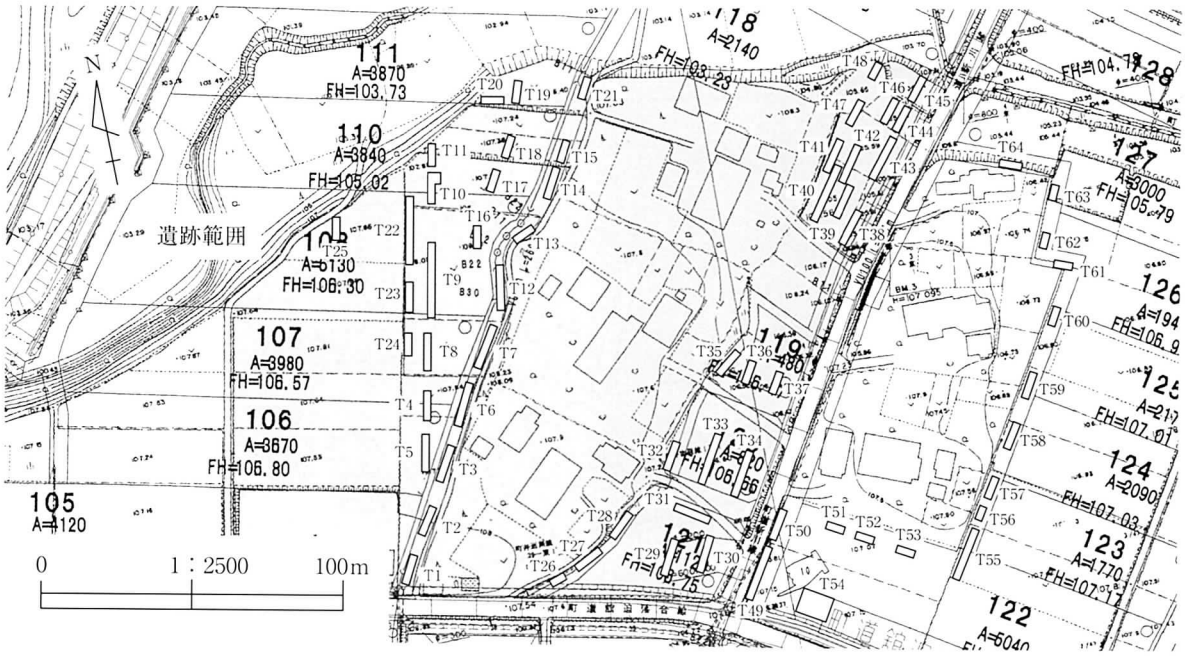
遺跡は、東和町役場から南東へ約1.8km離れた河岸段丘の縁辺部に立地しており、遺跡の北側約10ｍを猿ケ石川が西流している。遺跡の標高は、106ｍ前後を測り、現況は宅地、水田及び畑地となっている。



第96図　畑中遺跡位置図

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土となる田面、農道拡幅予定部分及び排水路設置予定箇所が対象である。遺跡範囲及びその隣接地に幅約220cmのトレンチを48本設定した（Ｔ１～Ｔ48）。宅地部分を境にして西側の水田部分（東側調査区）のトレンチにおける層序は、表土（水田耕作土）、暗青灰色土（水田床土）、青灰色粘土質シルトの順であった。北側の縁辺部に設定したトレンチにおいては、粘土質シルト下層に、砂礫層があらわれた。かつて、このトレンチを設定した箇所には、沢が流れ水車小屋があったとの話しを地元の人から伺った。

宅地部分から西側の畑地部分（西側調査区）についてであるが、旧来の遺跡範囲隣接地に設定したトレンチから、遺構及び遺物が確認された。Ｔ10においては、時期不明であるが、径80cm大の円形土坑１基が検出された。Ｔ18においては、第Ⅱ層及び第Ⅲ層から縄文時代中期のものと思われる数十点の土器片が出土し、径80cm大の円形土坑1基が検出された。T15においては、縄文土器片１点が出土したが、遺構は確認できなかった。西側調査区において最も標高の高い畑地からは、掘立柱建物１棟が検出された。これらのことから、住居跡等の集落が所在している可能性があると推測した。（平成16年度本発掘調査予定）



第97図　畑中遺跡調査区位置図

24　ほ場整備事業 江釣子第一地区関連調査

新平遺跡（ＭＥ55－0081）

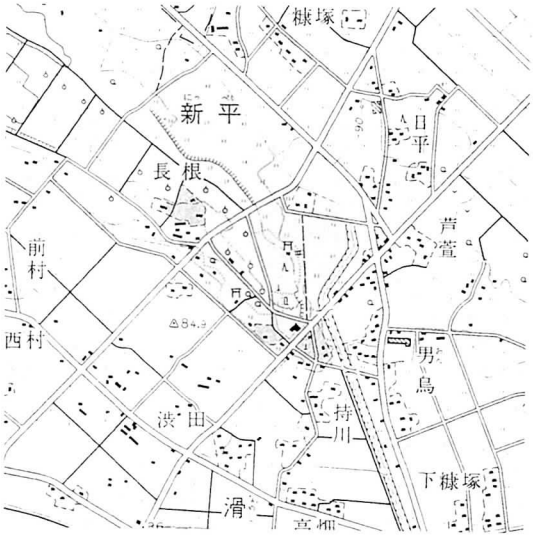
新平屋敷遺跡（ＭＥ55－0062）

所在地；北上市江釣子地内

事業者；北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年５月６日～13日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北新幹線北上駅より北東約6.6kmに位置し、北上川支流の新堰川が形成した沖積地上に、舌状に張り出した丘陵上に立地している。新平遺跡は、過去に発掘調査が実施され、その発掘成果等から古代駅家擬定地として、遺跡の一部が昭和38年に県指定史跡の指定を受けている。本遺跡は、平成12年度実施の分布調査により、遺跡範囲が拡大している。



第98図　新平・新平屋敷遺跡位置図

また、新平屋敷遺跡は、近世の環濠屋敷として名高く、土塁も一部残存している。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、水路敷設箇所、農道新設箇所及び切土予定の田面を対象とし、調査対象区域に159本のトレンチを設定した（Ｔ１～T159）。

この報告では、新平屋敷遺跡周辺で検出された遺構及び出土遺物が、新平遺跡あるいは新平屋敷遺跡のどちらに属するか明確な区分を見いだせなかったため、一括で報告するものである。標高91m前後を測る水田に設定したT24では、縄文土器及び土師器が出土し、竪穴住居跡２棟が表土から110cm下で検出された。その煙出部と思われる部分には焼土が認められた。T26においては、表土から35cm下で住居跡１棟が検出され、この遺構の周囲から縄文土器も出土している。T25では、住居跡は検出されなかったが、縄文土器の遺物包含層（厚さ約50cm）が確認された。現在畑地となっている箇所にT29を設定した。T29においては、遺構は確認できなかったが、この畑地の表土には多量の土器片が含まれていることを確認した。T24～T26、T29での調査で検出された遺構等から、この範囲においては、少なくとも古代と縄文時代の２枚の遺構検出面が所在すると思われる。

標高87m～90m前後の水田部分に設定したT22、T57、T131、T156、T157でも古代のものと推測される住居跡状遺構が検出された。現在、本遺跡は、盛土を施された県道で東西に隔てられているが、地形は連続しており、検出状況から、トレンチを設定しなかった部分にも住居跡等の遺構が所在しているものと思われる。T16～T17、T58～T59では、連続していると思われる溝跡が検出された。

県道を隔てた東側部分についてであるが、新平屋敷遺跡南側の現在農道となっている旧道沿いに設定したT99において、幅70～80cm程の溝が検出された。この旧道は、新平屋敷の環濠脇を通っていたようであるが、駅家擬低地までの重要路であったことから、T99において検出されたこの溝は、道路付属施設（道路側溝）の可能性もあると推測した。

低地の水田に設定したT120では、トチノミ、クルミ等の堅果類の種皮、種子類及び多くの炭化物と人為的に切り倒された樹木が出土し、その近くでは溝跡が検出されており、トレンチ設定箇所以外にも埋蔵文化財が所在している可能性が高い。

以上のことから、本遺跡は、縄文時代と古代の大規模な集落跡であると思われる。（平成16年度本発掘調査予定）

第99図　新平・新平屋敷遺跡調査区位置図

25　ほ場整備事業 二子地区関連調査

中島遺跡（ＭＥ56－1263）

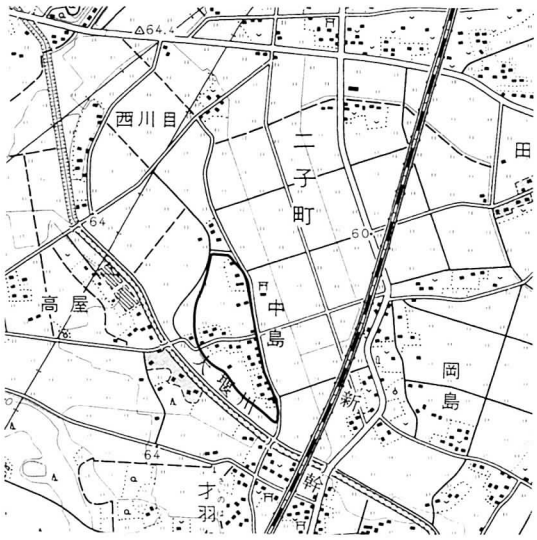
所在地；北上市二子町字中島地内

事業者；北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年５月６日～５月７日

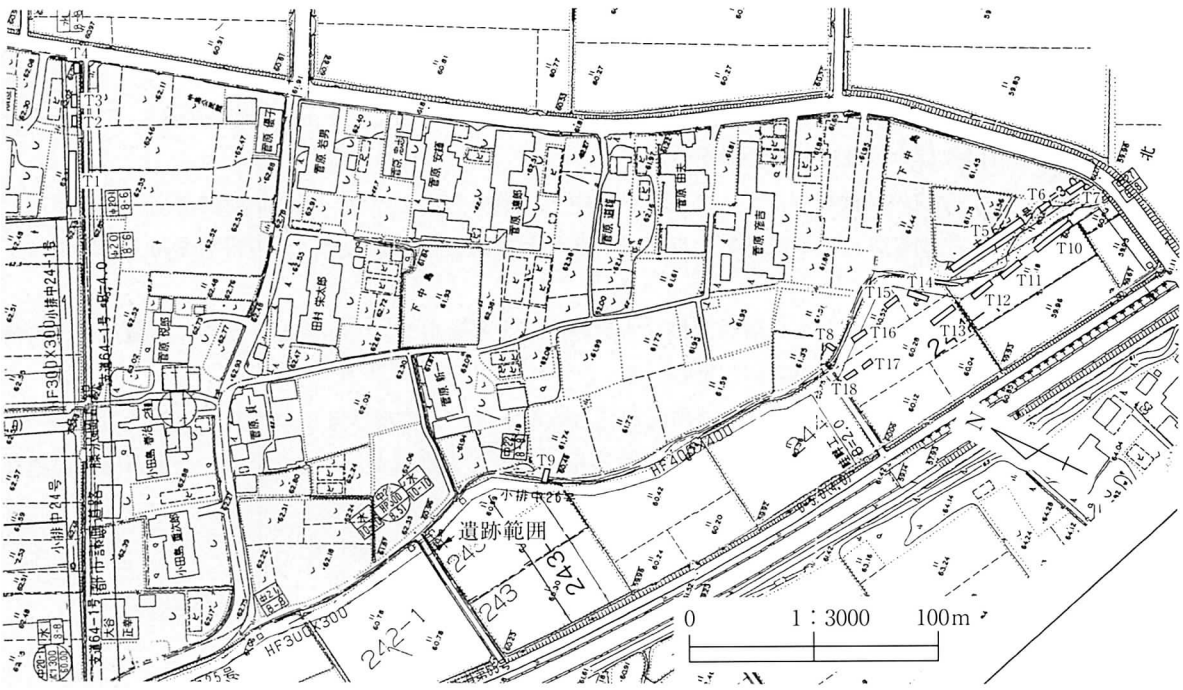
遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北新幹線北上駅より北東約3.6kmに位置し、北上川支流の大堰川左岸の微高地に立地しており、西川目遺跡と隣接している。標高は、61m前後を測り、現況は主に畑地及び水田となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、農道及び排水路設置予定箇所が対象である。調査対象区及び遺跡隣接箇所に18本のトレンチを設定した（Ｔ１～T18）。



第100図　中島遺跡位置図

Ｔ１～Ｔ４は、北側の砂利敷農道及び排水路設置予定個所に設定した。トレンチにおける層序は、水田耕作土である表土、暗褐色土、漸移層、地山である褐色土となっていた。これらのトレンチからは、遺構及び遺物は確認できなかった。Ｔ５～Ｔ８は、南側の砂利敷農道予定箇所が対象である。Ｔ５からは、焼土を伴う竪穴住居跡１棟、土坑１基が検出された。住居跡は、１辺が約３ｍ 前後で、隅丸方形のプランを示していた。住居跡の埋土には、土器片が含まれており、炭化物粒も多く含まれていた。Ｔ６～Ｔ７では、遺構及び遺物は確認できなかったが、Ｔ８～Ｔ９は、給水栓設置予定箇所に設定した。Ｔ８において、表土下の盛土層から摩滅した土器片が出土したが、畑地造成時に流れ込んだものと思われる。遺跡範囲外ではあったが、表土に遺物が散在していた隣接の水田にトレンチを設定した（T10～T18）。層序は、水田耕作土、泥炭層、グライ化した粘土層であり、遺構は確認できず、遺物は流れ込んだものと推測した。（工法協議予定）



第101図　中島遺跡調査区位置図

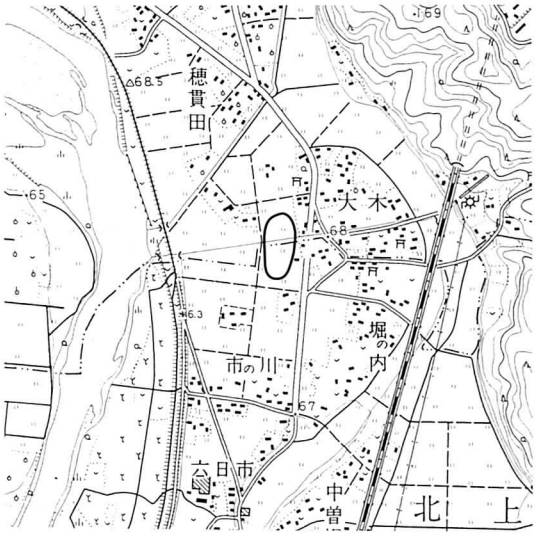
26　ほ場整備事業 二子地区関連調査

山口遺跡（ＭＥ36－2394）

所在地；北上市更木、花巻市東十二丁目地内

事業者；北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年12月15日～16日、12月25日～26日、
平成16年１月７日、20日～21日、
２月９日～10日　　計９日



第102図　山口遺跡位置図

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線村崎野駅の北東方向約４kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上の立地しており、現況は水田及び宅地となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであるが、ほ場の詳細設計がまだ完成する前に行ったものであり、水路設置予定箇所及び盛土予定以外のすべての田面を対象に、旧来の遺跡範囲を中心に遺構の拡がり等を確認しながら、調査を実施した。調査対象区域に68本のトレンチを設定した（Ｔ１～T68）。

精査の結果、旧来の遺跡範囲を越えて、遺構の拡がりが確認された。遺跡内において、比較的標高の高い田面に設定したT15では、表土直下20cmで古代の竪穴住居跡が2棟重複して検出され、検出面の埋土上面には土師器片が含まれていたが、遺構埋土のほとんどは、過去の開田及びほ場整備事業による削平を受けていた。T17においては、表土下約80cmで竪穴住居跡が１棟検出された。柱穴の多くも、標高の比較的高い田面で確認されている。T20では、幅40cmで、５×５ｍの規模の方形周溝が１基検出された。この方形周溝が検出された水田も比較的標高の高い水田である。また、T20を設定した田面の東側のT13では、埋土上面に十和田ａ降下火山灰が埋土上面に見られる溝が１条検出された。畝間状遺構の一部ではないかと推測し、周囲に同様の遺構があるかどうかトレンチを拡大して確認しようとしたが、過去に行われたほ場整備事業等で受けた地形改変のためか、確認できなかった。

遺跡範囲隣接地である南側の水田に設定したT40では、縄文時代の陥し穴状遺構が検出されたが、遺物等は、今回の調査では確認できなかった。

遺跡範囲隣接地である北側の水田に設定したT52～T67では、地山まで約１ｍ以上もあった。これらのトレンチからは、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、今回の試掘調査によって遺構が集中して検出されたのは、現在比較的標高の高い水田であり、この水田は北上川によって形成された自然堤防部分と推測され、集落は、この自然堤防上に広がっていたと考えられる。

また、この集落部分と推定される区域の北側で方形周溝が１基検出されていることから、墓域がこの集落部分の北側に所在していた可能性が高いと思われる。

さらに、T13で検出された十和田ａ降下火山灰が見られた溝は、その形状及び規模から畝間状遺構の一部である可能性も否めないことから、集落内における生産の場として畑地が、T13を設定した水田周辺に所在していたと推測した。

本遺跡は、縄文時代と古代の複合遺跡であることが今回の調査により判明した。

第103図　山口遺跡調査区位置図

27　経営体育成基盤整備事業　更木新田地区

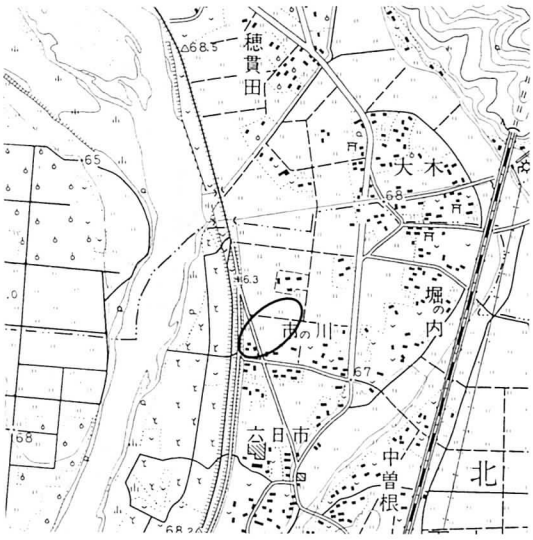
市の川Ⅰ遺跡（ＭＥ46－0343）

所在地；花巻市南笹間地内

事業者；北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年12月16日

遺跡は、JR東日本鉄道㈱東北本線村崎野駅より北東約4.7㎞に位置し、北上川左岸の沖積地微高地上に立地している。標高は67ｍ前後を測る。現況は主に水田となっている。今回の調査は、ほ場整備に伴い実施したもので、遺跡の範囲を確定することを目的とし、田面及び、排水路新設箇所が対象である。排水路は既存の土側溝を掘削して新設するが、来年も使用するため、土側溝から１ｍ離した場所にトレンチを設定した。調査対象区に25本のトレンチを設定した（Ｔ１～T25）。

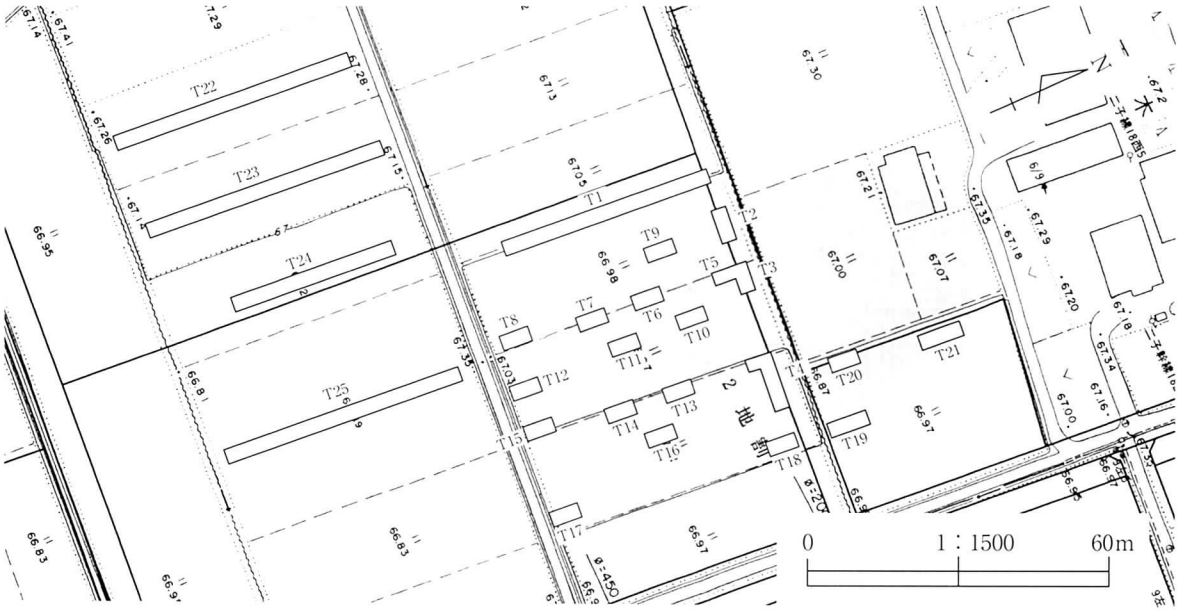


第104図　市の川Ⅰ遺跡位置図

調査の結果、排水路新設箇所のＴ２において、西端から1.2ｍ、深さ60㎝の地点で、平面が長軸３ｍ 短軸1.5ｍの楕円形の土坑１基、長軸２ｍ短軸0.7ｍの楕円形の土坑１基を確認した。埋土は共に黒褐色であった。トレンチを広げ遺構の有無を確認したが、調査した田面では確認できなかった。Ｔ２から調査未了区の田面方向に向かって緩やかに高くなっていくことから、遺構は調査未了区に広がることが推測される。

T12において、耕作土中から縄文土器が２片出土した。耕作土中から出土したこと、トレンチを広げ遺構を確認したが無かったこと、他の試掘箇所では、縄文の遺物、遺構は基本層序第Ⅳ層もしくはⅤ層で確認されていることなどから考えて、遺構に伴うものではないと判断した。この周囲は、昭和初期に開田されていることから、周囲に縄文の遺跡が存在することが推測される。

そのほかのトレンチからは、遺構及び遺物は確認できなかった。



第105図　市の川Ⅰ遺跡調査区位置図

28　経営体育成基盤整備事業　更木地区

小川屋敷遺跡（ＭＥ46－0325）

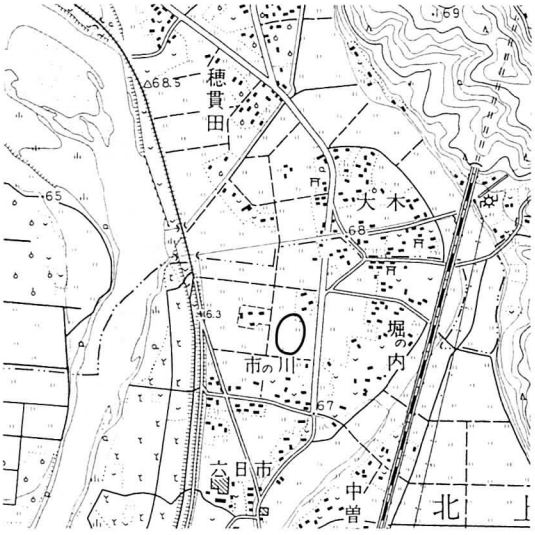
所在地；北上市更木新田地内

事業者；北上地方振興局農村整備事務所

調査期日；平成15年12月15日（月）・16日（火）

平成16年１月20日（火）・21日（水）

〃　　２月９日（月）・10日（火）



第106図　小川屋敷遺跡位置図

遺跡は北上市役所の北北東約6.8kmに位置し、北上川左岸の沖積平野に立地する。遺跡の標高は67m前後で、現況は主に水田と宅地になっている。今回の試掘調査は、ほ場整備事業に伴い農道及び水路設定箇所、切土となる田面が対象であり、事業予定箇所に試掘トレンチを46本設定した（Ｔ１～T46）。

調査の結果、T23、T26、T33、T36から竪穴住居跡を検出した。規模は一辺3.5m～最大８mの円形又は方形状で、いずれの住居跡も埋土に焼土を含んでいた。T33とT36の住居跡からは土師器が出土した。T34からは陥し穴が検出されたが、その規模は長軸375cm、短軸40cmで溝状を呈するものであった。T23では、径35cmと径50cmの円形土坑２基と60cm×35cm、58cm×42cmの楕円形の土坑２基を検出した。また、トレンチを横断する形で幅が55cm～35cmの溝跡を検出している。T25からは径80cmの円形の土坑を検出し、T32からは、110cm×80cmの土坑を検出している。T35からは径35cmの土坑を検出し、T45からは20cm×30cmと70cm×50cmの楕円形の土坑を２基、径40cmの土坑を１基検出した。調査区一帯は、遺構が多数検出され遺物も出土していることから、この一帯は古代の集落であった可能性が高い。

第107図　小川屋敷遺跡調査区位置図

29　経営体育成基盤整備事業　更木新田地区

小川屋敷遺跡隣接地（ＭＥ46－0335）

所在地；北上市更木新田地内

事業者；北上地方振興局農林部農村整備室

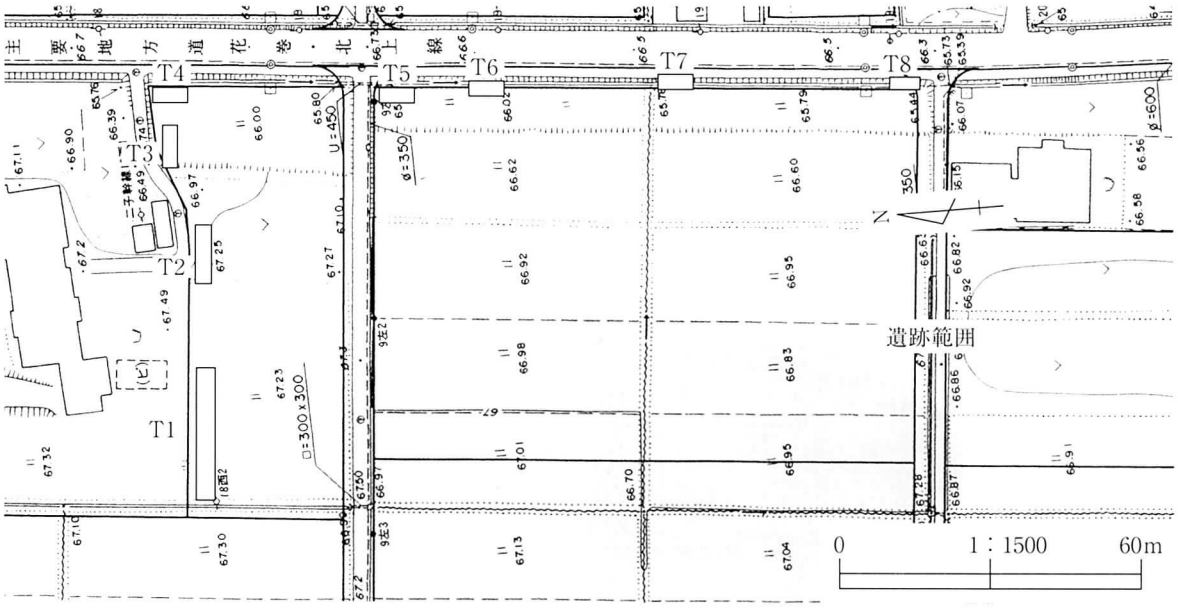
調査期日；平成16年１月21日

第108図　小川屋敷遺跡位置図

調査対象区は、JR東日本鉄道㈱東北本線村崎野駅より北東約4.7kmに位置し、北上川左岸の沖積地微高地に立地している。標高は67m前後を測る。現況は、主に水田となっている。今回の調査は、ほ場整備に伴い実施したもので、遺跡の範囲を確定することを目的とし、田面及び、排水路予定箇所が対象である。調査対象区に８本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ８）。

調査の結果、古代の住居跡４棟、溝２条、土坑２基を確認した。Ｔ１では、古代の住居跡１棟、土坑１基、溝１条を確認した。住居跡は、20cmの深さで確認した。大きさは350×350cmの規模であった。土坑は深さ30cmで確認した。大きさは40×40cmで埋土に土師器の底部と炭化物を含んでいたことから、古代の遺構と考えられる。溝は、幅25cmでトレンチ内での長さは10mあった。時期は不明である。Ｔ２を設定した場所は表土が基本層序第Ⅲ層の黒色土で、耕作土直下20cmで古代の住居跡１棟を確認した。埋土は暗褐色土で焼土ブロック、暗褐色ブロック、炭化物を含んでいた。Ｔ３では、古代の住居跡を確認した。埋土に土師器を含んでいた。Ｔ４では、表土直下80cmで、土坑１基を確認した。長軸140cm、短軸70cmの大きさであった。Ｔ６では、表土直下50cmで住居跡１棟を確認した。埋土は暗褐色で土師器片を含んでいた。Ｔ７では、深さ80cmで溝１条を確認した。埋土に炭化物が含まれていたことから竈の煙道部の可能性も考えられる。

調査対象区周辺からは、住居跡、土坑等、多くの遺構が確認されていることから、遺跡の中心部分と考えられ、道路を挟んで東側の水田部分にも遺跡が広がる可能性もあると考えられる。



第109図　小川屋敷遺跡隣接地調査区位置図

30　ほ場整備事業更木新田地区

駒板遺跡（ＭＥ36－2371）

所在地；花巻市東十二丁目字穂貫田地内

事業者；北上地方振興局農林部農村整備室

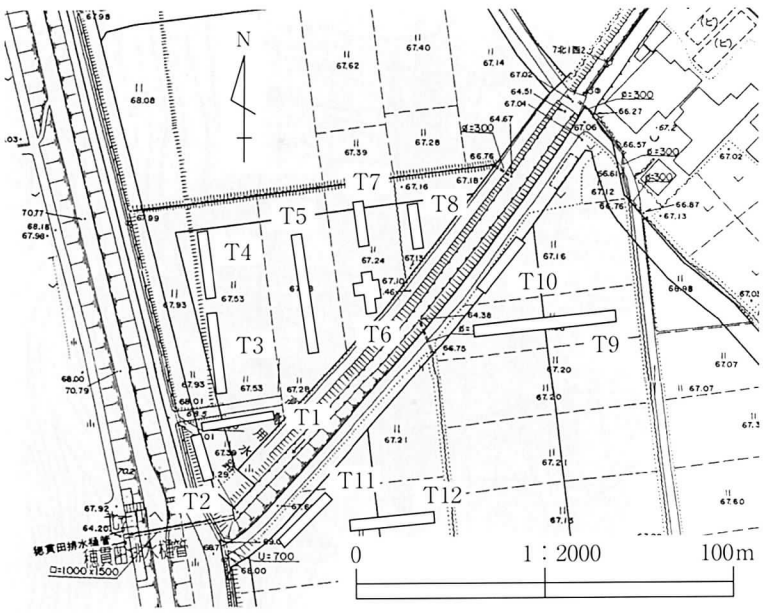
調査期日；平成15年12月15日～12月16日（２日間）

遺跡は遺跡は花巻市役所から南東に4.7㎞の北上川左岸に形成された自然堤防上に立地し、標高はおよそ67ｍ前後を測り、北上市との市境にある。現況は主として水田である。平成12年の分布調査によって発見された遺跡であり、過去には縄文時代（晩期）の土器、石鏃が発見されていた。

第110図　駒板遺跡位置図

今回、ほ場整備事業実施にあたり、埋蔵文化財との事前調整のため、試掘調査を実施した。Ｔ４における基本層序は第１層：耕作土、灰褐色土、層厚25㎝、第２層：褐色土、層厚15㎝、第３層：褐色土と黒褐色土の混土、層厚23㎝、第４層：黒褐色土、層厚37㎝、第５層：茶褐色土、層厚38㎝であった。

Ｔ１では、縄文時代に属する直径2.4ｍ以上の竪穴住居跡１棟、Ｔ２でも縄文時代の直径2.5ｍ以上の竪穴住居跡１棟が発見され、それぞれ縄文土器（中期～後期）が出土した。Ｔ３では、須恵器壷を埋設した円形ピット１基、縄文時代の遺物包含層、Ｔ４では内黒土師器を含む遺物包含層、縄文時代の遺物包含層、直径0.8×0.5ｍ、深さ0.3ｍ以上の規模の縄文時代に属する円形ピット１基、Ｔ５は黒褐色土から縄文土器が出土し、遺物包含層であることが判明した。Ｔ６では長さ4.7ｍ以上、巾0.5ｍの溝跡１条、0.9×1.8ｍ、深さ0.5の長楕円形のピット、0.3×0.5ｍの範囲に焼土のまとまりがあった。Ｔ７では遺構、遺物は確認できなかったが、Ｔ６と同様の層序であった。Ｔ８では、全面に縄文時代の遺物包含層があったが、Ｔ３よりは含まれる土器の量が少なかった。また直径0.3ｍ以上の範囲に炭化物が集中していた。T10では黒褐色シルトが縄文時代の遺物包含層となっているが、土器はそれほど多く含まれていなかった。その他のトレンチでは遺構、遺物とも発見されなかった。



第111図　駒板遺跡調査区位置図

31　農用地総合整備事業下閉伊北地域関連調査

上和野遺跡（ＫＦ69－0139）

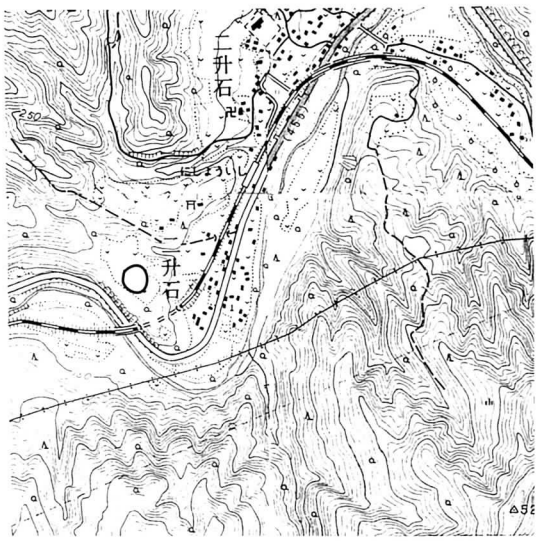
所在地；下閉伊郡岩泉町二升石字上和野地内

事業者；緑資源機構東北支社下閉伊北事業所

調査期日；平成15年11月６日

遺跡は岩泉町西部の二升石地区の小本川左岸の丘陵斜面に立地している。奈良時代～平安時代の散布地として周知されており、過去に土師器や石器が発見されていた。遺跡の標高は177～183ｍ程で、主に畑地として利用されている。

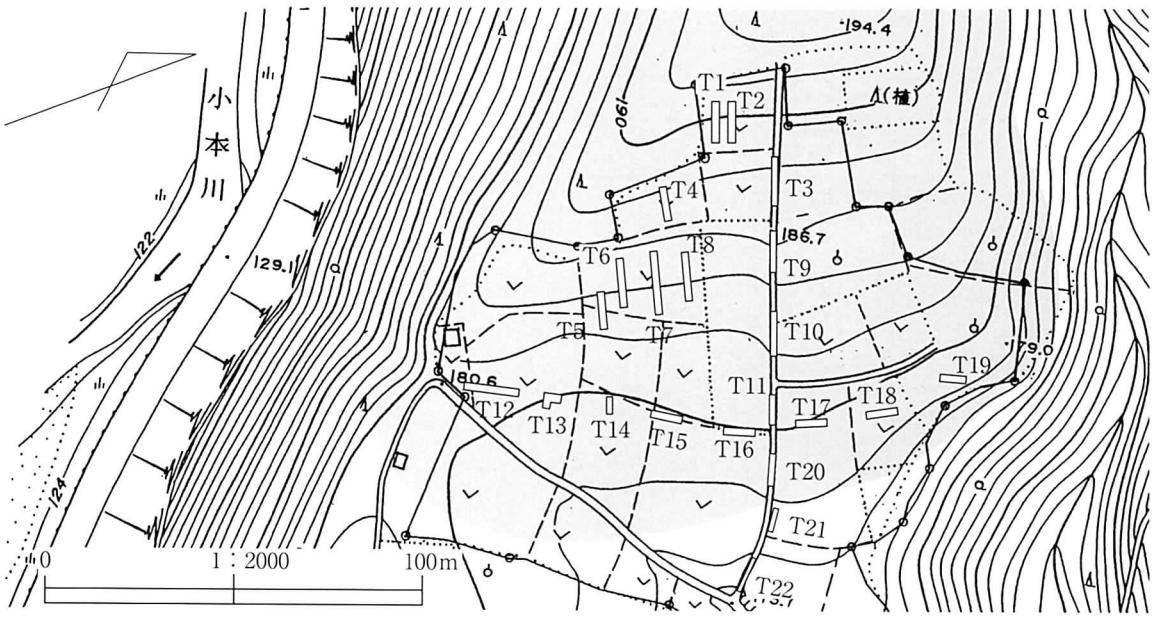
今回、畑地整備実施にあたり、埋蔵文化財の有無と範囲を確認するため、試掘調査を実施した。試掘トレンチは合計22本設定した。



第112図　上和野遺跡位置図

その結果、次の箇所で遺構、遺物が発見された。Ｔ１、Ｔ２、Ｔ４、Ｔ５、Ｔ16、ではピットが合計10基発見され、直径20cmのものが多く、40cmを超えるものもあった。Ｔ13では陥し穴状遺構が１基、発見された。Ｔ17では長軸70cmの焼土が１基見つかり、周囲から土師器が１点出土した。Ｔ３では竪穴住居跡１棟があり、長さは2.5ｍ程で、焼土を含む埋土の深さは26cmで、遺物は出土しなかった。Ｔ10でも竪穴住居跡１棟があり、長さは3.5ｍ以上で、埋土は45cmの厚さで、須恵器が１点出土した。トレンチ下方に直径70cm以上の焼土があり、礫も見られたことから、カマドの一部である可能性が高い。Ｔ11ではトレンチ長軸方向に直行する溝があり、幅35cm程であった。周囲の堆積土も、Ｔ10の住居跡埋土に類似しており、住居跡の周溝と考えられる。

以上のことから奈良～平安時代の集落が存在することが判明した。陥し穴状遺構も発見されていることから縄文時代の遺構が存在する可能性も高い。



第113図　上和野遺跡調査区位置図

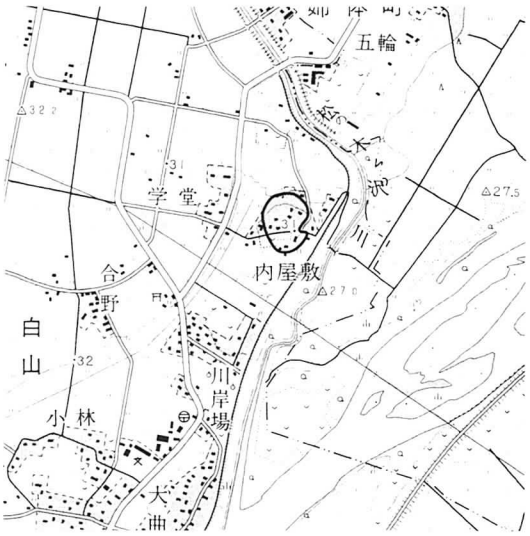
32　経営体育成基盤整備事業　白山地区

内屋敷遺跡（ＮＥ47－0163）

所在地；胆沢郡前沢町白山字内屋敷地内

事業者；水沢地方振興局農政部農村整備室

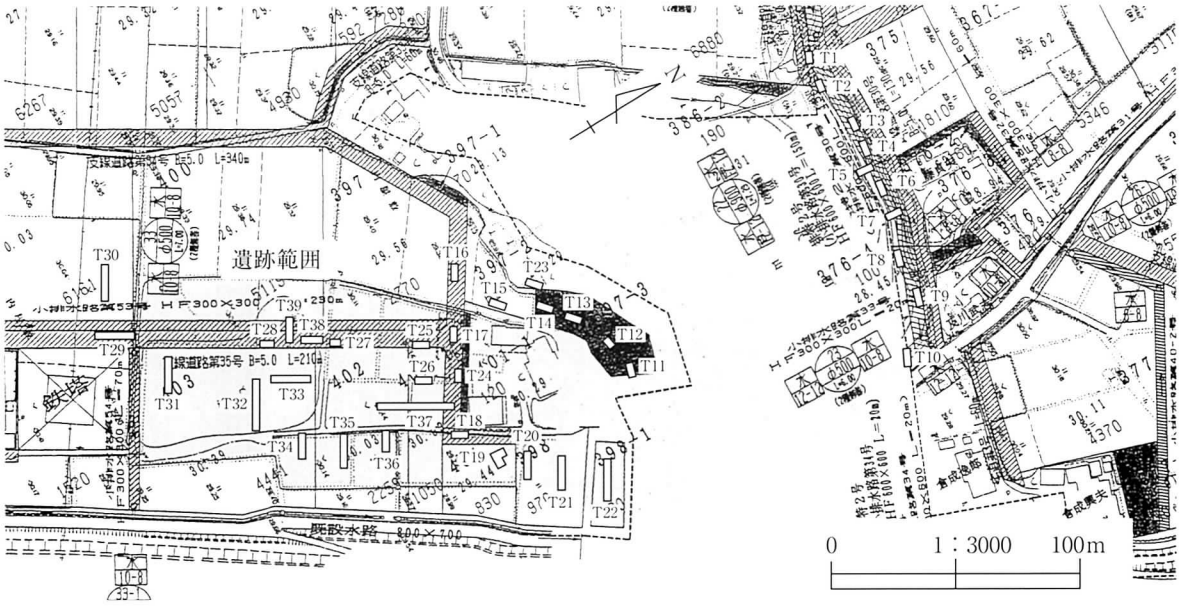
調査期日；平成15年10月22日、11月14日、12月15日



第114図　内屋敷遺跡位置図

遺跡は前沢町役場の北東約4.6㎞に位置し、北上川右岸の沖積地微高地上に立地する。遺跡の標高は29m前後で、現況は宅地と水田になっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴う水路の埋設工事によるもので該当箇所に試掘トレンチを39本設定した（Ｔ１～T39）。T19から溝状の土坑と縄文土器を検出した。形状を把握するためにトレンチの幅を広げたが、規模が大きく形状はつかめなかった。T21からは、径22㎝の円形状の遺構が１基検出され、T24からは、径約30㎝の円形状の遺構が１基検出された。T25の中央部分から、薬研堀に類似する堀状遺構を検出した。上幅約２ｍで検出面からの深さは1.4ｍで、埋土の上部に灰白火山灰ブロック層がレンズ状に堆積していた（十和田ａ降下火山灰に類似）。したがって当該遺構の年代は10世紀初頭よりもさかのぼるものと推測される。T27の南端部で、被熱赤変した棒状礫と土師器小型甕が出土した。T28からは第Ⅱ層中から土師器片を検出している。T29～T39の調査区は、旧表土にあたる層が確認されなかったことから、水田造成の段階において地形改変を受けている場所であった。T37において、堀状遺構と径120㎝大の土坑が１基検出されている。

これらのことから遺跡の中心部分は、T37で検出された堀状遺構を挟んで南側の旧地形が比較的残存している畑地と、T19の溝及び土坑が検出した周辺と考えられる。（平成16年度本発掘調査予定）



第115図　内屋敷遺跡調査区位置図

33　ほ場整備事業白山地区関連調査

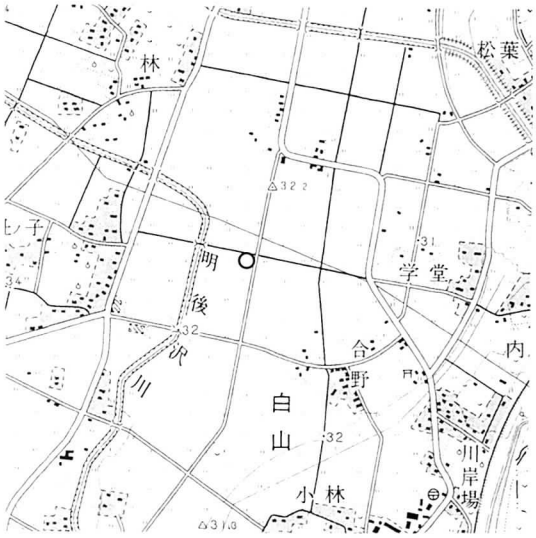
川前遺跡（ＮＥ47－0042）

所在地；胆沢郡前沢町白山字川前地内

事業者；水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年12月18日

遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東約2.3kmに位置し、北上川右岸の沖積平野にある微高地に立地している現況は畑地であり、遺跡の周囲は水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土予定の畑地及び隣接する田面に７本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ７）。



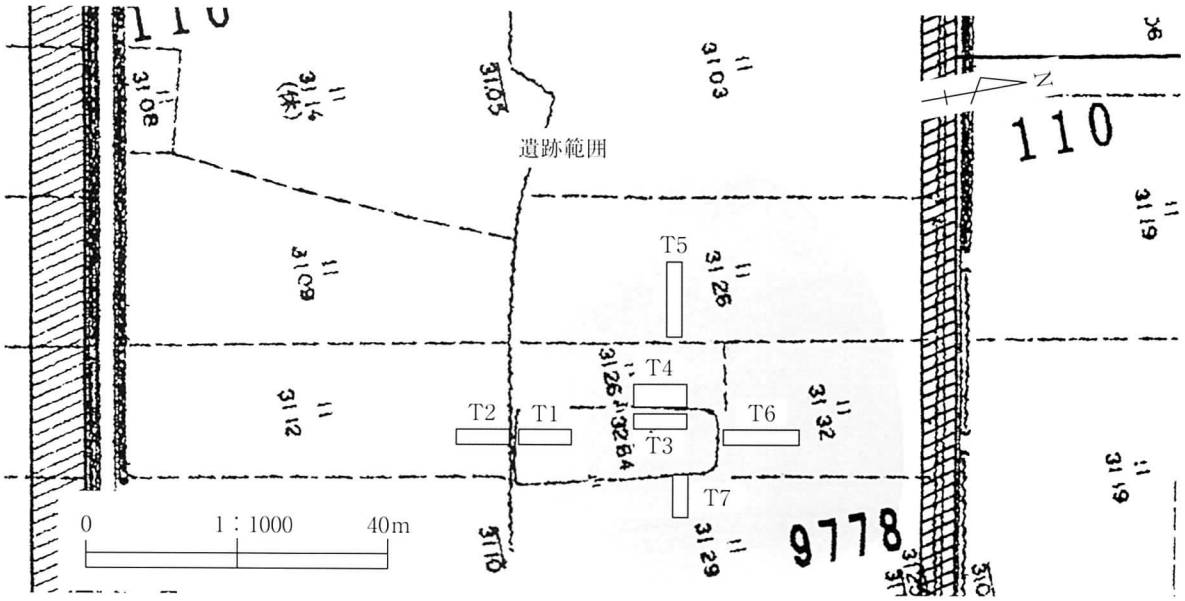
第116図　川前遺跡位置図

Ｔ１、Ｔ３及びＴ４を畑地に設定したところ、Ｔ３及びＴ４において、約４ｍの規模を持つ方形周溝１基が、第Ⅲ層下面で検出された。周溝の幅は、約120cmほどで、隅丸方形のプランを呈しており、その埋土には、土師器片が含まれていた。周溝のプランを確認するために、Ｔ４を水田部分まで拡げたが、過去のほ場整備等によって受けた地形改変により、周溝の一部は、削平されていた。

遺物は、Ｔ３の第Ⅲ層から、土師器片が数点出土しているほか、畑地から摩滅した土器片２点が表採された。

Ｔ２、Ｔ５～Ｔ７を方形周溝が検出された微高地脇の水田に設定した。いずれのトレンチにおいても、層序は、水田耕作土、表土、水田床土、地山である褐色土の順となっており、水田においては、すでに地形改変が行われていたことが伺え、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、本遺跡において、旧地形が良好に残存している部分は、Ｔ１、Ｔ３及びＴ４を設定した微高地のみであり、その周囲に所在する水田部分においては、地形が改変されており、旧地形は残存していないと判断した。（平成16年度本発掘調査予定）



第117図　川前遺跡調査区位置図

34　ほ場整備事業白山地区関連調査

道上遺跡（ＮＥ47－0045）及び隣接地

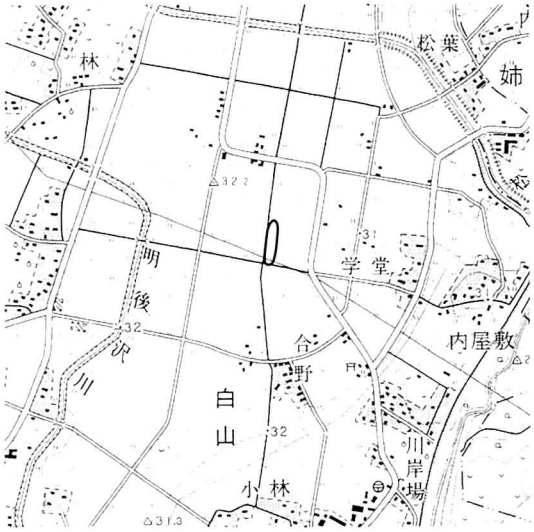
所在地；胆沢郡前沢町白山字川前地内

事業者；水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年12月18日

平成16年３月１日～８日

遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東約2.3㎞に位置し、北上川右岸の沖積平野にある微高地に立地している。現況は、主に畑地及び水田となっており、標高は約31m前後を測る。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土予定の畑地及び田面、農道及び排水路設置箇所が対象となる。



第118図　道上遺跡位置図

平成15年12月８日に、旧来の遺跡範囲内外を対象に試掘調査を実施したところ、遺跡範囲を越えて遺構及び遺物が確認されたことに加え、遺跡範囲内の地形等の観察から、旧地形が比較的良好に残存していると判断し、平成16年３月１日～８日に追加試掘調査を実施したものである。調査対象箇所に、合計133本のトレンチを設定した（Ｔ１～T133）。

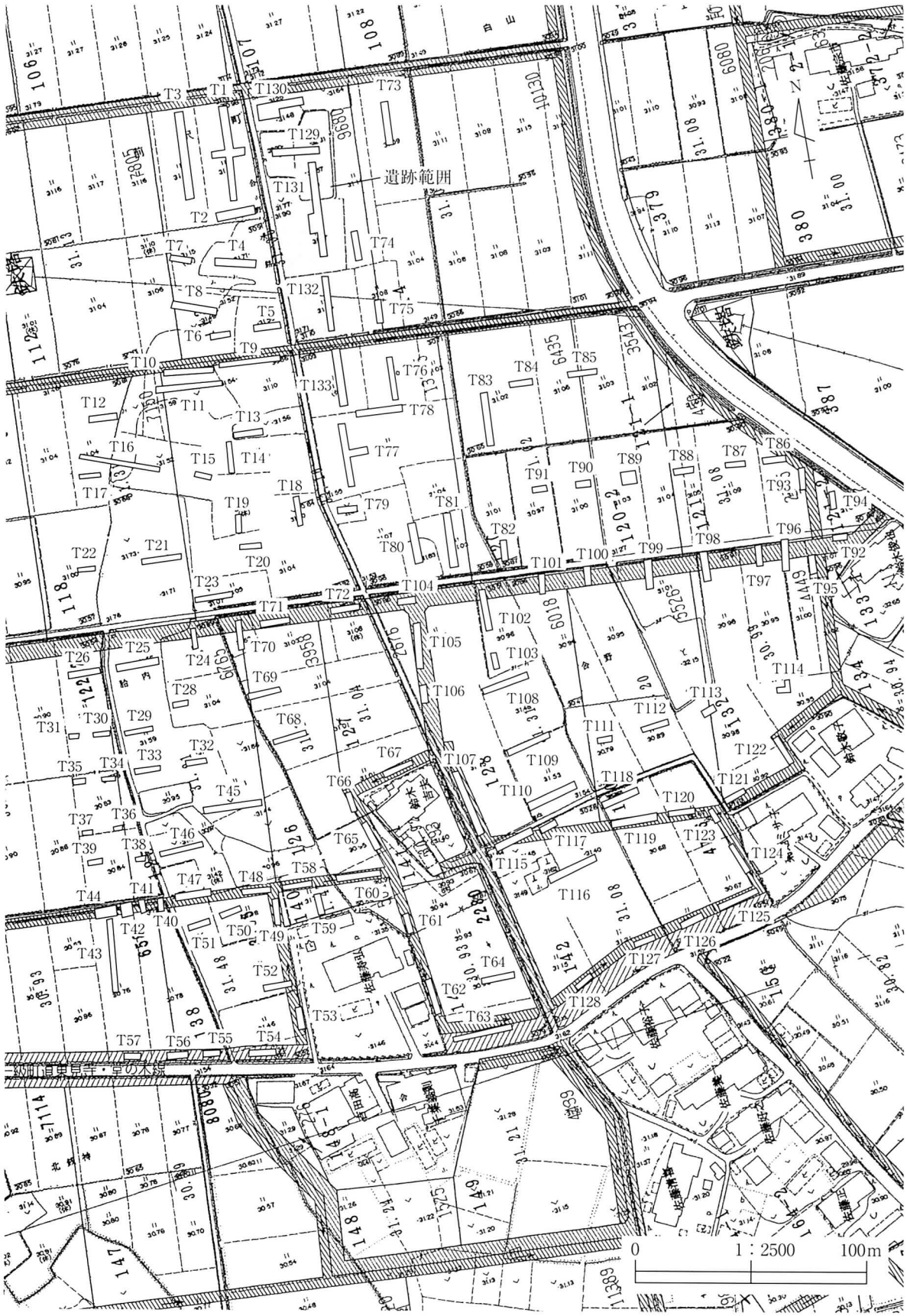
旧来の遺跡範囲内には、T129～T133を設定した。T130においては、時期は不明であるが、埋土に焼土及び炭化物粒を大量に含む土坑４基が検出された。現在の畑地から田面まで連続するようにT131を設定した。T131においては、径30㎝大の柱穴が６基検出され、200×130㎝の規模で隅丸長方形のプランを持つ土坑１基が検出された。この土坑が検出された周辺から、トレンチの南端部にかけて、土師器片数点、近世のものと考えられる染付の陶磁器片１点が出土し、トレンチ南端部周辺では、検出面に多くの土師器片が含まれていた。T132においては、柱穴が７基、埋土に土師器片及び炭化物粒を多く含む120×70㎝の楕円形を呈する土坑１基が、T133では、柱穴１基が検出された。

旧来の遺跡範囲を越えて遺構及び遺物が確認されたこと等から、遺跡隣接地で埋蔵文化財が所在する可能性が高いと思われる区域に、128本のトレンチを設定した（Ｔ１～T128）。これらのトレンチを設定した区域の大半は、現在水田であり、過去にほ場整備等が実施されていたが、遺構及び遺物が広く確認された。検出された遺構は、竪穴住居跡31棟、土坑類49基、柱穴状129基、溝跡18条、古代の包含層及び縄文時代の陥し穴１基である。竪穴住居跡は、現在畑地及び宅地となっている微高地上のみならず、周囲の田面でも検出されている。田面で検出された竪穴住居跡の残存状況は良好ではなかったことから、過去のほ場整備事業等による地形改変を伺わせた。

また、土坑、溝、柱穴状等の遺構も広範囲において検出され、遺物についても広範囲から出土している。

以上のことから、本遺跡は北上川によって形成された自然堤防上に営まれた古代の集落跡であることが推測され、それぞれの遺構の属する時期は明確ではないものの、検出された遺構数及びその範囲から、集落の規模は大規模であったと思われた。また、陥し穴状遺構が１基検出されたこと、その検出された遺構から離れているが、田面から縄文時代のものと思われる土器片１点が出土していることから、縄文時代の集落等も本遺跡に近接して所在している可能性があると推測した。

本遺跡は、縄文時代と古代の複合遺跡であることが、試掘調査結果から判明した。（平成17年度本発掘調査予定）



第119図　道上遺跡調査区位置図

35　経営体育成基盤整備事業　増沢東部

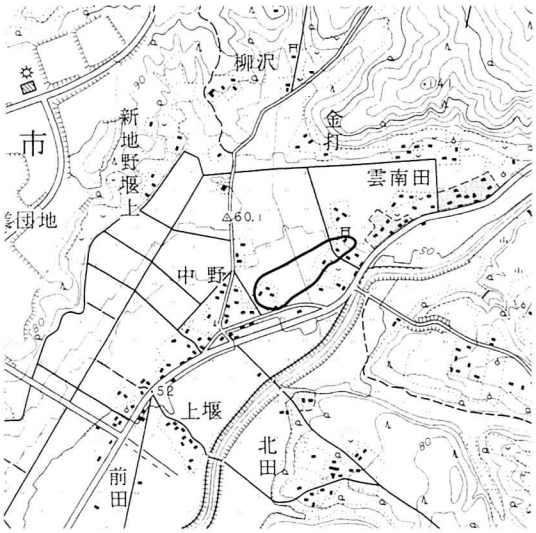
金打遺跡（ＭＥ97－1314）

所在地；江刺市岩谷堂地内

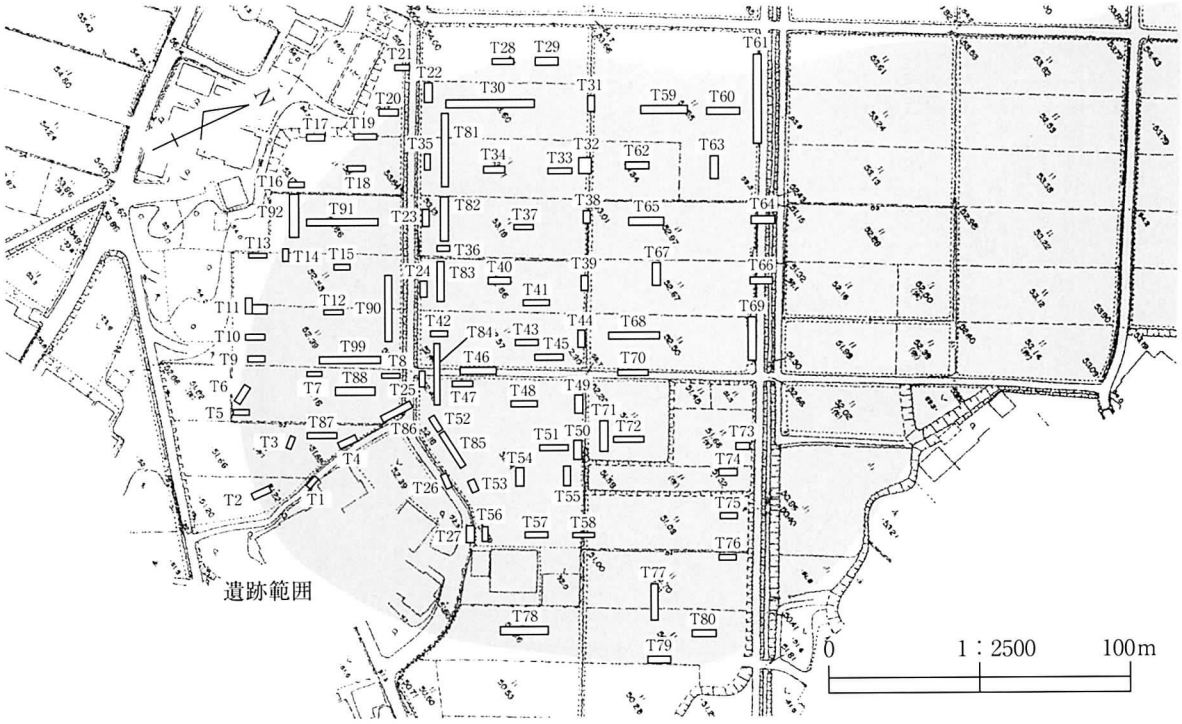
事業者；水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年11月４日、５日、14日、25日

遺跡は江刺市役所の北東約2.8kmに位置し、人首川右岸の低位段丘上に立地する。遺跡の標高は51ｍ～54ｍで現況は主に水田と宅地になっている。今回の試掘調査はほ場整備事業に伴い農道及び排水路設定箇所、切土となる田面が対象で、該当箇所に試掘トレンチを92本設定した（Ｔ１～T92）。調査の結果、T11とT32から土坑が検出された。T11で検出した土坑は、第Ⅲ層上からで長軸は80cm、短軸は70cmの円形で、埋土はグライ化が進みやや青灰色を呈していた。T32は長軸150cm、短軸140cmでほぼ円形の土坑であった。この地区は昭和30年代にほ場整備を受けており、切土だった面は表土直下地山で、盛土が行われた地区は旧耕作土が残っている箇所もあった。T32一帯は耕作土（盛土）の20～30cm下は地山になっていた。T41、45、46、50、51、71、72、81、89からは縄文土器が出土した。出土した層は第Ⅱ層の黒灰色土下層からであった。土器の出土した一帯は幅が２ｍほどの畦道の直下、もしくは周辺であり、量は比較的多く広域にわたっていた。多くの田面が前回のほ場整備において削平を受けた中で、この畦道とその周辺は、旧地形をそのまま生かす形で作られた可能性が高い。T81から出土した土器は、摩滅しており周辺から出土しないこと、削平の際に地山が削られた箇所であることから流れ込みと判断した。（平成16年度本発掘調査予定）



第120図　金打遺跡位置図



第121図　金打遺跡調査区位置図

36　経営体育成基盤整備事業増沢東部地区

新地野道下遺跡（ＭＥ97－0393）

所在地；江刺市岩谷堂地内

事業者；水沢地方振興局農政部農村整備室

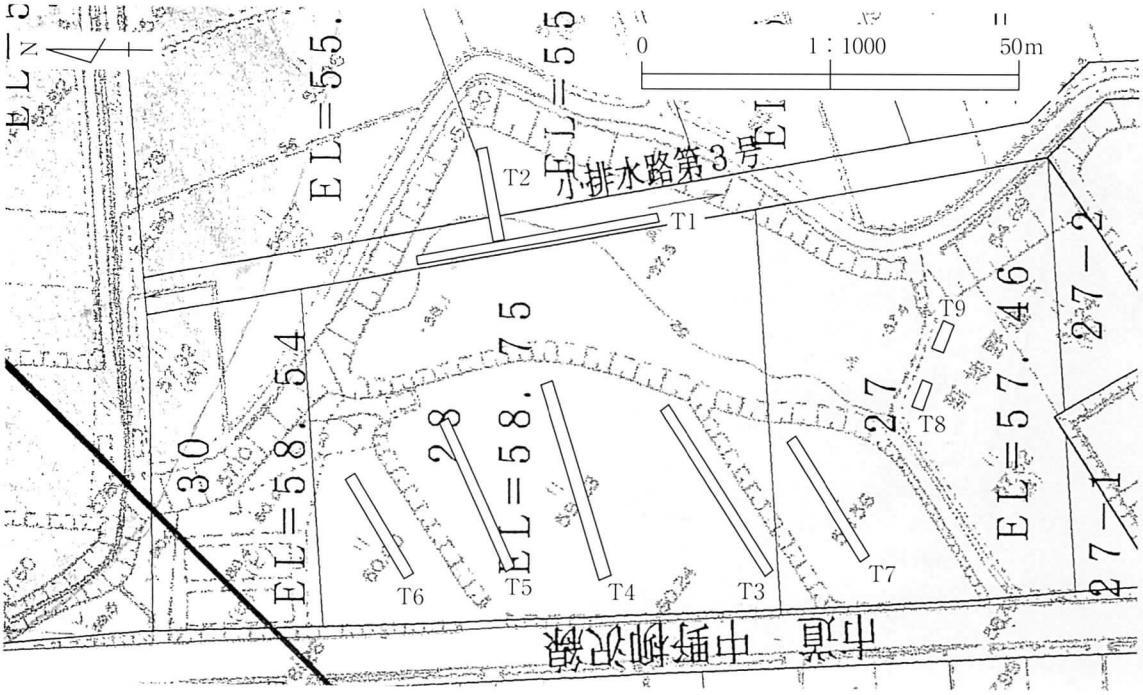
調査期日；平成15年11月25日、12月17日（２日間）

遺跡は江刺市役所から北東へ約３kmの人首川右岸の低位段丘上に立地している。現況は水田、採草地等で、東側に接する水田から約３ｍ程の比高があり、標高は55～60ｍ程となっている。

今回の試掘調査はほ場整備事業実施に伴い、排水路及び切り土予定田区を対象した。試掘トレンチは計９箇所設定した。

第122図　新地野道下遺跡位置図

調査の結果、何れの箇所も過去の造成で削平を受けていたが、Ｔ１、Ｔ２では遺構、遺物が発見された。Ｔ１の北側において2.2ｍ×1.8ｍ以上、深さ0.25ｍの竪穴住居跡１棟とそれに伴う柱穴が確認された。埋土からは縄文時代前期の土器が出土した。また同じトレンチから土坑４基が発見され、1.7ｍ×0.6ｍ～0.6ｍ×0.3ｍの規模であった。埋土に炭化物が多く含まれるものもあった。Ｔ３では近代以降の陶磁器片１点、Ｔ４、Ｔ５では比較的新しい時期と考えられる溝跡等があった。以上のことから縄文時代前期を中心とした遺跡であることが判明したが、同じ地区に益沢院という地名も残っていることから藤原氏関係の遺構も付近に存在する可能性が高い。（平成16年度本発掘調査予定）



第123図　新地野道下遺跡調査区位置図

37　ほ場整備事業白山地区関連調査

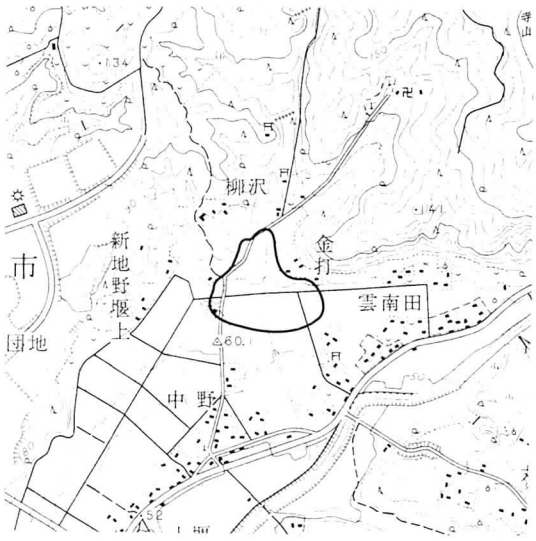
岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡（ＭＥ97－0364）

所在地；江刺市岩谷堂地内

事業者；水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年11月４～５日、11～12日

遺跡は、江刺市役所の北東約３kmの人首川右岸の扇状地上に立地し、標高は55～60mを測る。現況は、主に水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、農道及び排水路設置箇所、切土予定の田面が対象である。調査対象区及び遺跡隣接箇所に66本の試掘トレンチを設定した（Ｔ１～T66）。



第124図　岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡位置図

精査の結果、T62において平安時代前期と推定される水田跡が、T11においては、時期不明の土坑１基が検出され、T44においては縄文晩期の土器片数点が出土した。水田跡についてであるが、表土直下20cm下で、十和田ａ降下火山灰層が確認され、その下層に水田耕作土と推定される黒色土層が検出され、トレンチを田面へ拡げたところ、平安時代のものと推定される田面及び畦畔が表土下20cmで検出された。T11で検出された土坑は、長軸100×短軸70cmの長楕円形のプランを示していたが、遺構の三分の一は、稲干し用杭による攪乱を受けていた。周囲に、他の遺構及び遺物は確認できなかった。

T44で出土した縄文土器であるが、表土から約85cm下の暗青灰色砂層から出土した。周囲に遺構は確認できなかった。この層の下は青灰色砂礫層であり、礫の大きさ及び砂等の観察から、旧河道であると推定した。これらの土器片は、摩滅が激しく、旧河道部に堆積した砂層から出土していることから、旧河道の上流部から流れ込み、流れの緩やかになった箇所にとどまったものと判断した。（平成16年度本発掘調査予定）

第125図　岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡調査区位置図

38　広域農道整備事業東磐井地区

大登Ⅰ遺跡（ＯＦ02－1059）

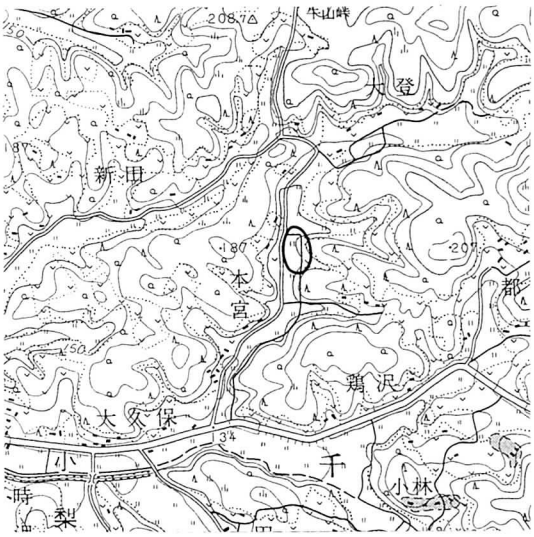
所在地；東磐井郡千厩町小梨字大登地内

事業者；千厩地方振興局農林部農村整備室

調査期日；平成15年12月５日

遺跡は、JR東日本大船渡線小梨駅から南東へ3.2kmの丘陵上と、それに接する水田面に位置している。現況は水田と荒れ地になっている。

この遺跡は昭和30年代末に暗渠排水工事を行った際に、水田下から多量の縄文土器や石棒が出土し、地元の学校教員や児童により遺物採取、保管が行われ、地元で話題になった遺跡である。



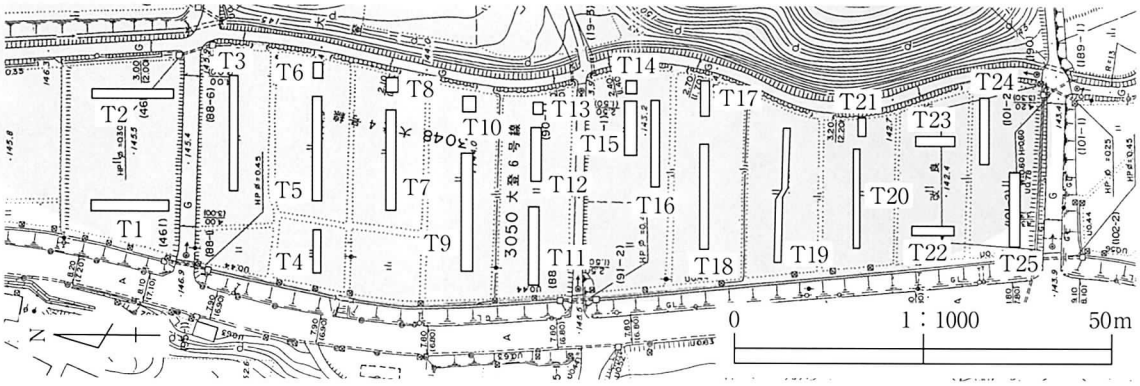
第126図　大登Ⅰ遺跡位置図

今回、周知の埋蔵文化財包蔵地内で残土捨て場設置工事が実施されることになり、それに先立ち、事業予定地内の埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査を実施した。

その結果、Ｔ８、Ｔ10、Ｔ12～Ｔ14で縄文時代後期～晩期の遺物包含層１箇所が発見された。Ｔ８では比較的大きめの縄文土器、Ｔ10、Ｔ13でも縄文土器、Ｔ12では多量の土器、石器、剥片、Ｔ14では縄文土器１点が出土した。

遺物が含まれていたのは、黒もしくは褐色系統の土で、範囲はＴ８では水田端から2.9m、Ｔ10では水田端から５m、Ｔ12では3.5m、Ｔ14では同じく3.5mの所までの範囲であった。Ｔ８では、昭和30年代末に設置された暗渠によって、遺物包含層が一部破壊されていた。

この他の箇所では遺構、遺物とも発見されず、木片等を含む厚い粘土層等が堆積し、その中に縦横無尽に暗渠が巡らされていた。暗渠は深いものだと地表から１m程の深さに設置されたものもあった。なお、事業予定地内の標高が高い地区の基盤は風化した花崗岩層、標高の低い方は砂礫層となっている。（工法協議予定）



第127図　大登Ⅰ遺跡調査区位置図

39　中山間地域総合整備事業　日頃市西地区

舟野遺跡（ＮＦ28－0244）

所在地；大船渡市日頃市地内

事業者；大船渡地方振興局農林部

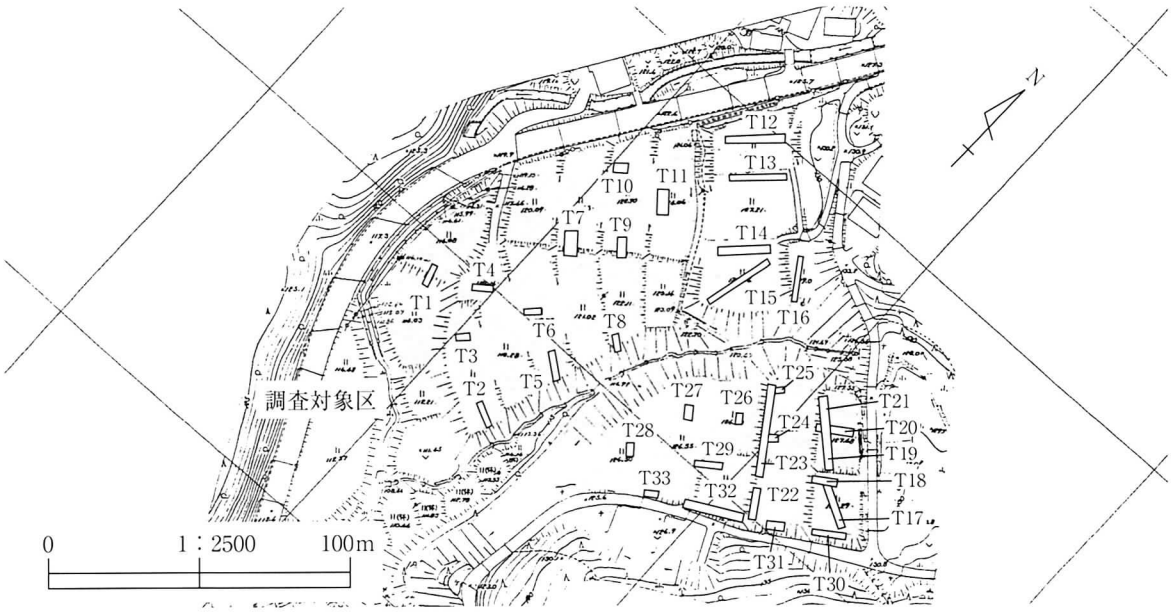
調査期日；平成15年10月20日～21日

平成15年12月３日～４日

第128図　舟野遺跡位置図

調査対象地区は、JR東日本旅客鉄道㈱大船渡線盛駅より北西約５kmに位置する。郷道川支流の沢に形成された斜面に立地し、標高は112～127mを測る。現況は、水田である。今回の調査は、ほ場整備に伴うもので、切土田面、水路敷設箇所に33本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ33）。

調査の結果、沢を挟んで北側からは、大型住居跡１棟、竪穴住居跡１棟、墓坑１基を確認した。Ｔ６で確認した竪穴住居跡は表土直下20cmの深さで、直径４ｍの大きさであった。Ｔ７の大型住居状遺構は、確認できたのはプランの一部だけであったが、半径だけで７ｍもあった。遺構に沿って柱穴４基と溝と思われる遺構も確認された。遺構に伴う周溝と柱穴と考えられる。Ｔ６、Ｔ７それぞれの遺構は、縄文土器を数点伴って検出されていることから、縄文時代の遺構と考えられる。Ｔ14では、表土直下110cmで、50×50cm大の土坑を確認した。埋土は暗褐色土で炭化物粒を含んでいた。礫を伴っていたことから墓坑と判断した。沢を挟んで南側からは、陥し穴状遺構１基、土坑１基を確認した。陥し穴はＴ20西端表土直下55cmで確認した。大きさは長軸190cm、短軸50cmあった。土坑はＴ22南端から12m、表土直下120cmで確認した。大きさは径60cm、円形であった。遺構の検出状況などから調査区全体を考えると、沢を挟んで北側は住居跡などが確認されたことから、人々の生活の場であり、南側は陥し穴などが確認されたことから狩猟の場であったと推測される。T15北端から10m、表土直下50cmでほ場整備前に使用されていたと思われるコンクリートの枠を確認した。また北端では盛土の厚さが30cmだったものが、南端では約130cmあった。このことなどから、旧地形は様々な事業により大きく改変されていることが分かった。



第129図　舟野遺跡調査区位置図

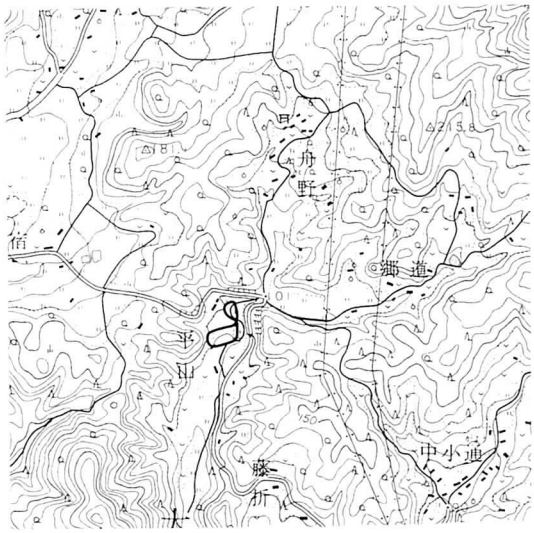
40　中山間地域総合整備事業　日頃市西地区

平山遺跡（ＮＦ28－0282）

所在地；大船渡市日頃市地内

事業者；大船渡地方振興局農林部

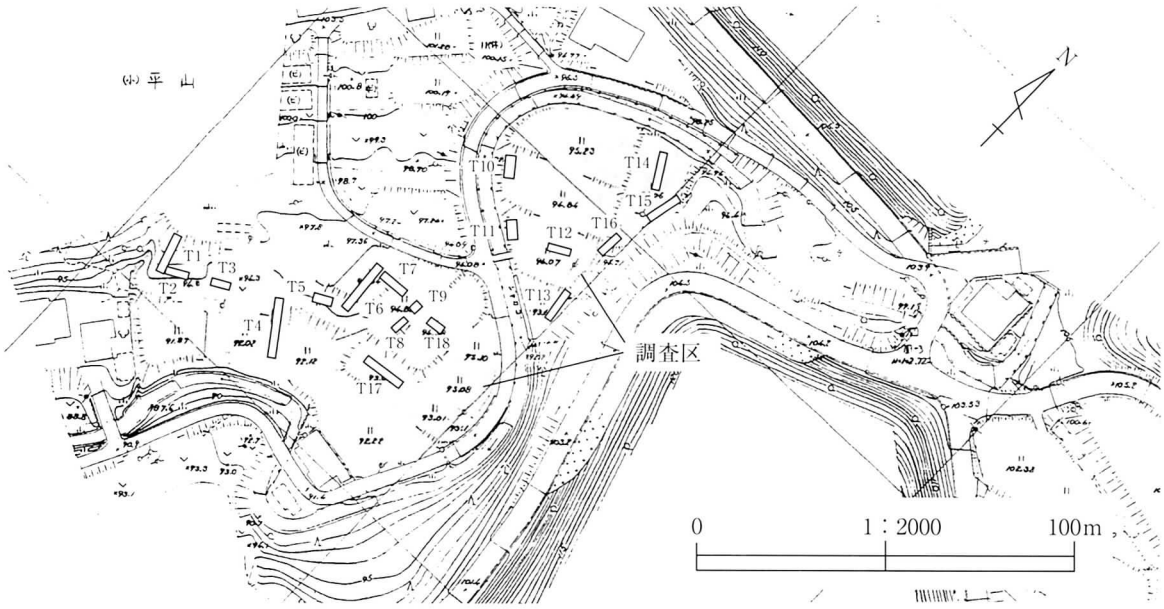
調査期日；平成15年12月３日～４日



第130図　平山遺跡位置図

調査対象区は、JR東日本旅客鉄道㈱大船渡線盛駅より北西約4.8kmに位置する。郷道川に形成された河岸段丘上に立地し、標高は91～95ｍを測る。現況は、主に水田である。今回の調査は、ほ場整備に伴うもので、切土田面、水路敷設箇所に18本のトレンチを設定した（Ｔ１～T18）。

調査の結果、平山３工区において、土坑１基、焼土跡２基を確認し、縄文土器数十点が出土した。土坑は、Ｔ７東端より２ｍ、深さ30cmで確認し、大きさは45×45cmであった。この遺構が確認された田面は、前回のほ場整備において、基本層序の第Ⅱ・Ⅲ層が削平されており耕作土直下地山であった。土坑は、この地山面で確認した。焼土跡２基はＴ９南端より１ｍ、深さ30cmにおいて確認し、大きさは30×30cm、20×20cmであった。この田面は、耕作土直下に基本層序第Ⅱ層が残っている。遺構はこの面で確認した。遺構に伴う遺物が確認されていないことから時期は不明である。この面より下層の基本層序第Ⅲ層からは縄文土器が出土している。Ｔ２は表土直下基本層序第Ⅲ層であった。この層から縄文時代の土器が十数点出土した。慎重に土を除去していったが、遺構は確認できなかった。Ｔ３に向かって層が深くなっていることや、埋土に崖錐性の礫が混じることから、この周辺は沢であったと考えられる。調査対象区で旧表土が残っているのはＴ２、３、８、９周辺のみで、その他の場所は、表土直下地山、あるいは表土直下基盤層であった。また、T17では、旧河道が確認された。以前のほ場整備の際に旧地形が大きく改変されていることが分かった。以上のことを含め判断すると遺跡本体は今回調査した地点より上位に位置すると考える。川を挟んで向かい側の調査対象区は、旧河道、崖水性の沢などは確認できたが遺構及び遺物は確認することができなかった。



第131図　平山遺跡調査区位置図

41　中山間地域総合整備事業日頃市西地区関連調査

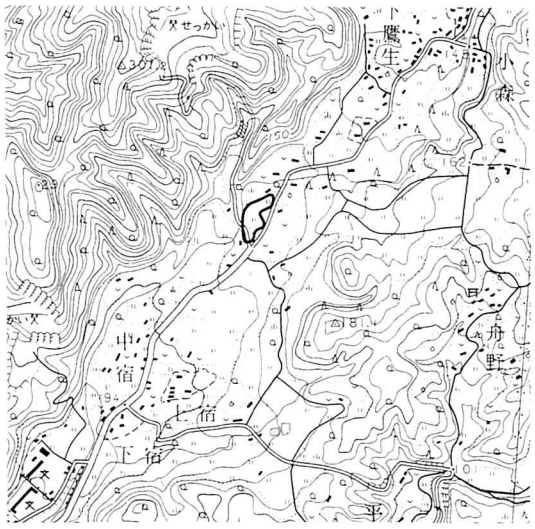
中宿遺跡（ＮＦ18－2197）

所在地；大船渡市日頃市字上宿地内

事業者；大船渡地方振興局農林部

調査期日；平成15年12月３日～４日

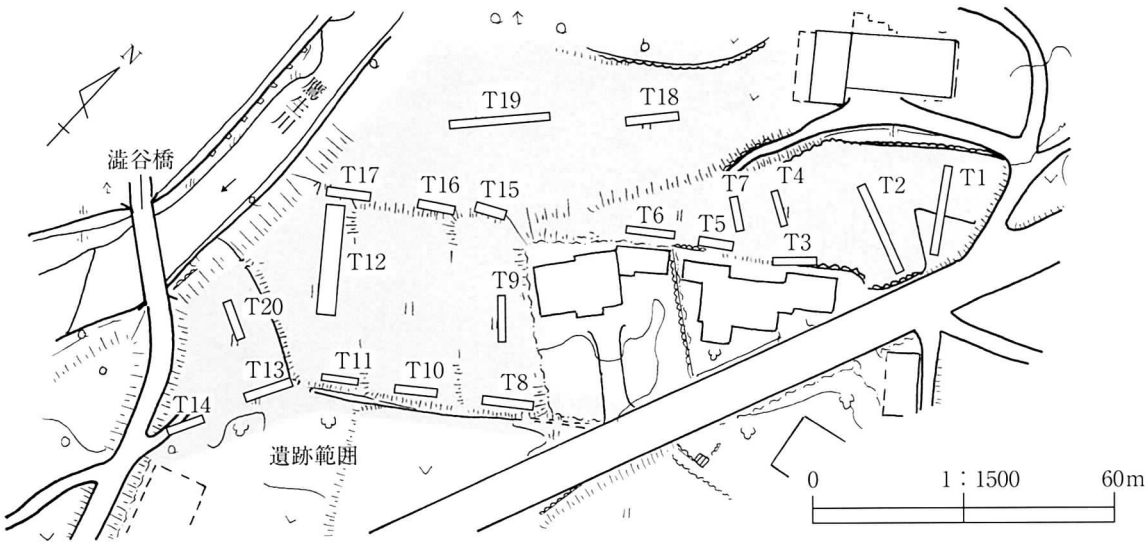
遺跡は、大船渡市役所の北北西約6.4kmに位置し、調査区は２箇所にわたるが、どちらも鷹生川左岸に立地している。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い、切土予定の田面、排水路及び砂利敷農道設置予定箇所を対象とし、調査対象区域にトレンチを35本設定した（Ｔ１～T35）。盛土予定の田面にも、トレンチを設定したが、掘削を伴わず、盛土を施して掘削を伴わない排水路予定路線には、トレンチは設定しなかった。



第132図　中宿遺跡位置図

今回の調査対象区域は、旧来の遺跡範囲内ではないが、地形等から埋蔵文化財所在の可能性が高いと判断された区域である。Ｔ１～T20は、鷹生川左岸の河岸段丘面に設定した。鷹生川との比高は４ｍほどある区域である。Ｔ１～Ｔ９における層序であるが、水田造成のためか、田面を上げるためにかなり厚い盛土を施した水田が一部あるものの（Ｔ４を設定した田面）、ほとんどは水田耕作土、水田床土、黄褐色砂礫層（旧河道）の順となっており、一部のトレンチおいては、水田床土、黄褐色砂礫層、黄褐色砂層、旧河道と推測される砂礫層となっていた。

T10～T12を設定した水田は、かつて畑地であった箇所である。水田床土の下には、旧表土と思われる黒色土、黄褐色砂礫層となっており、T12においては、表土内から、縄文土器片及び敲石、近現代の陶磁器が出土した。表土下には、水田造成時のものと思われる盛土層があり、その下の第Ⅳ層から縄文土器片十数点が出土したが、遺物に結びつくような遺構は確認できなかった。さらに掘り下げたところ、径約130cm大の円形土坑が旧河道と思われる面で検出された。検出状況から、この土坑は、当時の生活面から掘り込んで礫を抜き取って構築したものと判断した。（工法協議予定）



第133図　中宿遺跡調査区位置図

42　ほ場整備事業土渕地区関連調査

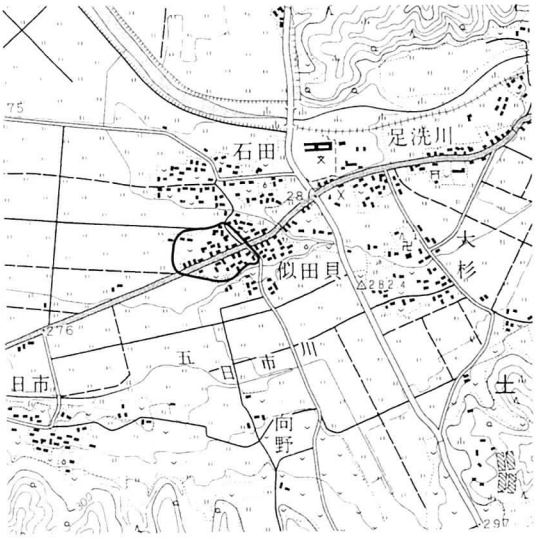
下似田貝遺跡（ＭＦ35－2363）隣接地

所在地；遠野市土渕町土渕字下似田貝地内

事業者；遠野地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年11月20日、12月３日～４日

下似田貝遺跡は、遠野市役所の北北東約５kmに位置し、足洗川を挟んで南側に位置しているため、下似田貝遺跡との地形的な連続性はないものと推測されるが、河岸段丘上の縁に位置しているという地形的条件等から、埋蔵文化財所在の可能性が高いと判断し、調査に至ったものである。段丘縁部分に設置予定の水路、砂利敷農道予定箇所及び切土予定の田面に15本のトレンチを設定した（Ｔ１～T15）。

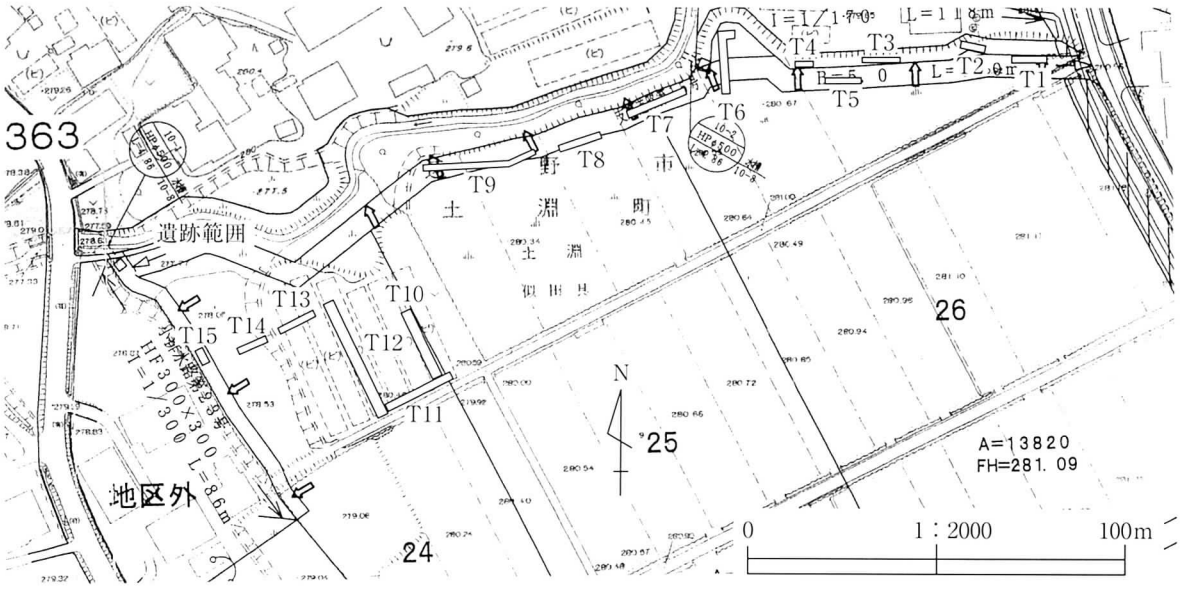


第134図　下似田貝遺跡位置図

精査の結果、Ｔ８及びＴ９にかけて、表土（耕作土）、黒色土の下に、十和田ａ降下火山灰が堆積しており、この面において畝間状遺構が表土下40cmで検出された。この畝間状遺構は、火山灰から平安時代のものであると判断した。他の遺構及び遺物は確認できなかった。T10～T12のトレンチ中央部分から南端にかけて、表土、黒色土、褐色土の下に十和田ａ降下火山灰の堆積が見られたことから、畝間状遺構が所在しているかどうかをトレンチを拡げたが、畝間状遺構は所在せず、他の遺構及び遺物も確認できなかった。掘り下げたところ、十和田ａ降下火山灰層の下には暗青灰褐色土層が見られ、その下は川の氾濫によって堆積したと思われる砂層が確認された。

以上のことから、T10～T15を設定した箇所で見られた十和田ａ降下火山灰は、足洗川の後背湿地に堆積したものであると推測した。

今回検出された畝間状遺構が平安時代の畑地であるならば、この遺構に関連する集落は近接して所在しているのではないかと推測した。（工法協議予定）



第135図　下似田貝遺跡隣接地調査区位置図

43　中山間地域総合整備事業 湯屋地区

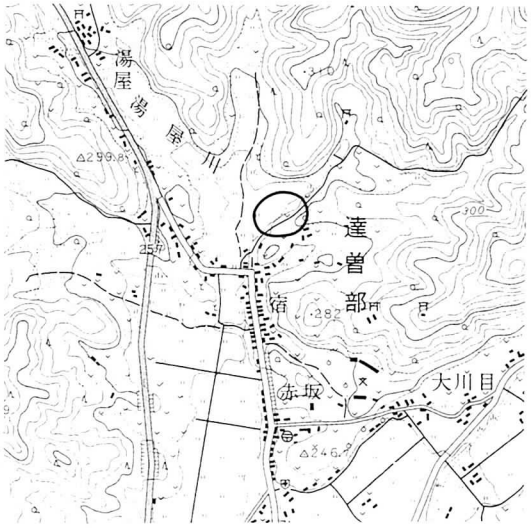
駒場沢遺跡　（ＭＦ21－1014）

所在地；上閉伊郡宮守村達曽部地内

事業者；遠野地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年11月20日・21日

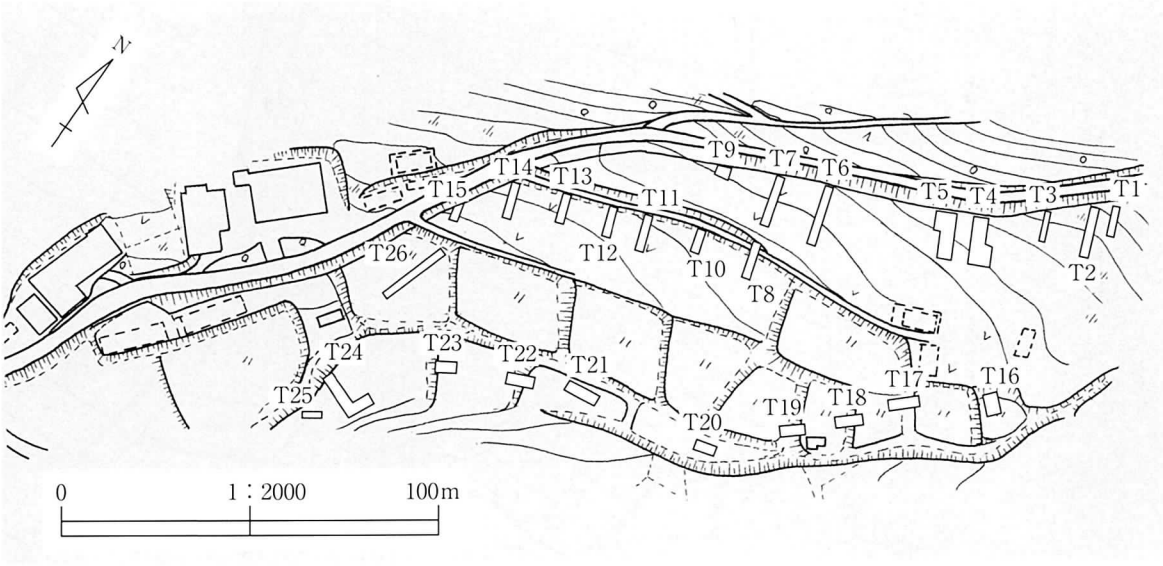
調査対象地域は、宮守村役場より北西約６kmに位置する。湯屋川の支流の沢に形成され緩やかな斜面に立地し、標高は約240m前後を測る。調査区の現況は、水田及び畑地となっている。平成13年度の分布調査で遺構、遺物は発見されなかったが、埋蔵文化財包蔵地の可能性が高い場所とされた地域である。平成15年度に現地踏査した結果、摩滅はしているが縄文土器数点、石器数点を表採したことことから、埋蔵文化財包蔵地であることを確認した箇所である。今回の調査は、ほ場整備によるもので、畑地、田面掘削箇所、道路・水路設置箇所が対象である。調査対象箇所に26本の試掘トレンチを設置した（Ｔ１～T26）。



第136図　駒場沢遺跡位置図

Ｔ３では北端から４ｍ、深さ20cmの地点で土坑一基を確認した。同時に縄文土器が出土したことから、縄文時代の遺構と思われる。Ｔ５北端から130cm、深さ20cmの地点で古代の住居跡が確認された。大きさは一辺約３ｍの隅丸方形、焼性は弱いが焼土を伴い、埋土に十和田ａと思われる火山灰が混じる。このトレンチからは、住居跡と同じ検出面でから陥し穴状遺構も確認されている。Ｔ９では、深さ20cmから住居跡１棟を確認した。この付近の基本層序は表土直下地山で遺構上面は畑地の耕作のため削平されていた。埋土にはT５の住居跡と同じように十和田aと思われる火山灰が混じる。この遺構の埋土から須恵器が出土した。T11では、約50×50cmの焼土を深さ60cm、基本層序第Ⅲ層上面で確認した。プランは明確ではなかったが住居跡に伴うものと判断した（住居状遺構）。T14でも古代の住居跡と思われる遺構を表土直下15cmで確認した。遺構は削平されており、半分が残るだけであった。

水路設置予定箇所は現況の水路とほぼ同じルートを通るため、平行する道路設置箇所にトレンチを設定したが、沢筋で遺構及び遺物は確認できなかった。T26から西側は地形が急に落ち込み、急斜面になることからトレンチは設定しなかった。調査結果から、縄文と古代の複合遺跡であることが確認された。



第137図　駒場沢遺跡調査区位置図

44　経営体育成基盤整備事業大川目地区

中田遺跡（ＪＦ28－2299）

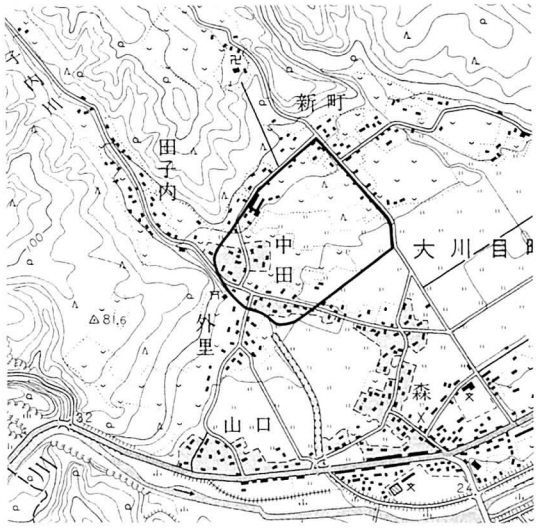
所在地；久慈市大川目町地内

事業者；宮古地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年11月10日～ 11日（２日間）

遺跡は、久慈市役所から西へ5.5kmの距離の久慈川左岸の沖積平野と標高21～25mの丘陵が接する位置にあり、現況は水田等になっている。

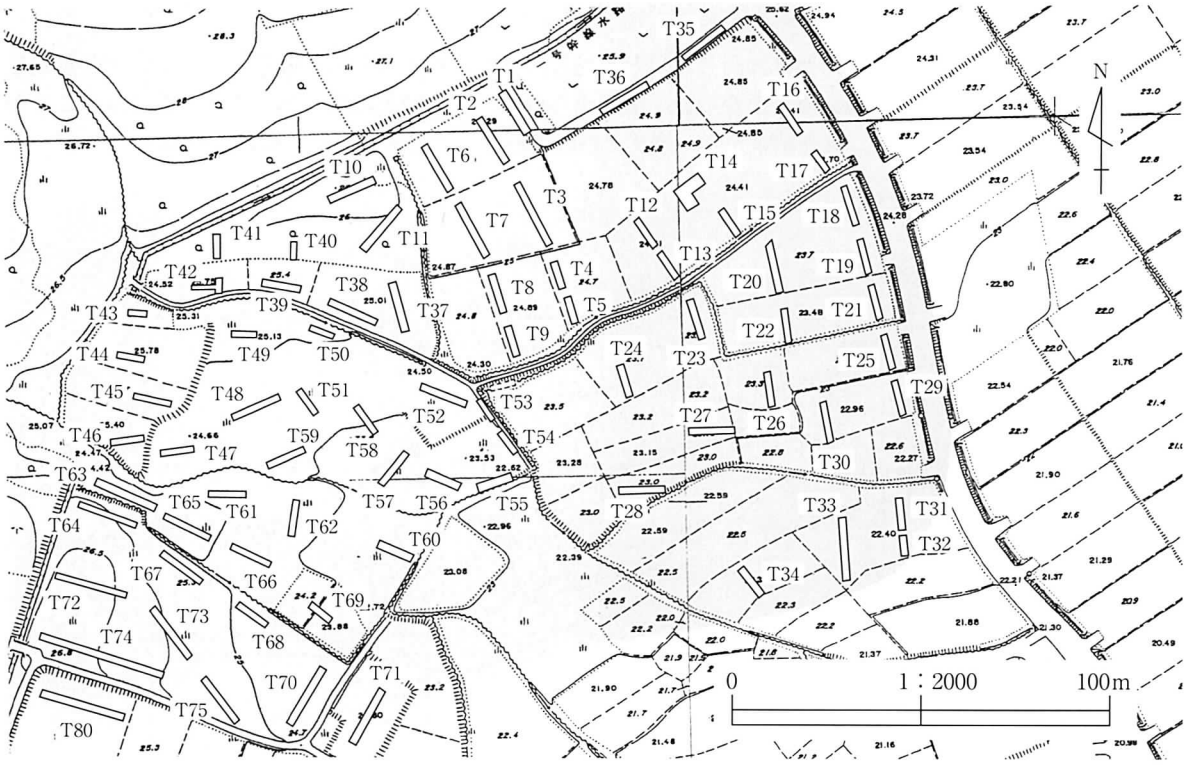
ほ場整備事業実施にあたり、事業予定地内の埋蔵文化財の有無を確認するため、切り土予定田面、水路、農道予定地を中心に計99本の試掘トレンチを設定した。



第138図　中田遺跡位置図

調査の結果、Ｔ７、T14、T37、T74では直径0.3～1.5m程のピットが１基ずつ、T63～65では直径0.85～1.1m程の複数のピットが発見されたが、遺物は出土しなかった。これらの試掘トレンチが設定されたのは遺跡範囲の中でも、標高が高い箇所で、これより標高の低い箇所では遺構、遺物は確認されず、試掘調査の層序観察からも沢状地形、谷地状地形と推定され、粘土や砂層が厚く堆積していた。

また事業予定地外のT35、T36北側の畑地では土器、T80～T83西側の畑地では土師器、鉄滓が表採された。（平成16年度本発掘調査予定）



第139図　中田遺跡調査区位置図

45　農免農道整備事業

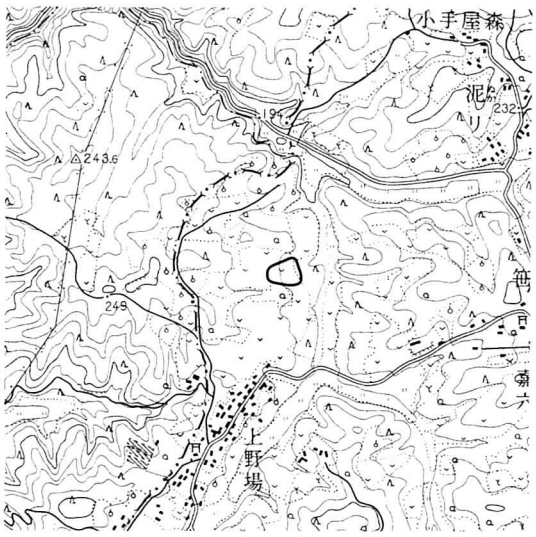
上野場３遺跡（ＩＦ61－2348）

所在地；九戸郡軽米町大字晴山字上野場地内

事業者；二戸地方振興局農政部二戸農村整備室

調査期日；平成15年10月10日

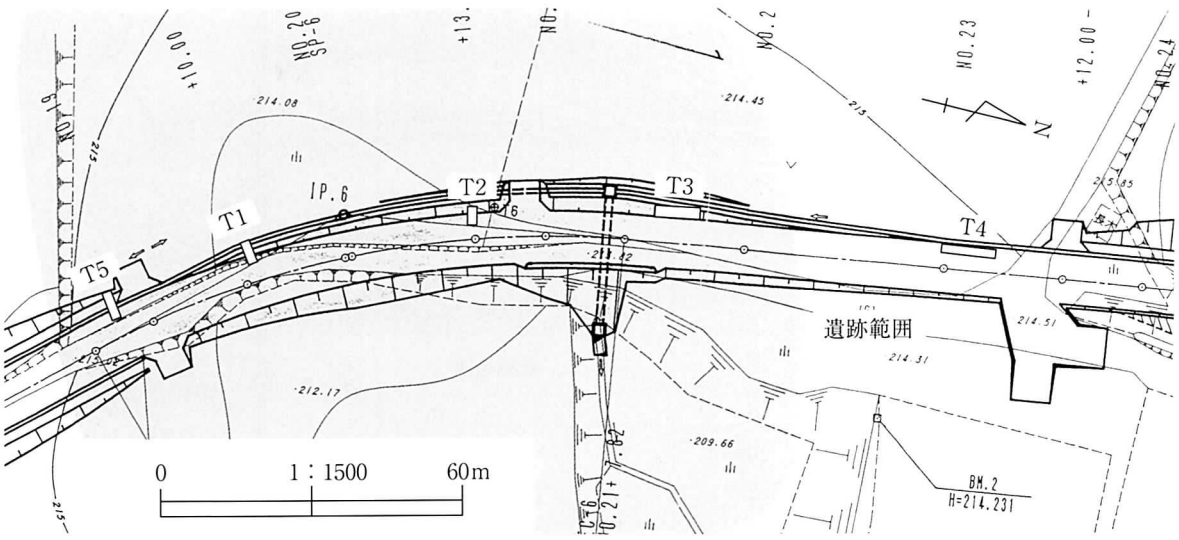
遺跡は軽米町北部の晴山地区にあり、青森県境に近い場所である。遺跡付近の標高は210ｍ前後を測り、現況は畑地と山林が中心である。岩手県遺跡台帳には縄文時代（後期、晩期）の散布地として登録されている。



第140図　上野場３遺跡位置図

今回、農道建設にあたり事業予定地の埋蔵文化財の有無を確認するため試掘調査を行った。試掘トレンチは合計５箇所設定した（Ｔ１～Ｔ５）。その結果、Ｔ２～Ｔ４において埋蔵文化財が確認された。Ｔ２では現地表から１ｍ下で、東西方向に黒褐色土埋土の陥し穴状遺構が２基確認され、片方の規模は幅50cm、長さ170cm以上であった。周囲から縄文時代前期と晩期の土器が出土した。Ｔ３では表土下に黒褐色土（90cm）があり、遺物量が比較的少ない遺物包含層が発見された。いわゆるゴロタと呼ばれる南部浮石層は、地表下160cm程の所に堆積していた。Ｔ４ではＴ３と同様に遺物包含層が確認されたが、厚さは50cmと薄くなっていた。ここでは、農業用機械によると思われる掘削がところどころ見受けられ、撹乱の様相を呈していた。撹乱は地表下110cmまで及んでおり、南部浮石層は地表下100cmのところで確認された。Ｔ４より奥に露頭があり、土層観察が可能であったが、遺物、遺構とも確認できなかった。Ｔ１では遺構、遺物とも発見されず。黒色土が200cm程、堆積しており、周囲の地形から谷地形に流れ込んだ土が厚く堆積している箇所と判断した。Ｔ５は、遺構、遺物とも発見されず、南部浮石層は地表下50cmで確認されており、黒色土の堆積が薄い。

調査区は、縄文時代前期と晩期の土器が出土し、陥し穴状遺構が検出していることから、近くに竪穴住居跡が所在する可能性も有り、縄文時代の集落であったことも予想される。（平成16年度本発掘調査予定）



第141図　上野場３遺跡調査区位置図

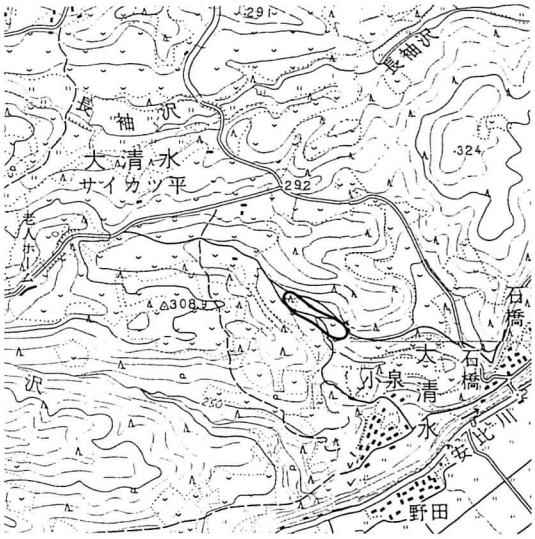
46　農免農道整備事業

サイカツ平Ⅷ遺跡（ＪＥ36－2025）

所在地；二戸郡浄法寺町長袖地内

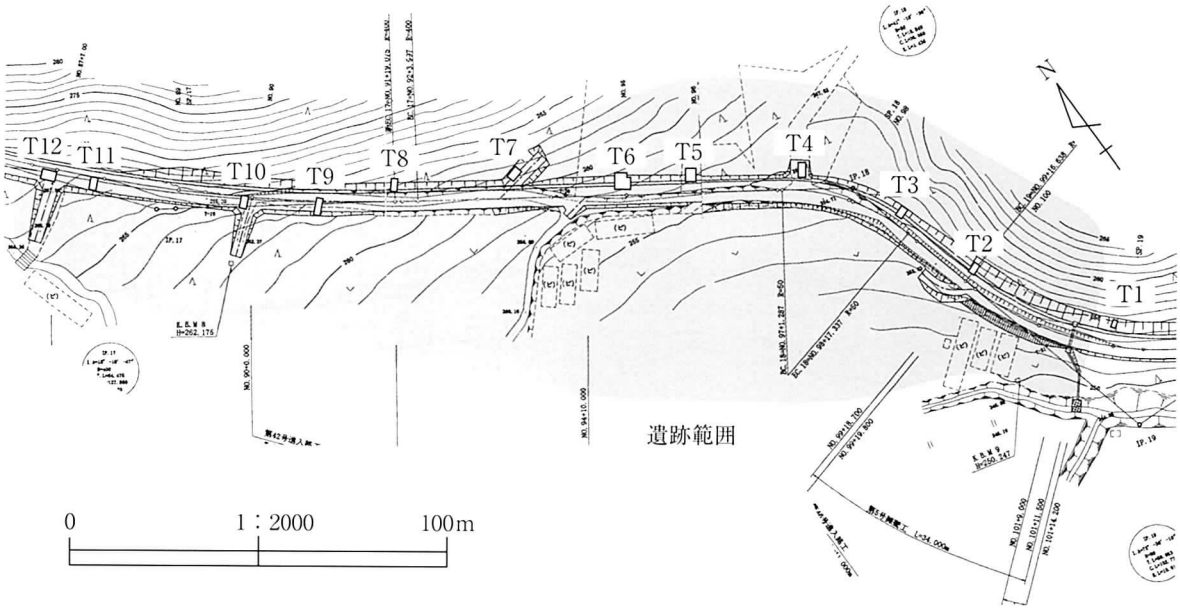
事業者；二戸地方振興局農政部農村整備室

調査期日；平成15年５月27日



第142図　サイカツ平Ⅷ遺跡位置図

遺跡は浄法寺町役場の南西約３kmに位置し、安比川左岸の丘陵地帯に立地する。現況は主に山林となっており一部の緩斜面に畑地が広がっている。今回の試掘調査は、農免道の建設に伴うもので、該当箇所に試掘トレンチを12本設定した（Ｔ１～T12）。調査区の北側に当たる現道の山側に試掘トレンチのＴ１～Ｔ８を設定した。表土下に黒褐色土の堆積が見られたが遺構・遺物とも確認することはできなかった。Ｔ９以降は緩斜面の縁辺部に設定した。Ｔ９では表土層下の黒褐色土層中で直径約30cmの焼土遺構を検出した。表土から検出面までの深さは50cmで、焼土遺構の周囲には第Ⅱ層の明褐色土と第Ⅲ層の褐色粘土層をブロックに含む、平坦な硬化面を確認した。これを床面とする竪穴住居跡の可能性が推測される。T10はＴ９と類似した堆積状況を示し、地形的に連続するものと考えられるが遺構・遺物とも確認することはできなかった。T11・T12は層間に灰白色火山灰層を挟んだ黒褐色粘土質シルトが厚く堆積し、人頭大の礫が乗ったグライ化した基本層序の第Ⅲ層の褐色粘土層が底面となっている。堆積状況や現地形の起伏から沢跡と考えられる。T11の黒色土中からは、縦位の撚糸紋を地紋に持つ縄文土器片が１点出土している。以上のことから、竪穴住居跡と思われる焼土遺構を検出したＴ９は、T11・T12で検出された沢跡と北側の丘陵緩斜面に挟まれた面に位置することから、これに連続する調査区中央部一帯はかつて集落であった可能性が高いと思われる。（平成16年度本発掘調査予定）



第143図　サイカツ平Ⅷ遺跡調査区位置図

47　緊急地方道Ｂ（雪寒）整備事業

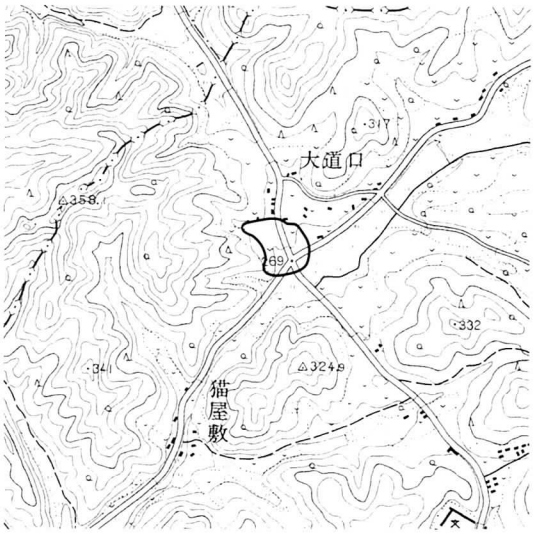
大道口遺跡（ＩＦ65－2176）

所在地；九戸郡軽米町大字上館地内

事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成16年２月６日

遺跡は、軽米町役場より東南約8.7kmに位置する。丘陵の東緩斜面に立地し、標高は285ｍ前後を測る。調査区の現況は、水田及び畑地となっている。平成10年度、平成12年度、道路拡幅に伴い試掘調査を実施している。平成12年度の試掘調査では、縄文土器片が出土し、土坑１基が確認されている。今回の調査は、道路拡幅に伴うものである。調査対象箇所に３本のトレンチを設定した。

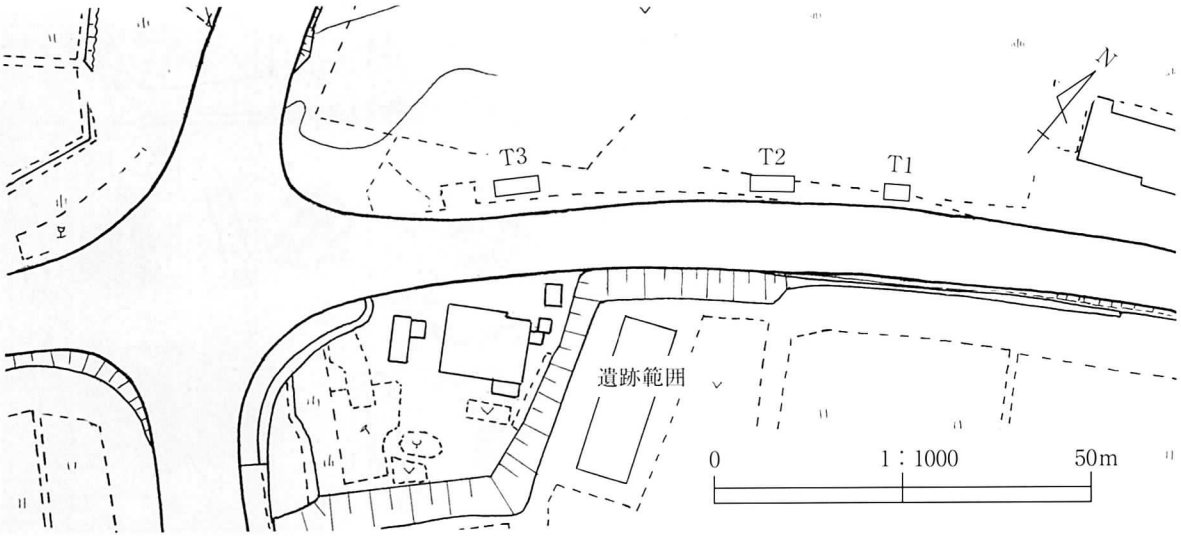


第144図　大道口遺跡位置図

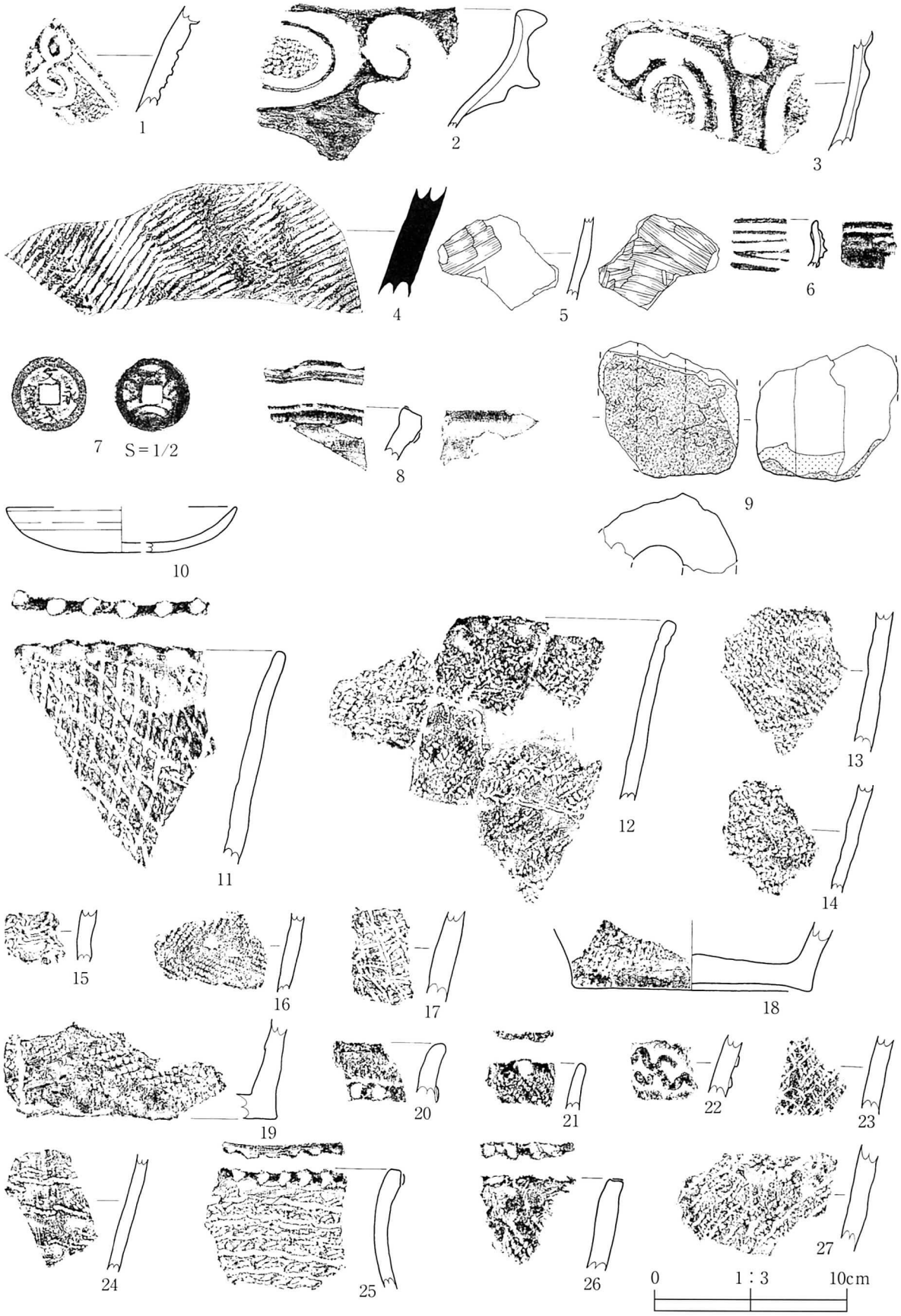
調査の結果、丘陵の先端部に設定したＴ３から、陥し穴状遺構１基を確認した。Ｔ３の基本層序第Ⅱ層黒褐色土層下位は、間の層が失われており、第Ⅵ層の淡黄褐色土となっていた。陥し穴状遺構は淡黄褐色土の上面、地表面から深さ80cmで確認されている。長さは、200cm以上、幅（短軸）は、約150cmの楕円形を呈していた。埋土は、基本層序第Ⅲ層、Ⅳ層にあたる黒色土と橙色パミスの互層であった。

東側から延びる丘陵と西側から延びる丘陵がぶつかった場所にＴ１、Ｔ２を設定した。Ｔ１及びＴ２では、表土直下約100cmで橙色パミスを確認した。その下層に遺構がないか第Ⅵ層の地山まで下げたが、確認できなかった。湧水があったこと、地形から判断して、Ｔ１、Ｔ２を設定した場所は沢跡と判断した。

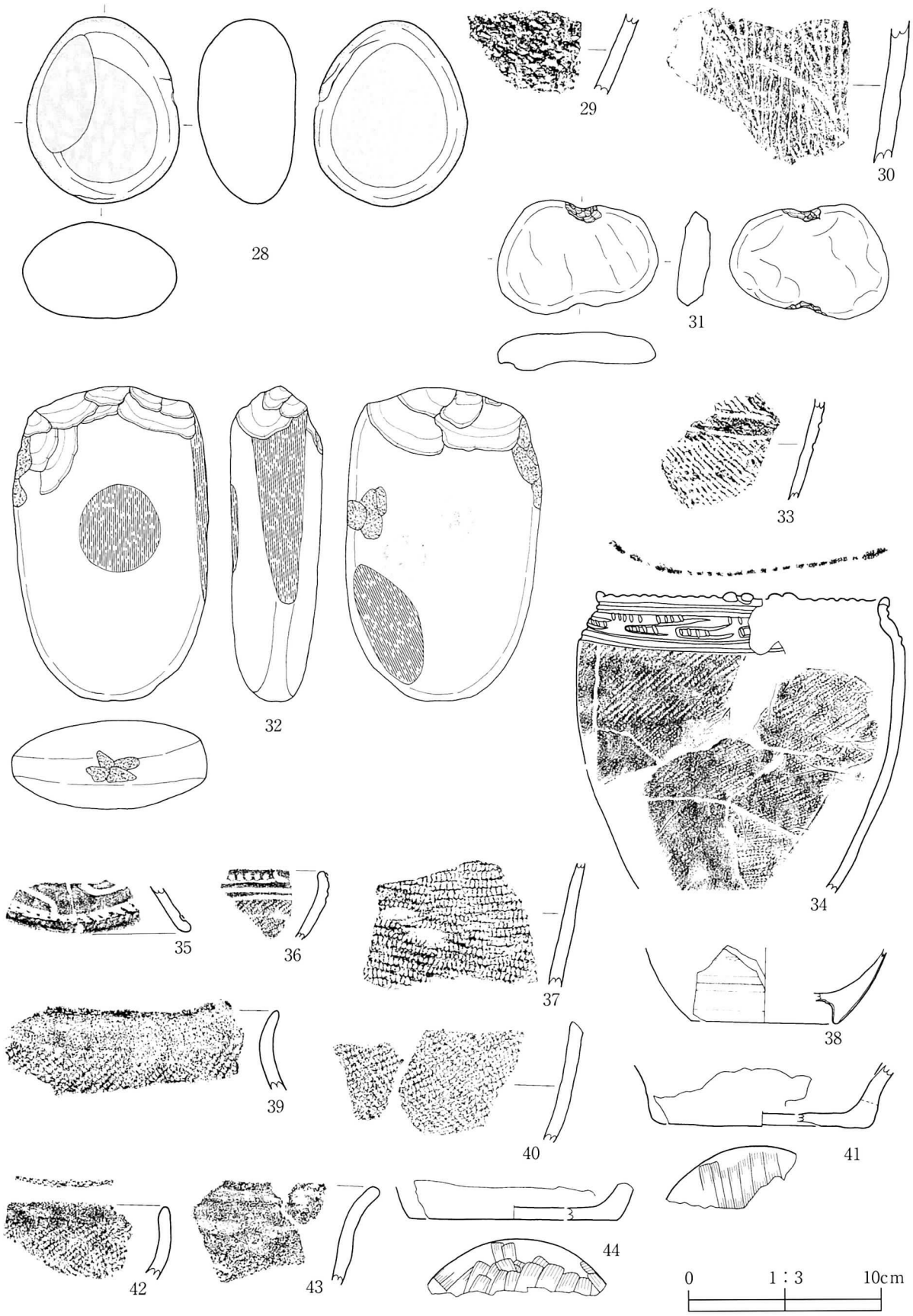
今回の調査の結果、遺跡本体は、沢を挟んで西側に延びる丘陵部上面ではないかと推測される。



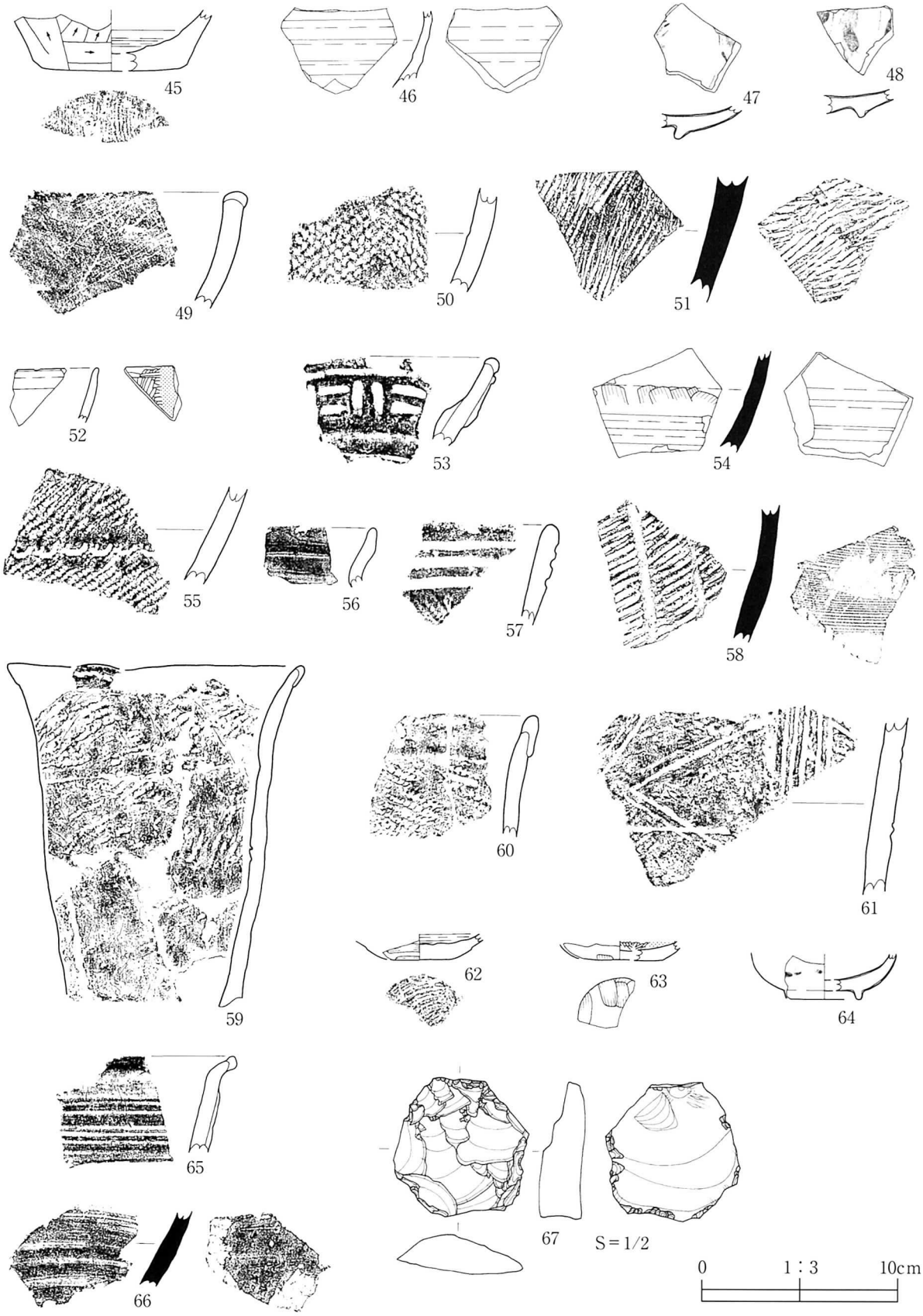
第145図　大道口遺跡調査区位置図



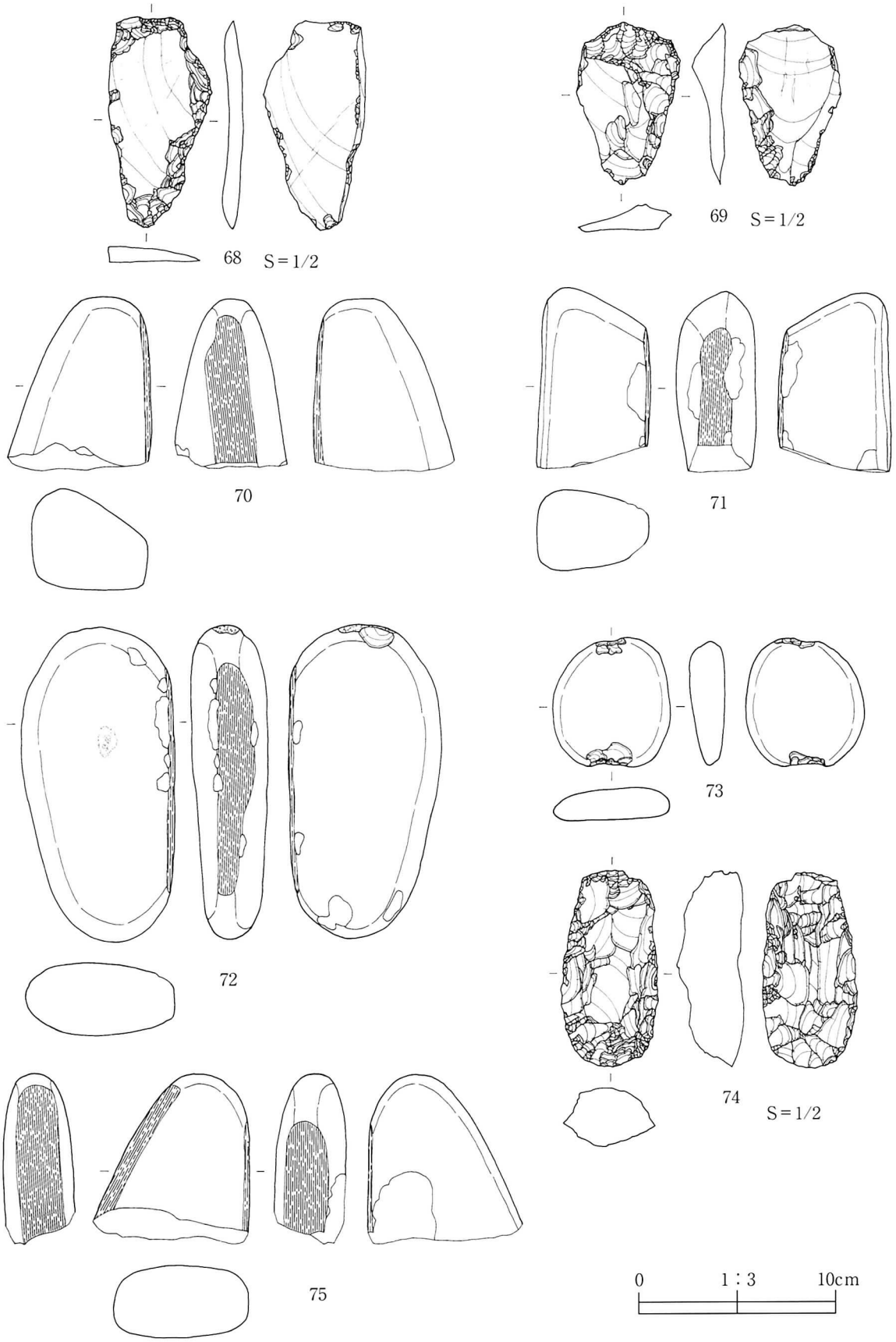
第146図　県内遺跡試掘調査出土遺物１



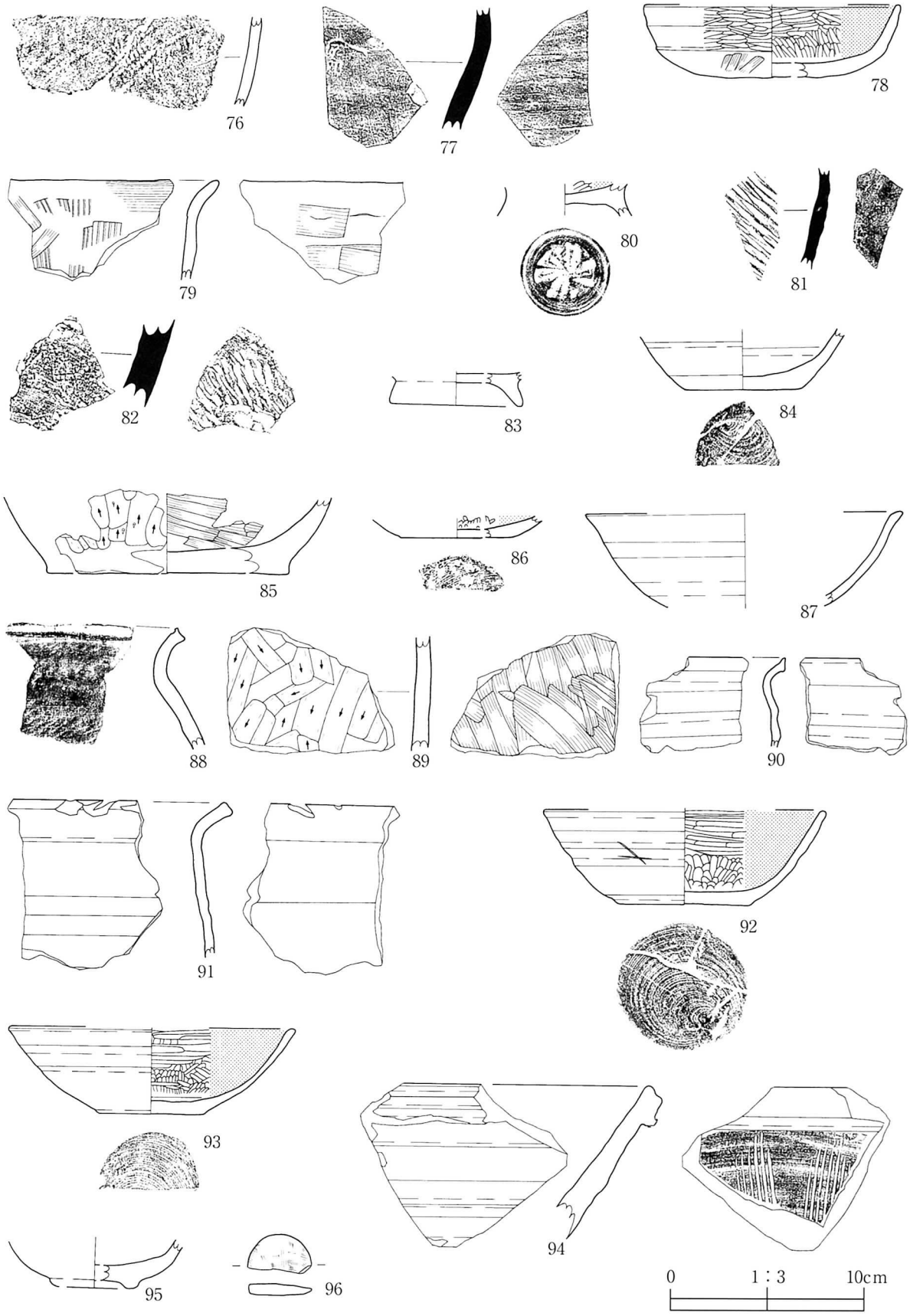
第147図　県内遺跡試掘調査出土遺物 2



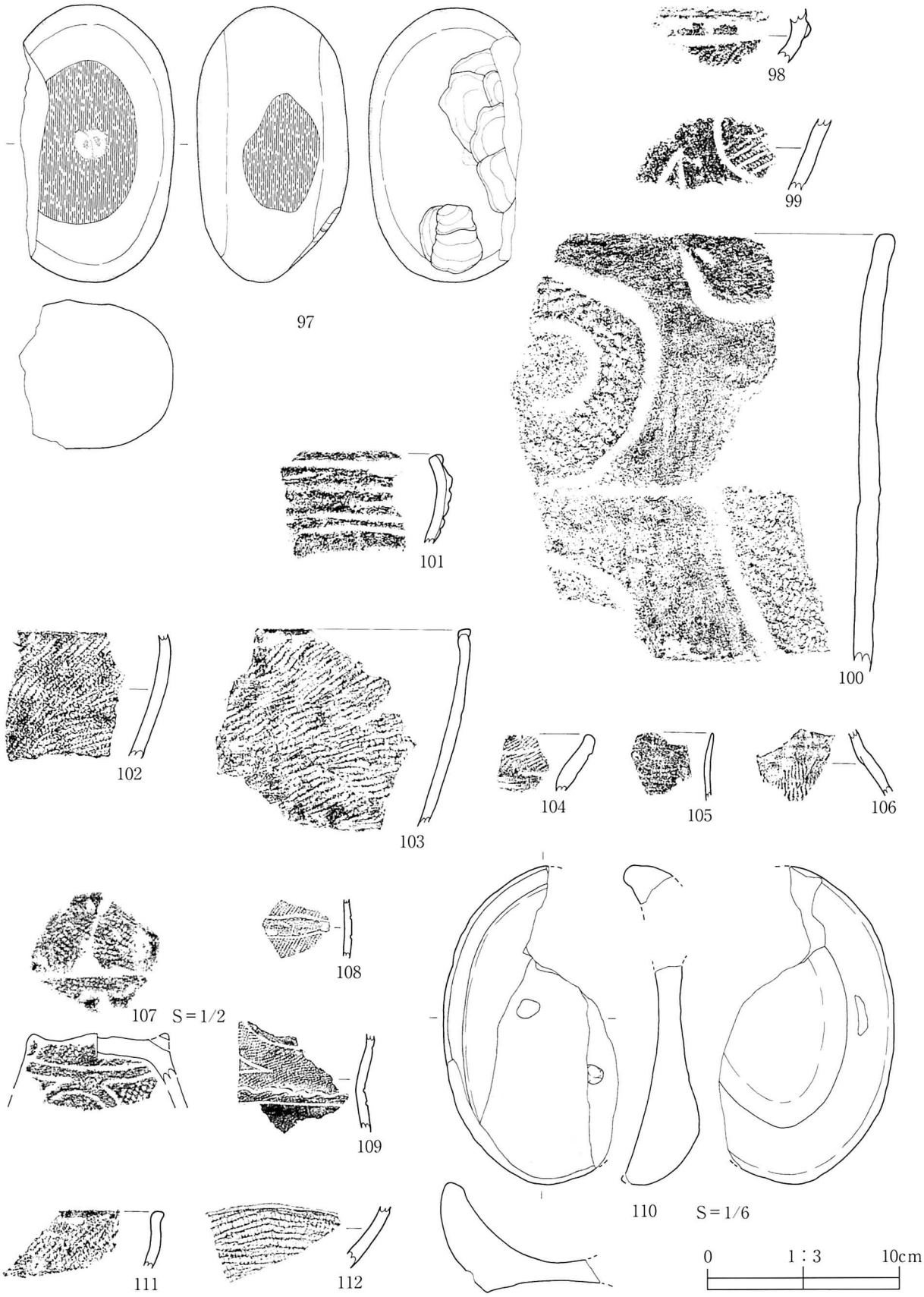
第148図　県内遺跡試掘調査出土遺物 3



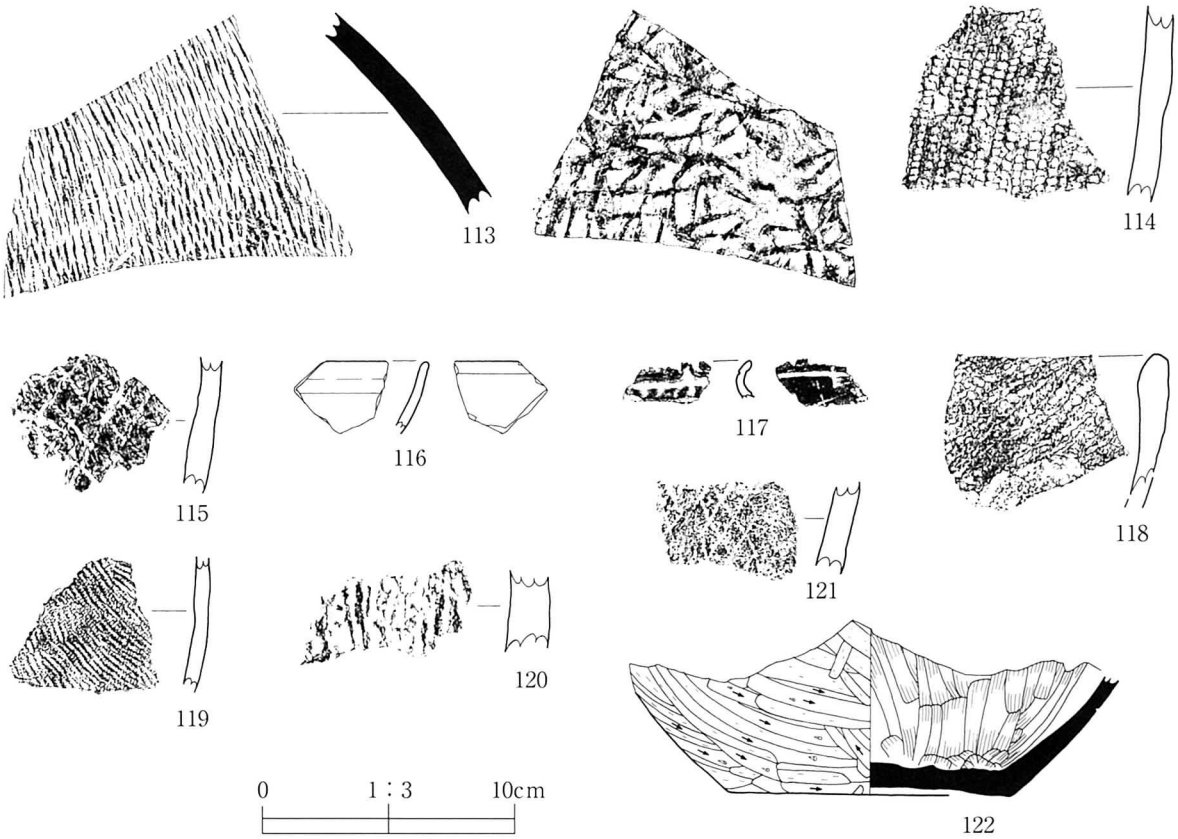
第149図　県内遺跡試掘調査出土遺物 4



第150図　県内遺跡試掘調査出土遺物５



第151図　県内遺跡試掘調査出土遺物 6



第152図　県内遺跡試掘調査出土遺物７

県内遺跡試掘調査出土遺物

番号	遺跡名	出土地点・器種・特徴	番号	遺跡名	出土地点・器種・特徴
1	杉の堂遺跡	T2、縄文後期前葉	21	寺野遺跡	表採、深鉢、波状口縁、ＲＬ
2	杉の堂遺跡	T3　縄文中期中葉	22	寺野遺跡	T17　包含層　深鉢、貼付
3	杉の堂遺跡	T3　縄文中期中葉	23	寺野遺跡	T17　包含層　深鉢 撚糸
4	熊堂Ｂ遺跡	T5　須恵器甕	24	寺野遺跡	T17　包含層　深鉢
5	熊堂Ｂ遺跡	T9　土師器甕	25	寺野遺跡	表採　深鉢、綾繰文
6	高木中館遺跡	T4　縄文晩期大洞Ａ式	26	寺野遺跡	表採　深鉢、撚糸文
7	高木中館遺跡	文久永寶銅銭	27	寺野遺跡	表採　深鉢、附加条
8	長根Ⅰ遺跡	近世陶器	28	寺野遺跡	表採　磨石
9	押切遺跡	T1　羽口	29	二升石遺跡	T1　Ⅲ層上面、無節
10	六日市場遺跡	T2　土師器坏	30	二升石大根遺跡	T17、木目状撚糸文
11	寺野遺跡	T1　口縁部、網目状撚糸文	31	二升石大根遺跡	T17　敲磨石
12	寺野遺跡	T1　口縁部、綾絡文	32	二升石大根遺跡	T16　石錐
13	寺野遺跡	T1　縄文ＬＲ	33	沼袋遺跡	T9　包含層Ⅱ層中、無節
14	寺野遺跡	T1　縄文ＬＲＬ	34	大西遺跡	T10　Ⅲ層中、大洞ＢＣ式
15	寺野遺跡	T1　原体不明	35	大西遺跡	T10　Ⅲ層中、台部
16	寺野遺跡	T1　羽状縄文ＬＲ	36	大西遺跡	T10　Ⅲ層中、沈線文
17	寺野遺跡	T5　埋土　原体不明	37	中村遺跡	T2　ＬＲ（多条）
18	寺野遺跡	T6　底部、網代、ＬＲＬ	38	畑中遺跡	T2　埋土中　陶器
19	寺野遺跡	T16　底部、網代、ＬＲ	39	畑中遺跡	T18　ＬＲ
20	寺野遺跡	表採　深鉢、撚糸文、隆帯	40	畑中遺跡	T18　羽状ＬＲ

番号	遺跡名	出土地点・器種・特徴
41	畑中遺跡	T18　底部
42	畑中遺跡	T18　羽状ＬＲ
43	畑中遺跡	T18　原体不明
44	畑中遺跡	T18　底部
45	新平遺跡	T5　土師器
46	新平遺跡	T5　土師器甕
47	新平遺跡	T17　近世陶器
48	新平遺跡	T18　表土、近世陶器
49	新平遺跡	T18付近　表採、土師器
50	新平遺跡	T21　縄文ＬＲ
51	新平遺跡	T23　須恵器
52	新平遺跡	T23　土師器坏、内黒
53	新平遺跡	T24　包含層、沈線文
54	新平遺跡	T25　包含層、須恵器壷
55	新平遺跡	T25　綾繰文ＬＲ
56	新平遺跡	T25　土師器甕
57	新平遺跡	T28　RL、平行沈線文
58	新平遺跡	T28　須恵器甕
59	新平遺跡	T29　縄文ＬＲ
60	新平遺跡	T29　縄文ＬＲ
61	新平遺跡	T29　沈線文
62	新平遺跡	T31　土師器糸切り
63	新平遺跡	T130　土師器坏内黒
64	新平遺跡	T130　近世陶器
65	新平遺跡	T133　土師器甕
66	新平遺跡	T133　須恵器甕
67	新平遺跡	T18　二次加工ある剥片
68	新平遺跡	T15　スクレイパー
69	新平遺跡	T17付近表採、剥片石器
70	新平遺跡	T28付近表採　スリ石
71	新平遺跡	T28　スリ石
72	新平遺跡	T28　礫石器 敲打面・磨面
73	新平遺跡	T28付近　表採
74	新平遺跡	T29　石ベラ
75	新平遺跡	農道表採、摺り面あり
76	中島遺跡	T21　深鉢
77	中島遺跡	T21　須恵器甕
78	中島遺跡	表採　土師器坏　内黒
79	中島遺跡	表採　土師器甕
80	中島遺跡	表採　高台坏　内黒
81	中島遺跡	表採　須恵器甕
82	中島遺跡	表採　須恵器甕

番号	遺跡名	出土地点・器種・特徴
83	山口遺跡	T17　溝埋土上部　高台坏
84	山口遺跡	T39　須恵器坏底部
85	小川屋敷遺跡	T1　土師器
86	小川屋敷遺跡	T3　土師器坏底部
87	小川屋敷遺跡	T6　土師器坏
88	小川屋敷遺跡	T6　土師器坏
89	小川屋敷遺跡	T6　土師器坏
90	小川屋敷遺跡	T6　土師器坏
91	内屋敷遺跡	不明　土師器甕　ロクロ
92	道上遺跡	T39　スリ石
93	道上遺跡	T16　土師器坏　内黒
94	道上遺跡	T122　すり鉢
95	道上遺跡	T122　陶器碗
96	道上遺跡	T125　円盤状石製品
97	道上遺跡	T39　磨石
98	金打遺跡	T10　口縁部、沈線文
99	金打遺跡	T16　口縁部、縄文、沈線文
100	金打遺跡	T19　口縁部、大木９式
101	岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡	縄文晩期
102	大登Ⅰ遺跡	T8　縄文ＬＲ
103	大登Ⅰ遺跡	T10　縄文ＲＬ
104	平山遺跡	T3　ＬＲ→沈線文、内面ナデ
105	平山遺跡	T3　附加条、内面ナデ
106	平山遺跡	T3　縄文ＬＲ、内外面ナデ
107	平山遺跡	T2　蓋　突起４つ、うち貫通穴２箇所、ＬＲ→沈線文、内面ナデ
108	平山遺跡	T7　ＬＲ→沈線文、内面ナデ
109	平山遺跡	表採　ＬＲ→沈線文、三角形文
110	平山遺跡	T8　遺構埋土　石皿
111	中宿遺跡	土坑埋土上面、ＬＲ
112	中宿遺跡	土坑埋土上面、ＬＲ→平行沈線文、縄文晩期大洞Ａ式
113	駒場沢遺跡	T5　須恵器
114	駒場沢遺跡	T8　縄文ＲＬ
115	駒場沢遺跡	T8　網目状撚糸文
116	駒場沢遺跡	不明　坏
117	上野場３遺跡	T2　深鉢胴部、縄文晩期前葉
118	上野場３遺跡	T3　深鉢胴部、縄文ＬＲ
119	上野場３遺跡	T3　深鉢胴部、縄文ＲＬ
120	サイカツ平Ⅶ遺跡	撚糸文
121	駒板遺跡	T2　深鉢？　撚糸文
122	駒板遺跡	T3北端　２層中　須恵器　浅鉢？内面の底に鉄付着

分布調査一覧

1　土地改良整備事業 南寺林地区及び黒西地区　　事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備室　　調査期日：平成15年４月15日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＭＥ06－0392	堀の内遺跡	中世		城館跡	石鳥谷町字沼田の尻	
2	ＭＥ06－0360	黒沼館遺跡	中世		城館跡	石鳥谷町字黒沼道海	
3	ＭＥ06－0269	江曽遺跡	縄文		散布地	石鳥谷町字江曽	
4	ＭＥ06－0123		平安	須恵器	散布地	石鳥谷町南寺林	新規遺跡

2　中山間地域総合整備事業野田地区　　事業者：久慈地方振興局農政部　　調査期日：平成15年４月28日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1						野田村野田地内	遺跡なし

3　県営畜産経営環境整備事業　　事業者：盛岡地方振興局農政部　　調査期日：平成15年５月12日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1						西根町三ツ屋地内	遺跡なし

4　村道帯島水沢線道路改良事業　　事業者：大野村　　調査期日：平成15年５月15日～16日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＪＦ07－2294	上水沢Ⅵ遺跡	縄文		散布地	大野村大字水沢地内	
2	ＪＦ17－0305		近世	鉄滓	散布地	大野村大字水沢地内	新規遺跡

5　村道弥栄線道路改良事業　　事業者：大野村　　調査期日：平成15年５月15日～16日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＪＦ17－0337	大渡Ⅰ遺跡	縄文		散布地	大野村大字水沢第10地割地内	
2	ＪＦ17－0339	大渡Ⅱ遺跡	縄文・古代	土師器、剥片	散布地	大野村大字水沢第10地割地内	

6　準用河川土谷川改修工事事業　　事業者：葛巻町　　調査期日：平成15年５月22日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＫＦ01－1371	志民沢遺跡	縄文		散布地	葛巻町元木志民沢地内	
2	ＫＦ01－2020	畑沢遺跡	縄文・弥生	弥生土器	散布地	葛巻町只見地内	

7　道路歩行環境整備事業　　事業者：久慈地方振興局土木部　　調査期日：平成15年８月４日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＪＧ10－0364	本波Ⅳ遺跡	縄文・古代		散布地	久慈市侍浜町字本波地内	

8　基盤整備促進事業　　事業者：葛巻町建設課　　調査期日：平成15年９月22日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＪＦ93－1202	入月遺跡	縄文		散布地	葛巻町江刈字入月地内	

9　経営体育成基盤整備事業　　事業者：盛岡地方振興局農政部　　調査期日：平成15年10月２日・7日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＬＥ87－0238	寺沢遺跡	縄文、奈良		散布地	紫波町彦部字寺沢地内	
2	ＬＥ87－0229	小深田遺跡	古代		散布地	紫波町彦部字石ケ森地内	
3	ＬＥ78－2060	機織（彦部）館跡	中世		城館跡	紫波町彦部字機織地内	
4	ＬＥ78－2089	牛ノ頭館跡	中世～近世		城館跡	紫波町佐比内字牛ノ頭、字田中前	

10　湛水防除事業「羽田地区」　　事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室　　調査期日：平成15年10月15日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1						水沢市羽田町	遺跡なし

11　治山事業計画　　事業者：水沢地方振興局林務部　　調査期日：平成15年10月15日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＭＥ98－2255	重染寺古墳	古代		古墳	江刺市重染寺地内	
2	ＭＥ96－2133	金ヶ崎城	中世		城館跡	金ヶ崎町西根地内	

12　特定交通安全施設整備事業　丸志田地区歩道整備工事　　事業者：北上地方振興局土木部　　調査期日：平成15年12月８日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＬＤ99－1043	小坂	縄文		散布地	沢内村川舟第39地割	
2	ＬＤ99－0099	持田	縄文		散布地	沢内村川舟第38地割	

13　三陸縦貫自動車道「宮古道路」改築事業　　事業者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所　　調査期日：平成16年１月26日～28日、2月24日～25日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＬＧ43－2394	金浜Ⅳ	縄文		散布地	宮古市金浜第４地割鋤ケ崎	
2	ＬＧ43－2384	金浜Ⅲ	縄文・古代		散布地	宮古市金浜第４地割鋤ケ崎	
3	ＬＧ43－2363	金浜Ⅱ	古代		集落跡	宮古市金浜第２地割古館他	
4	ＬＧ43－2342	金浜Ⅰ	縄文		散布地	宮古市金浜第２地割古館他	
5	ＬＧ43－2209	賽の神	縄文		散布地	宮古市金浜第１地割西角地	
6	ＬＧ43－1257	八木沢Ⅲ野来	縄文		集落跡	宮古市八木沢	
7	ＬＧ43－1244	八木沢駒込Ⅱ	縄文		散布地	宮古市八木沢第8地割駒込	
8	ＬＧ43－1206	八木沢駒込Ⅰ	縄文・古代		集落跡	宮古市八木沢第8地割駒込	
9	ＬＧ43－0238	八木沢Ⅲ	古代		生産遺跡	宮古市八木沢第３地割中村	
10	ＬＧ43－0205	八木沢Ⅱ	縄文		散布地	宮古市八木沢第３地割中村	
11	ＬＧ33－2292	隠里Ⅲ	縄文・古代		集落跡	宮古市八木沢第３地割中村	
12	ＬＧ33－2263	木戸井内Ⅳ	縄文・古代		集落跡	宮古市千徳第14地割木戸井内	
13	ＬＧ33－2214	木戸井内Ⅱ	古代		散布地	宮古市千徳第14地割木戸井内	
14	ＬＧ33－2260	隠里Ⅷ	縄文		散布地	宮古市八木沢第３地割中村	
15	ＬＧ33－2166	松山大地田沢	古代		集落跡	宮古市松山第７地割	
16	ＬＧ33－2162	松山下谷地	縄文・古代		散布地	宮古市松山第８地割下谷地	

14　農用地総合整備事業　　事業者：緑資源機構下閉伊北事務所　　調査期日：平成16年３月19日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＫＧ01－2045	萩牛Ⅰ	縄文		散布地	普代村字萩牛	
2	ＫＧ01－2113	割沢	縄文・近世		散布地	普代村字萩牛	

15　特定交通安全施設整備事業　丸志田地区歩道整備工事　　事業者：北上地方振興局土木部　　調査期日：平成15年12月８日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ＬＤ99－1043	小坂	縄文		散布地	沢内村川舟第39地割	
2	ＬＤ99－0099	持田	縄文		散布地	沢内村川舟第38地割	

平成15年度試掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
1	平成15年4月14日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	古城上野遺跡	前沢町
2	平成15年4月17日	部活動施設（県立盛岡商業高校テニスコート）整備事業	岩手県教育委員会事務局学校財務課	飯岡沢田遺跡	盛岡市
3	平成15年4月23日～24日	農用地総合整備事業（二升石1団地）	緑資源公団道北支社下閉伊北事務所	寺野遺跡	岩泉町
4	平成15年5月1日	中山間地域総合整備事業　岩間地区	北上地方振興局農政部農村整備室	大橋遺跡	北上市
5	平成15年5月2日	ほ場整備事業	北上地方振興局農政部農村整備室	藤沢Ⅱ遺跡	北上市
6	平成15年5月7日	かんがい排水事業　鳥野軽石地区	北上地方振興局農政部農村整備室	茶畑遺跡	北上市
7	平成15年5月6日～7日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	北上地方振興局農政部農村整備室	南笹間遺跡	北上市
8	平成15年5月6日～7日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	北上地方振興局農政部農村整備室	中島遺跡	北上市
9	平成15年5月6日～13日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	北上地方振興局農政部農村整備室	新平、新平屋敷遺跡	北上市
10	平成15年5月14日	一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	中村遺跡	一戸町
11	平成15年5月15日	道路改築事業	宮古地方振興局土木部	刈屋中里遺跡	新里村
12	平成15年5月16日	通常砂防事業	通常砂防事業	松木田Ⅰ遺跡	安代町
13	平成15年5月16日	通常砂防事業	通常砂防事業	松木田Ⅱ遺跡	安代町
14	平成15年5月20日	西根バイパス事業	盛岡地方振興局土木部岩手出張所	両沼Ⅰ遺跡	西根町
15	平成15年5月20日	西根バイパス事業	盛岡地方振興局土木部岩手出張所	KE250－2357	西根町
16	平成15年5月22日	町道日影山蟹沢線改良舗装工事	西根町	中谷地遺跡	西根町
17	平成15年5月26日	農免農道整備事業晴山2期地区	二戸地方振興局農政部農村整備室	沼2遺跡	軽米町
18	平成15年6月3日	緊急地方道路整備事業　石鳥谷町三日堀地区	花巻地方振興局土木部	三日堀遺跡	石鳥谷町
19	平成15年6月6日	伊手川筋　ほ場整備関連河川改修事業	水沢地方振興局土木部	久田遺跡	江刺市
20	平成15年6月6日	河川等災害復旧事業	千厩地方振興局土木部	子安観音穴遺跡	東山町
21	平成15年6月6日	胆沢ダム建設事業	国土交通省胆沢ダム工事事務所	蜂谷遺跡	胆沢町
22	平成15年6月10日	県営ふるさと農道緊急整備事業新町蘭東地区	北上地方振興局農林部農村整備室	志賀来遺跡	沢内村
23	平成15年6月17日	緊急地方道路整備Bタイプ	水沢地方振興局土木部	二ノ関館遺跡	江刺市
24	平成15年6月18日	一般国道46号盛岡西バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	台太郎遺跡	盛岡市
25	平成15年6月19日	河川等災害関連事業	葛巻町	志民沢遺跡	葛巻町
26	平成15年6月19日	河川等災害関連事業	葛巻町	畑沢遺跡	葛巻町
27	平成15年6月23日	農免農道整備事業晴山2期地区	二戸地方振興局農政部農村整備室	沼2遺跡	軽米町
28	平成15年6月30日	中山間地域総合整備事業日野沢地区	久慈地方振興局農政部農村整備室	出ル町遺跡	山形村
29	平成15年6月30日	農用地総合整備事業	緑資源公団東北支社下閉伊北建設事業所	可能性あり	田野畑村

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
30	平成15年7月1日	町道日影山蟹沢線改良舗装工事	西根町	中谷地遺跡	西根町
31	平成15年7月4日	地方特定道路整備事業	宮古地方振興局土木部	大畑遺跡	川井村
32	平成15年7月4日～7日	一般国道4号花巻東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	高木中館遺跡	花巻市
33	平成15年7月8日～11日	一般国道4号花巻東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	長根Ⅲ遺跡	花巻市
34	平成15年7月10日～14日	一般国道4号花巻東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	長根Ⅱ遺跡	花巻市
35	平成15年7月14日	一般国道4号花巻東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	長根Ⅰ遺跡	花巻市
36	平成15年7月7日	砂防事業	宮古地方振興局土木部	津軽石大森遺跡	宮古市
37	平成15年7月7日	砂防事業	宮古地方振興局土木部	沼里遺跡	宮古市
38	平成15年7月10日	国営いさわ南部農地整備事業	農林水産省いさわ南部農地整備事務所	竹地子遺跡	胆沢町
39	平成15年7月11日	国営いさわ南部農地整備事業	農林水産省いさわ南部農地整備事務所	駒込遺跡	胆沢町
40	平成15年7月15日	ふるさと農道緊急整備事業	大船渡地方振興局農林部	滝野遺跡	住田町
41	平成15年7月15日	緊急地方道路整備事業	水沢地方振興局土木部	中島遺跡	江刺市
42	平成15年7月17日	村道帯島水沢線道路改良事業	大野村	上水沢Ⅳ遺跡	大野村
43	平成15年7月17日	村道帯島水沢線道路改良事業	大野村	JF17－0305遺跡	大野村
44	平成15年7月17日	村道帯島水沢線道路改良事業	大野村	大渡Ⅰ遺跡	大野村
45	平成15年7月17日	村道帯島水沢線道路改良事業	大野村	大渡Ⅱ遺跡	大野村
46	平成15年7月18日	村道弥栄線道路改良事業	大野村	弥栄Ⅰ遺跡	大野村
47	平成15年7月18日	村道弥栄線道路改良事業	大野村	弥栄Ⅱ遺跡	大野村
48	平成15年7月18日	緊急地方道路整備事業	水沢地方振興局土木部	中島遺跡	江刺市
49	平成15年7月22日	国営いさわ南部農地整備事業	いさわ南部農地整備事務所	鶴供養遺跡	胆沢町
50	平成15年7月23日～29日	国営いさわ南部農地整備事業	いさわ南部農地整備事務所	二の台遺跡	胆沢町
51	平成15年7月23日	国営いさわ南部農地整備事業	いさわ南部農地整備事務所	主計谷地遺跡	胆沢町
52	平成15年7月25日、28日	国営いさわ南部農地整備事業	いさわ南部農地整備事務所	西風遺跡	胆沢町
53	平成15年7月30日	学校施設保全事業（県立水沢工業高等学校）	岩手県教育委員会事務局学校財務課	嶋舘林遺跡	水沢市
54	平成15年7月30日	学校施設保全事業（県立水沢農業高等学校）	岩手県教育委員会事務局学校財務課	中島遺跡	胆沢町
55	平成15年7月30日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	松山前遺跡	陸前高田市
56	平成15年7月30日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	NF78－0205遺跡	陸前高田市
57	平成15年7月31日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	館遺跡	住田町
58	平成15年7月31日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	すい沢遺跡	住田町
59	平成15年8月6日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	栃洞Ⅲ遺跡	遠野市
60	平成15年8月20日	地方特定道路整備事業（市町村代行）	久慈地方振興局土木部	早坂平遺跡	山形村

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
61	平成15年8月20日	経営体育成基盤整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室	馬場崎遺跡	北上市
62	平成15年8月25日	一般国道4号水沢東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	杉の堂遺跡	水沢市
63	平成15年8月28日	主要地方道花巻大曲線渡地区横断管渠設置工事	花巻地方振興局土木部	日蔭坂遺跡	花巻市
64	平成15年9月3日	一般国道46号盛岡西バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	熊堂B遺跡	盛岡市
65	平成15年9月5日	長者屋敷公園内建物増築工事	松尾村	長者屋敷遺跡	松尾村
66	平成15年9月12日	中山間地域総合整備事業すいせい地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	香取根館遺跡	胆沢町
67	平成15年9月24日	地域振興支援道路ネットワーク整備事業	千厩地方振興局農林部農村整備室	清田台遺跡	千厩町
68	平成15年9月29日	特定交通安全施設整備事業　舘地区	花巻地方振興局土木部	下根子遺跡	花巻市
69	平成15年9月29日	特定交通安全施設整備事業　舘地区	花巻地方振興局土木部	下坂井遺跡	花巻市
70	平成15年10月1日	花巻空港整備事業	花巻空港建設事務所	源明Ⅰ遺跡	花巻市
71	平成15年10月3日	ふるさと農道緊急整備事業	大船渡地方振興局農林部	山脈地遺跡	住田町
72	平成15年10月7日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	栃洞Ⅲ遺跡	遠野市
73	平成15年10月8日	河川災害復旧工事　一級河川大白沢川　桜屋地区	盛岡地方振興局土木部	下煙山遺跡	矢巾町
74	平成15年10月8日	地方特定事業（公安）	花巻地方振興局土木部	隅っこ館跡遺跡	石鳥谷町
75	平成15年10月8日	地方特定事業（公安）	花巻地方振興局土木部	沢流遺跡	石鳥谷町
76	平成15年10月9日	木炭調湿試験のためのテントハウス設置	岩手県林業技術センター	和山Ⅱ遺跡	矢巾町
77	平成15年10月10日	農免農道整備事業　観音林地区	二戸地方振興局農政部農村整備室	上野場2遺跡	軽米町
78	平成15年10月10日	農免農道整備事業　観音林地区	二戸地方振興局農政部農村整備室	上野場3遺跡	軽米町
79	平成15年10月14日	緊急地方道路整備事業　一関北上線	水沢地方振興局土木部	中島遺跡	江刺市
80	平成15年10月14日	道路改築事業	宮古地方振興局土木部	刈屋中里遺跡	新里村
81	平成15年10月16日	経営体育成基盤整備事業	盛岡地方振興局農政部農村整備室	ME06－0123	石鳥谷町
82	平成15年10月16日	経営体育成基盤整備事業	盛岡地方振興局農政部農村整備室	黒沼館遺跡	石鳥谷町
83	平成15年10月16日	経営体育成基盤整備事業	盛岡地方振興局農政部農村整備室	江曽遺跡	石鳥谷町
84	平成15年10月16日～17日	経営体育成基盤整備事業　満倉地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	兵法田遺跡	水沢市
85	平成15年10月20日～21日	中山間地域総合整備事業　日頃市西地区	大船渡地方振興局農林部	大原野遺跡	大船渡市
86	平成15年10月20日～21日	中山間地域総合整備事業　日頃市西地区	大船渡地方振興局農林部	可能性あり	大船渡市
87	平成15年10月22日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	学堂Ⅱ遺跡	前沢町
88	平成15年10月22日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	内屋敷遺跡	前沢町
89	平成15年10月22日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	川岸場Ⅱ遺跡	前沢町
90	平成15年10月23日	水田農業経営確立排水対策特別事業	水沢地方振興局農政部農村整備室	上恩俗遺跡	胆沢町
91	平成15年10月23日	水田農業経営確立排水対策特別事業	水沢地方振興局農政部農村整備室	恩俗長根遺跡	胆沢町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
92	平成15年10月23日	水田農業経営確立排水対策特別事業	水沢地方振興局農政部農村整備室	白鳥遺跡	胆沢町
93	平成15年10月24日	農業用水再編対策事業	水沢地方振興局農政部農村整備室	寺の西遺跡	水沢市
94	平成15年10月24日	農業用水再編対策事業	水沢地方振興局農政部農村整備室	林前館遺跡	水沢市
95	平成15年10月24日	農業用水再編対策事業	水沢地方振興局農政部農村整備室	屋敷遺跡	胆沢町
96	平成15年10月27日	県営経営体育成基盤整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室	遺跡名なし	北上市
97	平成15年10月28日	県営経営体育成基盤整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室	高前壇Ⅰ遺跡	北上市
98	平成15年10月28日	県営経営体育成基盤整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室	下成沢Ⅱ遺跡	北上市
99	平成15年10月27日	経営体育成基盤整備事業　渋民地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	鶴巻遺跡	大東町
100	平成15年10月27日	経営体育成基盤整備事業　渋民地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	大馬場旧道沿地周辺遺跡	大東町
101	平成15年10月28日	農地環境整備事業	千厩地方振興局農林部農村整備室	藤ケ崎Ⅰ遺跡	大東町
102	平成15年10月28日	農地環境整備事業	千厩地方振興局農林部農村整備室	藤ケ崎Ⅱ遺跡	大東町
103	平成15年10月29日	中山間総合整備事業　町井地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	和田Ⅱ遺跡	東和町
104	平成15年10月29日	中山間総合整備事業　町井地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	町井Ⅱ遺跡	東和町
105	平成15年10月29日	中山間地域総合整備事業　猿沢地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	金取遺跡	大東町
106	平成15年10月30日	ふるさと農道緊整備事業　摺沢南部地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	掃本洞館遺跡	大東町
107	平成15年10月29日	都市計画道路毛越寺線　志羅山地区地方特定道路整備事業（街路）	一関地方振興局土木部	鈴沢の池遺跡	平泉町
108	平成15年10月30日～31日	中山間総合整備事業　町井地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	畑中遺跡	東和町
109	平成15年10月31日	経営体育成基盤整備事業 神橋地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	古堂遺跡	花巻市
110	平成15年10月31日	経営体育成基盤整備事業 西宮野目地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	先屋遺跡	花巻市
111	平成15年11月４日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	栃洞Ⅲ遺跡	遠野市
112	平成15年11月４日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	ME96－1263遺跡	石鳥谷町
113	平成15年11月４日	経営体育成基盤整備事業　戸塚地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	戸塚遺跡	石鳥谷町
114	平成15年11月４日	経営体育成基盤整備事業　戸塚地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	蟹沢Ⅰ遺跡	石鳥谷町
115	平成15年11月４日	経営体育成基盤整備事業　戸塚地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	戸塚笹原遺跡	石鳥谷町
116	平成15年11月４日～５日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部	水沢地方振興局農政部農村整備室	金打遺跡	江刺市
117	平成15年11月４日～５日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部	水沢地方振興局農政部農村整備室	ME97－0365遺跡	江刺市
118	平成15年11月５日	道路改築事業	大船渡地方振興局土木部	舘遺跡	住田町
119	平成15年11月５日	緊急地方道路整備事業　沼袋地内	宮古地方振興局岩泉土木事務所	沼袋遺跡	田野畑村
120	平成15年11月５日	緊急地方道路整備事業　沼袋地内	宮古地方振興局岩泉土木事務所	坂の下遺跡	田野畑村
121	平成15年11月６日～７日	農用地総合整備事業下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北事務所	上和野遺跡	岩泉町
122	平成15年11月６日～７日	農用地総合整備事業下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北事務所	二升石遺跡	岩泉町

No	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
123	平成15年11月6日～7日	農用地総合整備事業下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北事務所	二升石大根	岩泉町
124	平成15年11月10日～11日	農用地総合整備事業下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北事務所	長畑遺跡	岩泉町
125	平成15年11月10日～11日	農用地総合整備事業下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北事務所	尼額上野遺跡	岩泉町
126	平成15年11月10日～11日	農用地総合整備事業下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北事務所	清水野Ⅸ遺跡	岩泉町
127	平成15年11月10日～11日	中山間地域総合整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室	大平沢遺跡	北上市
128	平成15年11月10日～11日	中山間地域総合整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室	万内遺跡	北上市
129	平成15年11月10日～11日	中山間地域総合整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室	四十九里Ⅱ遺跡	北上市
130	平成15年11月10日	町道日影山蟹沢線改良舗装工事	西根町	晴山遺跡	西根町
131	平成15年11月10日	堆肥舎建築工事	個人	両沼Ⅲ	西根町
132	平成15年11月12日	河川災害復旧工事	盛岡地方振興局土木部	館見橋遺跡	盛岡市
133	平成15年11月12日	地域用水環境整備事業　新堰東地区	北上地方振興局農林部農村整備室	牡丹畑遺跡	北上市
134	平成15年11月12日	一般国道46号線盛岡西バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	熊道B遺跡	盛岡市
135	平成15年11月13日～14日	経営体育成基盤整備事業　八重畑地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	大西遺跡	石鳥谷町
136	平成15年11月13日～14日	経営体育成基盤整備事業　八重畑地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	関口南館	石鳥谷町
137	平成15年11月13日	農業用水再編対策事業　胆沢平野地区島館地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	東幅遺跡	水沢市
138	平成15年11月13日	農業用水再編対策事業　胆沢平野地区島館地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	腰廻遺跡	水沢市
139	平成15年11月13日	農業用水再編対策事業　胆沢平野地区島館地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	久田遺跡	水沢市
140	平成15年11月14日	直轄河川改修事業（吹張築堤）	国土交通省岩手河川工事事務所	橋本遺跡	水沢市
141	平成15年11月17日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室	御所野ⅢA遺跡	雫石町
142	平成15年11月17日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室	LE13－2334遺跡	雫石町
143	平成15年11月17日	一般国道4号線花巻東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	外台川原遺跡	花巻市
144	平成15年11月18日	畑地帯総合整備事業	千厩地方振興局農林部農村整備室	下返矢遺跡	藤沢町
145	平成15年11月18日～19日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	鶴羽衣遺跡	江刺市
146	平成15年11月18日～19日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	大文字遺跡	江刺市
147	平成15年11月18日～19日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	広岡前遺跡	江刺市
148	平成15年11月20日	経営体育成基盤整備事業　上淵地区	遠野地方振興局農政部農村整備室	下似田貝遺跡隣接地	遠野市
149	平成15年11月20日	経営体育成基盤整備事業　上淵地区	遠野地方振興局農政部農村整備室	阿部館遺跡隣接地	遠野市
150	平成15年11月20日	経営体育成基盤整備事業　上淵地区	遠野地方振興局農政部農村整備室	下上淵遺跡	遠野市
151	平成15年11月20日～21日	中山間総合整備事業　湯屋地区	遠野地方振興局農政部農村整備室	MF21－1014	宮守村
152	平成15年11月20日～21日	農業農村整備事業　大川目地区	久慈地方振興局農農政部農村整備室	中田遺跡	久慈市
153	平成15年11月25日～26日	経営体育成基盤整備事業　大川目地区	久慈地方振興局農農政部農村整備室	新町遺跡	久慈市

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
154	平成15年11月26日	経営体育成基盤整備事業　八重畑地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	関口遺跡	石鳥谷町
155	平成15年11月26日	経営体育成基盤整備事業　八重畑地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	荒野遺跡	石鳥谷町
156	平成15年11月26日～27日	経営体育成基盤整備事業　八重畑地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	中村遺跡	石鳥谷町
157	平成15年11月27日	経営体育成基盤整備事業　八重畑地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	大西Ⅱ遺跡	石鳥谷町
158	平成15年11月27日	経営体育成基盤整備事業　八重畑地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	馬場田Ⅱ遺跡	石鳥谷町
159	平成15年11月28日	経営体育成基盤整備事業	花巻地方振興局農林部農村整備室	明戸Ⅰ遺跡	石鳥谷町
160	平成15年11月27日～28日	一関遊水地事業　衣川左岸築堤工事	国土交通省岩手河川国道事務所	六日市場遺跡	衣川村
161	平成15年11月27日～28日	一関遊水地事業　衣川左岸築堤工事	国土交通省岩手河川国道事務所	接待館	衣川村
162	平成15年11月28日	中山間地域総合整備事業　町井地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	下屋敷遺跡	東和町
163	平成15年11月28日	中山間地域総合整備事業　町井地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	畑中遺跡	東和町
164	平成15年11月28日	中山間地域総合整備事業　三日堀地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	明戸Ⅰ遺跡	石鳥谷町
165	平成15年12月1日	一般河川改修石鳥谷堤防築堤事業	国土交通省岩手河川国道事務所	小館遺跡	石鳥谷町
166	平成15年12月1日	一般河川改修石鳥谷堤防築堤事業	国土交通省岩手河川国道事務所	八幡遺跡	石鳥谷町
167	平成15年12月1日～2日	一関遊水地事業　衣川左岸築堤工事	国土交通省岩手河川国道事務所	接待館	衣川村
168	平成15年12月1日～2日	一関遊水地事業　衣川左岸築堤工事	国土交通省岩手河川国道事務所	押切遺跡	衣川村
169	平成15年12月4日	道路歩行環境整備事業	盛岡地方振興局土木部	栖木立遺跡	矢巾町
170	平成15年12月3日～4日	中山間総合整備事業　日頃市西地区	大船渡地方振興局農林部	大原野遺跡	大船渡市
171	平成15年12月3日～4日	中山間総合整備事業　日頃市西地区	大船渡地方振興局農林部	可能性あり	大船渡市
172	平成15年12月5日	広域農道整備事業 東磐井地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	大登Ⅰ遺跡	千厩町
173	平成15年12月5日	河川等災害復旧工事	釜石地方振興局土木部	女遊部Ⅱ遺跡	釜石市
174	平成15年12月8日～9日	主要地方道花巻黒岩地区歩道工事	北上地方振興局土木部	黒岩宿遺跡	北上市
175	平成15年12月10日	消防用防火水槽設置事業	川崎村	布佐館跡遺跡	川崎村
176	平成15年12月11日	畑地帯総合整備事業	盛岡地方振興局農政部農村整備室	飯岡山館遺跡	盛岡市
177	平成15年12月11日	畑地帯総合整備事業	盛岡地方振興局農政部農村整備室	赤坂Ⅱ遺跡	盛岡市
178	平成15年12月11日	畑地帯総合整備事業	盛岡地方振興局農政部農村整備室	飯岡赤坂遺跡	盛岡市
179	平成15年12月12日	経営体育成基盤整備事業	花巻地方振興局農林部農村整備室	先屋遺跡	花巻市
180	平成15年12月15日～17日	農用地総合整備事業　下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北建設事業所	寺野遺跡	岩泉町
181	平成15年12月15日～17日	農用地総合整備事業　下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北建設事業所	寺沢北遺跡	岩泉町
182	平成15年12月15日～16日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36－2394遺跡	北上市
183	平成15年12月15日～16日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME46－0322遺跡	北上市
184	平成15年12月15日～16日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME46－0325遺跡	北上市

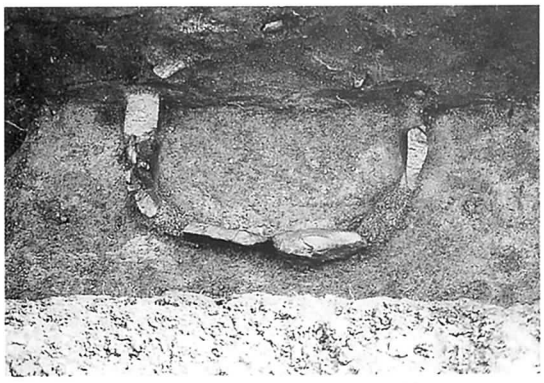
No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
185	平成15年12月15日～16日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	駒板遺跡	花巻市
186	平成15年12月17日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部	水沢地方振興局農政部農村整備室	金打遺跡	江刺市
187	平成15年12月17日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部	水沢地方振興局農政部農村整備室	新地野道下遺跡	江刺市
188	平成15年12月17日	かんがい排水事業　松長嶺地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	後沢開拓遺跡	江刺市
189	平成15年12月17日	主要地方道盛岡和賀線　花巻市笹間地区道路改良工事	花巻地方振興局土木部	金栗Ⅰ	花巻市
190	平成15年12月17日	主要地方道盛岡和賀線　花巻市笹間地区道路改良工事	花巻地方振興局土木部	金栗Ⅱ	花巻市
191	平成15年12月17日	主要地方道盛岡和賀線　花巻市笹間地区道路改良工事	花巻地方振興局土木部	牛小渕	花巻市
192	平成15年12月17日	主要地方道盛岡和賀線　花巻市笹間地区道路改良工事	花巻地方振興局土木部	堰の下Ⅱ	花巻市
193	平成15年12月18日～19日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	川前遺跡	前沢町
194	平成15年12月18日～19日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	道上遺跡	前沢町
195	平成15年12月18日～19日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	内屋敷遺跡	前沢町
196	平成15年12月18日～19日	一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備	二戸地方振興局土木部	釜沢館遺跡	二戸市
197	平成15年12月18日～19日	一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備	二戸地方振興局土木部	川口Ⅰ遺跡	二戸市
198	平成15年12月19日	中山間総合整備事業　日頃市西地区	大船渡地方振興局農林部	可能性あり	大船渡市
199	平成15年12月22日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所	砂込Ⅲ遺跡	滝沢村
200	平成15年12月24日	居宅新築工事	個人	野口五輪塔遺跡	西根町
201	平成15年12月25日～26日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36－2394遺跡	北上市
202	平成15年12月25日～26日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME46－0343遺跡	北上市
203	平成15年12月25日～26日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	堀ノ内遺跡	北上市
204	平成16年1月6日	農業農村整備事業　大川目地区	久慈地方振興局農農政部農村整備室	中田遺跡	久慈市
205	平成16年1月7日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36－2394遺跡	北上市
206	平成16年1月7日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36－0325遺跡	北上市
207	平成16年1月7日	穂貫田排水樋管改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	駒板遺跡	花巻市
208	平成16年1月8日	経営体育成基盤整備事業　奥玉地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	宿下遺跡	千厩町
209	平成16年1月9日	農業農村整備事業　大川目地区	久慈地方振興局農政部農村整備室	中田遺跡	久慈市
210	平成16年1月19日	経営体育成基盤整備事業　土淵地区	遠野地方振興局農政部農村整備室	下似田貝遺跡隣接地	遠野市
211	平成16年1月20日～21日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36－2394遺跡	北上市
212	平成16年1月20日～21日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME46－0325遺跡	北上市
213	平成16年1月27日	宮古測候所フェンス設置工事	盛岡地方気象台	鍬ケ崎館山貝塚遺跡	宮古市
214	平成16年1月30日	主要地方道盛岡和賀線　花巻市笹間地区道路改良工事	花巻地方振興局土木部	堰の下Ⅱ	花巻市
215	平成16年1月22日	墓地駐車場整備工事	西根町	両沼Ⅲ遺跡	西根町

No	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
216	平成16年2月2日	穂貫田排水樋管改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	駒板遺跡	花巻市
217	平成16年2月5日	中山間総合整備事業　黒岩地区	北上地方振興局農林部農村整備室	四十九里Ⅱ遺跡	北上市
218	平成16年2月5日	農地開発事業　大野地区	久慈地方振興局農政部農村整備室	下水沢Ⅰ遺跡	大野村
219	平成16年2月5日	農地開発事業　大野地区	久慈地方振興局農政部農村整備室	上水沢Ⅴ遺跡	大野村
220	平成16年2月6日	緊急地方道B（雪寒）整備事業	二戸地方振興局土木部	大道口遺跡	軽米町
221	平成16年2月9日～10日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36－2394遺跡	北上市
222	平成16年2月9日～10日	経営体育成基盤整備事業　更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME46－0325遺跡	北上市
223	平成16年2月16日～17日	一般国道4号花巻東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	長根Ⅲ遺跡	花巻市
224	平成16年2月16日～17日	一般国道4号花巻東バイパス改築工事	国土交通省岩手河川国道事務所	長根Ⅱ遺跡	花巻市
225	平成16年2月24日	宮古測候所フェンス設置工事	盛岡地方気象台	鍬ケ崎館山貝塚遺跡	宮古市
226	平成16年2月25日～26日	農用地総合整備事業　下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北建設事業所	大岩遺跡	岩泉町
227	平成16年3月1日～5日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	道上遺跡	前沢町
228	平成16年3月2日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室	御所野ⅢA遺跡	雫石町
229	平成16年3月2日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室	LE13－2334遺跡	雫石町
230	平成16年3月3日～4日	十和田幹線・北上幹線新設工事	東北電力	可能性あり	東山町
231	平成16年3月3日～4日	十和田幹線・北上幹線新設工事	東北電力	可能性あり	大東町
232	平成16年3月8日～9日	農用地総合整備事業　下閉伊北地域	緑資源機構下閉伊北建設事業所	寺野遺跡	岩泉町
233	平成16年3月8日	住宅新築工事	個人	御蔵場遺跡隣接地	衣川村
234	平成16年3月8日	住宅新築工事	個人	接待館遺跡隣接地	衣川村
235	平成16年3月18日	資源リサイクル畜産環境整備事業	宮古地方振興局農政部	真木沢Ⅲ遺跡隣接地	田野畑村
236	平成16年3月16日	十和田幹線・北上幹線新設工事	東北電力	木下館遺跡	宮守村
237	平成16年3月24日	鷲宿幹線1－1工区	北上川上流流域下水道事務所	繋Ⅴ遺跡	盛岡市
238	平成16年3月31日	住宅新築工事	個人	岡村遺跡	川井村

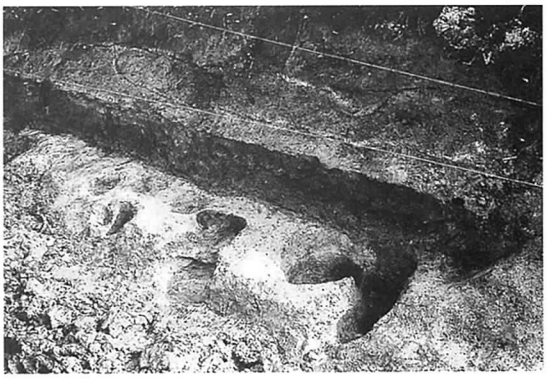
Ⅲ　写真図版

清田台遺跡

清田台遺跡５，６号住居跡

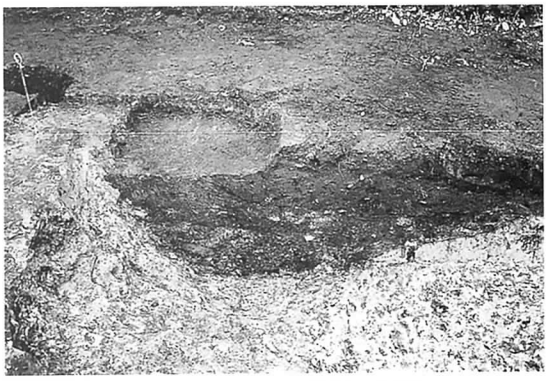


清田台遺跡５号住居跡　石囲炉

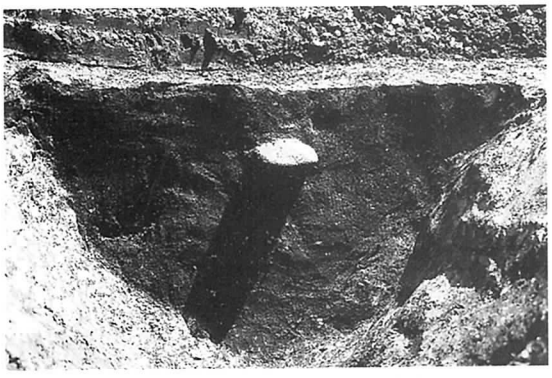


清田台遺跡１号住居跡　完掘状況

宿館遺跡A地区１号堀　断面



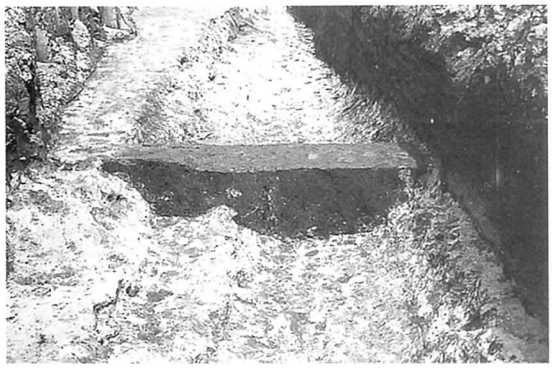
宿館遺跡A地区２号堀　断面



宿館遺跡A地区１号溝　断面

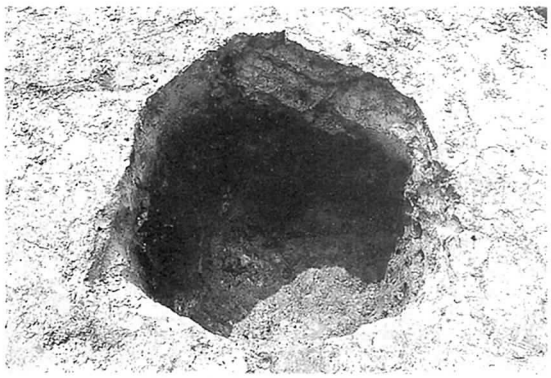
宿館遺跡B地区溝　完掘状況

写真図版１　県内遺跡調査状況(1)

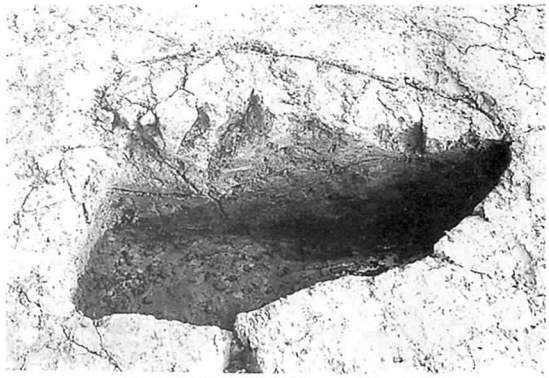


宿館遺跡　B地区溝埋土　断面図

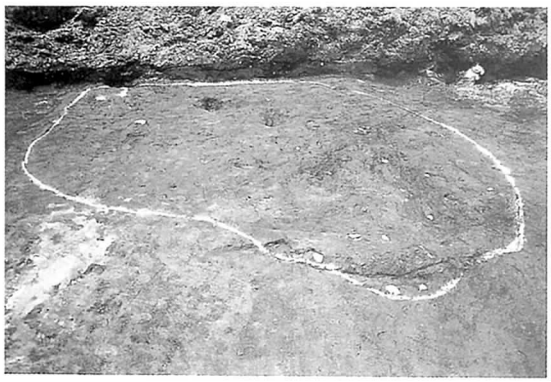
兵法田遺跡ピット群



兵法田遺跡１号土坑完掘状況

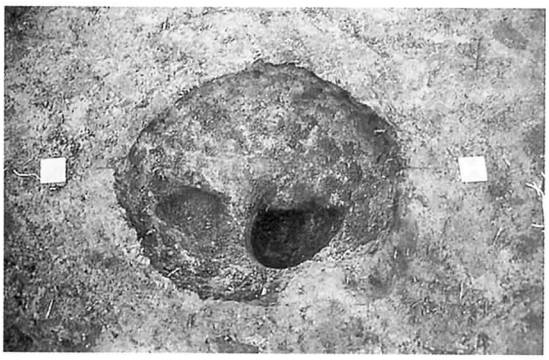


兵法田遺跡３号土坑　　埋土断面



出ル町Ⅱ遺跡遺物包含層検出状況

丹内Ⅰ遺跡調査風景　北から



丹内Ⅰ遺跡12号土坑完掘状況

丹内Ⅰ遺跡14号土坑完掘状況

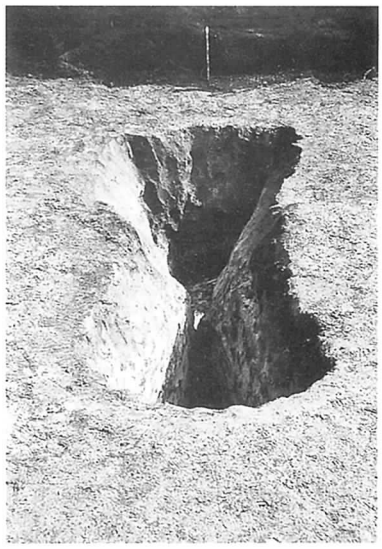
写真図版２　県内遺跡調査状況(2)

丹内Ⅰ遺跡号土坑完掘状況

二の台遺跡　陷し穴完掘状況

二の台遺跡　陷し穴完掘状況

上野々遺跡１号住居跡　埋土断面

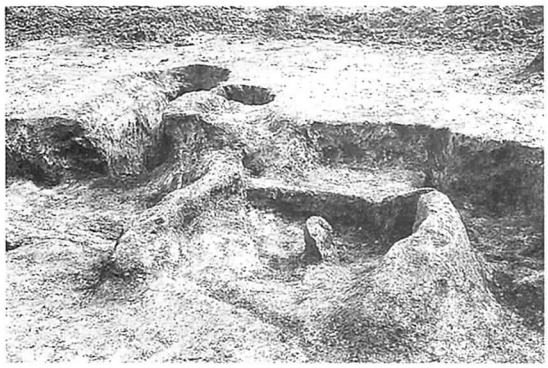


丹内Ⅰ遺跡　陷し穴完掘状況

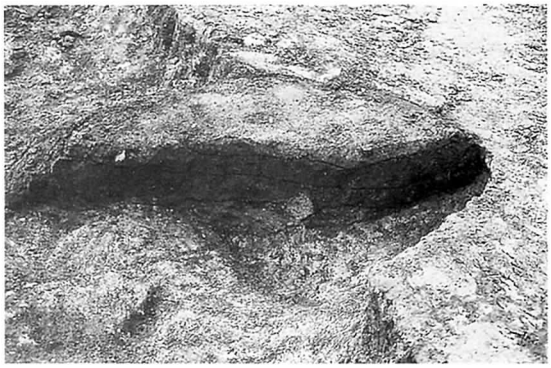
下屋敷遺跡　住居状遺構完掘状況

上野々遺跡　１号住居跡完掘状況

写真図版３　県内遺跡調査状況(3)

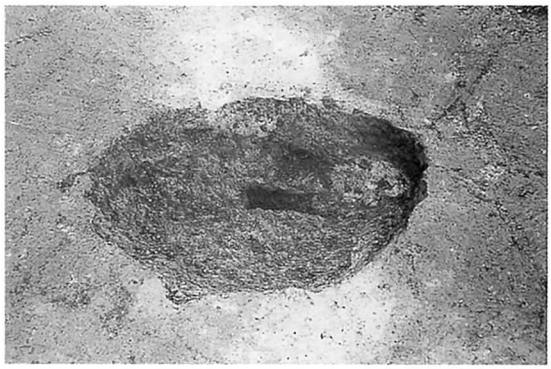


上野々遺跡１号住居跡　カマド

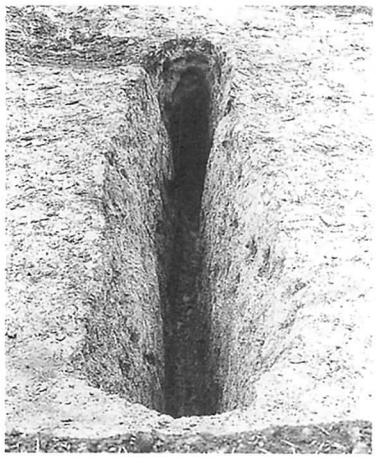


上野々遺跡　３号土坑

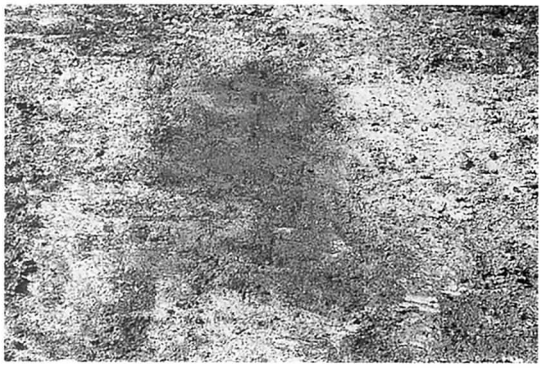
駒板遺跡
調査風景



駒板遺跡　土坑１完掘状況

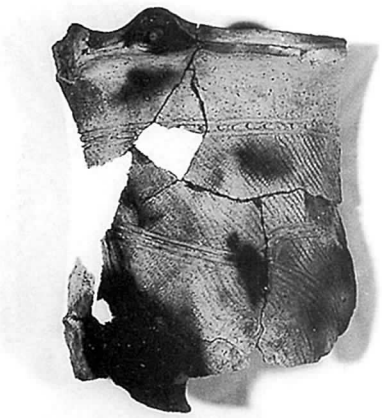


二の台遺跡



二の台遺跡１号陥し穴

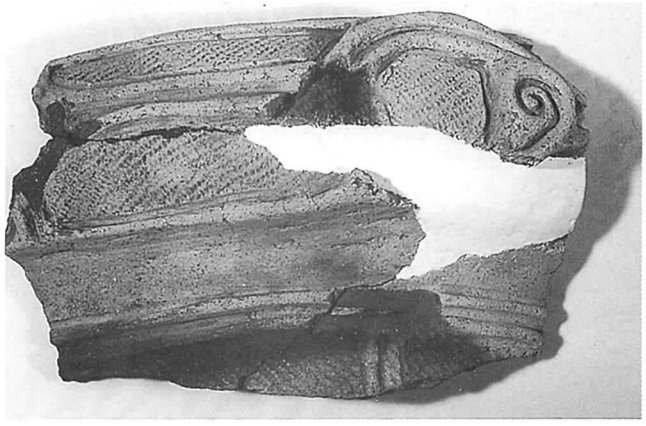
写真図版４　県内遺跡調査状況(4)



1（第 6 図40）

2（第 7 図43）

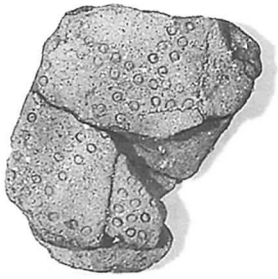
3（第 8 図59）



4（第 8 図68）

5 表
（第 9 図101）

6 表
（第 9 図102）



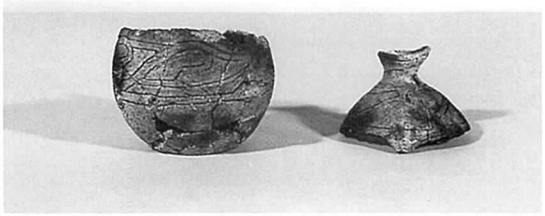
5 裏

6 裏

写真図版 5　県内遺跡調出土遺物 1（清田台遺跡）

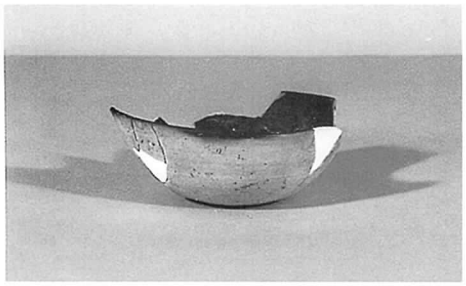
10上野々遺跡（第27図８）

11出ル町Ⅱ遺跡（第37図１）



12.13出ル町Ⅱ遺跡（第37図２）

14上野々遺跡（第27図１）

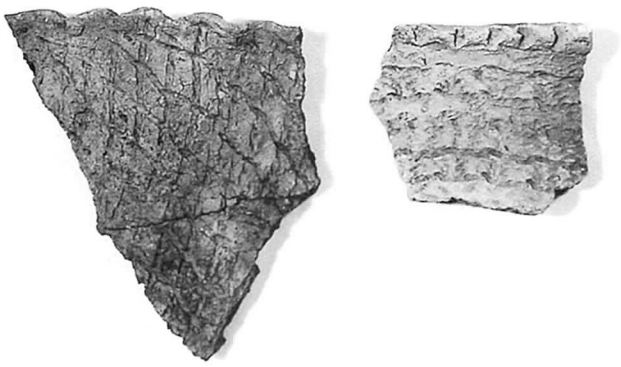


15上野々遺跡（第27図２）

16駒板遺跡（第152図122）

17宿館遺跡（第18図５）

写真図版６　県内遺跡出土遺物２



18、19寺野遺跡
（第146図11、25）

20～25平山遺跡
（第151図104～109）

26～28丹内Ⅰ遺跡
（第13図１～３）

写真図版７　県内遺跡出土遺物３

岩手県文化財調査報告書第119集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成15年度）

発行日　平成17年３月31日

発　行　岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10－１

編　集　岩手県教育委員会生涯学習文化課

印　刷　㈱ 杜 陵 印 刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号

古紙配合率100％の再生紙を使用しています。